

長崎加藤氏

日守國史三卷



小森氏
家藏
圖書



不亦

學 文		
以用	分記	號
二	一	二
學 校	縣 中	滋 賀

方

孔
弟
在
第
一
上



明治十年十月

馬爾加
摩氏
日耳曼國史

文部省印行

彦報
立中
校印

例言

一 本編ハ英國ノ女史馬爾加摩氏ノ著セルヒストリー・オフ・ゼルマ
ニーヲ譯セルモノナリ原書ハ一千八百六十九年英京倫敦ニ於テ
刊行セリ書中載スルトコロ紀元前百三十年ノ頃羅馬ノ根蘇勒馬

路西侵襲ノ役ニ起リ千八百六十七年普墾和約ヲ締フニ終ル

一 編中地名人名及其他ノ稱呼モ語旁ニ線條ヲ施シ以テ識別シ易カ
ラシム其例

マリニスノ如ク右旁ニ單線ヲ施セルハ人名ナリ

アルアスノ如ク右旁ニ雙線ヲ施セルハ地名ナリ

ゴスノ如ク左旁ニ單線ヲ施セルハ一部落又ハ一種族ノ名ナリ而

シテ其他官名ニハ左ニ双線ヲ施シ物名ニハ左旁ニ亦單線ヲ施シ
尺度秤量ノ名ノ如キハ其語ノ上下ニ拘畫ヲ施セリ

馬爾加 席氏 日耳曼國史卷之上

目次

第一篇

葉數

一

マリユスザロリユースセーザルトルサスタペリユス等日耳
曼ヲ侵ス事並ニアーミニユス日耳曼ヲ復スル事

附錄 日耳曼國古代風俗政治教法ノ事

第二篇

二三

紀元三百年代ノ末日耳曼ノ形勢ノ事 匈奴侵入ノ事 アラ

リックワシタルス羅馬ヲ陷ル事 アツナラノ事 西羅馬

帝國滅亡ノ事

第一サキソンス 第二フランクマ(自由人) 第三アレマ

ンニー 第四俄狄及ヒワンダルス

附録 俄狄耶蘇宗ニ入ル事 僧正オルヒラスノ事 アウナラ
ノ容貌行狀ノ事 トレーヴノ古物ノ事

第三篇

五四

セオドリクオドーセルチ廢シマ羅馬ノ位ヲ篡フ事 セ
オドリクク疆土ヲ拓ク事 セオドリクク死去ノ事 フラ
ンクスノ祖王クロヴィスノ事 俄狄伊太利ヲ失フ事 ベ
リザリニス ヴィザザズトリテラナルセス等ノ事 ロンバ
ルデー建國ノ事

附録 紀元後六百年間日耳曼ノ形勢ノ事 文學ノ事 ロンバ

ルデーノ鐵冠ノ事

第四篇

八三

ランデンノベピンヘリスタルノベピン及チヤルレスマルテ
ル代々佛蘭西ノ宮内長トナル事 ベピンゼ、シヨルト擇マ
レテ佛蘭西王トナル事

附録 ポニフニース耶蘇教ヲ日耳曼ニ宣講スル事 聖尼ゼネ
ヴィーヴノ事

第五篇

一〇二

シヤルレマンノ事

附録 法王レオ三世パデルボルンニ至リシヤルレマンヲ見ル
事 東帝ニセホルス使テエーズ、ラ、シヤベルニ遣ス事
第六篇 一二〇

シヤルレマンノ事

附録 律法 職制 軍務 寺院 文學 シヤルレマンノ容貌
行狀ノ事 フランクホルドノ宴會院

第七篇

一五三

ルーイス、デボンナイルノ事 ヴォルダンノ定約ノ事 日耳

曼帝國分割ノ事

附録 ルーイス、デボンナイルソインンスニ於テ謝罪ノ式ヲ

行フ事

第八篇

一六二

ルーイス、ゼルマン、チヤルレスファットアルノルフルーイ
スチヤイルドコンラド一世ノ事

附録 僞律ノ事 法主チローンノ事

第九篇

一七四

ヘンリー一世ノ事

第十篇

一八六

オソ大王ノ事

附録 日耳曼帝號ノ事 僧正ルイトブランド君士但丁諾格爾

ニ使フル事 日耳曼國ニ於テ銀坑ヲ發見スル事
第二十一篇 二二一

オソ二世オソ三世ヘンリー二世ノ事
附錄 九百年代法教 文學 技藝 衣服

第十二篇 二二四

コンラド二世ヘンリー三世ノ事

附錄 ヘンリー三世並ニ羅馬法王ノ事 ウェルフ家艦船ノ事

第十三篇 二三六

ヘンリー四世ノ事

附錄 グレゴリー七世ノ事 日耳曼諸府創立ノ事

第十四篇 二七一

ヘンリー四世ノ事

附錄 第一十字軍ノ事

第十五篇 三二〇

ヘンリー五世ロテール及ヒホーヘンストーヘンノコンラド

三世ノ事

附錄 第二十字軍ノ事

第十六篇 三二七

フレデリック一世ノ事

附錄 ミランノ刺客ノ事

第十七篇

三四五

フレデリック一世ノ事 第三十字軍ノ事

附録 十字軍ノ後日耳曼ノ景況ノ事

第十八篇

三五六

ヘンリー六世ノ事

附録 英吉利王リチャルド一世ノ事 テウトン社ノ事

第十九篇

三七一

ホーヘンストーヘンノヒリップノ事 オソ一世ノ事

附録 乞僧社ノ事

第二十篇

三八二

フレデリック二世ノ事

附録 童子十字軍ノ事

第二十一篇

三九三

フレデリック二世ノ事

附録 ウェストハリヤノ秘事訟廳ノ事

第二十二篇

四一一

フレデリック二世ノ事

附録 「ハンサ」社ノ事

第二十三篇

四三五

コンラド四世及ヒ和蘭ノウイルリヤムノ事 日耳曼空位ノ

事 エルンワルノリチャルド及ヒカスダイルノアルホンソ
ノ事

附録 コンラゲンノ事 千二百年代日耳曼ノ景況ノ事 文學
ノ事 技工ノ事

第二十四篇

四六四

ハブスボルグノロドルフノ事

附録 日耳曼華族ノ事

第二十五篇

四七七

ナソーノアトルフスノ事 墾地利ノアルベルドノ事

附録 スウィツルランド同盟ノ事 ウイリヤムテルノ事

第二十六篇

四九八

ヘンリー七世ノ事

附録 ヘンリー七世ノ即位

第二十七篇

五〇八

ルーイスバブリヤンフレデリックフェヤル共ニ帝位ニ登ル

事

附録 「フランシスカン」社ノ事 ルーイス帝宗門ヲ禁セラル

ノ事

第二十八篇

五一七

シャルレス四世ノ事

附録 文學及ヒ技工ノ事 大學校ノ事 日耳曼人ノ勇武ノ事
黑死病ノ事

第二十九篇

五三九

ウエンセスロー―スルヘルトゴトクスシヂスモンドノ事

附録 フレデリクキヴオンホーヘンゾルランノ事

第三十篇

五五二

シヂスモンドノ事 ザヨンハッス及ヒブレーグノゼローム

教法ノ爲ニ死スル事

附録 シヂスモンドノ無學ノ事 ウイッキリッブノ事

第三十一篇

五七三

シヂスモンドノ事 ハッサイト戦ノ事

附録 プレーグ宗門改正者ノ事

第三十二篇

五九〇

アルベルド二世ノ事 フレデリクキ三世ノ事

附録 ボルゴンデーノチャルレスノ事 印刷術發明ノ事

馬爾加 日耳曼國史卷之上目次畢
摩氏

馬爾加
摩氏

日耳曼國史卷之上

小林雄七郎 譯

第一篇

マリユスゲロリユース、セーザルドルサステペリユス等曰
耳曼ヲ侵ス事並ニアーミニユス日耳曼ヲ復スル事

日耳曼ノ版圖ハ古今大ニ異ナルコトナシ南ハ亞爾伯山ヲ以テ伊太
利ト其境ヲ分チ北ハバルチク海及ヒ北海ニ濱シ西ハライン河ニ到
レリ蓋シ其部落ノ河ノ左岸ニ轉居セシ者往々之アリ然レトモ皆連
ニ羅馬ノ爲ニ併セラレタリ故ニ東ハ其境界頗ル變更シテ勢ヲ得シ

トキハ則チ地ヲ畧シテ黑海ニ通り勢ヲ失ヒシトキハ則チビスチエ
ワ河ニ止リテ一定セス

羅馬人ノ説ニ據ルニ二千年前日耳曼國ハ氣候寒烈ニシテ曠原アリ
卑沼アリ風土大ニ人身ニ適セス就中ヘルシニヤ林ノ如キハ長サ六
十日ノ行程ヨリ遠ク幅九日ノ行程ニ垂ントス土人ハ身體長大皮膚
皓白毛髮黃ニシテ長ク雙眼濶大晴光洞碧ナリ被服ハ疎朴ニシテ男
女皆唯襯衣一片ヲ着ク羊毛ヲ以テ之ヲ織ル雙袖ナク長サ纒ニ腰ニ
達シ四支皆外氣ノ侵スニ任ス往々獸皮ヲ被ル部落アリ其法野豕若
クハ野牛ノ頭皮ヲ以テ帽トナシ豕牙若クハ牛角ヲ眼頭ニ現ハシテ
晴光ヲ添ヘ人ヲシテ一見悚然タラシメシト云フ

紀元前百三十年ノ前ハ日耳曼國ノ名未ダ世ニ著ハレス其事ノ考據
スベキハ此年ニ始ル此年其一部落伊太利ノ東北界ヲ侵ス者アリ即
チシンブリト云フ蓋シ今ノヂョトランドスレスウヰグノ二州ヨリ
出タリ其初メ伊太利ニ入ルヤ其意羅馬府ヲ侵スニアラス專ラノリ
カムヲ攻ルニ在リノリカムハ羅馬ノ一州ナリ故ニ羅馬ノコンシユ
ル羅馬共和政治ノ時之ヲ置クバブリユス、カルボ兵ヲ率井テノリカムニ至
リ其妄ニ國境ヲ侵スヲ讓ムシンブリ答テ未ダ曾テノリカムノ羅馬
ノ管下タルコトヲ知ラスト云ヒ且頻ニカルボノ歡心ヲ求ムカルボ
陽ニ之ヲ容レ翌日全軍ヲ以テシンブリノ不備ヲ伐テ大ニ之ヲ驚ス
然レトモシンブリノ軍屈セス平生ノ勇氣ヲ盡シテ決戦シケレバカ

ルボノ軍遂ニ之ガ爲ニ敗レタリ
 シンブリ既ニカルボノ軍ヲ破リケレバ伊太利全州爲ニ震動セザル
 ハナシ然ルニシンブリハ伊太利ヲ侵サステウトン人ト兵ヲ合セ轉
 シテヘルベシヤニ至リシニアンブリテグリニ其他諸部落亦兵ヲ以
 テ之ニ屬セシカバシンブリ益々勢ヲ得戰ヘバ勝テ攻レバ取り到ル所
 勁敵ナシ紀元前百九年羅馬ノコンシユルゲユニユス、シラナスノ軍
 トトランサルピン、ゴールニ戰テ之ヲ破リ後二年コンシユルカシユ
 スノ軍トゼテバ湖上ニ戰テ又之ヲ破リカシユスヲ斬ルカシユスハ
 マリユスノ同僚ナリ紀元前百五年コンシユルノ二大軍ヲガルリヤ、
 ナルボチンシスニ破リ斬首無算ナリ之ヲ其最大勝トナス

此時ニ當リテシンブリ勢益々猖獗早ク之ガ所ヲ爲サゞレバ羅馬ノ
 危害實ニ不測ニアリ是ニ於テ羅馬マリユステテ大兵ヲ率ヰテシ
 ンブリヲゴールニ拒カシム此時シンブリ既ニ軍ヲ發シ南ノ方羅馬
 テ襲ハント欲ス因リテテウトンスヲゴールニ止テ專ラマリユスニ
 當ラシム紀元前百二年マリユスノ軍テウトンストプロベンスノエ
 ーズニ鏖戰シ大ニ之ヲ破リ十万人ヲ斬リ九万人ヲ虜ニス此時シン
 プリハ既ニ亞爾伯山ヲ超エテ羅馬ノ地ニ入りタリマリユス乃チ大
 兵ヲ率ヰテ之ニ迫リ其降ヲ要セシニシンブリ未ダテウトンスノ敗
 ナ知ラスシテ專ラ其應援ヲ恃ミケル故ニ無禮ヲ以テマリユスニ應
 シ且曰ク汝早ク我等及ビ我同盟テウトンスニ土地ヲ捧ゲテ和ヲ乞

フニ若カストマリユス之ニ答テ汝ガ同盟テウトンスハ既ニ永ク去ルコト能ハザル地ヲ得タリ死者再ビ移動ト云ヒ且テウトバツク其他スベカラス數虜ヲ陣頭ニ引出シテ之ヲシンブリニ示セリシンブリ之ヲ視テ怒氣胸ヲ裂キ乃チ進デ敵軍ヲ突キ勝敗久シク決セス但シ羅馬ノ軍規律嚴肅漸ク地歩ヲ占ケレバ番軍(シンブリ)奮戦スト雖モ遂ニ全ク之ガ爲ニ破ラレタリ

此後日耳曼ノ事久シク世ニ聞エザリシガデヨリユース、セーザルノ時ニ至リアリオピスウスト云フ者アリテ上ライン河ノ諸部落ヲ併セタリ然レトモセーザル伐テ之ヲ降シ連ニ下ライン河及ビモーセル河ノ諸部落ヲ徇フ此諸部落ハ概シテベルゲート名ツク紀元前五

十四年會長アンピオリキスト云フ者アルタンチス林ノ茅廬ヨリ起リテベルゲートヲ煽動シ再ビ羅馬ノ羈輓ヲ脱セント謀リシカトモセーザル伐テ之ヲ破リベルゲート遂ニ羅馬ニ属シタリ此後オーガスタスノ代ニ至ルマデ日耳曼國羅馬ノ侵掠ヲ受ケザリシガオーガスタスノ時其義子ドルサスヲシテ大兵ニ將トシテライン河右ノ地ヲ畧セシムドルサス遂ニ侵掠シテウニセル河ニ至ル一部落アリナエルシト名ツク下日耳曼部落中最モ勇悍ナリ林ヲ以テ城トナシ堅固ニシテ侵スベカラズトルサス乃チライン河ニ沿ヒテ城砦四十餘ヲ築ケリ翌年即チ紀元前十一年カデノ地方ヲ掠畧シ將ニイルプ河ヲ渡ラントセシニ一婦アリ身體長大顔貌恐ルベシ突然軍門ニ來リドル

サスヲ呼テ曰ク汝醜賊貪婪ニシテ飽クコトヲ知ラス汝將ニ何クニ
 行カントスルヤ去レ汝カ死期近ニ在リ汝復永ク暴惡ヲ施スコト能
 ハザルベシトドルサス驚愕シテ措ク所ヲ知ラス乃チ軍ヲ退ケン
 シ馬ヨリ落テ死スマエンスニ葬ル今尙古槽アリ「ドルサス」ト名ツ
 ク蓋シ其墓所ナリドルサス既ニ死シテ日耳曼稍一日ノ安ヲ得シ
 カトモドルサスノ弟テベリユス代リテ將トナリ兵ヲ率井テ日耳曼
 ニ入り州ヲ畧シ郡ヲ併セ遂ニラインイルブノ間ヲ以テ盡ク羅馬版
 圖ト爲シタリ

是ニ於テゾルスヲシテ其北部ヲ管セシムゾルスハオーガスダス帝
 ノ腹心ノ友ナリ才幹アリ且世務ニ練達シ頗ル名聲アリ其兵ヲ率井

テ任ニ赴クヤ多ク道路ヲ開キ以テ行軍ノ便ヲナシドルサスノ築キ
 タル城砦ヲ修シ且多ク贈與ヲ施シテ土人ノ心ヲ收メシ故ニ其猶ヲ
 イン地方ニ駐ルニ當リテハ頗ル土人ノ歡心ヲ得タリ然レトモ其既
 ニウニセル河ヲ渡リテエルシノ地ヲ畧シ日耳曼人民ノ自由ノ慣
 習ニ反シ強テ羅馬ノ律法ヲ行ハント欲スルニ至リテハ怨讟四起シ
 テ大ニ土人ノ心ヲ失ヘリ

此時ニ當リテチユルシ—ニアルミニユスト云フ勇者アリ嘗テ國人
 ト同ク羅馬ノ卒伍ニ入りテ頗ル兵法ニ通ジ且親ク羅馬將卒ノ暴狀
 ナ目撃シテ心ニ之ヲ惡ムコト久シアルミニユスハ貴家ノ子ナリ知
 慧更ニ當時ノ日耳曼人ニ似ス辨論激烈ニシテ能ク野蕃ヲ感動セシ

ムルニ足レリ中夜屢壯士ヲ深林ニ會シテ其志ヲ語リシニ壯士皆其
論ニ服セリ乃チ奇怪ノ禮ヲ行ヒ神ヲ呼ビ相誓テ曰ク羅馬ハ共ニ天
ヲ戴カザルノ仇我等今其兵ヲ殲スニアラサレバ誓テ我刃ヲ韜メス
ト因リテ專ラヴルスノ間ヲ窺ヘリ

幾バクモナクシテ部落ノ反スル者アリヴルス報ヲ聞キ直ニ令ヲ下
シ將ニ三大隊各隊三千人コリヲ率ヰテ之ヲ伐ントス日耳曼ノ酋長盡
ク之ニ從ハント約セリ此時酋長セゲステスト云フ者アルミニユス
ノ奸ヲ訴テ曰ク臣彼ト同ク縛ニ就テ其信偽ヲ明ニセント然レトモ
ヴルス驕傲自ラ恃ミ更ニセゲステスノ言ヲ信セス頗ル之ヲ嘲リ遂
ニアルミニユスヲ許シテ軍ニ從ハシムアルミニユス乃チ捷路ヲ取

ルニ託シ軍ヲ導テウニセル河トヘルホルドノ間ナル山中ノ陝路ニ
入り遂ニテウトボルグ林ニ達ス日耳曼ノ兵此ニ伏シ起テ羅馬ノ軍
ヲ衝ク此時風雨俄ニ來テ泉流滂溢シ溪路ハ陝隘ニシテ輜重運轉ス
ベカラス士卒大ニ窘困ス風水日耳曼軍ノ鬩聲ヲ助ケ誼驚恐ルベシ
日出ニ至リテヴルス輜重ヲ燒キ軍ヲ引テデトモルドノ山林ニ退ク
大澤アリテ之ヲ廻ル得テ越ユベカラス敵兵踵ヲ接テ至ル羅馬ノ軍
平素ニ背カス死力ヲ以テ之ト戰フト雖モ忽チ敵ニ圍マレ全軍地ニ
塗ルヴルス再ビ拾收スベカラサルコトヲ知り劔ヲ以テ自ラ貫キテ
死シタリ其縛ニ就ク者僅ニ數人ノミ然レトモ又或ハ牲ト爲シテ神
ニ供セラレ或ハ賣ラレテ奴トナレリデトモルドヲ距ルコト遠カラ

スシテテウトホルガル山アリ蓋シ此山下ハ即チ古戰場ナリ頂上アルミニユスノ像アリテ之ヲ下視ス像ハ銅ヲ以テ作ル頗ル巨大ナリ斯テ敗聞羅馬ニ達シケレバ上下貴賤皆哀慟畏怖セザルハナシ就中オーガスタスハ齡既ニ老ケレハ痛クブルスノ凶報ヲ傷ミ居テ其席ニ安スルコト能ハズ數日殿中ニ彷徨シ屢頭ヲ以テ宮壁ニ觸レ或ハ高クブルスノ名ヲ呼ビ汝我ニ吾軍ヲ返スベシト叫ビタリサレバ羅馬ノ國民全ク其望ヲ失ヒ死刑ヲ以テ之ヲ強フルニアラサレバ再ビ役ニ就キテ梟戎ト戰フコトヲ肯ゼザルニ至レリ紀元前十四年ドルサスノ子ゼルマニカス兵ヲ率井テライン河ヲ渡リ日耳曼ニ入り直ニ進デブルスノ敗亡ノ所ニ至リ三軍ノ骸屍ヲ收メテ火葬ノ禮ヲ行

ヒ且慨然トシテ兵士ヲ諭シテ曰ク汝等誓テ醜虜ヲ殲シ我羅馬ノ大耻ヲ雪ムベシトアルミニユスハ嘗テブルスヲ破リタル策ヲ以テ再ビゼルマニカスヲ破ラント欲シ羅馬ノ軍ト逢フヤ忽チ僞リテ走り既ニ隘蹊ニ入り全ク羅馬ノ軍ヲ囊括スルト見ルヤ返リ伐テ大ニ之ヲ破ル羅馬ノ軍ハ船舶ヲ得辛ウジテ逃ルコトヲ得タリ翌年即チ紀元十七年ゼルマニカス戰艦千艘ヲ以タイムス河ヲ泝リアルミニユストウエセル河上ニ戰ヒミンデンノ側ニ於テ大ニ之ヲ破ル然レトモアルミニユスノ軍尙屈セス再ビ散兵ヲ收メテ死戦ス羅馬ノ軍遂ニ抗スルコト能ハス皆船ニ乘リテ逃ル後大風アリ船舶破壊スル者十ガ八九是ニ於テテベリユス帝詔シテゼルマニカスヲ召シ軍ヲ

返サシメ且曰ク我ノ日耳曼ニ於ル軍ヲ破ル少レトセス地ヲ畧スル亦多シ然ルニ蕃俗戰ヲ好ム故ニ今我兵ヲ出レテ之ヲ伐ダンヨリハ寧ロ彼兄弟相鬪キ遂ニ敗滅ニ至ルヲ待ツニ若カズト

アルミニユス日耳曼ニ將タルコト十年遂ニ之ヲシテ羅馬ノ羈轡ヲ脱セシメケルガ國人猶之ヲ嫉ム者アリ遂ニ其ガ爲ニ殺サル實ニ紀元二十一年ナリ爾來日耳曼諸部分裂シテ永ク統一セシコトナシ六十九年ビタルリユスヴェスバシアン互ヒニ帝位ヲ爭フバタヴ井ヤ人シヴヰリスト云フ者アリ年猶幼シ誓テ羅馬ニ怨ヲ報イント欲シ頻ニ日耳曼ノ自由ヲ唱フ又巫女ヴェレダト云フ者アリ深林ニ幽居シテ頻ニ國民ヲ煽動ス羅馬ノ兵之ト戰テ復敗ル後日耳曼人反シ

テ羅馬ニ降ル者アリ是ニ於テシヴヰリス勢大ニ窮シ乃チバタヴイヤ島ニ渡リ水門ヲ開キテ水ヲ内地ニ注ギ大呼シテ戰ヲ挑ミタリ然レトモ久シク支フルコト能ハス遂ニ降ヲ乞フ羅馬人之ヲ許シテ頗ル優禮ヲ行フヴェレダハ縛ニ就キタリ

五十年ゼルマニカスノ女子アグリツバ人チライン河ニ移シテ城ヲ築ケリ今ノコログチ是ナリ

附錄第一篇

日耳曼國古代風俗政治教法ノ事

昔者日耳曼人ハ專ラ游獵戰鬪ヲ事トス其事ナキ時ニ當リテハ熊皮ヲ鋪テ其上ニ臥シ或ハ醉ヒ或ハ眠リ以テ戰フベキ時獵スベキ日ヲ

待ツ獵ヨリ歸リ軍ヨリ退クトキハ必ス相集リテ宴ヲ設ケ大盞ヲ舉
 ケテ互ニ相祝ス酒ハ麥酒及ビ蜜酒蜂蜜ヲ以テ之ヲ製スヲ用井ル更深ケ酒酣ナ
 ルニ至リテ喧嘩交起リ互ニ鬪毆シテ血ヲ流スニ至レリ此宴ニ於テ
 常ニ國家ノ大事ヲ議ス然レトモ之ヲ決スルハ必ス次會ヲ期ス次會
 ハ前會ニ比スルニ醉人ヲ見ス

日耳曼人モ亦他ノ野蕃ノ如ク大ニ博奕ヲ嗜ミ屢其軍器家居妻子奴
 婢等ヲ賭ス其猶足ヲサルヤ遂ニ自ヲ賣リテ奴トナルモ厭フコトナ
 シ

日耳曼人ハ其行爲斯ク無賴ナリト雖モ男子ノ婦人ヲ待スルニ至リ
 テハ未ダ日耳曼人ノ如ク厚キヲ見ス蓋シ此風播テ後世ニ及ヒ中古

武門ノ盛ナルニ當リテ益之ヲ養成シ遂ニ方今歐洲婦人ノ品行ヲシ
 テ古昔希臘羅馬ノ婦人ヨリ高カラシムルニ至レリ凡テ日耳曼人ハ
 天ノ人ヲ生スル婦人ニ厚クシテ男子ニ薄ク神聖ノ性叡智ノ賢婦人
 ノ受ル所男子ニ比スレバ頗ル多シト思フ故ニ婦人ヲ以テ能ク將來
 ノ事ヲ前知スト爲シ大事ヲ起ス毎ニ必ス先ツ之ニ諮ル婦人ハ常ニ
 其夫若クハ子ト共ニ軍ニ從ヒ其將ニ敗レントスルトキハ極言諫止
 スルニ由リテ其夫及ヒ其子ヲシテ更ニ奮戰シ敗テ轉シテ勝ト爲サ
 シム其敗散拾收スベカラザルニ及テ又呵責ヲ加ヘ之ヲシテ憤然自
 殺シテ敵人ノ寤辱ヲ免レシム

往昔日耳曼國ハ今ノ市場ノ如キ者ヲ見ス自由ノ人天然ノ權利ヲ有シ人ノ羈執ヲ受ケザル者

奴隸。其生ヲ營マント欲スルヤ自ラ良地ヲ索出シ矮慮ヲ結ヒ其妻子
 反ス。家從ヲ引テ此中ニ居リ又多ク奴ヲ畜ヒ別ニ數慮ヲ作りテ之ニ居ラ
 シム此慮前者ニ比スレバ稍矮小ナリ而シテ地ヲ割テ各奴ニ分貸シ
 其歲貢ヲ徵收シ且危急ニ當リテハ從テ軍事ニ役セシメタリ蓋シ日
 耳曼ノ羈奴ハ多ク軍陣ニ捕ハレシ者ナリ然レトモ主人ノ奴ヲ視ル
 コト子ノ如ク頗ル之ヲ親愛セル故ニ名ハ奴ト雖モ其實ハ臣民ノ如
 シ斯ク自由ノ人ハ各其家族ノ長ニシテ其地ノ君ナリケレバ訟ヲ聽
 キ刑ヲ行ヒ賞ヲ施ス等皆其欲スル所ニ任ス
 自由ノ人ト妻子奴婢ヲ合セテ之ヲ一族ト云ヒ數族ヲ合セテ一村ヲ
 爲シ每村一區ノ共有地アリ毎二週朔望ノ日族長皆此ニ會シ村長其

議長トナリテ爭訟ヲ聽斷ス村ヲ合セテ郡ヲ爲シ郡長其議長タリ郡
 ナ合セテ縣ヲ爲シ縣長之ヲ管ス縣ヲ合セテ國ヲ爲シ國王之ヲ統フ
 日耳曼ノ古言ニ國王ヲ「クニ」ト云フ「クニ」ハ家族ノ義ナリ蓋シ國王
 ハ全國家族ノ長ナルニ取レルナリ

國王ハ長髮ヲ被リ金環ヲ戴キ後世冠ニ變ス自由ノ人及ビ羈奴多ク之ニ從

フ是其常人ニ異ナル所ナリ然レトモ威權頗ル薄クシテ更ニ近世ノ
 王者ニ似ス且歲貢ナシ故ニ國王ト雖モ一般自由人ノ如ク唯其私地
 ノ歲入ヲ收ムルノミ但シ人民其牛羊等ヲ獻シテ其恭敬ヲ表スルコ
 トハ往々之ナキニアラス國王親ラ族長ヲ會シ國家保護ノ方法及ヒ
 政治改正ノ旨趣ヲ諮リ其議案ヲ示ス示ス處ノ案行フベケレバ族長

皆其手ヲ拍ツ是之ヲ可トスルナリ行フベカラサレハ皆誹刺ス是之ヲ否トスルナリ

自由人ハ皆兵タルベシ故ニ常ニ兵器ヲ備フ概テ步兵ナリ或ハ騎兵アリ其乗ル所ノ馬小ナリト雖モ強健ニシテ能ク馳驅ス兵士ハ皆槍刀ヲ帶フ刀ニ二ノ長柄アリ左手ニ楯ヲ取ル長サ五尺幅二尺木ヲ以テ之ヲ作り色彩ヲ施ス太古ニハ甲冑ナカリシガ羅馬ノ軍ヲ破ルニ及テ其甲冑ヲ掠取シ始テ之ヲ着クルコトヲ知レリ其部落ニ於テハ每騎一卒ヲ附ケ騎馳レバ鬣ヲ取リテ共ニ走り騎倒ルレバ代リテ其馬ニ跨ル者アリ夫レ國議戰ニ決スルヤ國王兵法ヲ知レハ親ラ三軍ヲ率井若シ知ラザレバ諸侯ヲ選テ元帥トナシ王ニ代リテ兵ヲ率井

シム之ヲヘロトガト名ツク將軍ノ義ナリ既ニ敵ニ臨ムヤ全軍槍ヲ鳴シ楯ヲ叩キ鼓ヲ打テ角ヲ吹キ高ク野蕃ノ曲ヲ歌ヒ以テ其軍勢ヲ助ケ曲ノ高低ニ由リテ戰ノ勝敗ヲトセリ其戰フヤ常ニ尖角形ノ陣ヲ張り奮ヒテ敵陣ヲ突ク其銳殆ト抗スベカラズサレハ羅馬節制ノ軍ト雖モ屢之ガ爲ニ敗ヲ取リシナリ

日耳曼古代ノ教法ハ詳ニ世ニ傳ハラズ概テ深林ヲ以テ拜場トナシテ殿堂ヲ設ケスデヨリユース、セーザル嘗テ言アリ曰ク日耳曼人ハ日月火ノ三象ヲ拜スト雖モ其隣國高慮ノ如ク僧族アルコトヲ聞スト或ハ曰ク日耳曼ノ國祖ナスウキスコト名ツケタリ後チ祭テ神トナシ且其名ニ因リ其國ヲ稱シテトエチ又ハドエナト云ヘリ

兩名トモ皆スウ

説ナリ。今日耳曼語中ニ猶此語アリ然レモ羅馬人ハ此名ヲ以テ之ヲ
 呼バズ或ハ各部落ヲ別稱シ或ハ概シテ之ヲゼルマニート名ツケタ
 リ蓋シゼルマニ―ハ兵士ノ意ニシテ或日耳曼語ノ高盧ノ音ニ轉訛
 セシ者ナリ又女神アリエルサト名ツク地ノ義ナリ大洋ノ一島ニ在
 リ蓋シバルナツシ海ノルーセン島ナリ島中ニ湖アリ林アリテ之ヲ環ルエルサ此林中ニ居
 リ又屢々林ヲ出デ衆生ヲ濟度ス其出ル乗車壯麗白馬之ヲ引キ湖濱
 ニ至リエルサ其馬車ト共ニ之ニ浴シ從僧浴ヲ助ケ且奴ヲシテ之ヲ
 助ケシメ禮終リテ尽ク奴ヲ殺スト云フ此外ウーデント名ツクル福
 神アリサルト云軍神アリフライアト稱スル婚姻ノ神アリ「ウエチス
 デー」(水曜日)「サルスデイ」(木曜日)「フライデー」(金曜日)ハ此三

神ニ取りテ名ツケタルナリ昔者日耳曼人ハ皆國祖スウキスコハ死
 後ワルハルヲ(死人堂)ト云ヘル所ニ至リ晝ハ游獵戰鬥ヲ事トシ夜
 ハ天樂ヲ奏シテ其戰士ノ晝間戰死スト雖モ更ニ新鮮無創ノ身トナ
 リテ天ニ上リ宴ニ侍スル者ヲ饗セリト思ヘリ

第二篇

紀元三百年代ノ末日耳曼ノ形勢ノ事 匈奴侵入ノ事 ア
 ラツクヴンタルス羅馬ヲ陷ル事 アツナラノ事 西羅馬
 帝國滅亡ノ事

紀元二十一年アルミニユスノ死セシヨリ三百七十六年ニ至ルマテ
 日耳曼國ノ形勢大ニ變革セル所ナシ但シ羅馬帝オーレリユス、ブン

トニナス屢、日耳曼ノ軍ヲ破リ就中其一部落カデーヲ破リテ大ニ名ヲ當時ニ得タリ其カデーヲ破ルヤ風雨ニ乗シテ其功ヲ奏セシニ由リ後此ニ基キテ雷神隊カシウシラヤンノ奇談ヲ作ル者アリ此後又日耳曼ノ部落ニ高盧ヲ侵ス者アリ羅馬帝プロプス高盧ヲ授ケ日耳曼人ヲ逐ヒテライン河ヲ踰エイルプ河ニ至リシニ兵旗ノ向フ所皆靡カサルナシ遂ニ日耳曼ヲ併セテ羅馬ノ一州トナサント思ヒケルガ故アリテ果サス是ニ於テ專ラ後來ノ邊害ヲ防カント欲シアドリヤンノ築キタル長城ヲ修ス此城ハダニユーブ河ヨリメーシ河ニ達シテ殆ド二百里ノ地ニ亘レリ今猶存スル者アリテヘーアンモーエルト名ツク邊塞ノ義ナリプロプス又ライン河ノ左ダニユーブ河ノ右ニ沿ヒテ諸

所ニ城砦ヲ築キ且多ク橋梁ヲ架シテ日耳曼ノ劫掠ヲ禦ク又ライン河邊ニ於テ初テ葡萄ヲ樹エ兵士ヲシテ之ヲ培養セシム兵士ハ其勞ニ堪ヘスシテ遂ニ之ヲ弑セリ

此ヨリ前日耳曼諸部落ノ中甲部落乙部落ノ地ニ轉スル者及ビ朝ニ羅馬ノ州郡ヲ侵シ夕ニ退テ其部落ニ還レル者ハ之アリト雖モ未ダ曾テ地ヲ他國ニ畧シテ永ク國礎ヲ起シ、コトナシ其之アルハ蓋シ三百年代ノ終ニ始レリ此時ニ當リテ羅馬漸ク衰へ野蕃ノ猖獗ヲ壓スルコト能ハス是ニ由リテ日耳曼諸部落相爭ヒテ其州郡ヲ畧シ歐洲ヲ瓜分シテ諸所ニ王國ヲ樹テタリ是則チ歐洲各國ノ基礎ニシテ方今縱衡ノ勢專ラ此ニ胚胎セリト云フ

此時日耳曼部落ノ強大ナル者ハ

第一 サキソンス

此部落ハ專ラ劫掠ヲ事トス初メイルプ河口ノホレスターンニ起リ後境ヲ擴メテ日耳曼ノ北部ヲ畧セリ貌利顛王(英王) ヲオルナゼルン之ヲ其國ニ招キテスコツツ並ニビクツノ侵掠ヲ防カシム是ニ由リテ第四百四十九年サキソンスノ一郡ヘンダスト及ビホルサヲ將トシテ貌利顛(英吉利)ニ入り盡クビクツヲ逐ヒテ自ラ其地ヲ領セリ又サキソンスノ一部落ニアングロト云ヘルモノアリ英倫ノ名ハ之ニ取レルナリ

第二 フランクス(自由人)

此部落ハサキソンスノ西南ウエセル河トライン河ノ間ニ在リ兵ヲ好ミテ頗ル威ヲ四方ニ震セ後高盧ヲ取リ國ヲ建テ佛蘭西ト云フ是フランクスニ取レルナリ

第三 アレマンニー

此部落ハ日耳曼ノ中央ニ在リテラインメーングニユーブノ三河之ヲ繞レリアレマンニーハ諸部落ノ聯合セル者ナリ二百年代ノ初ニスウエヴ井ト云ヘル部落アリ諸部落ヲ募リ力ヲ戮テ外侮ヲ禦ギ且共ニ劫掠侵畧ヲ逞クセンコトヲ約シ遂ニ此聯合部落ヲ成セルナリアレマンニーハ總人員ノ義ナリ今佛蘭西人猶日耳曼全國ヲ呼デアルレマント云フナリ

第四 俄狄及ビヅンダルス

此二部落ハ日耳曼ノ東部ニ在リ俄狄ノ史ニ見エシハ蓋シ紀元二百五十年羅馬帝ダシヌスノ代ヲ以テ始トナス此年俄狄ダニユーブ河ヲ渡リ羅馬ノ境ヲ侵セリ初メ俄狄ハスカンデナヴキヤニ起ル蓋シ諸テウトン部落ハ皆俄狄ヨリ出ルナリ俄狄分レテ二部トナリ一チオストロゴス(東俄狄)ト云ヒ一チヴキジゴス(西俄狄)ト名ツク(オスト(東)ヴキジ(西)ノ兩語ハ其故國スカンデナヴキヤニ在リシ時其地位ニ因リテ名ツケタルナリ故ニ後何レノ地ニ轉ゼシトモ常ニ此名ヲ以テ稱セラルル俄狄スカンデナヴキヤヲ出テバルチツク海ヲ踰エヴキスナユラ河口ヲ領セリ是其歐洲ヲ掠奪セル權輿ニシテ

遠ク紀元ノ始ニ在リ又ゼビデアト名ツケタル部落アリ俄狄ト合シ共ニ日耳曼ニ來レリ又ワングルスハバルチツク海ノ沿岸ヲ畧シボルゴンデアンハオーデル河ニ起リロンバルデーヘルリハ丁抹ツシマニ起レリ羅馬帝コンスタンチン甚ダ俄狄ヲ愛シ君士但丁諾格爾府ノ近衛兵ワランデアン隊ハ兵員凡ソ四万人アリシガ皆俄狄人ナル耳ナラス其酋長之ニ將トナリ其律法ヲ以テ士卒ノ爭訟ヲ聽斷セリ三百年代ノ終ノ日耳曼ノ景況ハ既ニ前ニ條列セル如クニシテ今ノ日耳曼版圖ノ中ダニユーブノ右ラインノ左及ビ兩河ノ間ノ長城ノ南ハ盡ク羅馬ニ屬セリダニユーブ河ノ右ヲ四分シテ一チレーシヤト云ヒ其府チオーガスタヴキデリユルムト名ツク今ノオーグスボ

ルグ是ナリニチノリカムト云ヒレーシヤノ東ニ在リ三チバンノニ
 ヤト云ヒ其府チヴキンドボナト名ツク今ノヴキーナ是ナリ四チモ
 ーシヤト云ヒダニューーア河口ニ濱セリ又ライン河ノ左チ分チテ亦
 四州トナシ一チヘルヴエシヤト名ツク今ノスエツナニルランドナ
 リニチゼルマニカ、ブライマト名ツク二府アリモグンシヤ(今ノマエ
 ンス或ハメーンス)及ヒアルゼントラダム(今ノストラスボルグ)
 ト云ヘリ三チゼルマニカ、セコンダト名ツクコロニヤアグリッパ
 (今ノクールン或ハコログチ)コンフルインシヤ(今ノコフレンツ)
 ボンナ(今ノボンヌ)エーケ(今ノエーケン或ハエーズ、ラ、シヤブレ
 ル)等ノ市坊アリ四チメルザカト名ツク其府チオーガスタトレヴ

キロラム(今ノトリール或ハトレーヴ)ト云ヘリ

夫レ日耳曼部落ノ羅馬版圖チ侵シテ遂ニ西帝國チ覆ヘセシ所以チ
 考フルニ二百年代ノ始ニ當リテ俄狄東ノ方境チ拓チニューキジシ海
 ニ逼リ二百七十二年羅馬帝オーレリアンヨリダシヤ全洲チ受ケ三
 百七十六年其王ヘルマンリツクノ時ニ至リテハ其版圖バルチツク
 海ヨリダニューーア河ニ達シ頗ル強大ノ勢ナリケルガ此年其境チ侵
 ス者アリ之チ匈奴ト云フ匈奴ハ俄狄ニ比スレハ頗ル野蕃ナリ當時
 ノ史チ觀ルニ匈奴ハ頬骨高クシテ鼻低ク目細ク色黃ニ頸短クシテ
 太ク身ハ矮シト雖モ其肩頗ル廣ク骨格概シテ豊大ナリ嘗テ俄羅斯
 ト支那ノ間ノ曠野ニ居レリ常ニ水草チ追ヒテ遷リ宮室ナク天幕チ

以テ家トナセリ其來テ俄狄ヲ攻ルヤ俄狄其醜容古人或ハ之ヲ二足ノ獸
比テ或ハ之ヲ木偶ニ比ニシテ能ク馬ニ乗り能ク矛ヲ投スルヲ見テ大ニ驚愕シ愚ニモ惡
魔ノ降り來レルカト思ヒ第一戰第二戰ハ猶之ヲ破レリト雖モ迷惑
ノ心去リ難ク第三戰ニ至リテ遂ニ之ガ爲ニ破ラレ全軍殆ド此ニ殲
キタリヘルマンリフクハ其國ノ倒ルヽヲ見ルニ忍ビズ遂ニ自殺ス
齡百十歳ナリ後此戰ヲ逃レタル者ノ中或ハ自ラ深山ニ潛ミシモア
リケルガ又羅馬ノ僧正オルヒラスニ書ヲ送リテ羅馬帝ゾレンスニ
説カシメダニユーフ河右ノ羅馬ノ地ヲ得テ匈奴ノ殺掠ヲ避ケンコ
トヲ請ヒシモノアリ是俄狄ノ羅馬ノ境内ニ入り遂ニ轉覆スル濫觴
ナリ

斯テ僧正オルヒラスハ俄狄ノ請ヲ受ケゾレンスニ此由ヲ奏シケル
ニゾレンスハ俄狄若シ兵器ヲ解テ毫モ劫掠ヲ行ハス正シク衣食ノ
價ヲ出ツバ其請ニマカセダニユーフ河右ニ居ルコトヲ許サントテ
該件ニ付更ニ官吏ヲ置キ以テ俄狄ヲ監視シ之ヲシテ其約ヲ踐マシ
メタリ然ルニ官吏貪暴ニシテ殘虐度ナク尽ク俄狄ノ所有ヲ掠奪シ
テ猶足レリトセス大ニ其妻孥ヲ窘辱シケレバ俄狄其憤怒ニ堪ヘス
皆再ビ兵器ヲ執テ反セント決セリ初メ未ダ約ヲ成サヽルニ當リテ
既ニ河ヲ渡レル者アリ皆兵器ヲ帶フ此徒モ亦相應援セリ是ニ於テ
東西南部ノ俄狄兵ヲ合セテアドリヤノーブルヲ攻メ此戰ニハ敗北
セシガ紀元三百七十八年又兵ヲ舉テ其舊敵匈奴ノ兵ト合シ進デア

ドリアノール平原ニ至リ羅馬ノ軍ト對陣ス此時兩軍合セテ戰士殆ド百万歐洲未ダ曾テ此ノ如キノ大軍ヲ見ザリキ此戰羅馬ノ軍一敗地ニ塗レヅレンスハ重創ヲ負ヒ送ラレテ茅廬ノ中ニ在リケルガ廬焚ケテ死シタリ

後數年ヅキシゴス王アサナリツクハ羅馬ニ款ヲ通シ君士但丁諾格爾ニ於テ第宅ヲ賜ハル其死セルヤ帝セオドシエス自ラ喪ヲ送リテ其墓ニ至レリ斯克俄狄ハ羅馬人ノ親昵ヲ受ケテ能ク其文明ノ俗ニ化シケレトモ敢テ其奢靡ノ風ニ染マザリシカバ人材輩出シテ羅馬ノ朝ニ登庸セラレ顯職ニ進ミシ者モ亦少カラザリシト云フ紀元三百九十五年セオドシエス歿ス二子アリホノリユスアルカゼユスト

云フ帝國ヲ兩分シホノリユス伊太利ニ居テ西帝國ヲ管シアルカゼユスハ君士但丁諾格爾ニ居テ東帝國ヲ治メタリ

東帝アルカゼユスノ朝ニ仕ヘシ俄狄ノ中ニアラリツクト云フ兵士アリ選バレテヴキシゴスノ王トナレリ年猶少シ突然希臘ヲ侵シテ多ク其市府ヲ掠ム故ニアルカゼユスナリコヲ遣シテ之ヲ伐タシムスナリコハゾンダル人ニシテセオドシエス帝ノ時寵ヲ得テ連ニ顯職ヲ歴タルモノナリ是ニ於テ兵ヲ率テアラリツクヲ拒キ之ヲシテ其侵地ヲ返サシメタリアラリツクハ兵ヲ轉シテ西帝國ヲ侵ススナリコ伐テ復之ヲ破レリ時ニ讒者アリスナリコハ陰ニアラリツクニ通ゼリト云フ因リテ誅セラルアラリツク之ヲ聞テ好機會失フ

へカラストテ兵ヲ進メテ羅馬府ニ薄リ降ヲ要セリ羅馬和ヲ求ム
 フリツク之ヲ要シテ黄金五十磅白銀三万磅珍寶之ニ適ヒ以テ之ヲ
 納レヨ我乃チ和ヲ聽シ然ラサレバ能ハスト云フ羅馬人罵リテ是我
 ナシテ乞丐タラシムルナリ今我之ヲ與フレバ我ニ於テ何ノ餘ス所
 アルヤト云フアラリツク怒リテ汝猶生命アリト答フ羅馬人切齒シ
 テ我兵猶多シト云フアラリツク來レ草彌、繫ケレバ之ヲ効ル愈、
 易シト答ヘ應答時ヲ移シケルガ徒ニ罵詈スル能更ニ其益ヲ見ザレ
 バ羅馬人遂ニアラリツクニ其要スル所ヲ與ヘシニアラリツクモ亦
 其言ヲ食マス秋毫モ犯ス所ナク轉シテホノリユス帝ヲラウニンナ
 ニ圍ミシガ其拔クベカラザルコトヲ知り兵ヲ返シテ再ビ羅馬ニ薄

レリ

紀元四百九年八月二十三日ノ夜羅馬遂ニ陷ル世ニ傳フ初メアラリ
 ツク日耳曼ノ壯士三百人ヲシテ縛奴ノ装ヲ爲サシメ之ヲ羅馬當路
 ノ人ニ贈リシガ此夜僞奴羅馬ノ諸門ヲ開キテアラリツクニ應ス因
 リテ容易ク之ヲ陷ル、コトヲ得タリト此説是ナリヤ否ヲ知ラスト
 雖モ此夜アラリツク蕃軍ヲ引キ勝ニ誇リテ羅馬ニ入りタリ夫レ羅
 馬人ノ夷狄ヲ束縛シ引テ羅馬ニ入り或ハ「アンヒセヤートル」カ士
ノ角闘等ヲ行フ所ノ猛獸ノ餌ニ充テ或ハ此場ニ於テ角闘シテ互ニ殺サシメシ
 コトハ多ク之アリシカトモ夷狄ノ勝ニ乗シテ壘ヲ毀テ陣ヲ破リ積
 怨ヲ報ヒントテ揚々トシテ羅馬ニ來レルコトハ三百九十年ブレン

ナスゴールノ侵入セシ後是時ヲ以テ初トナセリサレバ羅馬ノ市人
 ハ皆其殺掠ヲ恐レケルガ豈圖ランヤ俄狄優ニ降人ヲ待シ犬ヲ市街
 ニ放ツコトヲダニナサヅリケレバ市人皆蘇生ノ思ヲ爲シケリ斯テ
 アラリツクハ既ニ羅馬ヲ陷レケレバ遂ニ伊太利ノ南部ヲ徇ヘ更ニ
 船ニ乗シテ亞弗利加ニ至ラントセシガメシヤニ於テ船舶破レテ果
 リス後頓ニ死セリ齡五十四歳ナリ是ニ於テ罪囚ヲ役シテビユーセ
 タム川ヲ決シ其水ヲ盡シテ巨萬ノ財貨ト共ニ川底ニ埋葬シ再ビ水
 チ川中ニ引キ然ル後盡ク役夫ヲ斬殺シ以テ其葬所ヲ秘シケルトツ
 アラリツク既ニ死シテ其義弟アドルフス嗣テウヰゴスノ王トナ
 レリアドルフス類ニ伊太利ヲ殺掠スルコトヲ惡ミ專ラ之ヲ保護セ

ント欲シケレバ軍ヲ引テ伊太利ヲ去リ高盧ノ南部西班牙ノ北部ヲ
 徇ヘテ一箇ノ王國ヲ起ントーローニスニ都シテホノリユス帝ノ妹ヲ
 娶ル后ハ麗麗ニシテ才幹アリシト云フ

此時日耳曼ノ一部落ヴンダルスハ羅馬軍ノ西班牙ヲ去リ歸リテ伊
 太利ヲ守レルヲ見テ之ヲ時トシ諸部落ト力ヲ戮セタイプロ河邊及
 ビ西班牙半島ノ西南部ヲ畧シ諸所ニ部落ヲ建テタリ第四百二十九
 年亞弗利加ノ知事羅馬ニ反シテ陰ニ西班牙ノヴンダルスニ歎テ通
 シ招テ亞弗利加ニ入ラシム此時ヴンダルスノ王ヲゼンセリツクト
 云フ乃チ招ニ應ジテ直ニ亞弗利加ニ入り日ナラスシテ之ヲ定メカ
 ルセーザニ都ス多ク戰艦ヲ製シテ頻リニ伊太利西班牙ノ海岸ヲ侵

掠シ地中海ニ横行セリ第四百五十五年ゼンセリツク海ヲ渡リテ伊
太利ヲ侵シ羅馬ヲ取レリ然レトモ其市坊ヲ毀タス唯尽ク其金銀財
貨ヲ收メテ之ヲ其國ニ送リテ其都カルセーヂヲ修ス後遂ニ海ヲ渡
リテ歸レリ四百七十八年齡高クシテ死セリ

四百年代ノ半ニ當リテ匈奴ノ酋長ニアツナラト云フ者アリ其國曰
耳曼ノ東部ニ位シテホンガリー其中央ニ在リ四百五十一年アツナ
ラ兵ヲ率非テ君士但丁諾格爾ヲ攻ム君士但丁諾格爾ノ皇太后アル
ナニリヤ多ク黄金ヲアツナラニ贈リ之ヲシテ兵ヲ退カシムアツナ
ラ之ヲ聽シ圍ヲ解テ西ノ方佛蘭西ニ進ミ將ニ巴勤ヲ攻メントセシ
ガ故アリマ果ツズ聖僧記ニ曰ク此時聖尼ゼテヴキーヴト云フ者ア

リテ羊ヲ牧スルコトヲ業トセンガアツナラニ説キテ兵ヲ退カシメ
タリ後巴勤人ゼテヴキーヴヲ祭テ其護神トナセリト此時ニ當リテ
アツナラノ威四方ニ振ヒ將ニ歐洲ヲ併呑セントスル勢ナリ是ニ於
テ各國盟ヲ結ヒテ共ニアツナラヲ伐ダントス羅馬先ツ大將エーナ
ユスヲ遣シ兵ヲ率非テ高盧ニ入ラシム俄狄ノ酋長セオドリツクフ
ランクスノ酋長メロウキツク等皆兵ヲ率非テ之ヲ助ク四百五十二
年東西ノ兩軍マルテ河上シヤロンスノ近野ニ會シ一戰シテ歐洲ノ
運ヲ決セント欲シ鏖戰時ヲ移スセオドリツクク之二死セリ然レトモ
匈奴ノ軍大ニ敗レ其死スル者二十万人是ニ由リテ西帝國遂ニ安キ
ヲ得タリ翌年匈奴又亞爾伯山ヲ超エテエクレヤ府ヲ取ル府民ブ

レンタ河口ノ卑洲ニ遷レ府ヲ立テヴエニスト名ツケタリ
 アツナラ既ニエクイレヤヲ取リ(當時羅馬人ノ恐怖シテ云ヘル如
 ク神ニ代リ咎ヲ加フル勢ヲ爲シ)直ニ進テ羅馬ヲ攻ントセシガ軍
 中病者多ク且羅馬ヲ覆シテ神怒ヲ起サンコトヲ恐レ敢テ果サスミ
 シシユス河上ニ陣セリ陣ベンカス湖ヲ距ルコト遠ラス此時羅馬其
 僧正レオナシテ救世主ノ表號ヲ建テ許多ノ僧徒ヲ從ヘテアツナラ
 ノ陣ニ至ラシムレオオ才辨アリアツナラニ面シ説テ其羅馬ヲ攻ルコ
 トヲ止メ且兵ヲ退ケテ伊太利ヲ出デシメタリ聖僧記ニ曰クレオノ
 アツナラニ説キシ時聖僧ベートルポールノ靈レオノ後ニ現レ出デ
 アツナラヲ讓メテ汝若シ我後嗣ノ請ヲ聽カスンバ我乃チ汝ヲ殺戮

セント云ヘリト

後幾クモナクシテアツナラ死セリ金ヲ以テ棺トナシ銀ヲ以テ槨ト
 ナシ更ニ鐵板ヲ以テ之ヲ覆ヒ全軍皆喪ヲ送ル其壯麗ナルコト目ヲ
 驚セリ將ニ墓地ニ達セントスルニ及テ盡ク送者ヲ返シアラリツク
 ナ葬レル如ク賣奴ヲシテ之ヲ理メシメ後盡ク之ヲ殺シテ以テ其墓
 所ヲ秘シケルトゾ

是ヨリ先西帝國政衰ヘ風俗浮薄ニシテ其危キコト累卵ノ如シ俄狄
 ヴンダル皆羅馬府ニ入り盡ク其市坊ヲ毀テ恣ニ廢立ヲ行ヒ二十一
 年間九度天子ヲ代フルニ至レリ然ルニ民皆久シク羈輓ニ慣レケレ
 バ能ク危ヲ見テ命ヲ授ケ國家ヲ維持スル者アルナンヘルリ人オド

一セルト云フ者アリ羅馬帝ロムルス、オーガストラスニ仕ヘテ其日耳曼ノ傭兵ニ將タリシガ遂ニロムルス、オーガストラスヲ廢シテ其位ヲ篡ヘリ實ニ第四百七十六年ナリ斯ク西帝國ハ恰モ老耄人ノ死ニ趣クガ如ク一刃血ラスシテ永ク地下ノ客トゾナリニケル

附錄第二篇

俄狄耶蘇宗ニ入ル事 僧正オルヒラスノ事 アツテラノ容貌行狀ノ事 トレーヴノ古物ノ事

俄狄ノ猶其本國スカンデナビヤニ在ルヤ其奉スル所ノ教他ノテウ
トシ諸部落ニ異ナルコトナシ 俄狄モ亦テウ
トシノ一部 三神アリ一ニ曰クオーテ
ン(ウーデント同シ)軍神ナリ二ニ曰クフリッガ即チフレーヤオー

デンノ夫人ニシテ北地ノヴエナスナリ ヴエナスハ希臘ノ女神ナリ俄狄ノ
本國北方ニ在リ故ニ北地ノヴエナス

ト云ニ曰クサル萬物ノ元質ヲ管シ寒暑ヲ定ム羅馬ノヂャビテ

ニ似タリ瑞典ナルオプサルニ於テ大殿ヲ營ミ三神ノ影像ヲ安置セ

リ但シオーデンハ人血ヲ嗜ムニ由リオプサルノ側ノ林ニ人屍獸骸

積テ之ニ滿ツ皆オーデンニ供セシナリ千年代瑞典王イングロノ代

ニ至リテ遂ニオプサルノ神殿ヲ毀テリ爾來三神血食セス二百年代

俄狄東南ノ地方ヲ畧シ羅馬ノ耶蘇宗人ニ切近セルニ及テ漸ク此宗

ニ化セシ者アリ後テウトン諸部落モ亦耶蘇宗ニ入ル蓋シ俄狄ヲ以

テ魁首トナス三百二十五年ナイスニ於テ宗門議院ヲ開キタリ俄狄

ノ僧正之ニ臨メル者アリサレバ俄狄ノ耶蘇宗ニ化シタルハコンス

タンナンノ此宗ヲ奉ゼシ後ニアラズ

三百六十年オルヒラスハ「モエソ」ゴシツク（俄狄語ヲ以テ耶蘇經文ヲ譯シ因リテ深ク俄狄ノ人民ヲ教化シ確ク其道ヲ信セシメタリ）語ノ一種

故ニ今ニ至ルマデ世人オルヒラスヲ稱シテ俄狄僧正兼宣教師ト名

ツク今尙存スル俄狄書中オルヒラスノ書ヲ以テ最モ古キ者トス千

六百四十八年瑞典ノ將ク「ニグスマークト」云フ者ブレーグニ於テ

之ヲ得オフサルノ大學ニ移セリ今猶此ニ在リ此書ハ紫地ニ銀ヲ以

テ之ヲ書セリ初メオルヒラスノ此書ヲ譯スルヤ俄狄未ダ伊呂波ノ

如キ文字アラス因リテオルヒラス俄狄音中羅馬希臘ノ文字ニ適セ

ザル者ヲ檢出シ新ニ四字ヲ製シテ此音ニ適センメシト云フ斯クオ

ルヒラスハ工夫ヲ費シテ經典ヲ譯シケルガ暫時ハ宗論ノ媒トナリ

其書ノ出ルヤ酋長アサナリツク命シテサル神ヲ車頭ニ載セ村落陣

營ヲ巡行セシメ民ノ跪テ之ヲ拜セザル者ヲ見レバ直ニ火ヲ天幕ニ

放チ其妻子ヲ併セテ之ヲ焚殺セシメタリ斯クアサナリツクハ耶蘇

教ヲ拒ミケレトモ俄狄ヅンタルハ勿論他ノ日耳曼諸部落モ皆爭ヒ

テ之ヲ奉ジサキソソフランクノ外ハ尽ク其古宗ニ背キテ耶蘇ノ教

法ニ入りケル唯惜ムラクハオルヒラスハアリニス派ノ説ニ拘泥シ

テ耶蘇既ニ此世ニ生ルレバ亦人ノミ神ニハアラズト云フコトヲ信

ジケリ

當時ノ史ニ據ルニアツナラハ醜容尙奴人ト一般ナリ（尙奴醜容ノ事前ニ見ユ）然レ

當時ノ史ニ據ルニアツナラハ醜容尙奴人ト一般ナリ（尙奴醜容ノ事前ニ見ユ）然レ

當時ノ史ニ據ルニアツナラハ醜容尙奴人ト一般ナリ（尙奴醜容ノ事前ニ見ユ）然レ

當時ノ史ニ據ルニアツナラハ醜容尙奴人ト一般ナリ（尙奴醜容ノ事前ニ見ユ）然レ

當時ノ史ニ據ルニアツナラハ醜容尙奴人ト一般ナリ（尙奴醜容ノ事前ニ見ユ）然レ

トモ目ヲ其威權ヲ負ヒ坐作嚴莊頗ル風彩ヲ見ル其左右ヲ回顧スルニ當リテ眼光爛々好デ顔色ヲ以テ人ヲ威服スル者ノ如シ而シテ人亦遠巡畏縮シ敢テ仰キ視ル者ナシ匈奴ノ俗劔ヲ祭リテ軍神トナス一日牧夫アリ銚刀ヲ携テ來リ告テ曰ク賤僕牛ヲ牽テ叢中ヲ過クルトキ牛劔ヅク因リテ探リテ之ヲ得タリトアツナラ乃チ高壇ヲ作り刀ヲ其上ニ立テ衆ヲ會シテ宣言シテ曰ク我マルス軍神ノ寶刀ヲ得且命ヲ受ケテ全世界ノ帝王トナレリト是ヨリアツナラ威權益々行レ民敢テ其面ヲ直視スル者ナシ其兵ヲ率テ陣ニ臨ムヤ兵士皆以爲ラク將軍神ニ代テ不逞ヲ誅ス何ヲ征シテカ勝タザラント因リテ敢戰シテ避クル所ヲ知ラスアツナラ常ニ衆ニ誇リテ曰ク我馬ニ跨リ

テ地上ヲ行クニ馬蹄ノ加ハル所草再ビ生セズト匈奴ノ俗夜酒ヲ飲ム一夜アツナラ沈醉シ深更ニ及テ床ニ就ク明曉近臣行テ安否ヲ問フアツナラ煩悶シテ將ニ死セントス蓋シ脉管破レダレバナリ既ニ死シ葬車ニ絹ノ籠蓋ヲ附シ遺骸ニ王服ヲ着セテ其下ニ置キ而シテ人民ノ縱觀ヲ許ス近衛兵ハ劔刀ヲ以テ其面ニ劔ツケ葬歌ヲ唱ヘ王ノ功德ヲ頌シテ之ヲ送ル然レトモ既ニ葬ヲ終フルヤ哀歌ノ曲變シテ亂醉誼諱ノ聲トナリ曾テ哀慕ノ狀ヲ見ザリシト云フ

トレーヴハモ―セル河ニ近シザロリユース、セーザルノ日耳曼ニ入リシ時其市坊既ニ觀ルベカリシカオーガスタスノ時ニ至リテ人ヲ此ニ移シ羅馬市府ノ中ニ列シテ市府ノ免許ヲ與ヘタリコンスタン

チン大王其他羅馬帝好テ此ニ居レル者多シサレバ人民俄ニ殷富ニ
 趣キ工事大ニ起リテ多ク製造品ヲ出シ遂ニ號シテ亞爾伯山北羅馬
 ノ一都會ト稱セラルヽニ至レリ此地今猶古代ノ土木ノ存スル者ア
 リ中ニ羅馬ノ法院アリ今選帝官ノ宮ニ属ス日耳曼ノ工師スクミツ
 ドノ法ヲ模シテ作レリ夫レ羅馬法院ノ後ニ存スル者少トナサス
 然レトモ或ハ耶蘇ノ拜堂トナリテ其眞様ヲ變換シ或ハ爭亂ニ遭遇
 シ頽壞シテ再ビ修營スベカラザルニ至リシニ獨トレーヴノ法院ノ
 ミ能ク其眞様ヲ存シ俄狄ノ工法猶歷々トシテ見ルベシ蓋シ羅馬ノ
 法院ハ總テ帝宮ニ属セリコンスタンチンノ未ダ耶蘇教ヲ奉ゼザル
 ヤ法院ヲ以テ兼テ市場トナシ商賈皆此ニ會セリ故ニ院ヲ分テ二區

トナシ一ハ通常ノ廣堂ナリ之ヲ商院トナス一ハ其一隅ニ於テ灣形
 ノ壁ヲ置キ灣所ニ法官ノ坐ヲ設ク之ヲ法院本部トナセリ後法院ノ
 製ニ擬シテ耶蘇堂ヲ立ツル者アリ皆古代ノ法官ノ坐所ニ神壇ヲ安
 置ス夫レ方今存スル所ノ法院ヲ閱シ且ウキトルリユスノ建築論ヲ
 考フルニ法院ノ製二種アリ一ハ唯一本堂ヲ建ルノミ一ハ本堂ノ外
 ニ左右ニ屬宮ヲ設ケ屬宮ノ上ニ棧ヲ架シ棧上柱ヲ列テ屋ニ達セシ
 メリトレーヴノ法院ハ煉化石ヲ以テ之ヲ作り砂磧及ヒ破瓦ヲ混シ
 タル煉石灰ヲ以テ之ヲ固ム院ノ形長圓ナリ一隅ニ灣形ノ壁アリ灣
 壁ニ對シテ出入口アリ四人並シテ出入スベシ昔時ハ蓋シ此口外ニ
 廊ヲ置キシナラン又側ニ戸アリ法官法士ノ出入スル所ナリ四壁ニ

上下二列ノ大窓ヲ設ケタリ屋ハ蓋シ瓦ヲ以テ之ヲ覆ヒシナラン本堂ノ床下ニ瓦柱アリテ床ヲ支フ床ハ石ヲ以テ作り石ハ青黃白ヲ雜ヘ以テ文彩ヲ爲シ煉石灰ヲ以テ之ヲ固ム床下ニ煖房窓アリ大石ヲ以テ之ヲ作ル壁ノ高サ九丈厚サ一丈法官ノ坐ノ左右ニ階アリ壁外ヨリ挿入シテ屋ニ達ス後普魯西政府此院ヲ修繕セリト云フ

トレーヴニ又「ホルタマーナ」ト云フ建物アリ黒門ノ義ナリ方今該府ノ門トナレリ憶フニ當時モ亦然リシナラン蓋シ此頃戰鬪ニ當リテハ弓手ヲ門上ニ置キ左右ノ塀ヲ越エントスル敵ヲ射シメシナリ初メテ此門ヲ立ルハ何ノ年ニ係ルヤ詳ナラス恐ラクハ法院ト同クコンスタンタンノ命ヲ以テ經營セシナラン門ノ前面ハ「トスカン」

風ノ柱ヲ列テ之ヲ飾ル側面ハ四階ナリ下階ハ圍圍ナリ二階ニ兵器什具ヲ藏ム頗ル暗室ナリ三階四階皆兵士ヲ置キタリ門ノ長サ十一丈五尺幅六丈七尺高サ九丈二尺アリ大石ヲ積テ之ヲ作り鐵鈕ヲ以テ之ヲ固メ煉石灰ヲ用ヰス門路各廣サ一丈四尺門路ノ入口ノ兩側ニ門溝アリ蓋シ吊門ヲ設ケシナリ千年代サイラキユースノ隱僧シメオント云フ者アリ嘗テ猶太ニ詣リ歸路サイナ山ノ寺庵ニ止リシガ其同名シメオンス、嘗テ塔上ニノ所爲ニ倣ヒトトレーヴノ門ニ登リテ七年間己ニ克テ神聖ノ行ヲ修メタリシメオン既ニ死シテ羅馬法王ベチザクト九世禮ヲ行ヒテ之ニ聖僧ノ號ヲ與ヘリ門ニシメオンノ遺骸アリ大僧正ボツボ祝祓ヲ行ヒ更ニ此門ヲ以テ聖

僧シメオンノ殿トナシ神事ヲ行フニ便セン爲メ一隅ニ灣形ノ壁ヲ
作り上下三階ニ分チ三坐ノ禮拜堂トナシ壁外ニ階ヲ設ケテ昇降セ
リ千八百年代ノ始マデハ常ニ祭事ヲ行ヒシガ千八百十七年ニ至リ
テ普魯西政府「ボルタマーチス」ノ八百年間ノ積塵ヲ掃除シ禮拜堂
ヲ廢シテ再ヒ舊時ノ市門トナセリ

第三篇

セオドリツクオド―セルヲ廢シテ羅馬ノ位ヲ篡フ事 セ
オドリツク疆土ヲ拓ク事 セオドリツク死去ノ事 フラ
ンクスノ祖王クロヴルニスノ事 俄狄伊太利ヲ失フ事 ベ
リザリユスヴキナヂスト―テラナルセス等ノ事 ロンバ

ルデー建國ノ事

斯テオド―セルハ羅馬ノ位ヲ篡ヒ十二年ノ間之ヲ保テケルガ四百
八十八年オストロゴスノ酋長セオドリツク來リテ之ヲ侵シオド―
セルヲエクレ―ヤヅニロナノ兩所ニ破リ四百九十三年遂ニオス
トロゴスノ帝國ヲ創立シ南ハ伊太利シヽリヲ包括シ北ハラインダ
ニユーブニ限り東ハ馬基頓ダシヤニ接シタリセオドリツク既ニ位
ニ即キオド―セルノ反ヲ疑ヒ宴ヲ張テ之ヲ招キ力士ニ命シテ之ヲ
斬ラシメタリセオドリツクハ大王ト稱セラルテウトンノ稗史ニデ
―トリツクヴオンベルント名ツケタリ蓋シヴニロナノセオドリツク
ノ義ナリ其位ニ在ルヤテルヲシナ城ニ居テ專ラ日耳曼諸部落ヲ聯

合スルコトヲ以テ志トナシ兵ヲ休スルコト三十年農ヲ勸メ商ヲ通シ親ヲ役ヲ督シボンターン沼ヲ決シテ多ク耕地ヲ作レリカシオドルスポエーシユスト云フ二人ハ古羅馬ノ著作家ノ中ニ列シ其最後ノ二人トモ稱セラルベキ者ナリシガ又皆セオドリックノ輔佐ノ臣ナリ唯恨ラクハボエーシユスハ妻ノ父僧正シンマクスト共ニ讒セラレ寵ヲ特ミ私ヲ謀ルニ坐シテ誅セラレタリ五百二十六年セオドリック死セリ世ニ傳フセオドリック食卓ニ就キ魚頭ノシンマクスノ面ノ如キヲ見震慄シテ死セリト伊太利稗史ニ曰クセオドリックノ魂魄常ニエトナ山ノ噴火中ニ在リト

セオドリックノ伊太利ヲ治ムルニ當リテフランクス俄ニ勢ヲ得テ

日耳曼ノ西部ニ雄視スルニ至レリ抑々フランクスハ諸部落ノ聯合セル者ニシテ各部ニ酋長アリ未ダ統一ノ君長ヲ置ザリシガ四百二十年ニ至リテ其二部落サリ―リアアリ―遂ニ弱小ヲ吞併シフランクスヲ兩分シテ各其一ヲ有テリサリ―部落ハ「サリッキ」律ヲ以テ其國ヲ治メ男子ニアラサレバ王位ヲ嗣クコトヲ許サス但シ律ニ其明文アルニハ非ザルナリサリ―ノ王族ヲメロヴキンデヤント稱セリフアラモンドノ裔メロヴヰグニ取レルナリメロヴヰクハ聲名アリフアラモンドノ名ハ蓋稗史家ノ虛誕ニ出シナリ四百年代ノ末サリ―ノ王ヲナルデリックト云ヘリメロヴヰンデヤンノ族ナリ千六百五十四年ニ當リ其陵ヲト―ル子―ニ得シニ陵中多ク珍寶

ヲ藏ノ就中金蜂アリ拿破崙之ヲ收メテ家號ト爲セリナルデリツク
 ノ子ヲクロツ井スト云ヘリ生レテ大志アリ果敢ニシテ細事ヲ務メ
 ス常ニ日耳曼諸部落ヲ吞併センコトヲ謀レリ此時羅馬政衰ヘ兵弱
 クソイソンスノ地ニプロコソル官ヲ置テ之ヲ守ラシムト雖モ其危
 キコト實ニ累卵ノ如シ四百八十六年クロツ井ス先ツ兵ヲ率井テ之
 ヲ伐チ尽ク羅馬人ヲ追ヒ然ル後スリンヂヤン部落ヲ要シテ之ヲシ
 テ歲貢ヲ納レシメ遂ニアレマニー部落トトルバヤクニ戰フトルバ
 ヤクハ當時コログチロリトレーヴニ至レル羅馬官道ノ驛站ノ一ナ
 リ此時アレマニーノ兵善ク戰フ故ニクロツキス苦戰シテ猶之ヲ破
 ルコト能ハス乃チ其妃クロナルダノ信スル所ノ神耶蘇ニ誓テ曰ク

明神ノ德能クアレマニーノ軍神オーデンヲ壓制シ吾ヲシテ其軍ヲ
 破ルコトヲ得セシメハ吾乃チ我祖先ノ神ヲ捨テ永ク明神ノ加護ヲ
 受ント遂ニアレマニーヲ破レリ是ニ於テ誓ノ如クシ將ニ洗禮ヲ行
 ハントス聖僧レミ禮ヲ司ドリクロツキスヲ呼テ曰ク噫汝クロツ井
 ス汝ノ首ヲ俯シ汝ノ未ダ燒カザリシ所(耶蘇)汝今之ヲ拜シ汝ノ拜
 セシ所(オーデン)汝直ニ之ヲ燒ケトステクロツキスハ其祖先ノ宗
 教ヲ捨テ新ニ耶蘇ノ教法ヲ奉シケルガ此事毫モ名利ノ心ヲ抑制ス
 ル裨補トナラズ却リテ禍心ヲ逞クスル資助トナリ陽ニ教法ヲ矯メ
 テ其私利ヲ營メル所少ナカラス此頃ヴ井ジゴスアリユス派ノ說ヲ
 奉シ頗ル羅馬諸僧正ノ忌諱ニ觸レシカバクロツキス之ヲ時トシ兵

ヲ率_レ并_テ之ヲ伐_テナ_リボイタールノ近傍_ニウーイルニ於_テア_リ鏖_シ手ツカ
 ラ其王ア_リツク_クヲ斬_リ其國ヲ徇_ヘ轉_シテボルゴンデーヲ伐_テ全
 ク之ヲ降_スコト能_ハスト雖_モ猶_モ歲_貢ヲ納_レシメタリコログ子ノサ
 イザボルト云_フ者アリコログ_ヲ并_ス嘗_テ之_ト同盟_{タリ}シニ又欺_テ之
 ナ殺_{セリ}是ニ於_テア_クロヴ_キス遂_ニ全_クヲランクスノ王トナ_リ其版圖
 日耳曼ノ數郡ヲ兼_テ高盧ノ全國ヲ併_セフランクスニ取_リ高盧ヲ改
 メテ佛蘭西ト稱_{セリ}五百十一年_クロヴ_キス死_ス四子アリ其國ヲ四
 分_シテ各其一ヲ有_{テリ}長_テセールリート云_フ最_モ大國ヲ受_ケ其他
 ライン地方ヲ包括_ス之ヲオーストラシヤト名_{ツク}東部ノ義ナリメ
 ツツニ都_{セリ}餘_ハ之ヲ三子ニ分_ツ次子ハオルレーンニ三子ハ巴勒

ニ都_シ四子ハソイソンスニ都_{セリ}巴勒ニ都_{セシ}者ヲ稱_シテ常_ニ佛
 蘭西王ト云_{ヘリ}後三子ノ邑ヲ通稱_シテニユストリヤト名_{ツケ}タリ
 初_メオストロゴスノ王セオドリツクハ日耳曼諸部落ノ鬪_場ヲ歎_シ
 結_親ヲ以_テ之ヲ聯合_セント欲_シ屢_、自_ラ此例ヲ行_ヒ遂_ニコロヴ_キス
 ノ妹ヲ娶_{レリ}グロヴ_キスモ亦_其意ヲ奉_シ其一_ノ女ヲウ_キジゴスノ王
 ニ嫁_シ一女ヲボルゴンデー王ニ歸_{ガシ}メ妹ヲ以_テヴンダルスノ王
 ニ與_ヘ姪ヲ以_テスリンザヤンスノ末王ヘルマンフリードニ與_ヘタ
 リセオドリツク死_シテ後_其志ヲ續_ク者ナク日耳曼諸部落忽_チ聯合
 ノ事ヲ廢_{セリ}希臘帝_即ダヤステニヤン其間ニ乘_シテ大ニ日耳曼
 チ弱_マサント欲_ス此時_俄狄ノ王セオドタスハセオドリツクノ女ア

マラソンタヲ浴室ニ局役セリ故ニヂヤステニヤン其罪ヲ聲シベリ
 ザリユスヲシテ兵ヲ率井テ伊太利ニ入ラシムベリザリユスハ嘗テ
 ヴンタルスタ亞弗利加ニ破リ頗ル名聲アリセオドタス性怯ナリベ
 リザリユスノ入ルヲ聞クヤ即チ叩頭シテ罪ヲ謝シ位ヲ避ケ以テヂ
 ヤステニヤンニ乞ヒ歳俸若干ヲ得テ其身ヲ終ヘンコトヲ求ム然レ
 トモ俄狄ノ衆人之ヲ欲セス乃チ相會シ遂ニ日耳曼ノ古例ニ依リ楯
 チ取りテウキチヂスヲ其上ニ載セ立テ王トナシセオドタスヲ斬タ
 リ羅馬人其間ニ乗ジテ市門ヲ開キベリザリユスヲ引クベリサリユ
 ス乃チ羅馬ニ入ルウキチヂス兵ヲ尽シテ之ヲ圍ミ木櫓ヲ製シテ之
 チ壁下ニ進メ壁ヲ越ユルノ勢ヲ示シ以テ降ヲ要スベリザリユス合

チ發シ壁上ヨリ木石ヲ投シ壁ヲ攀ル者ヲ撃タシム木石給セス美像
 數百ヲ以テ之ニ續クニ至レリ此日兩軍奮戰ベリザリユス出デ、攻
 兵ヲ衝ク一擧ニシテ三万人ヲ斬レリト云フ是ヨリ先ベリザリユス
 副將某ヲシテ兵ヲ率井テ竊ニ俄狄ノ後ニ出デシム某先ツレミニ
 チ取り進テ俄狄ノ都ラヴニンナニ至リ兵ヲミランニ送リ之ヲ守ツ
 シメタリウキチヂス此報ヲ聞クヤ乃チ營ヲ燒キ兼行シテレミニ
 ニ至ルベリザリユスノ副將之ヲ守ルウキチヂス之ヲ誘ヒテ城ヲ出
 デンメントスレトモ副將之ニ應ゼズウキチヂス進テミランニ至リ
 三十万人ヲ屠ルゴルゴンデーノ援兵俄狄ノ陣ニ在リ皆韃韃ノ野蓋
 ナリウキチヂス之ヲ縱テ擅ニ劫掠ヲ行ハシメシトツ

ベリザリユス之ヲ聞キ兵ヲ率井テ直ニミランニ薄ルヅキナザスノ
 勢大ニ沮ム此時俄狄既ニ戰ニ倦ミ且ベリザリユスノ百戰百勝ノ名
 ナ聞キ遂ニ勝ベカラザルコトヲ知り乃チ款ヲ通シテ俄狄ノ王トナ
 サンコトヲ請フ然レドモベリザリユス性廉節ニシテ其事フル所ニ
 厚ケレハ固ク斥ケテ容レズ因リテ俄狄人ニヴキナザスヲ廢シラヴ
 ニンナチ以テ降ルベント諭ス俄狄人之ニ從フ此時俄狄人ノ妻其夫
 ノ其國ヲ賣ルコトヲ怒リ皆面ニ唾シテ之ヲ辱メタリト云フ此時ニ
 當リテベリザリユス名聲赫々タリデヤステニヤンハ讒ヲ信シ遂ニ
 其制馭シ難キコトヲ量ルヤ召シテ希臘ニ返ラシム俄狄ハ之ヲ幸ト
 シ乃チト―アラヲ立テ王トナスト―テラハ勇敢ニシテ屢々功アリ

直ニ伊太利ノ南部ニ至リナブルスヲ屠レリ此時ベリザリユスハ再
 ビ希臘ヲ發シ生兵ヲ以テ伊太利ニ入り既ニ羅馬ヲ取りケルガ讒ニ
 由リテ再ビ召サレテ伊太利ヲ去リケレバト―テラ遂ニ羅馬ヲ屠リ
 希臘羅馬ノ兩軍即チ東西帝國ノ軍ヲラヴニンナノ側ニ破リアンコナチ除クノ
 外尽ク伊太利ノ地ヲ畧シタリ

是ニ於テデヤステニヤン生兵ヲ發シナルセスヲ將トシテ行テ伊太
 利ヲ伐タシム此時ロンゴバルデー―部落初メテ伊太利ニ入り其兵六
 千人ヲ以テナルセスニ属セリ因リテナルセス大ニ勢ヲ得俄狄トレ
 ミニーノ側ニ奮戦スルコト兩日ト―テラ重創ヲ得テ走ルコト十
 里強英ニシテ馬ヨリ落チテ死セリ俄狄衆ヨリ擇デテ―ヤステ立ツ

之ヲ俄狄ノ最後ノ王トナス再ビ兵ヲ集メテナルセスノ軍ト戰フ俄狄ノ兵皆死カテ出シテ鏖戰數次アーヤス之ニ死シ軍大ニ潰ユ羅馬ノ兵大ニ俄狄ノ兵ノ勇ヲ感シ一千人ヲ免シテ其欲スル所ニ趣カシム餘ハ皆此ニ死セリ

是ニ於テ伊太利遂ニ希臘ノ版圖ニ復シケレバ先ヅナルセスヲ以テ其知事トナシラヴユンナニ居ラシムナルセス威名アリ後ノ知事タル者能ク之ニ及フナシナルセス斯ク國家ニ功アリト雖モヂヤステニヤン更ニ之ヲ勞ラフユトナク又ベリザリユスノ例ヲ以テ召シテ希臘ニ返ラシム且妃ソヒヤノ意ニ因リテ詔中多ク侮慢ノ語ヲ書シ汝刀ヲ帶ンヨリハ寧ロ紡機ヲ執レト云フ蓋シナルセスノ身材軟弱

ナルヲ嘲ルナリナルセス之ニ答テ曰ク謹テ命ヲ奉ス臣若シ紡機ヲ執ラバ其出ス所ノ絲陛下之ヲ織ルモ終ニ其端末ヲ見ルコト能ハジト斯テナルセス怒ニ堪ヘス遂ニ使ヲロンバルヅノ王アルボインニ遣シ之ヲ招テ伊太利ニ入ラシム五百七十二年アルボイン大兵ヲ率井テ直ニ亞爾伯山ヲ越エテ山下ノ平原ヲ徇ヘ之ヲロンバルデート名ツクポー河ノ上險隘ノ地ニ據リバヴキヤニ都ス而シテロンバルデーニ在ル羅馬ノ無辜ヲ殘虐スルニ其無狀殊ニ俄狄ノ降人ヲ優待セシニ似スサレバ史家之ヲ評シテ羅馬人俄狄ヲ以テ野蕃トナシ之ト齒スルコトストラ欲セザリシニ今ヤロンバルヅノ殘殺ヲ恐レ爭ヒテ其奴隸トナランコトヲ求ムルナリト云ヒケルガ真ニ其言ノ如ク

ナリシトゾ斯クアルボインハ僂倖ヲ以テ暫ク其矜暴ヲ極メケルガ
 久ク此ノ如クナルコト能ハス此頃其妻ノ父ゼビデーノ王クニマン
 ドヲ殺シ其顛ヲ以テ杯トナシ醉ニ乗ジテ其妻ヲ責メ強テ父ノ顛ヲ
 以テ酒ヲ飲マシム妻ノ名ハローザモンドト云ヘリ憤懣禁スルコト
 能ハス誓テ怨ヲ讐インコトヲ期シ其夜死士ヲシテアルボインノ寢
 室ニ入り其醉眠ニ乗シテ之ヲ刺シムアルボイン創ヲ得テ即チ起テ
 枕刀ヲ探リシカトモ刀既ニ妃ニ取り去ラレテ得ルコト能ハス因リ
 テ徒手ヲ以テ之ヲ拒ムト雖モ良久クシテ遂ニ撃タレテ死セリ是ニ
 於テ妃刺客ト共ニ走リテラヴェンナニ至リ欺テ之ニ毒ヲ與フ刺客
 之ヲ飲デ未ダ盡サス其毒ナルコトヲ覺リ妃ヲ要シテ餘ヲ飲マシメ

共ニ毒ニ中テ死セリ後十年ロンバルデー人オーザリスヲ立テ、王
 トナスオーザリス死ス其寡婦セオリンダヲ立ツセオリンダハバヴ
 リヤノガリバルドノ女ナリ國色アリセオリンダ及ビ其繼夫アデル
 ヲフノ代ハ國家閑暇國民遂ニ耶蘇宗ニ化シ典章文物亦大ニ起レリ
 六百二十五年セオリンダ死セリ此時ロンバルデーノ版圖北ハタイ
 ロルサヴオイヲ包ミ南ハベチヴェントニ至リ殆ド伊太利全國ヲ併
 セタリ但シ上伊太利ノ三府羅馬ラヴェンナナブルスハ未ダロンバ
 ルデーニ属セス希臘ノ朝此ニ縣ヲ置キ知事ヲ遣ハシテ之ヲ治メシ
 メラヴェンナヲ以テ其本廳トナセリ

紀元後六百年間日耳曼ノ形勢ノ事 文學ノ事 ロンバ
ルデーノ鐵冠ノ事

三百七十六年匈奴ノ日耳曼ヲ侵シ、ヨリ日耳曼諸部落ハ漸ク歐羅
巴亞弗利加ヲ横行シ伊太利佛蘭西西班牙英吉利ノ諸所其他バルバ
リーノ海岸ニ至リ或ハ兵ヲ以テ地ヲ畧シ或ハ人ヲ徙ンテ村落ヲ爲
シケレバ日耳曼ノ風俗政治次第ニ此數國ニ及ビ其言語ノ拉丁語ニ
入ル者少カラズ因リテ遂ニ近世ノ佛蘭西西班牙伊太利等ノ數語ヲ
爲セリ此ヨリ前ハ羅馬ノ國版中大抵皆拉丁ノ語ヲ用非ル但シ各所正訛ハ齊キコト能ハス五百年頃ニハスリンヂヤ國
頗ル強大トナリシガ後クロヴ井スノ諸子之ヲ滅セリ然レトモサキ
ソンスハ後數百年ノ間其國ヲ保テリ又フリシート名ツクル部落ア

リスリンヂヤノ滅亡ヲ時トシ南方ノ地ヲ畧シテラインエルブ兩河
ノ間ヲ收メ後數百年間猶獨立シテ其國ヲ保テリ又日耳曼ノ南部ニ
於テスウエヴキーアレマニーノ二部落相合シテ一トナリ更ニスワ
ビヤント稱シヘルヴエシヤレーシヤニ入り後再ビ改メテスウキス
ト名ツケタリ又ボイト云ヘル部落ハバヴリヤヲ領シスクラボニヤ
ンハ日耳曼ノ東部ヲ占メタリ其言語教法全ク日耳曼人ト異ニシテ
今ニ至リテ猶全ク同キコト能ハズ五百年代及ビ六百年代ニ當リテ
ハスクラボニヤンノ版圖頗ル廣クメクレンボルグボメラニヤブラ
ンデンボルグノーセンシレシヤボヘミヤモラヴ井ヤスタイリヤカ
リンシヤ其他兩三ノ地方之ニ屬セリ然レトモ方今ニ至リテハスク

ラボニヤンノ子孫此數國ニ在ル者實ニ僅々ノミ又羅馬版圖中ワイ
 ンダニユーブノ地方ニハ多ク自由ノ都府ノ興起スル者アリ此都府
 ハ專ラ羅馬ノ奢侈ヲ學ビ其言語ヲ用井其律法ニ據リシト云フ
 初メ日耳曼ノ俗新ニ地ヲ畧スレバ籤ヲ抽テ之ヲ分チ會長自ラ其若
 干分ヲ取り部下各々力ノ強弱ニ從ヒテ其若干分ヲ受ケンガ會長ノ
 威權唯戰時ニ止ルコト能ハス武ヲ偃セ甲ヲ藏ムルノ後ト雖モ間
 亦其威權ヲ把持シテ部下ヲ統轄セザルコトヲ得ザリケレバ乃チ別
 ニ方法ヲ設ケ畧地ヲバ會長悉ク之ヲ取り更ニ地ヲ割テ部下ヲ封シ
 約シテ綏急共ニ臣子ノ職ヲ尽サシメ然セザル者ハ直ニ其地ヲ奪ヘ
 リ初メテ此法ヲ行ヒシ者ハ唯強大ノ會長ニ限りシニ小弱ノ者モ漸

ク之ニ倣ヒ各々其地ヲ割テ其部下ニ與ヘ地ヲ得ル者ハ皆獨立シテ
 會長トナル故ニ日耳曼全國瓜分シテ所在割據ノ勢ヲ爲シ政權一途
 ニ歸セス其弊實ニ少ナシトセス然レトモ亦是ニ由リテ頗ル戰鬪ノ
 勇ヲ養ヒシカバ當時ハ未ダ封建ノ弊害ヲ言フ者ナカリキ此頃國王
 ノ輔相(即チ家從)ハオフトロレシ麻廐マヤ縫匠ヘヤカトリ掌室パシント管家等ニテ始ハ皆其名稱ノ如
 ク各々手ヲ下シテ賤役ニ服シケルガ其後國家漸ク殷富ニ趣キ奢靡
 ノ風行ハルヽニ及ヒテ其名稱ハ變更セザリシカトモ皆國家ノ大權
 ナ掌握スル官トナレリサレバ九百年代オリ第一世ノ即位ノ時二人
 ノ諸侯大縫匠大廐廐ノ名稱ヲ以テ其禮ヲ助ケシトツ
 古代日耳曼國ニ律法アリト雖モ唯所謂慣習口傳ノ律法ニテ未ダ典

冊ニ登載セシコトナカリシガ爾來人文漸ク開ケ六百年代ニ至リテハ拉丁語若クハ日耳曼語ヲ以テ日耳曼律法ヲ編纂セル者往々之アリクロツ#スモ亦日耳曼語ヲ以テ「サリツ」キ律法ヲ編ミタリシガ是ハ後ニ傳ハラズ今存スルハ唯拉丁語ヲ以テ記シタル者ノミ日耳曼ノ律法中自由人律奴隸律ハ頗ル羅馬律法ト巡庭アリ日耳曼律法ハ罵詈ヨリ人命ニ至ルマデ各犯ニ付テ各種ノ刑ヲ設ケシコト譬ヘバ均ク是竊盜ナレトモ豚ヲ盜ム者ハ贖金十五「シルリング」ヲ科シ他ハ若干ヲ科シ均ク是人ヲ殺スナレトモ羈奴ヲ殺ス者ハ三十五「シルリング」ヲ科シ自由人ヲ殺ス者ハ三百「シルリング」ヲ科スルガ如シ人ヲ罵詈スル者ハ三「シルリング」以上六「シルリング」以下ヲ科

ス「シルリング」ハ一牛ノ價ナリ今英貨ノ若干金ニ均シキヤ得テ知ルベカラスフランクスノ中サリ一ハ一「シルリング」ヲ四十「ペンス」ニ分ナリブアリーハ十二「ペンス」ニ分ナタリ若シ犯者貧ニシテ其罪ヲ贖フコト能ハザレバ神ヲ呼ビ地上地下我費産ノ我罪ヲ贖フベキナシト誓ヒ其所有地ノ四隅ヨリ土塊各一掬ヲ採リ之ヲ其親戚ノ臨席スル者ニ投シ此ヲ以テ其費産ト負債トヲ併セテ親戚ニ交付スルコトヲ表シ然ル後其襯衣ヲ脱シ手ニ一梃ヲ提ゲ其所有地ノ四周ヲ巡ル既ニ此禮ヲ終レバ親戚其負債ヲ擔當シテ之ヲ償辨セスンハアルベカラス若シ親戚亦皆貧ニシテ之ヲ償辨スルコト能ハザレバ本犯乃チ死刑ニ服ス又リブアリーニテハ家屋土地ヲ賣買スルニ

頗ル奇異ノ禮ヲ行ヘリ其法買者其家屋土地ノ大小ニ從ヒ三人若クハ六人若クハ十二人ノ證人ト全員ノ童子ヲ携ヘテ其所ニ趣キ證人ノ面前ニ於テ價金ヲ賣者ニ交授シ然ル後掌ヲ以テ各童子ヲ拍ナシ且其兩耳ヲ傷リ終身此事ヲ忘レザラシム英國ニ於テモ久シク此禮ヲ行ヒ現今ノ人ニモ猶親ク之ヲ目撃セシ者アルナリ馬爾加母氏曰余嘗テノ人ニ問ケリ猶幼カリシ時父兄土地ヲ買フニ臨テ屬ク其耳ヲ傷レリト又罪犯ヲ審案スルニハ公ニ會審員ヲ選ビテ之ヲ行ハシメタリ此員皆被告ト同位階ノ人ナリ若シ又被告ノ罪狀殆ド明瞭ナレトモ其證ヲ得ザルニ由リテ之ヲ斷決スルコト能ハザルトキハ或ハ之ヲシテ其朋友ト同ク誓ヲナシテ其冤ヲ證セシメ或ハ試法ヲ以テ之ヲ審鞫ス其法或ハ素手ヲ以テ烙鐵ヲ執ラシ

メ或ハ熱湯ヲ探ラシメ或ハ原告ト擊鬪シテ雌雄ヲ決セシメ若シ其手焚ズ爛レズ能ク一撃シテ原告ヲ殛ス者ハ並ニ無罪トナシ神之ヲ加護ストナス然ラザレバ有罪トナシ神之ヲ極罰ストナス後耶蘇教ノ行ハルヽニ及テ別ニ種々ノ試法ヲ設ケタリ就中水試アリ神水ヲ執リテ之ヲ被告ニ飲マシメ罪ナケレハ水能ク其喉ヲ降り罪アレバ水注ゲバ喉即チ腐潰スルト思ヘリ

日耳曼諸國皆民會ヲ設クアングロ、サキソンニテハ之ヲ「ウキテチーザモツ」ト云フ賢人集會ノ義ナリフランクスニテハ之ヲ「マールズヘルデル」ト名ツク三月郊會ノ義ナリ此月郊原ニ於テ此會ヲ行フニ取レルナリ斯ク各國會名ヲ異ニスト雖モ總テ此會ニ於テハ和

戦ノ利害ヲ論シ議若シ戦ニ決スレバ國王乃チ全國ノ男子ヲ徵發シ
 之ヲシテ皆兵仗戎裝ヲ備ヘテ徵地ニ來會セシメ侯伯ヲシテ各其國
 ノ兵ヲ將シシメ國王親ラ全軍ヲ統ヘテ出ツルナリアングロ、サキ
 ソンニテハ陸軍ヲランドヒルドト名ツケ海軍ヲシツアヒルドト云
 ヘリ

古代日耳曼ノ文字ヲ「ルーン」ト名ツケタリ諸部落皆之ヲ知ラザ
 ルハナシ而シテ俄狄スクラボニヤンヲ以テ巨擘トナス文字ヲ書ス
 ルニ筆ヲ用ヰズ刀ヲ以テ之ヲ石若クハ木ニ彫ム木ハ專ラ黃楊木ヲ
 用ヰルナリ日耳曼古語此木ヲ稱シテ「ブク」ト云ヘリ方今日耳曼
 英吉利ノ兩語中書籍ヲ「ブック」ト云フハ實ニ此ニ基キタルモノナ

リ「ルーン」ス一ハ專ラ之ヲ神事ニ用ヰタリ因リテ古代日耳曼人ハ此
 文字ヲ以テ魔術ト思ヒシトゾ既ニ前ニ述ベタル如ク僧正オルヒラ
 スノ伊呂波様ノ文字ヲ製セルニ及ヒテ「ルーン」ス一ハ全ク廢物トナ
 レリ斯テオルヒラスノ文字行ハレシカドモ万国ノ通例ニテ古代ハ
 全國一般ニ文字ノ行ハルヽニ非ス唯群神ノ功德ヲ頌シ英傑ノ行事
 ナ述ベタル歌曲等ニ用ヰシノミナリ北地ノ部落ハ殘暴ナリシカト
 モ又極メテ歌曲ヲ好メリ嘗テ一個ノ詩人或ル曾長ニ詣リ其堂ニ於
 テ歌曲ヲ奏セシニ其曲皆絶妙ナリ第一曲ハ滿坐歡欣手ノ舞ヒ足ノ
 蹈ムコトヲ知ラス皆起立シテ舞樂ヲ盡セリ第二曲ハ滿坐愀然皆涕
 泗ノ襟ヲ沾スコトヲ知ラス第三曲ハ則チ詩人ノ最後ニ奏セントテ

秘藏セシ所ナレハ此曲ヲ奏スルニ及ヒテ滿坐ノ感最モ甚シク人ニ怒氣ヲ發シ遂ニ毆鬪シテ相殺傷スルニ至リシトゾ

日耳曼ノ歌曲ハ希臘羅馬ノ歌曲ト異ニシテ辭數ヲ以テ句法ヲ爲サス「アルリテレーション」(語頭聯韻)ト云ヘルコトアリテ句中數語其首ニ類音ヲ置ク又「ライム」(句末聯韻)ト云ヘルコトアリ句末ニ類音ノ語ヲ用非テ其韻律ヲ爲セリ加フルニ歌曲專ラ簡短ノ字句ヲ用井間、波瀾ヲ插ミ以テ通常文章ト其音節ヲ分テ未ダ文字ノ行ハレザルニ當リテハ「アルリテレーション」(語頭聯韻)ヲ以テ唯語言ヲ裝飾セシノミナラズ又之ヲ以テ記憶ノ裨補トナセリサレバ前ニ記シタル如ク日耳曼國ニテ口傳ヲ以テ慣習律法ヲ行ヒシ頃ハ記

臆ヲ便スル爲ニ往々律法ノ語ニ「アルリテレーション」(語頭聯韻)

ヲ用非シナリ方今此韻法日耳曼語中ニ存スルノミナラス英吉利語

中ニモ猶往々存スル者アリ「デック、ウンド、ダンス」「日耳」シック、エン

ド、シン「英」フランク、ウンド、フレー「日耳」フランク、エンド、フリー「英」

「ハルズ、ウンド、ハンド」「日耳」ハート、エンド、ハンド「英」等ノ如シ「原書摺聯音數句ヲ」

「載ス今之ヲ略ス」「ウンド」「エンド」及ビノ義ナリ

斯ク日耳曼ニテハ文學ノ道未ダ開ケザリケレバ隨ヒテ其歴史モ完

備セシ者ナク建國ヨリ四百年代ノ末マデノ歴史ハ皆希臘ノ歴史家

東帝國ノノ力ニ依リテ存セシナリ然レトモ希臘ノ歴史家ハ數百里隔

りタル地ニ居リテ親ク事實ヲ聞見セシニアラズ加フルニ自ラ開化

國ノ民タルヲ自負シ深ク日耳曼人ヲ輕視シケレバ其述ブル所ノ歴史自ラ其眞ヲ失ヒ確證トナスニ足ラス五百年代ノ末ニ至リテトルスノ大僧正グレゴリート云フ者アリフランクス部落ノ人ナリ西教會史ヲ著シテ五百九十一年マデノ事ヲ記シタリ此史事實精確ナラズ間、妄誕ヲ雜フト雖モ當時ノ歴史中ニ在リテハ最モ引證スベキ者ナリ

ロンバルデーノ鐵冠ハ蓋シ法王グレゴリーゼ、グレートノロンバルデーノ女王セオリングニ與フル所ニシテ其鐵ヲ以テ名ツケタル所以ハ薄鐵ヲ以テ冠裏ヲ裝ヒタルバナリ世ニ傳フ此鐵ハ元ト耶蘇ノ磔架ノ釘ニシテ羅馬ノ女帝ヘレナノ神國ヨリ取レル所ナリト因

リテ往々此冠ヲ稱シテ「イルサクロシオド」トイフナリ冠ノ形ハ頸環ノ如ク其幅三寸弱接處ハ金ヲ以テ之ヲ結ビ諸處ニ碧玉紅玉「イメロード」珠其他寶玉ヲ着ク玉皆彫琢ヲ加ヘス玉間ニ金ノ花英ヲ布置ス此冠ヲ被リシ者三十四王アリ日耳曼帝ナルレス五世モ之ヲ被レリ又拿破崙一世ミランニ於テ此冠ヲ以テ即位ノ禮ヲ行ヘリ此時僧正冠ヲ執リテ之ヲ進ム拿破崙之ヲ拒ミ神ヲ呼テ曰ク明神我ニ此冠ヲ與ヘ他ノ之ニ觸ル、者ヲ止メヨト遂ニ自ラ冠ヲ執リテ之ヲ被リレト云フ

第四篇

ランデンノベピンヘリスタルノベピン及ナルレスマル

アル代々佛蘭西ノ宮内長トナル事　ベビンゼ、シユルト擇
バレテ佛蘭西王トナル事

クロヴ非スノ第四子ヲクロテールト云フ其兄皆早ク死シケレハ此人獨全國ノ王トナリ父クロヴ非スノ時ノ如シクロテール四子アリソノ死スルヤ四子佛國ヲ四分シテ各其一ヲ受ケシカ爾來骨肉相噬ミ爭亂止ム時ナク之ヲ記スルモ猶人ヲシテ毛骨悚然ノ思ヲ爲サシムルナリ初メ末ノ二子皆妻ヲ娶レリ一チブルーンホートト云ヒ一チフレデゴングト云フ二女性勢利ヲ好ミ輕躁ニシテ遠キ慮ナク常ニ相傾ケント謀リ或ハ毒或ハ刃或ハ火凡ソ殺傷スル所以ノ具盡ク用ヰザルハナク此ノ如キコト五十年遂ニメロヴ非ンヂヤン一家

ナシテ紅血淋漓ノ中ニ漂ハシメタリ當時耶蘇ヲ信スル一人ノ歴史家斯ク兄弟相噬ミ姉妹相殺スヲ觀テ之ヲ記シテ曰ク是必ス耶蘇ノ所謂世界將ニ滅セントスルヤ必ス先ツ兄弟相噬ミ姉妹相殺ス者ニシテ世界將ニ破滅セントスルノ前兆ナリト其後一人ノ記者又之ヲ記シテ曰ク何ノ代ニカ暴行ナカラン何ノ國ニカ兇德ナカラン然レトモ余未ダ五百年代ノ末佛國ノ如キヲ見ザルナリト夫レ兇德アレバ必ス兇報アリブルーンホート齡猶十七己ニ天譴ヲ受ケテ臣民皆之ニ背キ遂ニ其甥クロテール二世ノ爲ニ捕ハレタリクロテール命シテ之ヲ駱駝ニ載セテ庶民ニ肆示シ又其頭髮ヲ以テ左手ハ左足ニ縛シ右手ハ右足ニ束テ之ヲ猛馬ノ尾ニ繫キテ荆棘砂磧ノ上ヲ曳カ

シメ遂ニ之ヲ死ニ致シタリ唯フレデゴンダハ僂倅ニシテ天罔ヲ免
レ其子ノ再ヒ佛國ヲ統一セルニ及ヒテ猶世ニ在リシトソ蓋シ兇暴
此二女ノ如キハ史册上未ダ其比ヲ見ザル所ニシテ生時其惡ヲ均フ
セシト雖モ死シテ其名ヲ同フセズフレデゴンダハ後世唯其臭ヲ傳
フルノミナレトモブルーシホートハ數條ノ道路ヲ開キ其他多ク有
用ノ土木ヲ起シケレハ臭中又頗ル芳名アリサレハ今猶其道路ヲ名
ツケテシヨードブルーシホートト云フ

斯ク王家ハ兄弟相鬪キシニ宮内長ノ威權ハ次第ニ増加シテ堂々々
ルメロヴキンデヤンノ子孫皆其掌中ノ碁子トナリ賢ヲ擧ケテ之ニ
國家ヲ任スルコトヲ知ラズ只管深宮ニ饜養シ稀ニ國璽ヲ鈐シ禮日

ニ王服ヲ以テ朝ニ臨メルノミサレハ宮内長ノ勢威遂ニ羅馬ノ世ノ
近衛大將ニ均シク羅馬ノ末世近衛大將
擅天子ヲ廢立セリ加フルニ宮内長トナリシ者皆材
器アリテ能ク華族ノ心ヲ得未ダ尊號ヲ僭セスト雖モ其實既ニ王權
ヲ執リ遂ニ此宮ヲ世襲シ王家ヲ覆スニ至レリ

六百二十二年クロテール二世其子ダゴベルトヲ以テオーストワシ
ヤノ王ト爲シリーデノ傍ナルランデンノベピンヲ以テ宮内長ト爲
セリ後メロヴキンデヤン朝ニ代レルカルロヴキンデヤン朝ハ即チ
ベピンノ後ニシテ其五世ノ子孫シヤルレマンニ至リテ名聲赫々遂
ニ西帝ノ尊號ヲ冒スニ至レリ六百二十八年クロテール死スダゴベ
ルト佛蘭西全國ノ王トナリ巴勒ニ都シ常ニ奢侈ニ耽リ政ヲ勤メズ

「セントデニス」寺ヲ創立シ僧侶ヲ聘ス因リテ大ニ財帛ヲ費耗セリ
 ダゴベルトノ代ニセーントイロイト云フ者アリ能ク金ヲ治セリダ
 ゴベルト好ミテ宮殿ヲ壯麗ニシ人民之カ爲ニ困弊セリ六百三十八
 年ダゴベルト死ス例ニ依リテ國ヲ割ク政令紊亂内訌頻ニ起リメロ
 ヴ非ンヂヤン朝ノ名終ニ永ク地ニ委セリダゴベルトノ後百餘年間
 王タル者十世皆不肖尸位ニシテ聞ユルコトナク只深宮ニ潜居シ游
 戯ニ耽リ其「マルスヘルト」(三月郊會)ニ臨スルヤ金髮ヲ蒙リ衣裳
 ヲ華麗ニセリ此會唯衆庶ノ貢獻ヲ受ケ宮内長ノ功勞ヲ頌セシノミ
 六百八十七年ニ至リテランデンノベピンノ曾孫ヘリスタルノベピ
 ン遂ニ其王セーレルレ―三世ニ反シテストライニ於テ之ヲ破リ要シ

テ佛蘭西元帥兼宰相ノ官ヲ肩ス尋テ死ス其子チャルレス、マーテル
 之ヲ襲ケリ此時ニ當リテムールス回々教ノ兵邊ヲ侵シ民情危懼タリ不
 世出ノ英雄ヲ得ルニ非レハ此患ヲ除クコト能ハス而シテチャルレ
 ス人ト爲リ身體強健膽勇絶倫乃チ其任ニ當レリ

時ニムールスハ既ニ西班牙ノウキシゴスヲ滅シ猛將アブデルラマ
 ンハ勝ニ誇リビレニース山ヲ越エテエクイターンニ入り將ニ歐洲
 耶蘇教ノ諸國ヲ併吞セント欲ス其勢管ニアツテアラノ匈奴ヲ率井テ
 歐洲ヲ掠畧セシカ如キニ止ラス蓋シ匈奴ハ專ヲ戰掠ヲ事トスム―
 ルスハ則チ此ニ異ナリ一手刀ヲ執リ一手コーラン(回教ノ經文)
 ナ把リ其志唯掠畧ニ止ラス回教ヲ以テ民心ヲ幻惑セント欲ス其災

實ニ不測ニ在リ是ニ於テオーストラシヤスリンヂヤスワビヤバヴ
 リヤニーゼルランド及ヒウイン河邊ノ諸國皆兵ヲ發シテナヤルレ
 スノ旗下ニ來リ推シテ總督トナスル一トランドモ亦耶蘇教ノ諸國
 ヲ救ハントテロンバルデーノ兵ヲ率井テ之ニ會セリ

七百三十二年トールストゴイテールノ間ニ於テ兩軍遂ニ相遇ヘリ
 ムールスノ騎兵ハバルバリーノ駿馬ニ乘リアラ神マホメツト神
 ト大喝シ恰モ耶蘇教徒ト戰ヒテ死スレハ不死ノ福ヲ亨ルコトヲ信
 スル者ノ如ク死ヲ鴻毛ヨリ輕トナシ進ミテナヤルレスノ軍ト戰ヒ
 ケルカナヤルレスノ軍紀律嚴肅兵仗堅利ナルコト遙ニムールスノ
 右ニ出シカバ恰モ利刃ヲ以テ軟草ヲ斫ルカ如ク一隊又一隊ヲ破リ

遂ニ其將アブデルラマンヲ殪シ三十七万五千人ヲ斬リ永ク耶蘇教
 ノ諸國ヲシテ外教ノ患ヲ免レシメ新月號同々教ヲ驅テビレニース
 ノ旗號

山外ニ逐出シ古日耳曼祖先ノ英名ヲシテ地ニ落チザラシム此戰ニ
 ナヤルレスハ親ヲオーストラシヤノ兵ニ將トシ鐵槌ヲ執リテ敵兵
 ノ頭腦ヲ擊テ之ヲ殺スコト無數ナリ斯ク歐洲ノ將ニ倒レントスル
 ヲ救ヒシカバ其勇力ノ標トシテ槌ノ義ニ取り綽名シテ「マール」
 ト稱シ歐洲ノ英主ト尊ハル後ナヤルレス「ゼチテ」社ヲ起シ野猫ヲ
 以テ其社ノ記章トナシ之ニ「イキザルタット、ホミリス」ノ語ヲ銘ス
 蓋シ「ゼチテ」ハ野猫ナリ「イキザルタット、ホミリス」ハ弱ヲ助クルナ
 リ勇武ナヤルレスノ如クニシテ乃チ此銘アル亦宜ナラズヤ斯ヲチ

ヲルレスハ七百四十一年病ニ臥シ從容トシテ死セリ二子アリ一ナ
 ベビント云ロ一ナカルロマント云フ後幾モナクカルロマンハ僧ト
 ナリテ寺院ニ入りベビンハ遂ニ宮内長ノ全權ヲ握レリベビン身材
 矮小ナリ因リテ字シテ「ゼ・シヨルト」ト稱セリ短ノ義ナリ然レトモ
 膂力人ニ勝レ嘗テ單刀ヲ以テ獅子ニ當リ一撃シテ其頭ヲ斷チ且サ
 キソント戰ヒテ之ニ勝チ大ニ聲名ヲ顯ハセリベビン尤モ軍事ニ長
 ス然レトモ政ヲ行ヒ事ヲ理スルモ亦其短ナル所ニアラス常ニ以爲
 クメロヴ_井ンザヤンノ族方ニ衰ヘ之ヲ支フル所以ノ方ナシ是天我
 家ヲシテ之ニ代ヲシムルノ秋ナリト因リテ私恩ヲ施シ頻ニ地ヲ割
 キテ侯伯ニ與ヘ且僧徒ニ約スルニ事成ラハ稅ヲ除キ財ヲ與フルコ

トヲ以テシ盡ク其歡心ヲ得タリ遂ニ意ヲ決シテ法王_ザチヤリヤス
 ナ要シテ曰ク今一人アリ深宮ニ閑居シ一事爲ス所ナシ又一人アリ
 身國家ノ重任ヲ受ケ親ク萬機ヲ裁決ス此二人ノ者陛下何レヲ以テ
 國王ノ號ニ適フトナスヤト法王亦如何トモスヘキナク乃チベビン
 ノ言ヲ然リトス因リテ幾モナクシテ衆庶ヲソイソンスニ會シスベ
 ンチ推シテ佛蘭西王トナシ聖僧_ボニフエー_ス冠ヲ執リテ其頭ニ置
 キ又メロヴ_井ンザヤン朝ノ末王ナルデリツクノ位ヲ奪ヒ髮ヲ剃テ寺
 庵ニ遷セリソイソンスハ向ニクロヴ_井スノ國ヲ起シ、所ナリ是ニ
 於テメロヴ_井ンザヤン朝ハ永ク滅ビカルロヴ_井ンザヤン朝_{ベビンノ}
_{子シヤル}

ベビンノ名ニ取リテ名ツクルナリ 遂ニ之ニ代リテ興レリ後ベビン羅馬ヲ援ケテ_{ロン}

バルツノ猖獗ヲ止メ又羅馬及ヒラヴエンナノ地ヲ法王ニ獻シケレ
 バ法王之ヲ賞シテ羅馬ノ華族トナシモリス神都羅馬ヲノ守護職ノ號ヲ與
 ヘケリ是ニ於テ政權遂ニ教權ト合シ共ニ其暴威ヲ張り後數百年間
 日耳曼全國之カ爲ニ大ニ苦ミシトツ七百六十八年ベピン水腫ヲ患
 ヒテ死セリ二子アリ一チカルロマント云フニユーストリヤヲ受ケ
 一チナヤルレス(史家之ヲシヤルレマン即チナヤルレス)大王ト記
 スト云フオーストラシヤヲ受ケタリ此時オーストラシヤノ地ハ
 唯佛蘭西ノ東部ノミナラズスワビヤノ全國及ヒニーゼルラントノ
 地方亦其中ニ在リキ

附錄 第四篇

ボニフエース 耶蘇教ヲ日耳曼ニ宣講スル事 聖尼ゼチ
 ヴキーヴノ事

八百年代ニ當リテ英倫蘇格蘭阿爾蘭三國ノ僧徒多ク宣教師トナリ
 海ニ航シテ其祖先ノ國アングロサクソンハニ來リ其曠林ノ地ニ就テ勉

日耳曼ニ出デタリ

メテ耶蘇ノ經典ヲ講シ遂ニオーデンノ偶像ヲ廢シ之ニ代フルニ十
 字ノ眞像ヲ以テス竟ニ日耳曼全國所在寺院僧庵ヲ見ルニ至レリ斯
 ク精ヲ勵シテ教ヲ宣ベシ者ノ中最モ著名ナル者チアングロサクソ
 ンノ桑門ウキンフリードト云ヘリ世人多ク其僧號ヲ用井テ之ヲボ
 ニフエースト稱スボニフエースノ佛蘭西ニ來レルヤ教法陵夷シテ
 寺院頽廢セリフランクスハ既ニ久シク耶蘇ノ教ヲ奉セリト雖モ未

又其道ヲ發揮スルコト能ハス所在皆外教ノ儀法ヲ用井テ耶蘇ノ真
 神ヲ拜ス僧徒ハ學術ナク經文ヲ空誦スルノミニテ之ヲ解シ之ヲ講
 スル者ハ全ク地ヲ拂ヒ僧正寺院ヲ督促シ靈魂ヲ監視スル所以ノ職
 テ忘レ僧徒ノ身ヲ以テ世俗ノ王公ニ交リ或ハ共ニ軍ニ臨ミ或ハ共
 ニ宴ニ醉ヒ放僻邪侈至ラサル所ナシボニフエース其此ノ如クナル
 テ見テ威權ニアラザレハ之ヲ正スコト能ハスト思惟シ羅馬法王ノ
 力ヲ借ラント欲シ乃チ之ニ書ヲ寄セ誓テ曰ク神祐ヲ亨ケ僧正ノ職
 テ汚ス所ノ臣ボニフエース敢テ天父神子聖靈三象惟一ノ威及ヒ陞
 下神聖ノ德ニ由リテ謹テ宣教首長聖僧ベートル陛下ノ代理法王グ
 レゴリー及ヒ後ノ法王トナラン者ニ誓フ今ヨリ後チ敢テ忠ヲ陛下

法王及ヒ後ノ法王ダラン者ニ盡シ敢テ他アルコトナカラシ今臣敢
 テ臣ノ手ヲ以テ臣ノ姓名ヲ記シ敢テ天祐ヲ亨ケタルベートル陛下
 ノ聖坐ニ置ク明神上ニ在リ臣カ誓チ監ス臣敢テ言チ踐マスンハア
 ラストボニフエース嘗テ某ニ與ヘタル書中ニ法王ノ威權ヲ借ラザ
 ルコトヲ得ザル情狀ヲ記シテ曰ク我身恰モ是戸ヲ守ル犬ノ如シ目
 盜兒ノ戸ヲ破ルヲ視ルト雖モ身兵刃ヲ帶ヒズ因リテ唯神ヲ問スル
 ノミト又英吉利ノ僧正ダニールニ書ヲ送り法王及ヒ佛王ベピント
 講和セスンハアルヘカワザルコトヲ陳シテ曰ク今佛王ノ威力ヲ借
 リ以テ禁罰ヲ行フニアラスンハ唯佛民ヲ制スルコト能ハザルノミ
 ナラス英國ヨリ隨從スル僧尼ト雖モ能ク之ヲ保養シ其偶像ヲ拜ス

ルヲ禁スルコト能ハスト斯テボニフエースハ既ニ佛蘭西ノ寺院ヲ更張シ稍々其間ヲ得ケレハ乃チ他教ノ民ニ説テ耶蘇教ニ化セシメント欲シ平生ノ氣力ヲ以テ百方説諭シ以テ頗ル其功ヲ奏シ遂ニ許多ノ宣教師ヲ日耳曼全國ニ派送シ身亦危難ヲ犯シ常ニ野蕃ノ磨集シテ偶像ヲ祭りシ所ニ至リ直ニ進ミテ手ツカラ石壇ヲ毀テリ又日耳曼國ニ一株ノ古木アリ相傳ヘテ神ノ宿スル所トナシケルガボニフエース蕃僧ノ持セル斧ヲ奪ヒテ之ヲ斫リシニ蕃民之ヲ見テ驚愕シテ奈何トモ爲シ得ス唯此人神ヲ穢スコト此ノ如シ故ニ木中ノ神必ス怒ヲ發シ火ヲ放テ之ヲ燒殺スヘシト手ヲ袖ニシテ之ヲ注視セシカトモ既ニ倒レテ毫モ神怒ノ狀ヲ見ザリケレハ皆惶惑シテ措ク

所ヲ知ラス遂ニ甘シテ耶蘇宣教師ノ訓戒ヲ受ケニケル
 斯テボニフエース齡七十ノ時マエンスノ大僧正兼日耳曼國寺院總長ノ職ヲ以テフリスラントニ至リ頻ニ教ヲ宣ベケルカフリスラントノ民之ヲ惡ミテ遂ニ之ヲ殺セリ實ニ紀元七百五十五年ナリスクミント翁嘗テボニフエースノ功績ヲ論シテ曰ク日耳曼ノボニフエースニ於ル其賚ヲ受ル亦多シ教法是ニ由リテ興リ學術是ニ由リテ開ケ人民是ニ由リテ馬肉ヲ食フコトヲ廢セリ然ルニボニフエースハ猶モ蕃俗ヲ化セント欲シテ遂ニ其身ヲ殞セリトボニフエースハ斯ク民ヲ教フルニ切ナリシカドモベピント力ヲ戮セテ法王ヲ過尊シ人心ヲ蠱惑シ遂ニ耶蘇教ノ諸國ヲシテ盡ク法王ノ奴隸タラシメ

タリ蓋シゴニフエーノ意耶蘇教ヲ以テ全世界ヲ一統シ羅馬法王
 ナ以テ生靈ノ牧長トナスニ在リ且凡ソ神事皆拉丁語ヲ用ヰント欲
 セリサルスホルクノ僧正ゾオルヂリユス嘗テ之ニ語テ曰ク今日耳
 曼僧徒ヲシテ強テ拉丁語ヲ以テ洗禮ノ經文ヲ唱ヘシメハ彼等此語
 ニ熟セサルヲ以テ恐ラクハ其義ヲ述フルコト能ハストボニフエー
 ス聽カス蓋シ由ラシムベク知ラシムベカラサルヲ以テ教法ノ妙ト
 認メタレハナリウオルヂリユスハ天文ノ學ニ長ス法王ボニフエー
 ス皆之ヲ忌ミ嘗テ人心ヲ蠱惑スルト誣ヒ之ヲ罪セント謀リシカト
 モ遂ニ果サマリシト云フ

此頃アンデルナツク侯シীগフリードノ妻ニゼテヅキーウト云フ

者アリブラバントノ人ニシテ國色アリ嘗テムールスノ難ニシীগ
 フリードナヤルレスマルタルニ從ヒテ陣ニ出テシニ其友ガロニ託
 セラルガロ性奸惡ゼテヅキーウヲ姦セントセシカトモ聽ズ因リテ
 慚恚シテ之ヲシীগフリードニ讒セリシীগフリード之ヲ信シ急
 ニ獄吏ニ命シテ之ヲ斬ラシム獄吏其冤ナルヲ知り死ニ致スニ忍ヒ
 ス竊ニ之ヲ放テ林中ニ遁レシメタリゼテヅキーウ乃チ孩兒ヲ抱テ
 林中ノ洞中ニ匿レシニ常ニ鹿アリテ此兒ヲ養育セリシীগフリー
 ド既ニ軍ヨリ退キテ其妻ノ冤ヲ知り自ラ苛刑ヲ施セシコトヲ悔イ
 テ愛慕ニ沈ミケルガ一日出テ狩セシニ一鹿アリ前ヲ過キタリシ
 グフリードノ犬之ヲ追ヒテ洞口ニ及ブシীগフリードモ踵テ至リ

ケレハ乃チゼ子ゾキーゾ及ヒ兒ヲ得タリ後世此事人口ニ膾炙シ圖
畫ニ寫シ歌謠ニ唱フニ至リシトソ

第五篇

シャルレマンノ事

七百七十一年カルロマン禍ニ罹リテ死シシャルレマン獨リ全國ノ
王トナレリシャルレマンハ性快捷ニシテ功ヲ喜ヒ外敵國ヲ征スル
ニ非ザレハ内必ス邦家ノ政ヲ修メ常ニ事ナキヲ恐レ且舊ヲ洗ヒ新
ヲ創ムルコトヲ好メリ在位四十三年ノ間ニ佛國ノ面目一變シ延テ
歐羅巴全洲ニ及ヒ日耳曼古代ノ制皆廢止シ鄉國ノ獨立セシ者皆混
一シテ一大帝國トナリ名變シテ勢モ亦隨ヒテ變シ國民ノ思想品行

皆敗ラサルハナク此ヨリ後日耳曼ノ史ヲ稱シテ古代史ト云フベカ
ラサルニ至レリ嗚呼シャルレマンノ偉業蓋シ古今多ク其比ヲ見ザ
ル所ナリ初メカルロマンノ死スルヤシャルレマンノ尽ク其諸子ヲ逐
ヒ獨リ佛蘭西ヲ擅ニセシカハロンバルター王デシデリユス諸子テ
冤トナシ法王ニ乞ヒテ之ヲ立テンコトヲ謀レリシャルレマン之ヲ
聞キ彼ヨリ戮ヲ開ク我豈踰躡スヘキノ理アラシヤト乃チセニス道
ヨリ亞爾伯山ヲ越エテ伊太利ニ入り叔父ベルナルトハ道ヲモンス
チコヴキスニ取り進ア之ニ合シタリ爾來モンズガニグキスヲ改メ
テセントベルナルドト名ツク斯アロンバルデーノ民ハ佛蘭西ノ軍
來ルト聞キ皆逃レテ諸所ノ城砦ニ入り王デシデリユスハバグキヤ

城ヲ守リテ敵ノ來ルヲ待ツ此時ニ當リテシャルレマン名聲赫々其名ヲ語ルモ猶ロンバルデー人ヲシテ肝膽寒カラシムルニ足レリシャルレマン既ニバヴキヤニ達シケレハデシデリユスハ高樓ニ登リ遙ニ其風彩ヲ望ミ其身材長大甲冑壯麗肥馬ニ跨リ恰モ鐵偶ノ精神ヲ備ヘタル者ノ如キヲ見テ毛骨悚然タリ左右ニ謂テ曰ク我速ニ樓ヲ降ラン我彼ノ怒顔ヲ見ルニ堪ヘスト乃チ樓ヲ降レリ後數日糧盡キテ城陷ルシャルレマンロンバルデー王ヲ以テ不肖ニシテ王位ヲ踐ムヘキ者ニ非ストナシテ之ヲコルヴェーノ寺庵ニ遷シ其鐵冠ヲ收メテ自ラ之ヲ被レリ實ニ紀元七百七十四年ナリ此年シャルレマン羅馬ニ至ル未タ市門ニ達セザルコト千歩ニシテ馬ヨリ下リ徒走

シテ「セントペートル」寺ニ詣ル寺ハヴチカン山ニ在リシャルレマン山ニ登ルニ每一磴級必ス之ヲ啜ル蓋シ此磴級ハ諸聖僧ノ足蹟ノ在ル所ナルヲ以テナリ既ニ寺ニ達スルニ及ヒテ法王親ラ之ヲ前廊ニ迎ヘ兩手ヲ以テ之ヲ抱キ其功勞ヲ贊シ俗人神歌ヲ奏シ神ニ代リテ此ニ來ル人能ク其多福ヲ亨クト唱ヘタリ此ヨリ相携ヘテ窞ニ入り聖僧ペートルノ棺前ニ於テ共ニ拜禮ヲ行ヘリ此時ニ當リテロンバルデー人外國ノ羈輒ヲ厭ヒデシデリユスノ子アダルヂシユスヲ推シテ父ノ位ニ登ラシメタリ然レトモソノ權利ヲ全クスルコト能ハス再ヒ兵力ノ爲ニ壓セラレテ一敗地ニ塗レアダルヂシユスハ國ヲ去リ辛フシテ死ヲ免レ全國忽チ風靡セリ獨リウニニスノ市民ハ

屈セス能ク攻兵ヲ破リ永ク其獨立ヲ保チタリ

斯ク伊太利全國尽クシャルレマンノ威ニ靡キシガ獨リサキソンヌ
亞爾伯山外ニ據リテ之ニ降ラス誓テ其舊怨ヲ報イント期セリ初メ
フランクス屢、サキソンヲ挫キ之ヲシテ屬國ダラシメント謀リ且
耶蘇教ヲ以テ之ヲ化セントセシニサキソン人ハ深ク舊教ニ惑溺シ
耶蘇教徒ニ入ルハ即チ是羈軛ヲ受クルナリト嚴ニ之ヲ拒ミ遂ニメ
ロヴキンヂヤンノ代ニ鏖戦スルコト數次日耳曼諸國之カ爲ニ血ヲ
流シタリ七百七十二年ニ至リテシャルレマン一國宗門議院ヲウオ
ールムスニ開テサキソンノ事ヲ議セシニ滿院皆戰ニ左袒セリ嚮ニ
佛蘭西王教師ヲサキソンニ遣シ祭日マルクロニ就テ教ヲ説カシメ

タレトモサキソン人皆之ヲ信ゼサリシカバ佛人皆以爲ク野蕃ヲ導
クニハ宜シク武ヲ以テスヘシ文ヲ以テシ難シトシャルレマンモ頻
ニ此論ヲ助ケ教ノ爲ニ兵ヲ用ルハ亦己ムヲ得ザルナリトテ全ク
無名ノ師ヲ起シ親ラ之ニ將トシテライン河ヲ濟ルニ向フ所前ナク
地ヲ畧シテ遂ニウエセル河ニ至リケレバサキソン人支ヘ難ク殆ト
降ヲ乞ハント欲スル勢ナリキ此時ロンバルデー人ノ反ヲ告クル者
アリシャルレマン困シテ兵ヲ轉シテロンバルデーニ入りタリ是ニ
於テサキソン諸部落復皆兵ヲ起シテシャルレマンニ反セリシャル
レマン復伐テ之ヲ破リ斬首無算ナリ此時ニ當リテサキソンノ一將
チウエストハリヤ侯ウキトキンドト云フ兵ヲ率テ佛軍ヲ拒ムコ

ト前後三十年戰敗レ兵盡クレハ乃チ深林ノ中ニ逃匿シ更ニ衆ヲ聚
 メ共ニ神ニ誓テ佛軍ト共ニ天ヲ戴カザルコトヲ期シ再ヒ出テ、佛
 軍ヲ衝キ隨ヒテ敗レハ隨ヒテ匿レ此ノ如クセシコト幾度ナルコト
 ナ知ラズ而シテ猶降チ乞ハザリシガ天サキソンニ幸セス最後ノ二
 戰潰敗地ニ塗レ死亡四千五百人ナリケレハ其二將ヲキンドブ
 ルボインモ今ハ力盡テ共ニ佛蘭西ノアツナグニーニ來リ自ラ乞ヒ
 テ洗禮ヲ受ケ遂ニ耶蘇教ヲ奉ズ實ニ七百八十五年ナリ時人或ハウ
 キトキンドノ事ニ付テ奇異ノ談ヲ傳フ蓋シ亦世俗ノ執迷ニ出ルノ
 ミ其說ニ曰クウキトキンド嘗テ乞丐ノ裝ヲ爲シウオルミルスダッ
 トニ至リ一寺ニ入り其神壇ノ糞中ニ白衣ノ兒アルヲ見テ其奇異ニ

感シ直ニ曾テ非トセシ所ノ教法ヲ奉スルニ至レリト八百三年シヤ
 ルレマンウキトキンドトセール河上セルズニ會シテ和ヲ約セリ曰
 耳曼國嘗テ耶蘇教ニ背ク者ハ之ヲ殺スノ律ヲ設ケシカ今更ニ此律
 ヲサキソンニ布キ其余ハ盡ク舊律ニ由レリ是蓋シセルスノ會佛日
 兩國ノ交一切同等ノ禮ヲ用井ンコトヲ約シタレバナリ後五年ウキ
 トキント刺客ノ爲ニ死セリ是ニ於テシャルレマンサキソンヲ分チ
 テマンステルオスナホルグバデルボルンミンテンブレメンヴオル
 デンビルデセームハルベルスタットノ八區トナシ之ヲ僧正區ト稱
 シタリ今此八區ノ版圖ヲ案考スレハウエセル河邊ノサキソンノ古
 地ハ其廣狹知ルヘキナリシャルレマン此ヨリ後日耳曼全國ヲシテ

悉ク耶蘇教ヲ奉セシメ且苛法ヲ設ケテ大ハ異教ニ入ル者ヨリ小ハ
 四十日齋ニ肉ヲ食フ者ニ至ルマデ皆死ナリ以テ之ヲ刑セリ
 斯ク三十二年間シャルレマンハ專ラサキソンヲ征セシカ此間ニモ
 亦能ク兵ヲ出シテ地ヲ他方ニ畧セリ今其大畧ヲ記サン初メムール
 スノ西班牙ニ入ルヤサラコツサノ知事イブナルアラヒヲ逐ヘリ七
 百七十八年イブナルアラビノ請ニ由リテシャルレマン親ク西班牙
 ニ入りムールスヲ攻メテ盡ク其イブノ河東ノ地ヲ奪ヒカタロニヤ
 ナリテ佛蘭西ノ一侯國トナシイブナルアラビヲサラコツサニ復セ
 リ此戰ニ佛蘭西ノ提督ナローラントト云フ歸路ランセスワルスノ
 澗道ヲ過ク將卒皆魚貫ス敵散兵ヲ以テ之ヲ擊テナローラント此ニ斃

レタリナローラントノ名多ク佛蘭西ノ歌謠ニ見ユ翌年シャルレマン
 ムールスヲマザヨルカミノルカノ二島ヨリ逐ヒ猶進ミテ之ヲ擊テ
 盡ク之ヲ驅テ歐洲ヲ出テシメントスル勢ナリシガサキソンスノ猖
 獗ニ由リ兵ヲ盡シテムールスヲ征スルコトヲ得ス遂ニ其功ヲ果サ
 スシテ己ム七百八十七年ブレヴェントノ侯シャルレマンヲ推シテ
 霸王トナシサレルノニ於テ附庸ノ盟ヲ行ヘリ此時ブレヴェントノ
 地ナブルスヨリプリンテシニ違ヒ後三四年ヲ經テポーラント人
 ボヘミヤ人及ヒアブルス部落皆降ヲ乞ヒ歲貢ヲ納レンコトヲ約セ
 リ初メアブルスノ會長城ヲ築キ圓壁數重目ヲ侵スベカラズト思ヒ
 之ヲ名ツケテ環城ト云ヘリ是ニ於テ佛蘭西ノ兵之ヲ圍ム城兵苦守

ス後城陥リ佛兵其財寶ヲ收メテ之ヲシャルレマンニ送ルシャルレマン亦自ラ利セスシテ之ヲ羅馬法王ニ獻シケリ初メ環城ヲ攻ルヤスワビヤノ勇士セロルド公健闘シテ功ヲ奏セリシャルレマン之ヲ賞シテ爾來スワビヤ人ヲ以テ其軍ノ先鋒トナサンコトヲ約ス又一個ノスワビヤ人オヲ以テ一次ニアブルノ兵七八人ヲ貫キ是ニ由リテイーンヒールノ紳號ヲ得タリ北地古昔稗史ニ此勇士常ニオーデント共ニワルハルヲノ殿堂ニ住ムト記シタリ

斯クシャルレマン屢敵ヲ破リ地ヲ畧シケレハ歐羅巴ノ形勢面目更ニ變シ南ハイプロ河ヨリ北ハラーフアシスノ兩河ニ至リ東ハベチヅエントヨリ西ハアイダル河ニ至ルマデ日耳曼部落皆一君ニ歸

シ其他西羅馬ノ餘屬及ビスクラホニヤンアブルス二部落中ニモ多ク欸ヲ送リシ者アリテシャルレマンノ版圖羅馬帝國ニ比スレバ更ニ大チ加ヘ唯日耳曼部落ノ中アंकロサキソン及ヒ那威瑞典丁抹三區ヲ領セシスカンヂナビヤンノ二部落未ダ之ニ從ハチリレノミシャルレマンハ斯ル大國ニ臨ミ之ニ播クニ耶蘇ノ一教ヲ以テシ西班牙亞弗利加亞細亞ノ回教ヲ拒キ以テノルマンアブルススクラホニヤンノ外教ヲ絶テ日耳曼伊太利兩國ノ民ハ共ニ舊怨ヲ舍テ東帝國ノ民ノ如ク凡ソ耶蘇教ヲ侵ス者ハ回教外教ヲ問ハス皆之ヲ防カント期シタリ古羅馬ノ民能ク日耳曼部落ト力ヲ戮セ事ヲ共ニセシカトモ又其古國ノ嘗テ宇宙ヲ統一セシコトヲ憶起セサルコト能ハ

スシャルレマンモ亦此民ニ君臨シ往時諸帝ノ號ヲ發シ令テ下シ普
 天率土皆來王セザルコトナカリシヲ追懷シ且其身ノ有スル所ノ地
 チ見ルニ羅馬盛時ニ比シテ更ニ大チ加ヘタレハ遂ニ再ヒ羅馬天子
 ノ位ヲ興シ其身之ヲ踐マント欲スル志アリ是亦理ナルカナ
 七百九十九年羅馬法王シャルレマンヲバアルホルンニ訪ヘリ蓋シ
 シシャルレマンノ帝位ニ即クコトヲ議セシナリ翌年シャルレマン羅
 馬ニ至ル法王レオ三世親ラ之ニ冠ヲ授ク庶民皆呼テ曰ク明神位ヲ
 羅馬帝カロルス、オーガスタスカロルスナシャルレマント同シ羅馬ノ位ヲ襲フ故ニオーガスタスト云フニ賜フ帝
 ノ德至大百姓依リテ以テ安シ嗚呼帝能ク敵ヲ破リ永ク其壽ヲ亨ケ
 ヨト此後千六年ノ間日耳曼ノ帝トナレル者ハ皆此冠ヲ受ケテ日耳

曼ヲ統轄セル證トナセシナリ

シャルレマン既ニ西帝ノ位ヲ得又常ニ東帝ノ位ヲ併セント欲スル
 志アリ此頃東帝死シ其寡妃アイレチ獨リ政ヲ執リケレハ乃チ使チ
 送り之ヲ娶ラント欲シタルカ使未タ君士但丁諾格爾ニ達セザルニ
 ニセボルスト云フ者既ニアイレチノ位ヲ篡ヒテ帝號ヲ僭シケレハ
 使ノ言ヲ聞テ大ニ喜バス頗ル之ヲ辱メタリ後三年ニセホルス使チ
 シシャルレマンニ送りシニシャルレマンモ之ヲ辱メテ舊怨ヲ報イケ
 リ

附錄第五篇

法王レオ三世バデルボルンニ至リシャルレマンヲ見ル

事 東帝ニセホルス使ヲエーズ、ラ、シヤベルニ遣ス
事

七百九十九年シヤルレマンノサキソント和ヲ約セシハ既ニ前篇ニ
説ク所ノ如シ是ヨリ先シヤルレマンバデルボルンニ於テ宮殿ヲ造
營シ壯麗目ヲ驚シ、カバ全國ノ豪華相競ヒテ此ニ集レリ就中シヤ
ルレマンノ諸女ハ容色衆ニ絶レ能ク馬ニ乘リ日ニ山野ニ游獵セシ
ニ百姓皆嘆美セザルハナカリキ此時バクテットノ「カリフ」回教ノ
王號
ハハルン、エル、ラスナットト云テ世ノ能ク知ル所ナリシカ遠ク使
ヲバデルボルンニ遣シ象天幕漏壺各一個ヲ贈レリ象ノ名ヲ「アブ
ラバス」ト云ヘリ劫掠人ノ義ナリ天幕ハ至美ナリ其費想フヘシ漏

壺ハ中ニ小球十二ヲ備フ球ハ黃銅ヲ以テ作ル下ニ小盃ヲ置ク亦黃
銅ヲ以テ之ヲ作ル每一時球降りテ盃内ニ落ル者一個壺門即チ自ラ
開キ兵士ノ塑像突然トシテ出テ壺前ニ布列シ隊伍ヲ開合スル狀ヲ
爲ス塑像ノ出ル少キハ一ヨリ多キハ十二ニ至ル其數ヲ以テ其時ヲ
知ル實ニ奇工ナリ「カリフ」ノ之ヲ贈リシハ蓋シ己レシヤルレマン
ト均クムールスノ敵ナルニ由リテ此ヲ以テ其同好ノ意ヲ表セシナ
リ此事ノフランクスノ聲名ニ關セシ所實ニ大ナリ然レトモ其最モ
榮トセシハ法王ノバデルボルンニ幸シフランクスノ敵ノ爲ニ辱ラ
レシコトヲ告ゲ援ヲ得テ之ヲ討センコトヲ乞ヒシ事ナリ此時シヤ
ルレマンハ之ヲ古泉ノ側ニ迎ヘ共ニ相抱キテ友愛ノ意ヲ表セリ本

篇ニ記シタル法王ノシヤルレマンノ帝位ヲ讓セシ事ハ即チ此會ニ在リキ此時サキソン人陽ニ耶蘇教ニ歸セシカトモ猶陰ニ舊教ヲ奉シ且古泉元ト外教ノ神ニ屬セシカハ今シヤルレマンノ此泉ニ就テ會ヲ爲シ、ヲ見テ彼之ヲ爲ス其意我輩ヲ侮慢スルニ在リト思ヒ大ニ之ヲ怨ミタリ

此頃希臘帝ニセホルス使ヲシヤルレマンニ遣シタリシヤルレマンハニセホルスノ嘗テ其使ヲ辱メシコトヲ憤リケレハ之ニ報イントテ豫メ人ヲ遣シテ使者ヲ迎ヘ亞爾伯山ヲ踰ユル時故サヲニ迂路ヲ取り頻ニ斷崖絶谷ヲ跋涉セシメケルニゾ使者日耳曼ニ入ルニ及ビテ衣裳汚レ旅具弊レ實ニ見ルニ堪ヘサル景況ナリキ既ニエーズ、ヲ

シヤベルニ達シケレハシヤルレマン之ヲシテ先ツ其四大臣ニ見エシム大臣各衣冠ヲ壯麗ニシテ送、ニ之ニ接ス此時希臘ノ使形容蕭索各大臣ノ威儀堂々タルヲ見テ之ニ接スル毎ニ覺エス人臣君主ヲ見ルノ禮ヲ執リ拜跪セシコト四次ナリシカトモ其儀ヲ失スルガ如キヲ見ス蓋シ大臣ハ壯麗ニシテ使者ハ蕭索ナリシ故ナリ最後ニ萬國帝王ノ稱首ナルシヤルレマンニ見エシニシヤルレマンハ金玉ヲ以テ衣冠ヲ裝飾シ嘗テ希臘ニ使シテニセホルスノ辱ヲ受ケタル者ニ倚リテ之ニ接シタリ

此時會、割禮祭猶太數男兒皆陰童皮ヲ割キ神ニ誓フ爲ス之ヲアリ使者其携フ割禮ト云フ割禮祭ハ耶蘇ノ割禮日ノ祭ナリル所ノ樂器アリ黃銅ノ管ト牛皮ノ風櫃トヲ以テ製シタリ之ヲ奏ス

ルニ或ハ轟々トシテ雷ノ如ク或ハ鏗々トシテ箏ノ如シ希臘語ヲ以テ割禮祭ノ歌ヲ唱ヒシニシャルレマン側ヨリ之ヲ聞キ其曲ヲ愛シ侍僧ニ命シテ曰ク汝拉丁語ヲ以テ此曲ヲ奏シ然ル後汝カ飯ヲ喫スヘシト蓋シシャルレマン希臘ノ優柔ヲ威侮シテ其驕肆ニ報イシカトモ其開化ニ至リテハ深ク自ラ及ハサルコトヲ知り中心之ヲ欽慕セシナリ

第六篇

シャルレマンノ事

シャルレマンノ帝位ニ即クヤ乃チ令テ發シテ曰ク今我尊位ヲ踐ムト雖モ我斧鉞ノ權ハ唯政治ノ間ニ止ルノミ夫ノ教法ノ若キハ其權

一切法王ニ在ルナリ救世主宇宙ノ管籥ヲ執リテ之ヲ聖僧ベートルニ授ク而シテ法王ハ其代理官タリ庶民其之ヲ休セヨトシャルレマン斯ク其國ヲ以テ羅馬法王ノ所管ト看做シケレハ之ヲ尊崇シテ神國ト稱シ日耳曼羅馬ノ兩地ヲ兼テタルヲ以テゼルマニツク、ローマト名ツケタリ初メクロヴキス豪族ノ命ヲ拒ムコトヲ憂ヒ策畧ヲ以テ皆人臣ノ禮ヲ執ラシメ大ニ其勢ヲ殺キタリシャルレマンモ亦其遺志ヲ繼キ令テ發シテ凡ソ男兒齡十二ニ及ベハ人臣ノ禮ヲ執リテ生死唯々皇帝ノ命令ヲ奉センコトヲ誓ハシメシニコロヴキスノ餘威ニ由リテ敢テ之ニ違フ者ナク君臣ノ分遂ニ定ルシャルレマン乃チ全國封土ノ主トナリ余ノ豪族ヲハ上下ヲ論セス總テ封土ヲ受ル

臣属トナシ帝ヲ以テ萬機ノ出ル所トシ令ヲ發シ事ヲ判スル一トシ
 テ之ニ由ラザルコトナク緊要ノ公書ハ帝親ラ之ヲ書シ鈴スルニ帝
 璽ヲ以テス其璽ハ刻シテ刀把ニ在リ書既ニ成レハ則チ之ヲ所司ニ
 付シ此書即チ是我命ナリ若シ奉ゼザル者アラバ此刀能ク之ヲ奉ゼ
 シメント言テ其刀ヲ指シケルトゾシャルレマン能ク農ヲ勸メ勉メ
 テ其方法ヲ開成セント欲シ親ラ農書ヲ著ハシ先ツ其法ヲ公田ニ試
 ミ例ヲ衆庶ニ示シ葡萄及ビ其他諸菓ヲ植エシニ皆豐熟セザルハナ
 ク是ニ由リテ大ニ歲入ヲ増セリ萬機ノ餘暇能ク此事ヲ爲ス洵ニ嘉
 賞スヘキナリ又商ヲ通シ工ヲ勵マシ工師ヲ伊太利ニ招キ橋梁ヲ架
 シ市場ヲ開キ苛稅ヲ除キ外國ノ壟斷ヲ爲スコトヲ防ク爲交易保護

ノ稅ニアラザレバ新ニ民ニ稅ヲ課セズ大ニ工商ノ事ヲ起シタリ
 技工ノ盛ナルハ泰平ノ象ナリ政紊レ人頑ニ軍陣ヲ以テ業トナシ戰
 勝ヲ以テ譽トナス時ニ當リテハ未ダ曾テ技工ノ興起セシコトヲ見
 ス獨リシャルレマンハ爭亂ノ時ニ生レケレトモ其誘掖ノ力ニ由リ
 テ土木ノ術大ニ步ヲ進メフランクホルトエーズ、ラ、シャペルイン
 ゲルヘームノ諸所ニ宮殿ヲ起シ其壯麗ナルコト實ニ尋常ニアラス
 シシャルレマン好ミテ常ニインゲルヘームニ居レリ稗史ニ曰ク一日
 シシャルレマン馬ヲ驅リテ林中ヲ過キシニ馬驚キ起チ痛ム所アルカ
 如シ乃チ探リテ熱泉ヲ得タリ蓋シ馬蹄泉中ニ落ツ因リテ驚キ起チ
 シナリ爾來シャルレマン屢々此熱泉ニ浴シケルカ久シカラステ

其近傍都ヲ爲シケレバシヤルレマン宮殿ヲ營ミ寺院ヲ開キ青銅ヲ
鑄テ外門ヲ鑄造シ金銀珠玉ヲ費シテ内殿ヲ飾リ其華麗ナルコト實
ニ目ヲ驚スニ堪ヘタリシヤルレマンノ時ヨリ今ニ至リテモ猶歐洲
ノ病者陸續群ヲ爲シテエースラ、シヤベルニ溶スト云フ

シヤルレマン親ラ國語ヲ正シ日耳曼文典ヲ著サンコトヲ勉メタリ
眞ニ國ヲ憂フル者ハ宜シク此ノ如クナルベシ但シ國語ヲ正スニハ
必ス專心之ニ從事スルヲ要ス然ルニシヤルレマンハ政務ノ餘暇
ヲ以テ之ヲ爲サント欲ス抑亦難シ惜イ哉果サスシテ止ミタリシ
ヤルレマン又日耳曼諸部落ノ歌謠ノ最モ人口ニ膾炙セシ者ヲ拾收
シ庶民ヲシテ國歌ヲ吟誦シ愛國ノ情ヲ發センメンコトヲ謀レリ然

レトモシヤルレマンノ子ハ父ノ意ノ在ル所ヲ知ラス教法ニ眩惑シ
テ遂ニ日耳曼古代ノ考證トナルヘキ詩歌ヲ委棄シ之ヲシテ後世ニ
傳ハラザラシメタリシヤルレマン又日耳曼語ヲ以テ各月ノ名ヲ命
ジタリ又常ニ嘗テ世界ノ帝王タリシ羅馬ノ語ヲ廢シ一種ノ語ヲ製
シ全國ヲシテ之ヲ用井シメ國民ノ友愛ヲ厚クセンコトヲ謀リタリ
然レトモシヤルレマンノ最モ意ヲ用井シ所ハ民ノ産ヲ勸メ國語ヲ
改正スルニアラスシテ耶蘇教ヲ維持シ之ヲ全國ニ播クニアリケレ
ハ既ニ耶蘇教ヲ奉セン所ニハ益、僧正區及ビ寺院ノ制ヲ確定シ未
ダ之ニ化セサル所ニハ更ニ其制ヲ創メ大僧正四人僧正二十七人ヲ
置テ諸寺院ヲ監督セシメ耶蘇教會及ビ僧徒ヲシテ大僧正僧正ヲ選

バシメテ自カラ之ニ官ヲ與ヘタリ又諸僧正ニ命ジテ寺院ノ近傍ニ
 一屋ヲ設ケテ學生若干員ヲ養ヒ僧徒ノ學ヲ教授セシメタリ此學生
 ナハ希臘語ヲ以テ「カノシ」ト名ツク規則ノ義ナリ僧正ヲシテ親ラ
 此學校及ヒ後己レノ建テタル學校ヲ監督シ僧徒ヲ教戒スルコトヲ
 擔當セシムシヤルレマン又禮拜ノ式ヲ肅穆ニセント欲シ初テ風琴
 ヲ寺院ニ用井人民ニ音樂ヲ習フコトヲ勸メシニ人民頗ル之ニ熟シ
 日耳曼ノ風琴師ヲ羅馬ニ派送スルニ至レリ然レトモ日耳曼人ハ音
 聲極メテ惡シク歌謠ニ拙ナカリケレハ當時ノ人之ヲ記シテ曰ク日
 耳曼人ハ鳩舌ニシテ節奏ヲ爲スコト能ハス高クシテ急ナル者ハ群
 鷗ノ哀號スルカ如ク低クシテ震フ者ハ車輪ノ凹凸路上ニ轟クカ如

シト

シヤルレマン僧徒ノ行ヲ修メ徳ヲ治メ塵垢ヲ脱シ聖域ニ入ツンコ
 トヲ欲シ再ヒ舊律ヲ布テ僧徒ノ獵犬獵鷹ヲ畜ヒ及ヒ翫間ヲ養フコ
 トヲ禁シ以テ古代耶蘇宣教師ノ風ヲ再興セシメンコトヲ務ム又嘗
 テ令シテ曰ク凡ソ僧正トナリ住寺トナル者ハ僧徒桑門ヲシテ歌謠
 誦讀ニ長ゼシメンヨリハ寧ロ之ヲシテ善ヲ行ヒ聖ヲ學バシムルコ
 トヲ務ムベシ夫レ善ク歌ヒ善ク讀ムハ固ヨリ嘉賞スベシ然レトモ
 行ノ惡キヤ焉ニカ好歌ヲ用井且寺院ノ屋宇ノ如キ固ヨリ善美ヲ
 要ス然レトモ美屋ヲ以テ之ヲ裝フハ善行ヲ以テ之ヲ飾ルニハ若カ
 ズトシヤルレマン僧徒ノ品行ニ意ヲ留メシコト此等ヲ以テ想像ス

ヘシシャルレマン久シク位ニ在リテ大ニ無學ノ人ノ昏頑諭スベカ
 ラザルコトヲ嘆シ人民ノ品行ヲ高クスルハ教育ヲ以テ幼稚ノ心胸
 ナ開善スルニ在リト思ヒケレハ常ニ此ニ從事セシカ嘗テ全國ノ住
 持ニ合シテ曰ク吾庵寺ノ奏狀ヲ讀ミ屢々其文ノ拙陋ナル者ヲ見テ
 毎ニ恐ル神ノ命ヲ傳フル者ニシテ文章ニ意ヲ置ザルコト此ノ如シ
 乃チ神ノ命ヲ誤傳スルコト無キヲ得ンヤトセントカルノ桑門嘗テ
 シヤルレマンノ事ヲ記シテ曰クシャルレマン國內諸所ニ學校ヲ設
 ケ凡ソ子弟アル者ハ貧福ヲ論セス皆之ヲ學校ニ送リテ教官ノ教育
 ヲ受ケシメシカ嘗テ一校ニ至リ貴家ノ子弟ノ學ヲ怠リ貧家ノ子弟
 ノ學ヲ務メ能ク試問ニ答フルヲ見テ貧家ノ子弟ヲ招キ其右側ニ就

カシメ貴家ノ子弟ヲ招キ其左側ニ列セシメ貧家ノ子弟ニ謂テ曰ク
 汝子弟能ク吾命ヲ奉セリ吾大ニ汝ニ謝ス汝更ニ黽勉シテ止ムコト
 ナク能ク汝ノ業ヲ成スベシ吾汝ニ與フルニ僧正區若クハ住持區ヲ
 以テシ承ク汝ヲ保愛セント乃チ面ヲ左側ニ轉シ稍怒色ヲ爲シテ曰
 ク汝貴顯ノ家ニ生レ昏愚ニシテ善ニ遷ルコトヲ知ラス汝ノ族ヲ特
 ミ汝ノ富ニ誇リ遂ニ吾命ヲ奉セス盤樂怠傲規ニ違ヒ式ニ戾ル今汝
 悔悟シテ夙夜情ルコトナク以テ汝ノ罪ヲ贖ハズンハチャルレス復
 汝ヲ保護スルコト能ハスト言未ダ半ナラサルニ手ヲ舉テ將ニ之ヲ
 擧タントスル狀ヲ爲セリ其教育ニ意ヲ留メシコトモ亦想フベキナ
 リ

シャルレマン齡既ニ高ク其身亦大ニ衰ヘケレハ死後ノ争亂ヲ慮リ豫メ遺物ヲ分配スル方法ヲ定メ其財寶ヲ三分シテ其二ヲ全國ノ諸僧正ニ寄附シ銀卓ノ君士但丁諾格爾ノ圖ヲ彫リタル者ヲ羅馬ノ「セントペートル」寺ニ納メソノ羅馬ノ圖ヲ刻シタル者ヲラヴェンナノ僧正ニ與ヘソノ世界ノ圖ヲ刻ミタル者ヲ其諸子ニ遺シ其書籍ヲ賣リ價金ヲ散シテ貧人ヲ救ヘリ

シャルレマン獵ヲ好ミ八百十三年アルデン子スニ獵シ歸路劇疾ニ罹リ死ニ瀕セシガ後稍愈エシカハ同年秋エーズラ、シャペルノ寺院ニ於テ全國會議ヲ開キ親ヲ神壇ノ前ニ立テ子ルイスヲシテ其側ニ侍セシメ乃チ之ヲ戒メテ曰ク汝神ヲ敬シ神ヲ愛シ務メテ耶蘇

ノ寺院ヲ保護シ僧徒ヲ辱カシムルヲ勿レ親戚ヲ疎ニスルコト勿レ民ヲ見ルコト子ノ如クシ邪ヲ退ケ賢ニ任シ凡ソ汝カ行フ所仰キテ神ニ耻ルコト勿レ俯シテ人ニ愧ツルコト勿レ嗚呼吾兒能ク吾教ヲ行ハント欲スルカトルイス曰ク明神ノ加護ニ由リテ願クハ父ノ教ノ如クセント是ニ於テシャルレマンルイスニ命シテ冠ヲ神壇ニ取リ之ヲ被ラシメリ翌年シャルレマン病復劇シカリシカバ其第五日ニ至リ聖餐（イグザキスト）ノ禮ヲ受ケ神ヲ呼テ之ニ靈魂ヲ捧ケ正シク手ヲ拱スルコト數秒時ニシテ長逝セリ時人相傳フ此頃屢々怪異アリシャルレマンノ死セシ前七日ノ間日輪上ニ黒子ノ如キ者ヲ見タリ又初メシヤルレマンエーズニ於テ廊ヲ造リ其宮殿ヨリ寺院ニ達セシカ一日

此廊頓ニ倒レタリ又初メメツツニ於テ橋ヲライン河ニ架シ十年ニシテ落成セシカ一日怪火ニ罹リ纔ニ三時間ニシテ盡ク燒滅セリ又エーズ屢、地震セリ又エーズノ寺院ハシャルレマンノ建立スル所ニシテ之ニカロルス、インベレートルチャルレスト題シテ其功ヲ表シケルカ一日電氣ニ撃ダレテ字畫盡ク消滅セリト斯テシャルレマンヲハエース、ヲ、シヤメルノ「ウォルザン」寺ニ葬レリ木乃伊イノ法藥物ヲ以テ体ニ入レ磨敗セシテ施シ棺ニ納メズ金椅ニ凭リ金劍ヲ佩ビ手ニ耶蘇經ヲ執ラシメ肩ニ帝服ヲ掛ケ蠟布ヲ以テ面ヲ覆ヒ冠下ニ達シ休前ニ芻及ヒ楯ヲ置ク皆金ヲ以テ之ヲ作レリ墓上ニ穹隆閣コムボレヤヲ建テ閣下ニ偶像ヲ安置シ閣ニ此墓耶蘇ノ正教ヲ奉セシナルレス大帝ノ遺休ヲ藏

ム大帝威力ヲ以テフランクスノ版圖ヲ開拓シ在位四十七年在世七十年紀元八百十四年一月二十八日死スト題セリ後日耳曼ノ諸帝皆此墓中ノ財寶ニ頓チ染レケルカフレデリック、バルバロッサハシャルレマンニ聖僧ノ號ヲ與ヘ千百六十六年墓ヲ發キテ骸骨ヲ出シ聖僧ノ遺物ナリトテ之ヲ諸所ニ分配セリ蓋シ此時其財寶ヲハ盡ク掠メ取シナラン今存スル者ハ唯冠ト劍トノミ今シャルレマンノ墓跡ニ大理石ノ碑アリカロロ、マヅノシャルレマント題シ上ニ青銅ノ燭架ヲ掛ク此架ハフレデリック、バルバロッサノ寄附セシ所ナリ

附錄第六篇

律法 職制 軍務 寺院 文學
シャルレマンノ容貌

行狀ノ事　ツランクホルドノ宴會院

シャルレマン大ニ日耳曼ノ古律ヲ編纂セント欲シ既ニ載セテ書冊ニ在ル者ハ直ニ之ヲ輯録シ其未ダ書ニ載セズト雖モ慣習口傳ニ依リテ人民ノ遵奉スル所ノ者ハ更ニ律法拾遺官ヲ設ケ之ヲシテ民間ニ就キテ搜索シ一々之ヲ筆記セシメ毎秋豪族議院ヲ開キ此兩種ノ律法ヲ併セテ之ニ付シ親ラ之ニ臨ミ此ニ列スル將校、縣令、大僧正、僧正、住持ニ命シテ各、其議ヲ獻ゼシメ衆議ノ可ナル者ヲ採リテ律法ヲ改正シ五月全國議院ヲ開キ遍ク之ヲ人民ニ揭示セリ後八百二十七年ニ至リシャルレマンノ律法トルイスノ律法ヲ併セテ之ヲ編纂セリ今此律法ノ苛酷ナルコトヲ觀レハ當時人類ノ粗暴ナリシコ

トモ亦推シテ知ルヘキナリ

シャルレマンノ律ハ凡ソ強盜一犯スレハ其耳ヲ斷テ再犯スレハ其鼻ヲ切り三犯スレハ之ヲ殺ス蓋シ其盜賊ヲ處スル他刑ニ比スレハ更ニ苛酷ナリ僞誓スル者ハ右手ヲ斷ツ劇飲シテ止マサル者ハ灌水法ヲ以テ之ヲ刑シ其放飲ノ惡習ヲ絶ツニ至リテ止ム方今日日耳曼國此法ヲ以テ病ヲ治シ大ニ功驗ヲ見ル所アルカシャルレマンハ初メ之ヲ劇飲客ニ用井タルナリ國王若クハ官府ニ對シテ反テ謀ル者ハ首ハ死ヲ以テ之ヲ刑シ從ハ甲乙互ニ笞刑ヲ施サシメ若シ反狀大逆ニ涉ル者ハ從ト雖モ甲乙互ニ其鼻ヲ斬ラシム又地方人民ノ各、自ラ私ニ爭訟ヲ聽斷スルコトヲ禁シ更ニ親ヲ聽訟官ヲ選ヒ地方ニ分

置シソノ訴訟ヲ聽斷セシメ之ヲ「グラフ」支那ノト名ツク又巡廻聽訟官ヲ設ケ毎年時ヲ定メテ之ヲ派遣シ各地ヲ巡廻セシム猶英國ノ聽訟官ノ法ノ如シ之ヲ「センドグラフ」ト名ツク地方聽訟官ノ裁判ニ服セザル者ハ之ヲ巡廻聽訟官ニ控訴スルコトヲ得タリ古「サリツキ」律「サリツキ」律ノ事第三篇見ユニ七員會審ノ法アリシャルレマンノ律此法ヲ採用シ更ニ名ヲ「スコッペン」ト命シ巡廻聽訟官ヲシテ此七員ヲ選ハシメ親ヲ之ニ允可ヲ與ヘ此員ノ外補助三員ヲ命シ之ヲ「サギバロン」ト名ツケ又特命全權會審員ヲ置キ會審員ノ統領トナシ終身此職ヲ奉セシメタリ又代言ノ法ヲ設ケ疾病若クハ無學ニシテ自ラ訴訟ヲ爲スコト能ハザル者ヲシテ代言人ヲ以テ訴訟ヲ爲スコト

ヲ得セシメタリ各地方聽訟官ヲシテ圍圍絞架各一ヲ備ヘ常ニ其修理ヲ加ヘテ急用ニ供スヘカワシメ又各ヲシテ一架ヲ四通ノ市街ニ立テ輕罪ヲ懲サシメタリ原被ヲ審判スルニ古代ノ試法ヲ用井テ闘試火試熱湯試ヲ行フ其外更ニ烙鋤試十字試水試ノ三法ヲ創ム烙鋤試ハ九個ノ鋤刃ヲ烙キテ地上ニ散列シ各其距離ヲ異ニシ被告ヲシテ跣足ニテ此上ヲ歩シ一步一鋤ヲ踐マシメ其足焚サレハ之ヲ無罪トナセリ十字試ハ之ヲ偽誓ノ審判ニ用井ルナリ其法原被ヲシテ十字架前ニ立テ兩手ヲ頭上ニ舉ケシメ早ク此體勢ニ疲倦シテ手ヲ降サント欲スル者ヲ罪アリト爲シ神之ヲ判スト爲セリ水試ハ被告ニ繩ヲ着ケ其地ノ河中ニ投シ若シ沈メハ之ヲ無罪トナシ若シ浮ベハ

罪アリトナシ不潔トナシテ水之ヲ其中心ニ受クルコトヲ諱ムトナセリ然ルニ沈メル者ハ判シテ無罪トナスト雖モ多クハ溺レテ死シケルトソ

シヤルレマンノ職制ハ司法卿ヲ以テ第一等官トナシ以テ聽訟警保ノ事ヲ司ラシメ諸聽訟官ノ正邪ヲ監視シ且之ヲ黜陟スルノ權ヲ付ス之ヲ「アルナ、バルズ、グラフ」ト名ツク「アルナ」ハ首長「バルズ」ハ帝家「グラフ」ハ聽訟官ノ義ナリ初メ此官ヲ置キシハ諸侯ノ威勢ヲ殺カン爲ニシテ帝家ニ屬スル土地ヲ管轄セシ故ニ斯ク名ケタルナリ第二等官ヲ教部卿トナシ全國教法ノ事ヲ司ラシム之ヲ「チャンセルロル」ト名ツク第三等官ヲ大藏卿トナシ帝家ノ歲入ヲ司リ

官費ヲ計リ官務ヲ掌ラシム之ヲ「カメラリユス」ト名ケタリ地方官ノ制古代ハ全國ヲ數大區ニ分テ每區ニ「デューク」(侯)ヲ置キテ之ヲ管セシム「デューク」ハ元ト將軍ノ義ニテ初メ皆兵ヲ率井テ地ヲ畧シ戰止ミテ之ヲ領セシ者ナリシヤルレマンニ至リテ「デューク」ノ驕恣ニシテ統一ノ政ヲ施シ難キコトヲ知り毎ニ事機ニ乗シテ「デューク」ノ地ヲ沒收シ之ヲ分テ小區ト爲シ各區ヲ「ゴー」ト名ツケ區守ヲ置テ之ヲ管セシメ之ヲ「ゴー、グラフ」ト名ツケタリ「ゴー」ノ國境ニ僻スル者ハ其守ヲ「マーク、グラフ」ト名ツク疆守ノ義ナリ「ゴー」ノ帝家ニ屬スル者ハ其守ヲ「バルズ、グラフ」ト名ツク其義既ニ前ニ解キシ所ノ如シ又巡廻聽訟官ヲ置キ一月四月七月十月

ニ全國ヲ巡廻セシム亦前ニ説ク所ノ如レ
 シヤルレマンノ代ノ前マテハ王ノ兵ヲ徴スニ唯其封土ヲ有セシ者
 ナ徴發スルノミナリシカシヤルレマンニ至リテ兵民相分ルノ弊
 ヲ察シテ新ニ徴兵ノ制ヲ創メ凡ソ人民宅地三個ヲ有スル者ハ戰時
 必ス兵器ヲ執リテ之ニ從ハシメ宅地三個ヨリ少キ者ハ伍ヲ結ヒテ
 伍中ノ一員若クハ數員ノ兵仗戎裝ヲ辨ゼシメ宅地十二ヲ有スル者
 ハ自ラ其兵仗戎裝ヲ完備シテ出デシメ宅地十二ニ滿タサル者ハ矛
 楯各一若クハ弓一弦二箭十二ヲ帶ビテ出テシメシカ其後全國ノ兵
 ナ徴發セシコトハ唯稀ニ之アリシノミ初メ諸僧正皆其本分ノ職ヲ
 忘レ神聖ノ名ヲ辱メテ謾ニ軍陣ニ臨ミシカシヤルレマンニ至リテ

嚴ニ之ヲ禁シ每軍唯其兩三員ヲ從ヘテ創者ノ拜禮ヲ助ケ死者ノ葬
 事ヲ管セシメシノミニテ兵士トナリテ戰フコトヲ許サスシヤルレ
 マン斯ク新法ヲ以テ兵丁ヲ徴發セシカハ霜ヲ履ミ月ヲ載キ夙夜力
 耕シテ僅ニ口ヲ糊スルノ徒軍ヨリ退キテ其田ノ荒蕪セシヲ見テ更
 ニ生活ノ方法ヲ得ス遂ニ其田ヲ僧正華族ニ賣リシカバ未タ數年ナ
 ラスシテ全國二族ニ分レ一ハ奴隸ヲ養ヒ頗ル自由ノ勢ヲ得一ハ羈
 輓ヲ受ケ奴隸ノ域ニ沈ミテ全國人民大ニ舊時ノ景況ヲ改メタリ
 人民ニ漁獵免許採木免許ヲ與フルハ帝侯僧正ノ特權ナリケレバ餘
 ノ華族ハ平生驕恣ノ者ト雖モ此免許ヲ得ルタメニ寺院ノ臣屬トナ
 リレ者往々之アリントゾ

此頃僧徒ノ權傾ニ増加シ他ノ諸族皆其壓制ヲ受ルニ至レリ蓋シ僧族ノ斯ク勢ヲ得シハ一ニハ此時文學ノ道未タ開ケスシテ書ヲ讀ミ字ヲ書スルコトヲ知ル者ハ唯僧族ノミニテ他ノ諸族ハ更ニ之ヲ能セザリケレバ僧族ノ學モ猶淺近ニシテ國語ヲ書シ國字ヲ讀ムニ限リケレトモ他ノ諸族ヨリ之ヲ見レハ頗ル神妙ナリシ故ニ遂ニ僧族ヲ貴重スルニ至レルナリ又一ニハ僧徒類ニ貧民ノ地ヲ買ヒ鉅萬ノ富ヲ累ケレハ自ラ他ノ諸族ヲ壓制スルニ至レルナリ

伊太利ノ桑門ベチヂクト社ヲ興シナブルスノ近傍カシノ山ニ一字ノ庵寺ヲ創立セリ五百年代ニ至リ所在桑門ベチヂクトノ法ニ倣ヒテ規ヲ定メ社ヲ結ヒ庵寺ヲ創立スル者相續ケリ桑門社ノ初ノテ起リシハ埃及ニ在リテ其後歐

洲ニ傳
播セリ

羅馬ノ法王ヲ以テ日耳曼全國ノ教主トナシ之ニ專制ノ威權ヲ付セリ斯ク法王ノ威權ヲ得シハ蓋シボニフエースノ官ヲ法王ニ乞ヒ且法王ヲ以テ宇宙ノ教主ト爲シ、ニ由ルナリボニフエースノ意ハ猶嘉ミスベシト雖モ其事理ヲ誤リ害ヲ後世ニ貽シ、罪モ亦少シトセズサレバ羅馬教ノ未タ弊風ニ陷ラサリシ際ハ法王グレゴリー及ヒ之ニ嗣キシ者皆宇宙ノ教主ノ號ヲ避ケシナリ斯テ僧徒益々勢ヲ張り俗政聽訟官ノ判決ヲ受クルコトヲ欲セズ教法ニ係ラザルコトト雖モ皆之ヲ僧正ニ訟ヘ僧正ノ裁判ニ服セザレハ之法王ニ控訴シ法王ヲ以テ最後ノ裁判官トナシ其裁判ニ服セザレハ別ニ控訴スベ

キ所ナシ法王又俗人ノ寺院ノ命ニ背ク者ヲ止メン爲ニ自ラ令ヲ發シテ凡ソ寺院ノ命ニ背ク者ハ禮拜ヲ行ヒ聖餐ヲ受クルコトヲ禁シ且罪ヲ寺院ニ得ル者ハ之ヲ神敵トナシ教ヲ信スル者ヲ招集シ兵ヲ舉ケテ之ヲ討スルノ權ヲ有スルニ至レリ初メ羅馬帝國ノ盛ナルニ當リテハ帝ノ許可ヲ受ケザレハ法王自ラ其職ニ即クコトヲ得ザリシカ爾來法王タリシ者自ラ僭シテ耶蘇ノ代理ト稱スルニ及ヒテ忽チ此制限ヲ破リ正シク前規ニ反シ帝位ニ即ク者ハ必ス先ツ法王ノ允可ヲ得テ即位ノ禮ヲ受クベシ未ダ之ヲ受ケザル者ハ唯王ト稱スルコトヲ得ルノミニテ帝ト稱スルコトヲ許サレニ至リシカバ日耳曼全國ノ王ト雖モ亦法王ノ臣屬ニシテ自ラ祚ヲ踐ムノ權利ヲ

有セズ必ス法王ノ慈恩ヲ待テ而シテ後其位ニ即クコトヲ得タリ僧正ハ帝ヨリ其官ヲ受ケシカトモ法王ヨリ外套ヲ受ケテ其官ヲ證スルニ非ザレハ其職務ヲ施行スルコトヲ得ス其職ヲ免スルモ亦必ス法王ノ許可ヲ要セリ初メベビン伊太利ノ中部ヲ以テ法王ニ與ヘシヨリ之ヲ寺院領(即チ聖僧ベートル領)ト名ツケシカ爾來此地ヨリ得ル所ノ貢稅甚タ多ク法王之ヲ用井テ其朝廷ヲ修飾シ其威嚴ヲ維持シ古代聖僧ノ遺骸其他凡百貴重ノ遺物ノ中ニ位シ嘗テ世界ノ冠首タリシ羅馬ニ都シ萬人ノ尊崇ヲ受クルニ至レリ

シヤルレマンハ陽ニ法王ヲ尊ビシカトモ陰ニ其政令ヲ奉スルコトヲ欲セザリシカハ父ノ法王ニ與ヘタル伊太利ノ地ヲ舊ニ依リテ

之ヲ與フルコトヲ約セシカドモ常ニ此約ヲ變センコトヲ謀リ且教法ノ事ト雖モ自ラ權ヲ專ニセンコトヲ欲シケレハ諸所ノ市府ニテ開キタル教師會ニ臨ミ親ラ議長トナリ唯ク教論ニ係リテ政法ニ涉ラザル議案ニ至ルマテ皆之ヲ論決シ遂ニ法王アドリヤンノ說ニ反シ令ヲ全國ニ發シテ其偶像ヲ拜スルコトヲ禁シ且親ラ監視シテ非偶像論ヲ作りタリ

シャルレマン餘暇アレハ博士ヲ集メ食時必ス命シテ古史若クハ神學書ヲ朗誦セシム又博士ニ勸メテ居テ宮中ニ營マシメタリシャルレマン能ク拉丁語ヲ以テ說話ナシ又能ク希臘語ヲモ解セシカトモ之ヲ以テ說話ヲナスコトヲ得サリキシヤルレマン書ヲ能クスル

ニ志アリテ常ニ之ヲ學ヒ寢時筆硯ヲ枕頭ニ置キ眠ヲ成スコト能ハサルトキハ必ス書ヲ習ヒケルカ其手常ニ劍ヲ握リ矛ヲ操ルニ慣レテ屈伸自ラ軟滑ナルコト能ハサリシカハ心手相應セス遂ニ其志ヲ達スルコトヲ得ザリキシヤルレマンノ博士中最モ秀デタル者ヲ英吉利ノ桑門アルクイント云フ初メシャルレマン之ヲ羅馬ニ見遂ニ載セテ歸レリアルクイント云フ初メシャルレマン之ヲ羅馬ニ見遂ニノミナラス又帝ノ師トナリテ侍僧兼寺院事務顧問ノ職ヲ奉シタリ又イザンハーフト云フ者アリ勇悍ニシテ智慧アリシャルレマンノ傳ヲ編ミ當時ノ史ヲ著セリ又ボールト云フ者アリロンバルデーノ學者ナリ世ニ多ク其字ヲ呼ヒテダヤコナスト云ヘリ又僧正タルビ

ント云フ者アリシャルレマンノ傳ヲ著セリ又アンゲルベルトト云
 フ者アリシャルレマンノ刻對ノ友タリアルクイン以下皆シャルレ
 マンノ學社ト爲リ常ニ側ニ侍シテ諸科ノ學ヲ講シ政治ノ得失ヲ論
 シ家事國政ヲ問ハス皆此博士ノ論議ヲ採リテ施行シケレハ唯博士
 ノ多キヲ以テ朝廷ヲ裝飾セシノミナラス内外ノ實際ニ於テ大ニ裨
 補スル所アリキ學社相會セシトキシシャルレマンヲ呼デダビツトト
 云ヒアルクインヲホレースト云ヒアンタルベルトヲホメルト云ヒ
 ケルトン

シャルレマンノ身ハ常人ヨリ高キコト一尺餘其冠今藏メテツエー
 ナニ在ル者ヲ觀ルニ其徑頗ル大ニシテ巨人ニ非ザレハ之ニ適スル

コト能ハスサレハシャルレマン齊力人ニ邁レ就中游水ニ長シ屢、
 河ニ浴シ一ハ以テ其身ヲ醫シ一ハ以テ其心ヲ慰メリ又能ク生ヲ攝
 シ尤モ飲酒ヲ節セシニ由リテ終身其齊力ヲシテ衰ヘザラシムルコ
 トヲ得タリ極メテ衣服ニ儉ナリ唯々水獺皮ヲ以テ製シタル背心衣
 一個ヲ着タルノミ世ニ傳フシャルレマン嘗テ近臣ノ衣服ヲ美ニス
 ル者ヲ惡ミ大雨ノ其衣服ヲ濕スヲ見テ更ニ之ヲ憫マサル狀ヲ爲シ
 因リテ之ヲ諷戒セリト然レトモ大禮ニ逢ヘハ則チ衣裳ヲ壯麗ニシ
 至尊ノ風彩ヲ爲シ金衣ヲ着ケ玉鞋ヲ履ミ胸ニ金飾ヲ施シ頭ニ金冠
 ヲ載キ之ニ篋ルニ寶石ヲ以シ大刀ヲ帶ヒ時様ノ股衣ヲ穿チ數色ノ
 絹紐ヲ以テ之ヲ繡組シ巧ニ彩紋ヲ爲シタリシャルレマン五度妃ヲ

娶ル其第一ハゲシデリコスノ女ニシテデシデワタト云ヘリデシテ
 フタト離婚ノ後第二ノ妃ヲ娶レリタラントト云フ者之ヲ姦セント
 謀リテ聽レス因リテ之ヲシャルレマンニ讒ス妃退キテ羅馬ニ居リ
 病者ヲ看護シ専心神ニ事フル道ヲ盡セリ聖僧記ニ曰ク妃ノ斯ク病
 者ヲ看護セン時ニ盲者アリ襤褸ヲ被テ來レリ之ヲ觀ルニ即チ讒者
 タラントナリ妃之ヲ看護シ至ラザル所ナカリシカハ其目遂ニ舊ニ
 復シ乃チ其讒セシ所ノ妃ヲ見驚愕シテ措ク所ヲ知ラス叩頭シテ地
 ニ伏シ自ラ其奸ヲ訴ヘ遂ニ妃ヲ送リテシャルレマンニ歸センメタ
 リト

シャルレマン其家ヲ治ムルコト頗ル寛ニ失シタリ其女インマハ父

ノ友イザンハードヲ悦ヒ屢々延テ閨中ニ會シケルカ一日日高クシ
 テ猶歸ラザリシニ前夜偶々雪降り雪ニ歩シテ閨内ヨリ朝ニ至ラハ
 其足痕ニ由リテ陰事ノ發覺センコトヲ恐レ稍躊躇シケレハインマ
 乃チ情郎ヲ負ヒテソノ室ニ至ラントセシニ圖ラスシャルレマン宮
 窓ヨリ之ヲ目撃シケレハ二人事ノ顯ハレシコトヲ知り心身ニ添ハ
 スノ爲ス所ヲ知ラサリシカシャルレマンハ唯イザンハードノ不敬
 チ責メシノミニテ遂ニ二人ノ罪ヲ宥メ婚姻ノ禮ヲ行ハレメタリシ
 ヲルレマンノ長子ヲナルレスト云ヒ次子ヲベビント云ヒシカ皆
 早く死シケレハ末子ルイスヲ立テ太子トナシベビント云ヒシカ皆
 ドニ伊太利ヲ與ヘリルイスハ三子ノ中最モ不肖ナリシトゾ

メーン河畔ノフランクホルトニ古代ノ公館アリ「ルーメル」ト名ツク千四百年代ニ之ヲ營メリ其中宴會堂アリ諸帝ノ嘗テ宴セシ所ナリ堂ニ諸帝ノ肖像ヲ圖ス每像銘ヲ附ス皆其即位ノ時撰ビシ所ナリシヤルレマンノ銘ニ曰ククリスタス、ヴケンシト、クリスタス、レグナト、クリスタス、トライアンハト、ト基督地ヲ畧ス基督政ヲ執ル基督戰ニ勝ツノ義ナリ

シヤルレマンノ印章ハ *Karolin* ノ畧字ニシテ斜方形ノ每角ニ一畫ヲ突出シ畫端ニ名中ノ子音ヲ分記シ斜方形ヲ以テ其母音トナシ形中ノ上部ニVノ曲線ヲ插ミA字ヲナシ其下部ヲV字トナシ斜方形ヲ以テO字トナセリ

第七篇

ルーイス、デボンナイルノ事 ウォルダンノ定約ノ事 日

耳曼帝國分割ノ事

シヤルレマンノ嗣子ルーイスハデボンナイルト稱スデボンナイルハ神ヲ敬スル人ノ義ナリ此時ニ當リテ日耳曼ノ人民未ダ野蕃ノ風ヲ脱セズ鐵笏ヲ揮ヒテ鞭撻スルニ非ザレバ則チ恣睢驕橫法ヲ犯シ上ヲ慢リシ故ニシヤルマンノ世ニ在リシヤ威武ヲ以テ國ヲ治メ驅逐跋涉倦ムコトナク是ニ由リテ版圖ノ大ナルコト彼ガ如シト雖モ政令遍ク行ハレ庶民長服セザルハナカリキ然ルニルーイスハ性溫柔ニシテ文明ノ國ニ生レ立君定律ノ政ヲ行フベキ人ナリシカトモ

斯ル野蕃ノ時ニ當リテ蟠根錯節ヲ斷割スベキ器ニアラザリシカバ
 シヤルレマンノ死セルニ及ヒテ紀綱忽チ弛ミ庶民上ヲ畏レズ憐ム
 ベシルーイスモ亦自ラ大國ヲ統御スル任ニ堪ヘザルコトヲ知り又
 初メ父ノ賢臣ノ一人父ニ己レノ甥ベルナルドヲ立テ嗣トナサンコ
 トヲ勸メシテ怒リテベルナルドノ兩目ヲ抉出セシコトヲ懺悔シテ
 遂ニ其位ヲ遜レ閑居シテ身ヲ終ヘント欲シ位ヲ其諸子ニ讓ランコ
 トヲ乞ヒシニ法王及ヒ僧徒皆ルーイスノ溫柔ヲ利トシテ其暴威ヲ
 逞クセント思ヒシカバ之ヲ許サズ却リテ神威ヲ矯ケテ之ヲシテ全
 國會議ニ出テベルナルドヲ殘虐セシコトヲ謝セシメシニルイスハ
 大ニ教法ニ惑溺シケレバ堂々タル帝王ノ身ヲ以テ會員ノ面前ニ叩

頭シ謝罪ノ式ヲ行ヒ禱禱ノ事ハ遂ニ止ミニケリルーイスノ長子ヲ
 ロテールト云ヒ次子ヲベピント云ヒ第三子ヲ亦ルーイスト云ヘリ
 父ルーイス死後ノ計ヲ爲シ豫メ國ヲ三子ニ分ナロテールニハ伊太
 利及ヒライン河邊海ニ至ルマテノ地ヲ授ケテ帝號ヲ稱セシメベピ
 ンニハ佛蘭西ヲ與ヘルルーイスニハ日耳曼ヲ與ヘント定メシカ後第
 二妃ヲ娶リ第四子ヲヤルレスヲ生シカバ之ニモ地ヲ與ヘント欲シ
 ケレトモ既ニ餘地ナカリシ故ニ三千ニ諭シテ三分ノ約ヲ改メ更ニ
 地ヲ割キテヤルレスニ與ヘントセシニ三千皆之ヲ怒リ父子ノ義
 テ破リ兵ヲ舉ケテ父ヲ捕ヘ之ヲ要シテソイソンスノ一寺庵ニ於テ
 謝罪ノ式ヲ行ヒ謝文ヲ朗讀シ其僞誓強盜人命ノ三律ヲ犯シコト

ナムラカミ護伏セシメ且百方脅迫シテ庵寺ノ誓ヲ爲シ庵僧タランコトヲ要
 シケレトモ庵寺ノ誓ヲ爲スコトヲバ父ルーイス拒テ聽カザリキ後
 久シカラズシテベビンルーイス其兄ロテールノ富ヲ羨ミテ之ヲ傾
 ケント欲シ再ヒ父ヲ位ニ復シ改メテ地ヲ分チロテールニハ尺地モ
 與ヘザリシガ幾クモナクシテベビンハ死シケレバロテール遂ニ繼
 母ニ説キテ弟ルーイスヲ除キ末弟ナルレスト共ニ帝國ヲ分タシ
 コトヲ謀リシニ父ハチャルレスニ全國ヲ與ヘント欲セシカドモ遂
 ニ成シ難カルベシト思惟シ喜テ之ニ與シケレバロテールハ父ルー
 イスノ所ニ至リ其膝前ニ平伏叩頭シ故サヲニ罪ヲ謝スルノ狀ヲ爲
 シ之ニ謂テ曰ク豚兒大逆無道神ニ背キ大人ニ反ク既ニ大人ノ兒ニ

非ザルナリ而シテ猶此ニ至ル所以ハ唯幸ニ大人ノ愛顧ヲ得テ再ヒ
 膝下ニ侍スルコトヲ願フノミ國ヲ望ミ地ヲ乞フガ如キハ實ニ豚兒
 ノ敢テ爲ス所ニアラズトルルーイス齡既ニ老テ慈愛ノ心禁ズルコト
 能ハズロテールヲ抱キ全ク其罪ヲ宥メ遂ニ改メテ帝國ヲ兩分シロ
 テールトチャルレスニ各其一ヲ與ヘルルーイスニハ地ヲ與ヘザリ
 シカバルーイスハ父ノ無道ヲ怒リ再ヒ兵ヲ舉ゲテ父ヲ討タントテ
 進ミケレバ父モ亦兵ヲ集メ人面獸心ノ子ヲ征セントテライン河畔
 ニ至リシガ劇疾ニ罹リテ進ミ得ス因リテ命ジテマエンスノ近傍ナ
 ルライン河中ノ小嶼ニ於テ嘗テ山野ニ獵セシトキ止宿セシ所ノ茅
 屋ニ傲ヒ木葉ヲ集メテ小屋ヲ作ラシメ床ニ臥シテ流聲ノ淙々トシ

ア音楽ヲ奏スルガ如クナルヲ聞キ將ニ終ニ臨マントセシカバ側ニ
 侍シテ葬事ヲ司レル僧徒等皆其子ノ罪ヲ宥メンコトヲ諭セシニル
 ーイス之ニ答テ曰ク今我兒來リテ罪ヲ我ニ謝スルコト能ハズト雖
 モ我固ヨリ吾道ヲ尽サズンバアラズ我今皇天及ビ諸卿等ノ目前ニ
 於テ尽ク兒ノ罪ヲ宥メン唯我死スルノ後卿等必ス兒ヲ戒メテ言ヘ
 汝能ク乃父ヲシテ白髮蕭落シテ地下ニ趣カシメ又能ク神ノ明威ヲ
 冒シ其嚴命ニ背キタリト此後言辭分明ナラズ嗾語ノ如クニシテ遂
 ニ瞑セリ從者或ハ教法ニ惑ヒ此時惡鬼來リテルーイスノ床頭ニ顯
 ハレシ故ニ之ヲ追ハントア斯克嚙語ノ如キコトヲ爲セルナリト云
 ヒシ者アリルーイス久レク國亂ヲ釀成シ其子ヲ以テ敵トナシ身困

ミ民哀ミシガ在位二十七年在世六十三年紀元八百四十年ニ至リテ
 斯ル死ヲ遂ゲメツツノ寺院ニ於テ母ノ墓側ニ葬ラレケリ蓋シルー
 イス性遠慮ナク人毎ニ之ヲ喜バシメント欲シ甲ニ聽ルセシコト亦
 之ヲ乙ニ聽ルシ遂ニ一人ヲ喜バシムルコト能ハズ是レ其短ナリシ
 所ナリ

斯テケヤルレスハルーイストカヲ合セ兵ヲ舉ケテロタールトボル
 ゴンデーノフオンテターニ鏖戦シ兩軍死セル者十万人遂ニロター
 ルヲ破リシガ八百四十三年兄弟三人皆ロルレーンノヴオルダンニ
 會シ相約シテシャルレマンノ帝國ヲ三分シテ各其一ヲ有テ長兄ロ
 タールハ伊太利ヘルヴエシヤ及ビライン河西ノ地ヲ得テ帝號ヲ稱

ス此河西ノ地ヲ名ツケテコロレーント云ヘリロテールノ領地ノ義ナリチャルレスハコロレーンヲ除キ佛蘭西全國ヲ受ケ王號ヲ稱セリルーイスハ日耳曼全國ヲ領シ亦王號ヲ稱セリルーイス號シテゼルマント云ヒチャルレス號シテポールドト云ヘリ嗚呼シャルレマシノ畢生ノ精力ヲ尽シテ大國ヲ統一セリト雖モ斯ク分裂シテ各、一個ノ國ヲ爲シ其統一ノ跡存セシハ唯、ロテールノ帝號ヲ襲ヘルノミニシテ其實ニ至リテハ各、獨立ノ勢ヲナセリ但シ、コロレーンハ後他國ニ併セラレシコトアリシカド佛蘭西ト日耳曼トハチャルレス、ファットノ在位暫時ノ間ヲ除クノ外此時ヨリ今ニ至ルマデ全ク別國ヲ爲シタリ

附錄第七篇

ルーイス、デボンナイルソイソンスニ於テ謝罪ノ式ヲ行フ事

ルーイスノ諸子父ニ反キシトキ群臣等諸子ヲ助ケントテ帝ヲ棄テ去リシ地ハコルマルノ野ニ在リ因リテ爾來此地ヲ名ツケテベルザユールル、ホールドト稱ス背盟地ノ義ナリ此時猶ルーイスニ從ヘル近臣數人アリシガルーイスハ更ニ反者ヲ怨ル色ナク此數人ニ諭シテ行テ反者ニ與セシメテ曰ク卿等モ行テ我兒ニ從フベシ若シ卿等我ニ事ヘ之ガ爲ニ或ハ命ヲ落シ或ハ四肢ヲ損傷スルコトアラバ我レ罪ヲ天ニ得ル所少カラズト聞ク者皆涕泣セザルハナカリキ然レ

トモ此辭ニ因リテ近臣等ハ遂ニ之ヲ執ヘテ諸子ノ所ニ至リシカハ諸子乃チ之ヲソイソンスニ送り庵寺ニ於テ其謝罪ノ式ヲ行ヒ其甲冑外套ヲ脱シ粗布床ニ平伏シ其諸子及ヒ怨人ノ書キタル罪謝狀ヲ朗讀シ其職ヲ辱メ神ヲ汚シ教ニ戻リ盟ニ背キ亂ヲ醸シ遂ニ其諸子ト兵ヲ交フルニ至リシコトヲ陳ベシメ既ニシテレームスノ大僧正其他三十人ノ僧正送ニ手ヲ其頭ニ當テ懲罪ノ神歌ヲ唱ヒシニロテールハ帝椅ニ凭リ其父ノ辱ヲ受クルヲ觀テ大ニ喜悅ノ眉ヲ開キタリ又レームスノ大僧正ハ素ト草莽ニ生レ嘗テルーイスノ力ニ依リテ此高位ニ登レル者ナリシトゾ

第八篇

ルーイス、ゼルマンチャルレス、ファットブルノルフルーイス、サヤイルドコンラド一世ノ事

ルーイス、ゼルマン既ニ日耳曼ヲ受ケテ其位ニ登リシ後久シカラズシテノルスマント云ヘル種族アリ日耳曼ノ境ヲ侵セリ此種族ハ専ラ海賊ヲ以テ業トナシ其酋長多クハ定リタル田邑ヲモ有セス常ニ快船數隻ヲ以テ日耳曼佛蘭西ノ沿海ヲ巡航シ其村落ヲ侵掠シ又脚艇ニ駕シ河流ニ沂リテ深ク内地ニ入り堅城ヲ拔キ都市ヲ掠メ屢内地ノ大軍ヲ破リ若シ戦利アラザレバ直ニ退キテ脚艇ニ駕シ輕捷快駛瞬間ニ外洋ニ出デ疾速ニシテ追躡スベカラズ日耳曼佛蘭西ノ兩國日ニ其害ヲ蒙リ人民恐怖セザルハナカリキサレバ此頃日耳曼

寺院ノ禮拜文ニノルスマンヲ掃攘センコトヲ祈願スル語ヲ加ヘテ
 曰ク「エ、フロン、ノルトマンノルム、リベラ、ノス、ドミチ」ト是レ明神
 ノルスマンノ殘暴ヲ防キ給ヘト云フ意ナリ初メシャルレマンライ
 ン河上ノインゼルヘームニ在リシトキ宮窓ヨリノルスマンノ狀貌
 ヲ觀テ其猖獗ノ兆ヲ察シ后世必ス國患ヲ爲サンコトヲ豫言セシガ
 果シテ其言ノ如クナリキノルスマン毎歲フリスランドヲ侵シ其酋
 長ノ一人ロルト云フ者佛蘭西ノ北部ヲ畧シ遂ニ國ヲ建テノルマ
 ンデートト稱シタリ又日耳曼ノ内地ハスクラボニヤンノ患アリケレ
 トモ諸侯ヲシテ之ヲ鎮壓セシメ其猖獗ヲ止メシガ撒遜スリンデヤ
 兩州ノ民專ラコヽニスクラボニヤント兵ヲ構ヘ大ニ之ガ爲ニ破ラ

レシカバ其妻等皆怒リ各々夫ノ歸ルヲ待ナテ之ヲ打ナケルトゾ
 八百七十六年ルーイス、ゼルマン死セリ三子アリルーイス、カルロ
 マン、チャルレスト云ヘリ此三子父ノ喪ニ當リテ叔父佛蘭西王チャ
 ルレスポールドト伊太利帝ロテールノ後ヲ爭ヒ兵ヲ擧ケテ之ヲ伐
 ナライン河上ノブन्दルナツクニ戰ヒテ大ニ之ヲ破レリ後ルーイ
 ス、カルロマン二人死シ皆嫡子ナカリシカバ獨リチャルレス末弟ヲ
 以テ日耳曼ロルレーンノ兩國ヲ併セシカ此頃佛蘭西王チャルレス、
 シンブル年猶幼カリシニノルスマンノ猖獗益甚シカリシカバ其
 民皆幼稚ノ君ヲ悅バズ八百八十四年遂ニ日耳曼王ニ詣リ兼テ佛蘭
 西王タランコトヲ乞ヒレニ日耳曼王之ヲ聽シ佛日兩國再ビ一君ヲ

奉スルニ至レリ尋テ日耳曼王丁抹ノ酋長ゴットフレー(丁抹人ハノルスマンノ一ナリ)ヲフリスマンヤ侯ニ封シ後欺テ之ヲ死ニ陷レケレバノルスマン大ニ忿怒シ大舉シテ之ヲ攻ム日耳曼王大ニ懼レ鉅萬ノ金ヲ以テ蕃賊ニ賂ヒ之ヲ縱シテ巴勒ニ入りセーン河ヲ航セシムルコトヲ約シ辛ウジテ講和ヲ得國辱ヲ重テケレバ佛蘭西人全ク其望ヲ失ヒレノミナラズ日耳曼人ト雖モ皆其怯ヲ惡ミ兩國ノ人民遂ニライン河上ノオッペンヘームノ傍トライブルニ會シテヤルレスヲ以テ君主ノ器ニアラズト爲シテ廢シケルガ後二年ニシテ死セリテヤルレスノ號ヲファットト云ヘリ肥大ノ義ナリ斯テ佛蘭西日耳曼長ク兩國ニ分レ各其王ヲ選ビ八百八十八年日耳曼ハカ

ルロマン(ルーイスゼルマンノ長子)ノ庶子アルノルフヲ立テタリアルノルフ位ニ即クヤ直ニノルスマント戰ヒテ大ニ之ヲ破リケレバノルスマンハ爾後再ビライン河畔ヲ窺フノ心ヲ絶テ唯佛蘭西西部ノ沿海ヲ侵掠センノミ此時ニ當リテ一個ノ種族アリテバンノニヤニ入タリバンノニヤハ昔者ロンバルヅアブルスノ兩蕃相繼テ領セシ所ナリ此種族自ラ呼テマヂヤルスト云ヒ日耳曼人ハ之ヲ名ツケテホンガリヤンス(即チ匈奴)ト云ヘリ蓋シ古匈奴ノ子孫ナリト思ヒシ故ナリホンガリヤンハ猶外教ヲ奉シ身材矮小容貌穢惡怖ルヘク鳩舌急口其言語解スベカラヌ又烹飪ノ法ヲ知ラス其食フ所ノ肉ハ之ヲ騎者ノ鞍上ニ插ミ數時間驅馳シテ股ト鞍トヲ以テ揩擦シ

漸ク柔カナルニ及ヒテ之ヲ食ヒ牛酪及ビ蜜酪ヲ飲ム且古史ノ記スル所或ハ疑フベシト雖モ往々敵ノ心血ヲ掬レテ之ヲ啜リシト云フ初メ東帝レオ匈才利人ト戰ヒシトキ援テホンガリヤンスニ乞ヒ遂ニ之ヲ引キテ其國ニ入ラシメンガ後漸ク西ニ進ミ遂ニパンノニヤニ來リシニ此頃日耳曼王アルノルフモラヴィヤ王ズウヰンテバルトト隙アリケレバ亦之ト約ヲ結ビテ其軍ヲ助ケシメタリ

此頃伊太利ノ帝位ロンバルターノ王位共ニ其主ナク諸侯各々之ヲ爭ヒシカバ八百九十四年アルノルフ法王ノ招ニ由リ兵ヲ率ヰテ伊太利ニ入りベルガモヲ圍ミ急ニ攻メテ之ヲ拔キケルガ佛蘭西王ノ日耳曼ニ兵ヲ出スト聞キ之ヲ禦ガントテ兵ヲ退ケシガ八百九十六

年再ビ亞爾伯山ヲ踰エ進ミテ羅馬ニ至リレニ都人市門ヲ閉ヂテ之ヲ入レザリシカバアルノルフ力ヲ尽シテ屢々之ヲ攻メシガトモ拔クコト能ハズ困リテ兵ヲ退ケントテ既ニ其準備ヲ爲シケルニ守兵之ヲ見テ罵詈ヲ極メケレバ日耳曼ノ兵慚志ニ堪ヘズ大ニ奮激シテ之ヲ攻メシニ守兵支フルコト能ハズ市門遂ニ破レケレバアルノルフ意氣揚々トシテ羅馬ニ入りシニ法王親ヲ冠テ捧ゲテ之ニ授ケタリ八百九十九年アルノルフ毒ニ中リ荏苒愈エズシテ死セリ(十一月或ハ十二月)時人皆伊太利人ノ所爲ナリト云ヘリ壯麗ノ式ヲ以テ之ヲヲナスボンノ「セントインメラシ」寺ニ葬レリ百姓皆哀慕セザルハナク就中僧徒ノ慟哭最モ甚シカリキ蓋シアルノルフハ生時

ニ厚ク僧徒ニ施シ、故ナリ

アルノルフ既ニ死シ衆皆嗣子ヲ選ビソノ幼兒ルーイスヲ立ツサキ
ソシ侯オソマエンスノ大僧正ハット共ニ之ヲ抱キテ位ニ登ラシメ
タリルーイス甫テ六歳號シテチャイルドト云ヘリ孩兒ノ意ナリサ
レバルーイス名ハ帝タリト雖モ萬機ノ政一切オソトハットトニ決
セリバンボルグノアダルベルトハ管テノルマンスタ禦キシ人ナリ
シガ其族人ト共ニルーイスノ即位ヲ非トシ兵ヲ舉ケテ之ヲ拒ミシ
ガ後ハットノ謀ニ陥リ赦罪ノ約ヲ信ワ全國會議ニ出デ遂ニ刎首セ
ラレタリ日耳曼ノ人民大ニハットトノ奸計ヲ惡ミシカハ全國ノ俚謠
皆之ヲ刺誹セザルハナカリキハットトノ天譴ヲ蒙リテ死セシ稗説ハ

ライン河畔ノ「モーセンスルム」(未ダ詳ナラズ)ヲ見シ者ノ能ク知
レルガ如ク凶年ニ値ヒ農者饑餓シハットトノ門ニ集リテ食ヲ求メシ
ニハットト命シテ之ヲ小舎中ニ閉ヂ火ヲ放テ之ヲ燒殺セシガ殘灰中
無算ノ鼠ヲ生シ此鼠終ニハットトヲ食ヒ尽セリト云フ此時ホンガリ
ヤンス類ニ諸所ヲ侵掠シ日耳曼人百方之ヲ防グト雖モ禁ズルコト
能ハズホンガリヤンハ皆死ヲ恐レズ衝突猛銳ニシテ其鋒當リ難ク
快馬ニ騎リ神速飛ブガ如ク之ヲ追ヒテ及ブコト能ハザリケレバ日
耳曼人皆恐レテ魔鬼ナリト思ヘリ且ホンガリヤン捕虜ヲ待スルニ
極メテ殘酷ナリ女囚ハ其髮ヲ以テ之ヲ束テ集メテホンガリーニ送
致セリルーイス、チャイルド深ク之ヲ傷ミホンガリヤン二十年間貢

税ヲ納レンコトヲ約シ大ニ日耳曼國ノ辱ヲ貽レケレバ人民皆之ヲ憂ヒ寺院ノ講坐ニ於テ公然ト君主幼稚國步多難ナリト説キケリ九百十一年幼主狂ヲ發シテ死ス是ニ於テカルロヴ非ニザヤンノ子孫ノ日耳曼ニ王ダリシ者全ク絶エタリ

ルーイス、チャイルド既ニ死シ人民直ニフランニンヤ侯コンラツトヲ選ヒテ之ヲ立テシガ在位六年ノ間國家驕擾枕ヲ高クスルコトヲ得ス其死スルヤ嗣子ナカリシカハ衆皆サキノニーノヘンリーニ非ザレバ驕亂ヲ鎮制スベキ者ナシトテ之ヲ立テ位ヲ繼シメタリ

附錄 第八篇

僞律ノ事 法王デーモンノ事

聖僧ボニフエースノ時ヨリライン河上ノマエンスト羅馬ト頻ニ往來スルコトナリシカバマエンスノ僧徒ノ學術大ニ開ケシガ八百年代ノ半ニ當リテ日耳曼ノ下等僧徒ベテダクト、レヴキダト云フ者法王ノ布令ヲ編纂スルヲ名トシ故サヲニ法王ヲ寺院ノ檀制君主トナシ一般宗門議院ニ於テ專斷ノ權ヲ有シ諸僧正ヲ黜陟シ寺院事務ノ全權ヲ掌握スル者トナシ且詐僞ヲ覆ハン爲ニ此律令ハ日耳曼諸帝ノ未ダ政權ヲ得ザルニ及ヒテ六百年代ニ西班牙ノ聖僧イシドールノ耶蘇教諸國ニ頒布セシ所ニシテ其權利遙ニ諸帝ノ上ニ在リト唱ヘレニ時ノ法王ニコラス一世其僞ヲ知ラザルニハアラザリシカトモ其性名利ヲ好ミケレバ知ラザルガ如クナシテ其眞確ヲ保證シ之

ヲ探リテ其威權ヲ逞クスル器具トナセリ
 又マエンスノ地ハ法王デューンヲ出シ、ニ由リテ大ニ其名ヲ著ハ
 セリ世人皆デューンハ女子ニシテ幼キヨリ佯リテ男子ノ扮装ヲ爲
 シ務メテ其女子タルコトヲ覆ヒ八百五十五年遂ニ法王トナレリト
 思ヘリ然レトモ是レ全ク後ノ稗史家者流捏造ノ言ニシテ當時ノ法
 王ノ柔情ヲ狀セントテ斯クハ言ヒシナリ然レトモ宗門改正ノ前ハ
 羅馬教ノ人ト雖モ之ヲ信シシューンナノ寺院ニハ法王デューンノ尙
 像ヲ置キタリ又ルーサルノ羅馬ニ行キシ時一街頭ニデューンノ尙
 像ヲ見シトゾ

第九篇

ヘンリー一世ノ事

ヘンリー一世ハ日耳曼ノサキソン王統ノ祖ナリ稱ニ先王コンラド
 ノ兄弟イメルハードノ率ヲタルフランコニヤノ兵トナルセボルグ
 ニ戰ヒテ大ニ之ヲ破リ殺傷無算遂ニサキソンヲシテフランコニヤ
 ナ壓制スルニ至ラシム是ニ由リテ大ニ名ヲ當世ニ得タリコンラド
 ノ死シヤイメルハード使ヲ遣シ、ニヘンリーハ時ニハルツ山上ニ
 在リテ游獵セシガ乃チ使ヲ此ニ延テ之ニ接セリ因リテ後號シテフ
 アオレルト稱セリ獵鳥者ノ義ナリヘンリー此報ヲ聞クヤ乃チフワ
 ンコニヤサキソニ兩國ノ豪族ヲ集メテ後嗣ヲ議セシニ豪族皆ヘ
 ンリーヲ推シ古禮ニ依リ之ヲ楯上ニ載セテ其位ニ即カシメマエシ

スノ大僧正ハ神油ヲ執リテ祝祓ヲ行ハントセシニヘンリー之ヲ辭シテ曰ク我明神ノ威靈ニ依リテ國人ノ選擇ニ當リ日耳曼ノ太政ヲ攝スル是我分ノ尽ル所ナリ夫ノ神油ノ如キハ宜シク之ヲ貯ヘ盛徳ノ人ノ我ニ代ルヲ待テ更ニ祝祓ヲ行フベシト

初メシャルレマン畢生ノ心力ヲ尽シ諸侯ノ驕肆ヲ抑ヘケルガ其子孫ノ時ニ至リテ皆外夷ノ掠奪ヲ畏レ諸侯ヲシテ之ヲ防ガシメント欲シ舊時ニ比スレバ更ニ其威權ヲ増ス九百年ニ至リハヴリヤニ一侯ヲ封シテ匈牙利人ノ侵掠ヲ禦ガシメサキソニーハ日耳曼中最モ丁抹人ノ爲ニ苦ミケルガ此州ニモ亦一侯ヲ置テ之ヲ守ラシメフランコニヤロルレーンノ兩州ニモ亦各一侯ヲ置キ又スワビヤニハシ

ヤルレマンノ時知事兩員ヲ置キシガ後亦獨裁ノ威權ヲ僭シ帝使ノ名稱ヲ以テ横ニ政務ヲ行ヒ更ニ他州ノ諸侯ニ異ナルコト無カリケレバ日耳曼全國遂ニ五部ニ分レ曰クサキソニースリンザヤ曰クフランコニヤラインメインノ兩河畔ヲ包括ス曰クスワビヤライン河ヨリレツナ河ニ連ナル曰クバヴリヤレツナ河ヨリ匈牙利ノ境ニ至ル曰クロルレーン此時佛蘭西ト相通シ其援ヲ得タリ斯克各部皆割據ノ勢ヲ爲シ王室ノ衰微ニ乘シ公然其命ヲ拒ミ動モスレバ之ヲ窺フノ志アリ此時ヘンリー位ニ即キサキソニーフランコニヤハ之ヲ助ケシカトモスワビバヴリヤハ即位ノ會ニ列ラス猶之ヲ拒ミケルガヘンリーハ更ニ之ヲ意トナサズ誓テ諸侯ノ驕肆ヲ止メ匈牙利

人丁抹人等ノ猖獗ヲ制シ狂測ヲ既ニ倒レタルニ回シ大厦ヲ既ニ傾キタルニ支ヘント欲シ專ラ力ヲ此ニ尽シケリ

ヘンリー一性周密ニシテ事ヲ慮スルニ先後ノ序ヲ知レリ乃チ逐次國患ヲ除カント欲シ先ツ諸侯ノ小弱ナル者ヲ倒シ是ニ由リテ國民ノ元氣ヲ復シ挺ヲ製シテ大敵ヲ撻ツベカラシメ以テ遂ニ強大ノ諸侯ニ及サント謀リ先ツ兵ヲスワビヤノ知事ニ加ヘシニ刃ニ血ヌラズシテ服シケレバ乃チ進ミテバヴリヤ侯アルノルフヲ伐ナシニアルノルフハ既ニラナスボン府ニ入り壁ヲ堅クシテ之ヲ守リシガ城外ニ於テヘンリー一ト接見スルコトニ決シケレバアルノルフハ甲冑ヲ着ケ壯士一隊ヲ率井テ出デレニヘンリー一ハ兵器ヲモ帶ビズ唯從者

一人ヲ携ヘテ之ニ會シケレバ叛臣アルノルフモ之ヲ見テ大ニ其己ヲ疑ハザルニ感シ忽チ中心ヨリ之ニ服シケルニヘンリー一之ニ接シテ苟モ日耳曼人ノ名ヲ聞ス者ハ宜シク父母ノ國ヲ護リ其威ヲ張リ其名ヲ輝ヤカシ一身ノ榮利ヲ擲テ衆庶ノ安全ヲ謀ルベシト切ニ國民ノ本分ヲ諭シケレバアルノルフ之ヲ聞テ覺エス涕泣シヘンリー一ノ足下ニ叩頭シテ其罪ヲ謝シ永ク其臣屬タランコトヲ乞ヒニケリ是ニ於テ日耳曼全國尽クヘンリー一ニ歸降シ餘ス所ハ唯々ロルレーンノ一州ノミナリシガ是亦禍福ヲ以テ之ヲ諭シケレバ速ニ佛蘭西王ト交テ絶チ日耳曼王ノ臣屬トソナリニケル

斯テヘンリー一ハ既ニ諸侯ノ驕横ナル者ヲ制シ政權ヲ一途ニ歸セシ

メシカバ諸侯ニ親戚相會シテ同盟ヲ爲スコトヲ許シ之ヲ以テソノ
 心ヲ恬リ又ソノ再ビ横肆ナランコトヲ恐レ侯國毎ニ必スカオント
 バラテン(前卷ニ記スル所ノ「バルズグラフ」ニ同シ)即チ王家ノ地
 チ守リ詔ヲ聞ク官一員ヲ置キ王家直隸ノ地ヲ管轄シ王ニ代リテ
 區内ノ爭訟ヲ聽斷シ且諸侯ノ動靜ヲ監視セシメタリヘンリー既ニ
 此制ヲ定メ乃チホンガリヤンスヲ伐チ散兵ヲ以テ其王ヲ捕ヘケル
 ガホンガリヤンスノ乞ニ由リテ之ヲ放チ且毎歲之ニ貢稅ヲ納レ九
 年間ノ休戰ヲ約シ休戰ノ間專ラ兵備ヲ修メ期滿レバ乃チ敵ニ應ゼ
 ント謀リタリ

匈牙利人ハ專ラ騎兵ヲ用井シニ由リテ日耳曼モ亦之ヲ備ヘザルコ

トヲ得ザリケレバヘンリー尤モ意ヲ此ニ注キ凡ソ人民ノ其産能ク
 馬ヲ畜フニ足ル者ハ日ヲ期シテ相會シ騎兵ノ操練ヲ演習スベシト
 令シタリ是則チ「トールナメント」(比武)ノ初ニシテ豪家ノ婦女此
 會ニ群集シ諸士ノ技ヲ角スルヲ觀テ剛勇技巧衆ニ秀ル者アレバ紅
 願笑ヲ含ミ愛戀ノ狀ヲ爲シテ其技ヲ稱讚セリ又シャルレマンノ死
 後兵備盡ク弛ミ歩兵ト雖モ亦別ニ制ヲ設ケテ訓練セスンハアルベ
 カラザリシカバヘンリー乃チ台ヲ下シテ男兒齡十三ニ及ベバ必ス
 皆兵器ヲ帶ビ之ヲ用井ルノ法ヲ學バシメタリ又嚮ニ日耳曼ノ匈牙
 利人等ノ害ヲ蒙リシハ專ラ城砦ニ乏キニ由レリ日耳曼人ハ劍ヲ以
 テ敵ヲ斬リ楯ヲ以テ之ヲ防グコトヲ除ク外一切防禦ノ術ヲ爲スコ

トテ耻ヂ城砦ト云フベキ者ハ其數僅々ノミニシテ此城砦ト雖モ皆
 既ニ頽崩ニ属シテ其用ニ供スベカラズ若シ嚮ニ日耳曼人ヲシテ多
 ク城砦ヲ築キ之ヲ以テ其市府ヲ護リ外夷ノ侵掠スルニ當リテ退テ
 其内ニ入り其安ヲ謀ラシメバ其害ヲ蒙リシコト豈此ノ如ク甚シカ
 ワンヤヘンリー之ヲ知り乃チ廢砦ヲ修シ新城ヲ起シ諸市府ヲ防禦
 シ罪囚ヲ以テ守兵トナシ其勤勞ヲ視テ其罪ヲ免サンコトヲ約シ又
 全國九男毎ニ一丁ヲ取り之ヲシテ耕耘ヲ廢シテ城砦ヲ守ワシメ農
 産ノ三分ノ一ヲ城砦ニ收メ之ヲ以テ其守兵ニ給ス且不虞ノ侵掠ヲ
 慮リ令テ發シテ凡ソ開市婚禮禮拜聽訟等ノ事ハ皆郭内ニ於テ之ヲ
 行ハシメケルニ人民モ漸ク郭内ニ住スレバ難ヲ蒙ラザルコトヲ知

リ皆爭ヒテ其内ニ集リ或ハ産テ其近傍ニ起シ紛急此ニ逃レンコト
 チ謀レリ斯テ兵備既ニ完固ニ至リケレバヘンリー乃チ匈牙利人ヲ
 討タント欲シ休戦ノ期將ニ滿ントスルニ及テ貢税トシテ疥癬ヲ患
 ヒタル犬一頭ヲ之ニ送り且曰ク我ノ汝ニ與フベキ者唯此犬アルノ
 ミ今ヨリ後更ニ與フベキ者ナシト(犬ヲ送りシコトハ世ニ傳フル
 所ナレトモ頗ル信シ難シ)

翌九百三十三年匈牙利人兵ヲ二軍ニ分テ道ヲ異ニシテ日耳曼ニ入
 リケレハヘンリーサキソニーノ兵ヲシテ其一軍ニ當ラシメ親ヲ兵
 チ率テ其一軍ヲセール河上ノキュースクホルクニ邀ヘ將ニ之ヲ
 撃タントセンニ匈牙利人ノ一軍既ニソन्दルシローセンニ於テテ

キユーニーノ兵ニ破ラレ其報キユーニスクボルグニ達セシカバ匈牙利人ハ敗散ノ兵ヲ集メントテ諸所ノ小山ニ登リ烽火ヲ以テ號ヲナレケルニヘンリーハ之ヲ見テ令テ發シテ三軍ヲ鼓舞シ天使ミチユーノ肖像ヲ畫キタル牙旗ヲ陣頭ニ押シ立テ進ミテ匈牙利人ノ軍ヲ撃ツ日耳曼ノ兵ハ「カイリー、イレ―ション」(神慈ヲ祈願ス)ト大喝シ敵兵ハ唳々ト叫呼シ血ヲ流シテ鏖戦シケルガ匈牙利人ノ軍遂ニ大ニ敗レ死者無算其死セサル者ハ悉ク走り竟ニキユーニスクボルグノ邊ニ一人ノ匈牙利人ヲ見ザリキ是ニ於テヘンリー三軍ト共ニ跪テ天神ヲ拜シ其加護ノ大恩ヲ謝セリキユーニスクボルグノ民今ニ至リテ猶此戰日ヲ祝スト云フ

キユーニスクボルグノ戰ノ後三年即チ九百三十六年ヘンリー齡六十歳ニシテスリンヂヤノメムレベンニ死セリ三子アリ長子ヲオソト云ヘリ父ノ猶世ニ在リシトキ會議ヲ開キ擇ヒテ嗣子ト爲シ、ガ是ニ於テ位ニ即ケリヘンリーハ性善良ナリ病既ニ革ナリシトキ自ラ死ノ近キコトヲ知り其妃ヲ召シテ之ニ謂テ曰ク我他人ノ婦ヲ見ルニ神ヲ信スルコト汝ガ如クナル者ナシ我怒レハ汝能ク諍ケ我謀レバ汝能ク贊ケ我曲ナレバ汝能ク規シ遂ニ我ヲシテ直ナラシメ我暴ナレバ汝能ク諫メ遂ニ我ヲシテ仁ナラシム我大ニ汝ニ謝ス我若シ汝ニ後レテ死セバ誰カ能ク我ヲ教フル者ゾ我今汝ニ先テ死ス何ノ幸カ之ニ過キン我大ニ耶蘇基督ニ謝ス我今吾魂魄ヲ捧ゲテ獨尊獨

妙ノ神及ビ其選民(法教ノ語神ノ選擇ヲ受ケテ天堂ニ登ルベキ者)
ニ薦メ并セテ汝及ビ我諸子ヲ薦ムト又ヘンリーノ銘ニ曰ク「アド、
ヴキンダクダム、ターダス、アド、ベチヒセンシヤム、ヴエロキス」ト怨
ヲ報ニルハ緩ヲ貴ビ恩ヲ施スハ急ヲ貴フト云フ意ナリ

第十篇

オソ大王ノ事

ヘンリーノ長子オソハ父ノ死セシ時二十四歳ナリ是ヨリ先既ニ議
院ノ選擇ヲ受ケ位ヲ嗣グベキニ定マリシカドモ衆人皆再ビ會議ヲ
開キ更ニ公選ニ當ルニアラサレバ祝祓ヲ受ケ位ニ即クベカラズト
言ヒ乃チエーズ、ラ、シヤベルニ於テ會議ヲ開キシニ全國ノ侯伯ヨ

リ大僧正僧正其他平民ニ至ルマデ皆先王ヘンリーノ威徳ヲ追慕シ
國家ノ幸福ヲ賀セントテ相争ヒテ此ニ集リ嗣王ノ儀衛ニ跟随シテ
教師ノ會堂ニ至リ此所ニテ諸貴族先ツ誓ヲ取り巨鵬ノ禮ヲ行ヒ又
進ミテ寺院ニ至リシニマエンスノ大僧正王ヲ門頭ニ迎ヘ之ヲ延イ
テ本寺ニ入り其廻廊内衆ノ最モ望見シ易キ所ニ就カシメ大僧正聲
ヲ高クシ衆ニ謂テ曰ク今王先王ノ薦ニ由リ神明ノ命ニ應シ全國華
族ノ選ニ當リ汝ノ王ト爲レリ汝之ヲ善シトセバ右手ヲ揚クベシト
是ニ於テ衆皆右手ヲ揚ケ歡聲ヲ發シテ其承認ヲ表セリ大僧正乃チ
王ヲ延イテ神壇ニ詣ル壇上劔外套腕飾杖笏冠ヲ置キタリ皆王者ノ
章服ナリ大僧正先ツ劔ヲ取り王ニ授ケテ曰ク此劔ヲ執リ神明ノ威

靈ニ由リ全國ノ兵士ヲ率_レテ外教ノ賊ヲ退_ケ之ヲシテ我耶蘇教國
 ナ侵サシムベカラズト次ニ外套ヲ取_リ王ニ被ラシメテ曰ク今此衣
 垂レテ地ニ至ル之ヲ以テ永ク太平ヲ保_テ地下ニ至ルマデ能ク之ヲ
 失ハザル證トナスベシト又次ニ笏ト杖トヲ捧ゲテ曰ク常ニ之ヲ携
 ヘ民ヲ視ルコト猶子ヲ視ルガ如クシ其惡キ者ハ嚴戒ヲ施シ殊ニ寡
 婦孤兒ヲ保愛スベシ是神明ノ婢僕ナリ王果シテ之ヲ能クセバ神油
 何ゾ王ノ頭ヲ被ハザルコトヲ憂ヘンヤ來世不朽ノ冠(天堂ノ冠)何
 ゾ王ノ頭ヲ飾ラザルコトヲ恐レンヤト是ニ於テ大僧正諸僧正ト共
 ニシヤルレマンノ金冠ヲ執_リ王ヲシテ之ヲ載カシメ神油ヲ以テ被
 禮ヲ行ヒ卽位ノ禮既ニ終_リテ衆皆散去シ王ハ宮殿ニ歸_リ卽位ノ宴

ヲ開キマエンスノ大僧正ト共ニ金卓ニ就キ諸貴族ハ他卓ニ就ケリ
 蓋シ此宴ノ最モ盛ナリシハ全國強大ノ諸侯ト雖モ各宮内ノ一職ヲ
 奉セシコトニテロルレーン侯ハ掌室長ノ職ヲ奉シ宴事ヲ總轄セリ
 蓋シエーズ、ラ、シヤベルノロルレーン部内ニ在ルヲ以テナリフワ
 シンコニヤ侯イヴェラードハ縫師長トナリ王ニ初着ヲ薦メスワビヤ
 侯ヘルマンハ造酒長トナリ王ニ杯ヲ獻シバヴリヤ侯ハ廐長トナリ
 廐事ヲ管セリ宴既ニ酣ナリシトキ諸高官諸貴族諸僧正ニ夫々重寶
 ヲ賜ハリテ宴ヲ終ヘタリ

オソハ斯ク壯大ノ儀式ヲ以テ卽位ノ禮ヲ行ヒシガ幾クモナクシテ
 内訌外患交_ニ起_リバヴリヤノイヴェラードハ兄ノ後ヲ嗣キ立テ侯ト

ナリケルガ臣屬ノ禮ヲ行フコトヲ欲セス又ボヘミヤ侯モ王命ヲ拒
 ミ亂ヲ謀ラント欲セリ匈牙利人ハ其數ニ乘シテ日耳曼ヲ侵サント
 欲レ既ニ其南部ニ入り進ミテ佛蘭西ノ境ヲ蹂躪セシカバ日耳曼全
 國物情洶々トシテ將ニ土崩瓦解ノ勢ニ至ラントセリ然レトモオソ
 ハ父ヘンリー及ビ衆人ノ望ニ背カズ智畧人ニ絶レケレハ乃チ自ラ
 兵ヲ率井タイヴエラードヲ擧テ大ニ之ヲ破リイヴニラードヲ廢レ
 テ其弟ヲ立テ遂ニ兵ヲ轉ロテボヘミヤヲ伐テ十四年ニシテ之ヲ降
 シ頗ル民心ヲ收メケリ然レトモオソノ最モ憂ヒシ所ハ諸侯ニアラ
 ズシテ骨肉ニアリ此頃フランコニヤ侯ロルレーン侯マエンスノ大
 僧正共ニ竊ニオソヲ廢シ其弟ヘンリーヲ立テント欲シ相議シテ曰

ク先ヅヘンリーヲシテ反セシメバ王必ス兵ヲ出シテ之ヲ伐ン是ニ
 於テフランコニヤ侯兵ヲサキソニーニ起シ其後ヲ擊タバ一擧シテ
 王ヲ擒ニスベシト乃チヘンリーヲシテ反セシメシニ王ハ果シテロ
 ルレーンニ向ヒテ之ヲ追ヒライン河ニ至リシガ直チニ兵ヲ加ヘズ
 先ヅ使ヲ遣シテ和戰何レカ欲スルヤチ問ハシメ且小船數隻ニ兵士
 殆ド百人ヲ載セ河外ニ送ラントテ既ニ河中ニ浮ビケルガ使者歸リ
 來リテ反者戰ヲ欲シ王師ヲ拒ムト告クレバオソハ河中ノ兵士ノ之
 チ知ラズシテ河外ニ達シ遂ニ敵ノ爲ニ殘殺セラレンコトヲ恐レ大
 ニ之ヲ悔イケレモ今ハ如何トモ爲スヘカワズ神力ヲ借ルヨリ外ニ
 策ナレト思ヒ乃チ祈願シテ曰ク臣不徳ノ身ヲ以テ神明ノ選ニ當リ

敢テ日耳曼人民ノ王トナレリ今人民ヲシテ敵手ニ陥ラシメントス
臣ガ進退實ニ此ニ谷マル仰キ願ハクハ神明ノ威靈ヲ以テ人民ヲ既
ニ死シタルニ援ヒ以テ神明ノ獨尊獨妙實ニ蠢爾タル人類ノ能ク抗
スベキ所ニアラザルコトヲ示シ給ハンコトヲト此事人理ヲ以テ論
ズレハ爲シ得ベキコトニアラザレトモ信神者ノ記セシ所ニ據ルニ
オソノ至誠能ク神ヲ感シ兵士既ニ河外ニ達セシニ前ニ池アリ頗ル
深ク河ト池トノ間僅ニ數步敵兵攻來ラント欲スルモ左右ノ隘口ヨ
リスル外別路ナカリケレバ乃チ此ニ陣シ池ニ面シ河ニ背シ敵ヲ左
右ノ隘口ニ防キ暫ク之ヲ支ヘシニ兵士ノ中數人竊ニ敵背ニ出テ佛
蘭西語ヲ以テ逃レヨ逃レヨト叫ビ之ヲ撃チケルニ敵ハ後ヨリ大軍

ノ攻來ルカト思ヒ隊伍ヲ亂シ先テ爭ヒテ走リ死傷無算ヘンリ一モ
輕傷ヲ蒙リケルガメルズボルグニ逃レ再ヒ反者ノ中ニ入りケリ此
時ニ當リテライン河畔ノ諸貴僧モ亦皆王ニ背キテ反者ニ與シカ
ハオソ勢大ニ局シ其危キコト累卵ノ如クナリケレバ諸將多クハ兵
ヲ退ケテ時ヲ待ツニ若カズト勸メシニオソハ斷然之ヲ拒ミテ曰ク
否ナ人誰カ死セザラン我等今此ニ死セバ是天命ノミ丈夫宜シク節
ヲ守リテ死スベシ何ゾ耻ヲ忘レテ生ヲ偷マン且丈夫ハ敵ヲ選バヌ
敵ノ弱ヲ圖リテ戰フハ兒女ノ事ノミ我唯吾名聲ヲ全クスルコトヲ
期ス兵ヲ退クルガ如キハ我が聽クベキ所ニ非ズト此時某侯其強大
ヲ挾ミオソノ危急ヲ時トシ一寺領ヲ要シ若シ聽カズンバ直ニ反者

ニ與シ益、其勢ヲ殺カンコトヲ圖シケルニオソハ更ニ愕ク色ナク
 從容トシテ之ニ答テ曰ク此危急ノ際ニ當リ我ニ地ヲ求ム是我ニ願
 フニアラズ我ヲ要セント欲スルナリ汝既ニ此ノ如シ我ニ一物ノ汝
 ニ與フベキナシ況ヤ寺領ノ豐饒ナル者ヲヤ汝若シ我ニ事フルコト
 ヲ欲セザレハ速ニ我ヲ棄テ行テ逆徒ニ與スベシ我唯其速ナランコ
 トヲ欲スルノミト某俟之ヲ聞テ自ラ措ク所ヲ知ラスオソノ足下ニ
 平伏シ承ク臣子ノ分ヲ盡サント誓ヘリ此時賊兵既ニアンデルナク
 ヨリワイン河ヲ渡リオソノ牙營ヲ襲ハントテ既ニ其近傍ニ進ミ礮
 ナ以テ卵ニ投スル勢ナリケルガ幸ニスワビヤ俟オソヲ援ハントテ
 兵ヲ率テ正ニ此ニ達シ直ニ賊ヲ徵ヘ奮戰レテ大ニ之ヲ破リ其

兩將ヲ斬リシガバ賊ハ爭ヒテ河ヲ渡リ遁レ去リケル
 斯テオソハ既ニ内賊ヲ平定シケレハ今ハ外寇ヲ攘ハントテアスクヲ
 ヲオニヤンダニスノ兩夷ヲ伐テ遂ニ之ヲシテ貢稅ヲ納レシメ稍々
 兵ヲ休メント欲セシニ此時伊太利國シヤルレマンノ族ニ王位ヲ繼
 グベキ者ナク諸侯相爭ヒ各名義ヲ唱ヘテ王位ヲ得シコトヲ謀リ
 全國分裂シ且兵馬ノ爲ニ蹂躪セワレテ鎮定セザレバ亂巳々時無キ
 勢ナリキ就中イヴレア侯ベレンガリユスハ久シク王位ヲ得ント欲
 シケレバ先王ノ寡妃アデライデニ説テ己ガ子ニ妻ハセンコトヲ謀
 リケレトモ聽カレザリシカバ大ニ怒リ遂ニ之ヲ捕ヘテラゴシガル
 タ河上ノ一城中ニ禁錮シケルニマルテント云ヘル桑門ハ德行ニシ

ヲ信ヲ重ンズル人ナリシガ寡妃ヲ授ケントテ大膽ニモ城壁ヲ穿テ
 遂ニ之ヲシテ城外ニ逃レシメシカトモアデライデハ別ニ依ルベキ
 人モトカリシカハ唯、諸所ニ漂泊シ晝ハ草中ニ伏シ夜ハ暗路ニ迷
 ヒ遂ニ一個ノ漁家ヲ得テ男子ノ扮装ヲ爲シ數日此ニ止リシニマル
 テンハ諸所ヲ巡行シ此由ヲ其黨ニ報シケレバ皆集リテ遂ニ妃ヲ奉
 シ之ヲカノッサ城ニ遷セリベレンガリユスハ之ヲ聞キ大兵ヲ率非
 テ之ヲ圍ミシカバ城中皆畏怖シ如何カ爲サント議スレトモ圍ヲ潰
 スベキ方法ナシ是ニ於テ日耳曼王オソノ援ヲ得ントテ使テ遣シテ
 寡妃ヲ納レ且伊太利ノ王位ヲ捧ゲンコトヲ乞ヒケルニオソノ先妃
 イデスハ英王イドモンドノ女ナリシガ既ニ死シテ未ダ後妃ヲ迎ヘ

ズ且伊太利ノ英國ノ王ト爲ルベケレバ何ソノ之ヲ辭スベキヤ直ニ
 之ヲ聽シ兵ヲ率テ之ニ入りベレンガリユスヲ擧テ之ヲシテカノ
 ヲサノ圍ヲ解カレメアデライデヲ携ヘ意氣揚々トシテパウイヤニ
 至リ婚禮ヲ行ヒ且自ラ伊太利王ノ位ニ即キケリ實ニ紀元九百五十
 一年ナリ

斯アオソハ少妃ヲ携ヘテ日耳曼ニ歸リ國家ノ靜謐ヲ觀テ假令不逞
 ノ徒アリトモ今ハ亂ヲ爲スニ由ナシト思ヒ大ニ其心ヲ慰メケルガ
 豈圖シヤ其子フワビヤ侯ロヨルフ父オソ叔父ヘンリーノ罪ヲ許シ
 之ヲ愛スルコト己ヲ愛スルヨリ甚ク遂ニ已レテ疏ゼンコトヲ怒リ
 遂ニ兵ヲ起シマエンスノ大僧正及ビ王ノ婿コンラウトカヲ戮セ大

逆無道ニモ父ニ向ヒテ刃ヲ執リ久シク戦ヒシガ勢漸ク索キ事ノ成
ラザルコトヲ察シ遂ニ謝罪ノ服ヲ着ケ跣足ニテ突然父ノ所ニ至リ
膝下ニ叩頭シ其罪ヲ謝セシニオソハ速ニ之ヲ免シケレトモ其國ヲ
除キ之ヲシテ兵ヲ率非テ伊太利ニ入りベレンガリユスヲ伐タシメ
タリ

九百五十五年匈牙利人大舉シテ再ビ日耳曼ヲ侵シ其兵ノ多キニ誇
リ天柱碎ケテ我軍ヲ壓シ地維斷エテ我軍ヲ陷ルニアラザレバ宇宙
廣シト雖モ我軍ヲ破ルベキ者ナシト唱ヘテオーグスボルグ府ノ側
ニ陣シタリオソハ事容易ナラズト察シ全國ノ民兵ヲ募リ防禦ノ備
ヲナシケルニ幸ニフランコニヤ侯コンラド精騎一隊ヲ率非テ來リ

助ケシカバ日耳曼ノ兵士大ニ勢ヲ得テ直ニ敵ヲ撃ント欲セシカド
モオソハ之ヲ止メ先ツ神事ヲ終ヘントテ身士卒ト共ニ聖餐ヲ喫ス
此日ハ八月十日ニシテ聖僧ローレンスノ祭日ナリケレバ乃チロー
レンスニ祈願シ今日ノ戦若シ利アラバメルズボルグニ於テ新ニ僧
正區一箇ヲ置ント誓ヒ又オーグスボルグノ僧正オルリクハ全軍ノ
安全ヲ祈ル禮既ニ終リシカバ乃チ戦ヲ開カントセリ此時日耳曼ノ
軍ハ匈牙利人ニ比スレバ僅少ナリト雖モ猶勇兵八大隊アリオソハ
其第五隊ニ將トシテ天使ミチエールノ肖像ヲ表シタル大牙及ビ神
戟(耶蘇ノ磔架ノ釘ヲ集メ造リシ戟ナリ或ハ曰ク耶蘇ヲ磔ニセシ
戟ナリ)ヲ押立テ侍衛兵ヲシテ之ヲ掌ワシメレツナ河上ニ陣シケ

ルニ匈牙利人ハ河ヲ渡リテ日耳曼軍ノ後ニ出テ弓手ヲ以テボヘミヤノ兵ヲ襲ヒ矢ノ降ルコト雨ノ如クナリシカバボヘミヤノ兵支ヘ得ス皆輜重ヲ捨テ、走りケルニ匈牙利人ハ盡ク之ヲ奪ヒ且多クボヘミヤノ兵ヲ捕ヘタリオソハ之ヲ見テコンラドニ命ジフワンコニヤノ騎兵ヲ率キテ之ヲ撃タシメシニコンラド命ニ應シテ直ニ進ミ奮戦シテ之ヲ走ラシメ盡ク捕囚輜重ヲ取り返セリ是ヨリ兩軍兵ヲ盡シテ戦ヒケルニオソハソノ危急ナル所ヲ巡視シ至ル所士卒ヲ鼓舞シ神出鬼没殆ド人爲ニアラザルガ如クナリシカドモ匈牙利人モ亦善ク戦ヒ久シク屈セザリシガ其兵ノ討ル、者多ク屍積テ山ヲ爲シ血ハ流レテレ、ナ河ヲシテ紅ナラシムルニ至リ遂ニ大ニ敗走セ

リ日耳曼ノ兵之ヲ追フコト兩日其諸所ノ村家ニ逃レ隠ル、ヲ見テ乃チ火ヲ放チケレバ匈牙利人ノ燒死スル者十ノ八九其酋長ノ死スル者三人匈牙利人ノ史ニ據ルニ此戦ソノ兵六万人ナリシガ生キテ家ニ歸リ敗報ヲ爲シ、者唯七人ノミ是モ亦皆鼻ヲ截ラレ耳ヲ傷ツケラレタリトサレバ日耳曼ノ兵士皆オソノ雄畧ニ感シ之ヲ國帝國父ト稱シテ大ニ祝禱セリ斯クオソハ勝利ヲ得シカドモ勇士ノ死スル者頗ル多ク損スル所モ亦少キニアラズ就中フワンコニヤ侯コンラドハ大氣ヲ吸ハントテ面申テ脱シ、トキ流矢其腦ヲ貫キテ死セリ又ラナスボンノ僧正ハ重傷ヲ蒙リ一人ノ匈牙利人其衣帯ヲ奪ハントセシニ僧正ハ拳ヲ張リテ之ヲ打倒シ遂ニ危急ヲ免レタリ此戦

ヨリ後匈牙利人大ニ日耳曼ノ兵威ヲ畏レ今ニ至ルマデ兵ヲ擧ケテ日耳曼本部ヲ侵セシコトナシ

オソ既ニ匈牙利人ヲ掃攘シケレバ日耳曼ノ外敵今ハ唯、スクラヴオニヤンノ一類ヲ餘スノミ是ニ於テメルズボルグノデットマル策ヲ獻ジテ曰クスクラヴオニヤンハ昏頑ニシテ選ルコトヲ知ラズ陛下之ヲ平定循撫セント欲セバ鞭笞ヲ以テ之ヲ撻テ乾草ヲ以テ之ニ食ハシメ恰モ驢馬ヲ御スルガ如クスメシトオソ乃チ其言ヲ用キテ其猖獗ヲ止メ遂ニ之ヲシテ開化ノ風ニ移ラシメントテオルデンボルグメーセンブレーグ其他諸所ニ僧正區ヲ開ケリ斯クスクラヴオニヤンハ全ク日耳曼ノ政令ヲ奉シ伊太利ハ臣属タル禮ヲ執リケレ

バ日耳曼全國遂ニ安全ニ歸シ君民相親ミ寺院ト王家ト相軋ルコトナク民富ミ財豊ニ且此頃ハルツ林邊ニ於テ銀坑ヲ索出シケレバ全國益富饒トゾナリニケル

前ニ記シタル如クオソノ長子ロドルフハ父ノ命ヲ奉シ兵ヲ率井テ伊太利ニ入りロンバルデー侯ベレンガリユスノ盟ニ背キ王命ヲ拒ミシ罪ヲ問ヒ屢、之ヲ破リ之ヲ剝滅センコト既ニ近ニ在リケルガ風土身ニ適セズ病ニ罹リテ死シケレバベレンガリユスハ再ビ勢ヲ得己ニ從ハザル者アレバ皆加フルニ嚴刑ヲ以テセリ

然レバ伊太利ノ人民其殘暴ニ苦ミオソニ援テ乞ヘリオソ乃チ兵ヲ率井テ伊太利ニ入り向フ所前ナク進ミタバヴキヤニ至リ遂ニベレ

ンガリユスチ廢シ再ビ伊太利王ノ位ヲ兼テ遂ニバヅキヤヨリ羅馬ニ至リシニ法王ヂョーン十二世帝冠ヲ捧ゲテ之ニ與ヘタリ實ニ紀元九百六十二年ナリ

此後羅馬人ヂョーン十二世ノ驕侈ニ苦ミ之ヲ廢センコトヲ乞ヘリオソ乃ケ再ヒ羅馬ニ入りヂョーンヲ廢シレオ八世ヲ立テ之ニ代ラシメケレバレオハ合ヲ發シテオソ及ビ後ノ伊太利王タラン者ニハ法王ヲ選ビ大僧正僧正ヲ任ズル特權ヲ與フヘント定メタリ

此時伊太利ノ南部獨リ東帝國ニ屬シタリオソハ之ヲ得ント思ヒシカドモ兵力ヲ以テ畧取スルコトヲ欲セズ禮ヲ以テ之ヲ得ント欲シクレモラノ僧正ルイトブランドヲシテ君士但丁諾格爾ニ遣シ東帝

ニセホルスノ養女ヲ得テ己ガ幼子ニ妻ハサンコトヲ求メシニ聽レズ且ルイトブランドヨリ從者ニ至ルマデ大ニ陵辱ヲ受ケシカバ皆衣裝ヲ變シ劫掠ヲ避ケテ走り既ニ其舟ニ遠スルニ及テルイトブランドハ之ヲ祝シテ曰ク我等今反覆常ナク詐僞風ヲ爲シ誑騙俗ヲ爲シ貪婪ニシテ飽クナキ都府ヲ去ルコトヲ得タリ何ノ幸カ之ニ過ギント(僧正ノ親ヲ記スル所ナリ)其辛苦ノ狀想フベキナリサレドモ幾クモナクシテニセホルス廢セラレ嗣帝遂ニ伊太利ノ南部ヲオソニ與ヘ且其女ヲ以テオソノ幼子ニ嫁セント約シケリ

オソノ舊友ニヘルマン、ビルリント云フ者アリオソ之ヲ寵スルコト甚シク遂ニ封シテサキソニー侯ト爲セリオソ六十二歳ノ時ヘルマ

ン、ビルリシ死セリ、オソ傷悼ノ餘竟ニ病ヲ成シ、荏苒愈エズ、其死セシトキ、ムレベンノ寺院ノ壇前ニ跪キシガ、徐ニ石床ニ臥シケレバ、侍者ハ眠ニ就キシト思ヒシニ、遂ニ起キズ、實ニ紀元九百七十三年五月六日ナリ、マグデボルグノ「セントモーリス」寺内先妃英吉利女イデスノ墓側ニ葬レリ

附録第十篇

日耳曼帝號ノ事 僧正ルイトブランド君士但丁諾格爾

ニ使スル事 日耳曼國ニ於テ銀坑ヲ發見スル事

オソハ伊太利全國ヲ平定シ、其末年ニ及デ數年此地ニ止リ、其羅馬ニ在リシトキハ常ニヴザカン（羅馬法王ノ宮殿）ニ住セリ、抑、日耳曼

王ノ帝號ヲ稱セシハオソヲ以テ第一ト爲ス、其父ヘンリー及ビ先朝コンラド（シャルレマンノ子孫）ハ皆法王ヨリ帝冠ヲ受ケザリシカバ、猶唯王ト稱スルノミニシテ、未ダ帝ト稱スルコトヲ得ズ、故ニ伊太利ノ記者皆之ヲ稱シテ王ト云ヒ、日耳曼諸帝ノ中ニ列セシコト絶エテナシ、オソノ帝冠ヲ受ケシヨリ、帝王ノ分自ラ定リ、日耳曼王ノ其議院ノ選擇ヲ受ケテ、伊太利及ビ羅馬ノ王タル者ハ之ヲ稱シテ王ト云ヒ、既ニ議院ノ選擇ヲ受ケ、伊太利羅馬ノ王トナリ、又帝冠ヲ受ケタル者ハ之ヲ稱シテ帝ト云ヘリ

僧正ルイトブランド自ラ其君士但丁諾格爾ニ使セシコトヲ記シテ曰ク、我等第六月ヲ以テ君士但丁諾格爾ニ達セシニ、東帝我等ヲ優遇

レ即日衛兵ヲ與ヘ出入必ズ我等ヲ護セシメタリ翌日我等ニ謁見ヲ許セシニ由リテ乃チ宮内ニ入りテ之ニ謁セシニセホルス身材短クシテ肥ニ怡モ圓盆ノ如ク顔色醜黒長ルベシ若シ之ニ山林ニ遇ハズ人皆以テ怪物トナサン乃チ我等ニ向ヒテ曰ク卿等ノ君無狀妄ニ羅馬ニ入り其位ヲ奪ヒ其人ヲ臣トス夫ノベレンガリユスアゲルベルトハ性善良ニシテ信ヲ重ズ而シテ卿等ノ君之ヲ殺ス此兩事我ガ卿等ノ君ノ爲ニ惜ム所ナリト我等之ニ答テ曰ク羅馬ノ暴君外教ニ苦ムコト久シ故ニ我等ノ君オソ兵ヲ率非テ之ヲ誅セルノミは大ニ陛下ノ云フ所ニ異ナリ且臣等今從者寡シト雖モ亦壯士數人アリ陛下ノ死士ヲ借りテ之ト戰ハシメ能ク臣等ノ君ノ冤ヲ雪ムルモ亦難

シトスル所ニ非ラス(古代死士ヲ戰ハシメテ理非ヲ決セリ)然レトモ今臣等ノ遠ク此ニ來ル所以ハ公主セオハニヤテ得ント欲スルナリ故ニ敢テセズトニセホルス之ヲ聞テ悅バザル色アリ聲ヲ高クシテ曰ク今儀衛既ニ備ハリ我將ニ出ントス卿等暇日ヲ以テ再ヒ來ルベシ我乃卿等ト之ヲ議セント翌日宴ニ就キシニセホルスハ頻ニ日耳曼ノ兵制ヲ識リテ自ラ喜ビシガ遂ニ我等ニ向テ曰ク卿等ノ用井ル所ノ兵器重大ニシテ用ニ適セズ兵士勇ナリト雖モ亦唯酒ヲ使フノミ卿等眞ノ羅馬兵ヲ觀ント欲セバ君士但丁諾格爾ノ兵乃チ是ナリト此時ニセホルス我等ニ向ヒ其決シテ戰ヲ欲スルニアラザルコトヲ諭シ談遂ニ法教ノ事ニ及ビケルニ頗ル我等ヲ嘲ケル狀ヲ爲

シサキソニーニ於テ嘗テ宗門議院ヲ開キシコトアリヤト問井嗚呼
 是何ノ言ゾヤ夫レ病アリテ然ル後醫アリ苟モ病ナキ焉ンゾ醫ヲ用
 井シ凡ソ異端ノ起ル其源多クハ希臘(東帝國)ニ在リ是希臘教ノ屢
 宗門議院ヲ開テ之ヲ正ス所以ナリサキソニー亦嘗テ宗門議院ヲ開
 キタリソハ筆頭ヲ以テ法教ヲ説クコトヲ耻ヂ劔鋒ヲ以テ宗門ヲ廣
 ムルコトヲ貴ブ説ヲ正シ、ナリ是宗門議院ハ病害アル地ニ開クベ
 キ證ニ非ズヤニセホルス阿諛ノ臣ヲ昵ケ面從ノ人ヲ悦ビ都下市街
 汚穢ヲ極メ斷食日猶劇場ヲ開キアマルヒヴニニスノ無賴ヲ備ヒテ
 兵士トナス日耳曼四百ノ兵ヲ以テ之ニ加ヘバ其全軍ヲ殲クスモ亦
 疑フ所ニ非ザルナリト

オソノ代ハルツ諸山ニ於テ許多ノ銀坑ヲ發見セリ一日一貴人馬ヲ
 山林ニ驅リ景物ヲ觀ントテ馬ヲ止メシニ馬止ルコトヲ欲セズ類ニ
 蹄ヲ以テ地ヲ踏テ白石ヲ抉出シケレバ貴人拾ヒ取り歸リテ之ヲ驗
 セシニ乃チ銀ナリシトゾ是日耳曼ニテ銀坑ヲ得タル始ニシテ實ニ
 紀元九百三十八年ナリ

第十一篇

オソ二世オソ三世ヘンリー二世ノ事

オソ二世ハレフドト號ス赤ノ義ナリ齡十九歳ニシテ父ノ位ヲ嗣ケ
 リオソ性聰明加フルニ母アデライデノ善導ニ依リ大ニ其才識ヲ長
 スルコトヲ得タリ然レトモアデライド常ニオソニ教フルニ南國ノ

快樂ヲ以シテ因リテ之ヲ艷慕スル心ヲ生ジ遂ニ遠ク師ヲ伊太利ニ暴シ財帛ヲ費耗シ兵士ヲ亡失シ自ラ其命ヲ促スニ至レリ是日耳曼ノ毎ニ嘆スル所ナリオソ位ニ即テ未ダ一歳ナラズバヅリ一侯ヘンリ一反シケレバオソ乃チ兵ヲ率ヰテ之ヲ征シ遂ニ之ヲ捕ヘタリ翌年佛蘭西王ロターールノ弟ヤルレス兄ノ威ヲ借り兵ヲ率ヰテロルレーンヲ侵セリロターール誓テ曰ク我佛國ノ兵馬ヲシテ日耳曼全國ノ河流ヲ飲尽サシメントオソハ之ヲ聞キ亦大言シテ曰ク我軍帽ヲ以テ佛蘭西全州ヲ覆ハント是ニ於テ兩軍遂ニエーズラ、シヤベルニ會セシニ佛蘭西ノ軍既ニ其宮殿ヲ取り屋上ノ金鷲ヲ轉シテ佛蘭西ノ方ニ面セシガオソノ兵(多クサキソニー人ナリ皆甲上ニ策

帽ヲ附ク)之ヲ攻メ奮戦シテ之ヲ破リ逃グルヲ追ヒテ巴勒ニ至リ其外坊ヲ燒キタリ然レトモオソハ其拔クベカラザルコトヲ察シテヤルレスヲシテ臣屬ノ禮ヲ執ラシメ之ヲロルレーンニ封シテ兵ヲ退ケタリ

斯テオソハ心常ニ伊太利ヲ忘レズ唯彼地ニ行カンコトヲ願ヒ其機會ヲ待ナケルガ此頃羅馬人クレセンチヌス自ラコンシユル(頭領)ト稱シ法王ゴニフェース六世ヲ廢シゴニフェース七世ヲ立テシニ伊太利人猶オソノ義ヲ思フ者アリテ此廢立ヲ拒ミ別ニ法王ヲ立テタリト聞エケレバオソハ是日耳曼帝タル者ノ坐視スベキ所ニ非ズトテ直ニ羅馬ニ入り宴ヲ「セントペール」寺ノ前庭ニ開キ盡ク羅馬

ノ貴顯ヲ招キ其反兆アル者ヲ捕ヘテ盡ク之ヲ死刑ニ處シ遂ニ伊太
 利ヲ鎮定セリ稱ニ希臘帝セオハニヤノ嫁費トシテ地ヲ割キテオソ
 ニ與ヘント約シケルニ後希臘人之ヲ拒ミ約ヲ破ラント謀リシカバ
 オソ好機會ヲ得タリトテ大兵ヲ率テ直ニ伊太利ノ南部ニ入りケ
 ルガ希臘及ビサワヒン(回教人)ノ兵トカラブリヤノバサンタルロ
 ニ戰テ大ニ敗績シ許多ノ兵士ヲ失ヒ臍ヲ噬メトモ及バス帙々トシ
 テ樂マザリシガ翌九百八十三年遂ニ在位十年齡二十九ニシテ死シ
 ケリ

オソ二世ノ子ヲオソ三世ト云ヘリ生レテ三歳ニシテ父ノ位ヲ嗣キ
 祖母アデライデ母セオハニヤ之ガ傳トナリ當時ノ碩學マクテボル

グノ住持ゲルベルト之ガ師トナレリ

斯テオソ二世ノ葬事未ダ全ク終ザルニバゾリヤ侯ヘンリーハ諸華
 族必ズ己ヲ助ケント想ヒ幼帝オソヲ捕ヘテ其位ヲ篡ハントセシニ
 豈圖ランヤ華族皆我等己ニ誓テ執テオソニ臣タランコトヲ約シタ
 レバ今何ゾ之ヲ破ルベケンヤトテ之ニ應ズル者ナクメンツノ大僧
 正ウヰルリダス其巨魁トナリテヘンリーヲ征討スルニ決シケレバ
 ヘンリーハ王位ノ望絶エシノミナラズ其身ノ安危モ計リ難ク遂ニ
 幼主ヲ返シ更ニ臣屬ノ誓ヲ取りテ僅ニ其國ヲ失ハザルコトヲ得タ
 リウヰルリダスハ車匠ノ家ニ生レシガ大僧正ト爲ルニ及デ車輪ヲ
 以テ其官章トナシウヰルリダス汝ノ初生ヲ忘ル、コト勿レト銘シ

ケルトゾ

オソノ師ゲルベルトハ深ク算法物理ノ學ニ達シケルニ草昧ノ世ノ常ニテ人皆之ヲ魔道ニ通セリト思ヘリオソハ斯ル良師ノ教授ヲ受ケシカバ幼クシテ學識早ク進ミ世人賞嘆セザルハナク皆之ヲ稱シテプロデザートト云ヘリ可驚ノ意ナリ十五歳ニシテ萬機ヲ親裁シケルガ伊太利人民ニ其恩光ヲ示シ且法王ヨリ帝冠ヲ受ケントテ日耳曼ヲ發シ羅馬ニ至リシニ所在人民政テ之ニ抗スル者ナク遂ニ法王ヨリ帝冠ヲ受ケ日耳曼ニ歸ラントテ羅馬ヲ發シケルニ羅馬人法王ヲ將トシ公然反狀ヲ顯シカバオソ還リテ羅馬ニ入り法王ヲ廢シ其師ゲルベルトヲ立テ之ニ代ラシメシルヴユスタル二世ト稱セリ

クレセンタスハ初メオソニ臣屬ノ誓ヲナシカドモ此時又法王ニ與シ反者ノ中ニ在リ遂ニセントアンゼロ城ニ走り之ニ據リテオソニ抗シケレバメーセンノマルグラヴ(疆守)之ヲ圍ミ苦戰ノ後遂ニクレセンタスヲ捕テ之ヲ誅セリ

往昔紀元千年ヲ以テ世界ノ窮極ト爲スト云説アリ是時既ニ其期モ近カヽリシカバ兵士ハ日ニ禮拜ヲ行ヒ頻ニ已往ノ罪過ヲ謝シ神裁ノ日(天神善人惡人ヲ審判スル日)ニ及テ善人ノ部ニ入ランコトヲ求メ皆兵事ヲ放擲シ國家頗ル平安ナリオソハ大ニ之ヲ幸トシ波蘭ニ至リ死節者アダルベルトヲ吊ヒ之ガ爲ニ一寺ヲ建立シ乃チ日耳曼ニ歸リ又エーズラシヤベルニ至リシヤルレマンノ墓ヲ發キシニ

遺体猶帝椅ニ凭リ依然トシテ二百年前之ヲ尋リシトキノ如クナリ
 キ遂ニ轉シテ羅馬ニ至ルオソノ羅馬ニ入ル是ヲ第三次トナス蓋シ
 都ヲ遷ザント欲シテナリ然ルニ羅馬人ハ外國ノ政ヲ受クルコトヲ
 欲セズ兵ヲ擧ケテオソニ反シソノ宮ヲ圍ミ聲ヲ放テ位ヲ避ケンコ
 トヲ要シ事既ニ危急ナリケルガオソハ剛毅ニシテ事ヲ慮スルニ巧
 ナリケレバ叫呼ノ聲最モ熾ンナリレ時ニ當リ親ヲ出デ人民ニ臨ミ
 百方説諭レ喧聒ノ稍止ムニ及デ乃チ教法ニ基キ禍福ヲ以テ之ヲ
 諭シケレバ人民大ニ感悟シ直ニ其非ヲ悔イ再ビ臣屬ノ誓ヲ行ヘリ
 翌年オソ死ス其病詳ナラズ或ハ毒ニ當ルト云ヒ或ハ痘瘡ヲ患フト
 云フ痘瘡ト云フモノ蓋シ信ナルニ近シ

オソ既ニ死シテサキソン家ノ子孫殆ト絶エ其存セシ者唯ハバヴリ
 ヤノヘンリー一人ノミヘンリーノ父ヘンリーハオソノ幼キニ當リ
 テ其位ヲ篡ハンコトヲ謀リシ人ナリ是ニ至リテ子ヘンリー正統
 ノ故ヲ以テ位ニ即ント欲シケルニ之ヲ拒ム者頗ル多カリシカドモ
 遂ニ日耳曼全國ヲ平定シ千四年ロソバルデーノ王冠ヲ受ケ千十四
 年法王ノ允可ヲ得テ帝號ヲ稱シ妃クテグンダト共ニ帝冠ヲ受ケ羅
 馬ニ至ルコト前後三次ニ及ベリ然レトモ伊太利ノ人民未ダ之ニ服
 セザリシカハヘンリーノ世ヲ終ルマデ或ハ兵ヲ伊太利ニ送り或ハ
 軍ヲ波蘭ニ暴シ或ハ師ヲゴヘニヤニ出シテ戰爭止ムコトナク千二
 十四年ニ至リテ死セリヘンリー將ニ死セントセシトキ命ヲ遺シテ

フランコニヤノコンラドナレテ位ヲ嗣シムサキソン朝ノ血統此ニ至リテ全ク絶エタリヘンリーノ行狀多ク世ニ傳ハラズ其傳ハル者ハ皆僧徒ノ手ニ成レリ故ニヘンリーノ私帑ヲ以テバムベルグノ僧正區ニ寄附セシナ徳トシ聖僧ノ號ヲ與ヘテ之ヲ褒スルニ至ル蓋シ當時史筆ヲ秉ル者唯僧徒ニ止マリケレバナリ又其妃クテグンダハ信心ノ人ナリシトゾ

附錄第十一篇

九百年代法教 文學 技藝 衣服

九百年代ニ當リテ僧正皆門閥ヲ以テ其職ヲ得賢オヲ擇ビ之ニ任ズルコトナレサレバウキルリヂスノ車匠ノ子ヲ以テマエンスノ僧正

トナセルヤ時人之ヲ驚異セザルハナカリキ且僧正僧徒ノ身ヲ以テ譏ニ諸侯ノ間ニ介シ兵力ヲ以テ相軋リ門徒ノ教育ニ至リテハ措テ間ハザリケレバ人知テ開明スル所以ノ道全ク地ニ委シタリ蓋シ斯ク僧正ノ世欲ニ迷溺セシ所以ハ當時國王諸侯ノ横肆ヲ禦ガン爲ニ僧徒ノ威勢ヲ増加シ之ト相頡頏セシメシニ由リテナリサレバ當時人民昏愚ニシテ妄ニ無根ノ邪說ヲ信シ迷溺至ラザル所ナク泉路フニク消罪ノ說耳語オウゴ懺悔ノ法所在之ヲ行ハザルナク大逆無道ノ罪ト雖モ斷食謝罪述世等ノ事ヲ以テ贖フベシト思ヘリ

日耳曼國ノ學士ニ乏キコトハサキソン朝ノ時ヲ以テ最モ甚シトナス斯ル暗世ニ生レテ猶能ク文ヲ治メタル者ハ曰クワザルニーゼル

ランドニ生レシエロナノ僧正トナリ諸宗門ノ學ヲ勤メズ行ヲ脩メザルコトヲ歎シ常ニ直言シテ之ヲ正サントセシカバ時人ノ忌諱ニ觸レ遂ニ嚴刑ヲ受ケテ死セリ曰クルイトアランドクレモナノ僧正トナレリ其君士但丁諾格爾ニ使セシ紀行アリ又羅馬法王史ヲ著セリ曰クウキットキンドコルウニ一ノ人ナリ其著ス所ノサキソニー史頗ル貴重スベシ曰クデトマルメルズボルグノ僧正トナレリサキソノ朝史并ニスクラウオニヤン畧記ヲ著ハセリ蓋シ此人ハスクラヴオニヤンノ中ニ居リケル故ナリ

此數人ノ外ロスウ井サト云フ女學士アリガンデセームノ人ナリ性尋常ノ婦人ニ似ズ比丘尼トナレリ嘗テアレンスノ著シタル拉丁稗

説ノ手書一部ヲ得常ニ之ヲ日耳曼語ニ譯シテ自ヲ樂ミケリ

サキソノ講帝ノ伊太利希臘ニ通ゼシヨリ日耳曼ノ技術大ニ歩ヲ進メタリオソ二世セオハニヤヲ娶リ多ク希臘ノ技工ヲ招キケレバヘンリー二世ノ金器ヲ寺院ニ納メントキ日耳曼ニ在リシ希臘技工ヲシテ之ヲ作ラシメタリ此金器ノ中最モ壯麗ナリレハバールノ寺院ニ納メタル神壇ノ前飾ニシテ種々ノ物象ヲ彫ミ隱起ノ法極メテ精巧ナリ又此頃建築ノ術大ニ開ケタリ初メ君士但丁諾格爾ノ「セントソヒヤ」寺ニ倣ヒバイザンナン様ヲ模シテ寺院ヲ建築シケルガ此時ヨリ全ク之ヲ廢シ更ニ日耳曼ノ建築法ヲ發明セリ其法極メテ壯雅ナリ今之ヲ稱シテゴシック様ト云フ斯ク日耳曼ニテバイザ

ンナン様ヲ廢シ日耳曼様ヲ用ヰレハ千十五年僧正ウオルノルノ創立シタルストラスボルグノ寺院ヲ以テ證ス可シ又圖畫音樂ノ術大ニ進歩シ土ヲ燒テ偶像ヲ作ルコトヲモ發明セリ又此年代(九百年)日耳曼全國一般ニ鐘ヲ用キタリ

衣服ノ制モ亦大ニ變セリ就中メルズボルグノ僧正デトマルノ訓導ニ依リテ女服ノ制最モ革レリデトマル語ヲ立ル古雅ナリ嘗テ婦女ヲ諭シテ曰ク今汝ノ背ヲ以テ賈客ノ廢物場トナシ婦人ノ眞容ヲレテ地ヲ拂ハシメタリト(衣服ヲ廢物ニナゾラヘ婦人ガ之ヲ着クル故ニソノ背ハ商人ノスタモノバトナルノ意)

第十二篇

コンラド二世ヘンリー三世ノ事

ヘンリー二世死シテサキソン家ニ位ヲ嗣グベキ者ナカリケレバ更ニ嗣帝ヲ選バントテマエンストオツヘンヘームノ間ナルライン河畔ニ於テ議院ヲ開キ諸侯伯大僧正僧正住持皆自ヲ其臣屬ヲ率ヰテ之ニ會セリ此時レーニン、フランクス(ライン河上ノフランクス)并ニロルレーン人ハ左岸ニ陳シサキソニー、スラビヤ、バヴリヤ、ボヘミヤカリンシヤ人ハ右岸ニ次セリ此時選ニ當ルベキ者二人アリ皆其名ヲコンラドト云ヒ且同クフランコニヤ兼カリンシヤ侯オソノ孫ナリ時人謠諛ノ心ヲ以テ侯家ノ門閥ヲ僞リ古代メロウ、シンヂヤンノ後裔ナリトテ之ヲサリ一家ト稱セリ二人ノコンラドノ中一

人ハオソノ長子ヘンリーノ子ニシテグラフ(伯)前ニ詳タリ一人ハ
 次子ノ子ニシテデューク(侯)前ニ詳タリグラフコンラドハ年猶
 少クデュークコンラドハ倫既ニ長ケ且衆ノ望ヲ得タリ斯テ既ニ投
 票ノ期ニ至レハグラフコンラドデュークコンラドニ謂テ曰ク今我
 ト卿ト皆一家ノ人ナリ若シ蚌鹵ノ争ヲナサバ遂ニ漁父ノ利ヲ爲サ
 ンモ亦知ルベカラズ是卿ニ害アリテ我ニ利ナシ王位若シ我家ニ屬
 セバ我ニ屬スルモ猶卿ニ屬スルガ如ク卿ニ在ルモ何ソ我ニ在ルニ
 異ナランヤ衆若シ卿ヲ選バ、我卿ノ臣屬タラン若シ我ヲ選バ、卿
 亦我が臣屬タラザルユトヲ得ズトデュークコンラド大ニ之ヲ然リ
 トシ乃チ掌ヲグラフニ着クグラフ乃チデュークヲ抱キ友愛ノ心禁

ズルユト能ハザル狀ヲ爲セリ此際衆遂ニグラフヲ擇ビケレバグラ
 フ乃チデュークヲシテ則ニ立タシメ衆ニ接シケルニ衆皆萬歳ヲ呼
 バザルハナカリキグラフコンラド號シテサリツキト云ヘリサリ
 家ノ義ナリ日耳曼英主ノ一人ニシテ大ニ衆ノ望ニ副ヘリ

コンラド既ニ位ニ即キ先ツ國內ヲ巡狩シ諸侯ノ互ニ吞噬スル者ヲ
 止メテ積年ノ國患ヲ除キ次ニ伊太利ニ至リ帝冠ヲ受ント欲セシニ
 伊太利人ハ皆ヘンリー二世既ニ死シタレバ伊太利王位ノ事ハ國人
 ノ選ブ所ニ在リテ日耳曼帝ノ兼有スベキ所ニ非スト思ヒ既ニ佛蘭
 西王ノ子某ヲ立ント欲シ明日遷王式ヲ行ハント決セシトキナリシ
 カバ何ソコンラドノ命ニ應ズベキバキヤヲ守リテ之ヲ拒ミタリ是

ニ由リテコンラドハバウ非ヤニ止ルコト殆ト週年ニシテ初メテ羅馬ニ向ヒテ進ムコトヲ得タリ斯テ既ニ羅馬ニ達シケレバ壯大ノ儀式ヲ用非テ其妃デレサト共ニ帝冠ヲ受ケボルゴンデー王ロドルフスカンデナウキヤ兼英吉利王カニュート此盛禮ニ陪シカニュートハ其女ヲ以テコンラドノ子ニ妻ハシコンラドハカニュートニスクレスウキツグフ與ヘ同盟ノ好フ表セリスクレスウ非ツグハ日耳曼ノ北疆ニシテ往昔北夷ノ猖獗ナリシ時ニ當リテハ其堡障ナリシガ北夷既ニ耶蘇教ニ化シテ其侵入ノ思ナカリケレバ日耳曼國亦既ニ此地ヲ有スルコトヲ要セザリキスクレスウキツグヲ割キシヨリ日耳曼ノアイデル河ヲ以テ北疆トナセシコトシャルレマンノ時ノ

如クナリシト云フ

コンラド多ク良法ヲ創制セリ就中最モ國益トナリシハ小邑ヲ有スル者ト雖モ之ヲ世襲スルコトヲ得セシメシコト是ナリ第一ニ之ヲ伊太利ニ行ヒ次ニ日耳曼ニ及ボセリ是ヨリ先小ハ大ノ奴隸ノ如クニシテ動モスレバ之ニ併セラレケルガコンラド令ヲ發シテ曰ク凡ソ邑ヲ有スル者ハ大ト小トヲ論ゼス父子相授ルコトヲ許ス(王ヨリ邑ヲ受タル者ハ此限ニアラズ)凡ソ邑ヲ受タル者罪ヲ犯スコトアラバ位階之ニ均シキ者ヲシテ會審セシムベシ邑ヲ與ヘタル諸侯之ヲ專決スルコトヲ許サズ凡ソ邑ヲ受タル者告訴スル所アリテ邑ヲ與ヘタル者ノ裁判ニ服セザレバ之ヲ國帝ニ控訴スルコトヲ許ス

ト千三十九年コンラド死ススパイルスニ葬レリコンラドノ代ボル
 ゴンターヲ併ス此時フロヴニンスドーヒニーサウオイノ全州其他
 ヘルヴエシヤノ數郡ボルゴンデーニ屬シケレバ皆日耳曼ノ所轄ト
 ナリニケリ嗚呼コンラドノ日耳曼英主ノ名ヲ受タルモ亦宜ナラズ
 ヤ

ヘンリー三世ハブラククト號スコンラド二世ノ子ナリ父ノ死セシ
 トキ二十二歳衆ニ擇バレテ位ニ即ケリヘンリーハ強悍ニシテ法王
 ナ抑ヘ諸王ヲ威セシコト日耳曼諸帝未ダヘンリーノ如キハアラザ
 リシ此時ニ當リテ伊太利數部ニ分レ三法王ヲ立ツ各法王皆耶蘇ノ
 代理ト稱シ相爭ヒテ決セズヘンリーハ既ニホヘミヤボルゴンデー

ノ反賊ヲ平ゲテ大ニ聲名ヲ得シカバ遂ニ伊太利ニ入り裁判人トナ
 リテ詳ニ各法王ノ争訟ヲ聽キ盡ク三法王ヲ廢シ日耳曼人クレモン
 ト二世ヲ立テ法王トナシ大ニ其勢威ヲ張ケリ

千五十六年佛蘭西王ヘンリー一世ゴルゴンデー及ピロルレーンハ
 理當ニ己ニ屬スベシトテ之ヲ要セリ日耳曼王單騎ニテ之ト戰ハン
 ト欲シアイヴオイスニ於テ之ニ會シ單騎接戰ノ例ニ依リ手鐙ヲ脱
 シテ之ヲ地ニ投ケ佛蘭西王ヲ挑ミシニ佛蘭西王ハ之ニ應セズ速ニ
 アイヴオイスヲ去リテ其都ニ歸レリ此年日耳曼國地屢震ヒ五數
 登ラズ瘧病流行スヘンリー齡猶壯ナリシガ亦此病ニ罹リテ死セリ
 子ヘンリー僅ニ五歳ナリシカバ寡妃アグチス其政ヲ攝シケリヘン

リー三世ノ代匈牙利亦日耳曼ノ版圖ニ入レリ

附錄第十二篇

ヘンリー三世并ニ羅馬法王ノ事 ウェルフ家濫觴ノ事

千四十六年ヘンリー將ニ羅馬ニ至ントス路ニ隱士アリ詩ヲ獻セリ

其詩ニ曰ク 此詩拉丁語ニ係ル
今其意ヲ譯ス

スナミニ女アリ

一婦ニシテ三夫

大王ヘンリー

獨靈ノ神ニ代リ

此三夫ノ婚ヲ離セ

ト蓋シスナミ女ハ以テ法王ノ位ニ譬ヘ三夫ハ以テベチデクト九世
シルヴェスタル三世グレゴリー六世ニ比セシナリ斯テヘンリーハ
スートリニ於テ一般宗門議院ヲ開キ既ニ前ニ記シタル如ク盡ク三
法王ヲ廢シテ一婦三夫ノ訟ヲ斷シグレゴリー六世ヲ日耳曼ニ竄シ
ヘルデアランドヲシテ之ニ陪侍セシメケリ是ヘルデアランドノ羅
馬寺院ニ於テ事ヲ執リ其名ヲ成スノ權輿ニシテ後遂ニ法王ト爲リ
グレゴリー七世ト稱セリ

古今帝王ノ羅馬法王ヲ抑制セシコト未ダヘンリー三世ノ如キ者ア
ラズクレモンド二世ノ死スルヤヘンリーウオルムスニ於テ議院ヲ
開キトールノ僧正ブルノヲ選ビ羅馬ノ僧徒及ビ人民ヲ要シテブル

ノノ選ヲ承認セシメ遂ニ立テ法王ト爲シ之ヲレオ九世ト稱スレオ
九世多ク日耳曼ニ居レリト云フ

ウニルフ家ハニンラドノ代初メア史ニ顯ハレ爾來日耳曼史中常ニ
其名ヲ見テルコトナシ今稗史ノ記スル所ニ據ルニ此家ノ起ル始ト
人理ノ外ニ在リ曰クアルトルフ侯イセンブランドト云フ者アリ嘗
テ老婆ノ一時ニ三子ヲ生ムヲ見テ大ニ之ヲ嘲ル其狀男子ノ所爲ニ
似ザリシカバ老婆大ニ怒リ乃チ天ヲ仰キ掌ヲ合セ祈願シテ曰ク賤
妾侯ノ辱ヲ受ルコト深シ侯ノ夫人若シ妊ムコトアラバ願クハ其子
ノ數ヲシテ月ノ數ノ如クナラシメンコトヲトステ天其願ヲ聽キシ
ニヤ夫人ノ子ヲ生メルニ及テ其數十二即チ老婆ノ祈リシ所ノ如ク

ナリシカバ夫人之ヲ不祥ト爲シ婢ニ命シ其十一兒ヲ取リテ之ヲ湖
ニ沈メシム婢命ヲ奉ジ孩兒ヲ籃中ニ入レ將ニ湖ニ趣カントシテ路
ニ侯ニ遇ヘリ侯之ニ問テ曰ク籃中ノ物ハ何ゾヤ婢答テ曰クウニル
フ(犬子)ナリト侯疑猶解ケズ乃チ籃被ヲ開キテ孩兒ヲ見シカバ命
シテ宮ニ送ラシメ之ヲ子トシ養ヘリ此ヨリ後孩兒ノ子孫皆ウニル
フヲ以テ姓トナセリ千年代イスラノ守アゾウニルフ家ノ女ヲ娶レ
リ其子孫及ビ日耳曼ノウニルフ家ノ子孫共ニ伊太利日耳曼ニ雄視
シ羅馬法王ヲ輔翼シ伊太利ヲシテ獨立セシメンコトヲ謀リテ日
耳曼ノウニルフプリンング統ハ即チサリ―統ヲリサリ―統ノ帝家ニ屬スルフワン
―プリンング統ハ即チサリ―統ヲリサリ―統ノ帝家ニ屬スルフワン

コニヤ州ノ一坊ウエープリングニ取りテ名ケタルナリウエルフ家
ノ後裔ハノーブルノ選帝宮（選帝宮）ゼオルヂハ千七百十四年英吉利女王ア
ンテノ死セシニ及デ英吉利王ノ位ニ登リケリ

第十三篇

ヘンリー四世ノ事

ヘンリー三世ノ死セシ時ヘンリー四世年僅ニ五歳ナリシカバ母妃
アグチフ其政ヲ攝行セリアグチスハ性善良ニシテ法教ヲ信シ頗ル
事理ニ通達セシカトモ剛毅ノ質ニ乏ク諸侯ノ横肆ヲ制スルコト能
ハザリケレバ諸侯ハ之ヲ時トシ黨ヲ結ビテ王家ノ威權ヲ殺ギ人民
ノ自由ヲ破ランコトヲ謀リシニ妃ハ耶蘇教ニ拘泥レ只管寛仁ヲ以

テ之ヲ處シ盡ク反賊ヲ宥メシノミナラズ之ニ高官ヲ授ケテ其心ヲ
慰メント欲シレーンヘルデンノロトルフハ妃ノ女ノ僅ニ十一歳ナ
リシヲ奪ヒ之ヲ辱メシニ妃ハ之ヲ刑ニ處セズ却リテスワビヤ侯國
ヲ授ケホルゴンデーノ目代トナレテ其心ヲ慰メタリ然ルニスワビ
ヤハヘンリー三世ノ世ニ在リシ時既ニサーリンセンノベルソルド
ニ與ヘント約シ指環ヲ與ヘテ之ガ證ト爲シケレバ是ニ於テベルソ
ルドハ大ニ怒リ直ニ妃ノ所ニ至リ指環ヲ示シテ無狀ヲ責メ罵詈至
ラザル所ナカリシニ妃ハ狼狽ノ餘乃チカリンシヤ侯國ヲ與ヘ且伊
太利ノヴィロナノ伯トナシテ僅ニ之ヲ謝シケレバマルレーンバワ
リヤノ二國モ亦賊黨ニ入りテ王室ヲ弱マサンコトヲ謀レリ斯クア

グチスハ故ナクシテ諸侯ヲ畏レ寛優ヲ以テ其心ヲ得ント欲セシニ
 諸侯ハ貪婪ニシテ飽クコト無ク唯名利ノ志ヲ達セント欲シケレバ
 アグチスモ既ニ策ノ出ル所ヲ知ラザリシガ其寵臣ヘンリーハ性清
 廉ニシテ事ヲ處スル酷ニ過キ常ニ妃ノ寛ヲ以テ事ヲ誤ルヲ見テ務
 メテ之ヲ矯メント欲シケレバ妃事細大トナク之ニ謀リシカトモ其
 爲ス所妃ノ行フ所ト相似ズ乍ナ寛乍ナ苛前後政令趣テ異ニシ益人
 心ヲ失ヘリ

是ニ於テ國民相語テ曰ク初メ妃ノ政ヲ攝スルヤ專ラ寛仁ヲ以テ事
 ナ行ヘリ然ルニ其ヘンリーニ通ゼンヨリ專ラ其言ヲ用井初政ノ美
 ナ棄テ心蕩ケ質變シ一個殘暴ノ人トナレリトテ憐ムベキカナ善良

ノ妃ヲ以テ惡婆ノ看ヲ做シ物情洵々タリ再ビ歳ヲ間ルニ及テ幼主
 ヲ奪ヒ妃ヲ廢セズンヤ替生ヲ如何ントテ其謀ヲ爲シタリケルコト
 グチノ大僧正ハンノハ行ヲ立ル嚴正頗ル才器アリテ世務ニ練達セ
 リハンノ耶蘇生祭ニ當リテ妃及ビヘンリー四世ヲライン河ノ一島
 インペロルスアイスルニ饗シ既ニ宴ヲ終ルニ及テ幼主ヲ騙シテ其
 游船ニ乗ラシメ直ニ纜ヲ解キ快駛シテ河岸ニ至ラントセシニヘン
 リー幼カリケレトモ勇氣アリ反者ノ己ヲ騙シテ母側ヲ去ラシメン
 ト欲スルコトヲ知り乃チ河ニ投シ逃レントセシガブルンスウ井ツ
 キノイグベルト之ヲ捕ヘテ再ビ船ニ載セタリ妃ハ之ヲ見テ憤悶遣
 ル所ヲ知ラズ從者ニ命シテヘンリーヲ援ハシメシカドモ從者皆畏

怖シテ命ノ如クセズ唯々遙ニ聲ヲ放テ反者ヲ罵リシノミ是ニ於テ
 反者ハヘンリーヲコログチニ送りハンノ之ガ傳トナリ僭シテ攝政
 ト稱シオーグスボルグノ僧正ヘンリーヲ捕ヘ拷掠シテ死ニ致シケ
 リ
 憐ム可シ如ハ遂ニ其兒ヲ援フコトヲ得ズ又平生大恩ヲ加ヘシ近臣
 ト雖モ皆己ニ叛キケレバ今ハ恢復ノ望絶エ伊太利ニ趣キ一寺ニ退
 隱セント欲センカドモ此時猶忠義ノ臣數人アリテ固ク之ヲ止メケ
 レバ果サズシテ止レリ

ハンノハ既ニ幼主ヲ擁シ攝政ヲ僭シケルガ天下ノ己ヲ罪センコト
 ナ長レ乃チ令ヲ發シテ曰ク凡ソ僧正區ノ行在所トナル者ハ該區ノ

僧ト攝政タルベシト然レトモ猶華族ノ中ニ威懼己ノ如キ者アリデ
 己ヲ壓倒センコトヲ慮リブレメンノ大僧正アデルベルトノ助ヲ得
 ント欲シ之ト約シテ曰ク若干年間共ニ政ヲ攝シ期滿テハ卿ガ區ヲ
 以テ行在所トナサント然レトモハンノノ性ノアデルベルトノ性ト
 異ナルコト管ニ氷炭ノミナラズハンノハ慷慨激烈行儀端正固ク執
 リテ變ゼズ頗ル酷ニ過キ自ラ脩メ人ヲ教フル只管自徒ノ嚴行ヲ期
 シテ其他ヲ知ラズアデルベルトハ之ニ反シ安富ノ内ニ成長シ驕奢
 ニシテ華美ヲ好ミ風格爽快賓客ヲ待シ饗宴ヲ助クルニ長シ非常ノ
 淫樂ト雖モ或ハ之ヲ避ケザリキサレバ二人私ニ相善ラザリシカト
 モ勢利ヲ好ミ國權ヲ貪ルニ至リテハ其性亦同一ナリシカバ相競ヒ

テ政權ヲ掌握セシコトヲ謀レリ

ハンノアデルベルトハ各其性ノ近キ所ニ從テ威權ヲ得ルノ策ヲ爲シハンノハ多ク僧正區ヲ親戚及び從屬ニ與ヘテ其根柢ヲ固クセント謀リアデルベルトハ宮殿ヲ壯麗ニシ群臣ヲ裝飾シテ民心ヲ得ルコトヲ務メ其冗費ノ度ナキコト猶其名利ノ心ノ限界ナキガ如ク或ハ一乞人ニ與フルニ貧家五十戸ヲ救フベキ金額ヲ以テシ或ハ磧地ニ園圃ヲ開キ或ハ寒土ニ葡萄ヲ藝エテ天工モ己ガ勢力ノ大ナルニ若カザルコトヲ示シ之ヲ以テ其聲名ヲ釣ラント要シタリ

ハンノトアデルベルトハ斯ク其性相反シ各其僻スル所ヲ以テ迭ニ國政ヲ攝行セシカドモ一ハ嚴ニ失シ一ハ寬ニ過キテ皆幼主ヲ佐ケ

國家ヲ安スル器ニアラズ加フルニ幼主ヘンリー性柔軟接スル所ニ從ヒテ其質ヲ變ジハンノ之ヲ教フルニ賤僧ノ嚴行ヲ以テスレバヘンリー忽チ忿戾ノ盾ヲ成シ嚴師ヲ怒ル色アリアデルベルト之ニ換フルニ驕奢ノ風ヲ以テスレバヘンリー俄ニ放蕩ノ人トナリ行ヲ破リ事ヲ怠リ遂ニブレメン宮ヘンリーノ都ノ臭ヲ後世ニ殘セリ又ハンノハ王ニ教フルニ帝王ノ職ハ神ニ事フルヲ以テ最トナス能ク神ニ事フレバ其他ヲ間ハズト云ヘリアデルベルトハ之ニ告ルニ諸侯ハ王家ノ讐敵ナレバ之ヲ處スルコト宜シク野獸ヲ濫スルガ如クスベシト云ヘリ斯テヘンリーノ朝恰モ英吉利王ナヤルレス二世ノ朝ノ如ク滑稽ヲ以テオトナシ小慧ヲ以テ智トナシ相爭ヒテ之ヲ擧ビ以

テ放逸ノ具トナシ國家ノ大事ヲ議スルニモ必ズ先ツ酒ヲ置タリ阿
 諛ノ徒嘗テ王ニ獻テ曰ク百姓ハ是猿猴ノミ陛下大慈ヲ發シ之ニ租
 稅ヲ課ス若シ出ササル者アレバ鞭朴ヲ以テ之ヲ強フベシト又アデ
 ルベルトハサキソニ一人ヲ喜バサリシカバサキソニ一人常ニ亂チ
 爲シタリ

千六十三年ヘンリー攝政アデルベルトト共ニ兵ヲ率テ匈牙利人
 ナ伐テ大ニ之ヲ破リシカバアデルベルトヲ信ズレト益々深ク之ト歡
 チ盡シテ凱旋セリ後二年ヘンリー齡己ニ二十五歳ナリシカバ武門
 ノ例ニ依リ佩刀ノ式ヲ行ヒテ男子ノ齒ニ列セリ此時ニ富リテヘン
 リー大ニ其舊師ハンノノ嚴テ恨ミ頗ル之ヲ輕視シ佩刀ノ禮ヲ終ル

ヤ乃チ刀ヲ拔テハンノニ迫リ戲ニ託シテ之ヲ辱ンタリ是ニ於テア
 デルベルトハ既ニ王ノ心ヲ得タリト思ヒ益々暴威ヲ張リ諸僧正住持
 チ視ルコト奴僕ノ如ク或ハ其忌諱ニ觸ル者アレバ忽チ拳ヲ張リ
 テ其耳ヲ打チ專横至リザル所ナク其有スル所ノ僧正區ハ富饒ニシ
 テ威人極メテ多カリシカドモ猶其費用ニ給スルニ足ラズ因リテ密
 ニ僧官ヲ賣リシレノミナラズ己ガ寺院ノ燈架及ビ諸裝飾ヲ鎔解シ之
 ヲ市ニ鬻ギテ其冗費ヲ補フニ至レリ此時ヘンリーハ移リテゴスワ
 ルニ都セシガアレノンニ在リシ時既ニ驕奢放逸ノ風ニ浸染シケレ
 バ游惰性ヲ成シ淫逸耽ル所ナカリシニアデルベルトハ益々王ニ媚ヒ
 親ク寺院ノ金銀珠玉ヲ取りテ宮女ノ豐粧ヲ助ケ其最モ甚シキニ至

リヲハベルレヤザルノ祭ノ如ク祭器ヲ以テ酒杯トナシタリ
 然レトモ猶官費ニ給スルニ足ラズ近國ノ人民ニ課レテ之ヲ補ハシ
 メケレバ怨嗟ノ聲慷慨ノ論所在之ヲ聞ザルコトナカリシニヘンリー
 等ハ毫モ意トナザズ益々奢侈ヲ縱ニシケレバコロクチノ大僧正マエ
 ンスノ大僧正ト謀リ全國ノ華族ヲトリブルニ會シテ之ヲ議セント
 セシニヘンリーアデルベルド之ヲ聞テ禍ノ身ニ及バンコトヲ畏レ
 先スレバ則チ人ヲ制スベシトテ亦此ニ會シテ兩大僧正ノ策ヲ破ラ
 シト欲シケレトモ華族ノ議既ニヘンリーチシテ自ラ其位ヲ避ケレ
 ムルニアラザレバ其寵臣アデルベルトヲ逐ハシメント決シケレバ
 ヘンリーハ如何トモ爲スコト能ハズ然レトモ寵臣ヲ棄ルニ忍ビズ

夜ニ乘ジテ國章ヲ取りアデルベルトト共ニ潛ニトリブルヲ去ラン
 ト謀リシカトモ反者既ニ番兵ヲ以テ行宮ヲ圍ミケレバ其謀ヲ遂グ
 ルヲ得ザリキ是ニ於テ再ビ議院ヲ開キ討論ノ後ヘンリーチシテア
 デルヘルトヲ逐ヒ放逸ノ行ヲ改メ伊太利ノスーザ守ノ女ベルサチ
 娶ラシメント決シタリベルサハ人ト爲リ賢良貴重スベク是ヨリ先
 ニ既ニヘンリーニ許シ、者ナリヘンリーモ今ハ己ムコトヲ得ズア
 デルベルトヲ逐ヒ新妃ヲ携ヘ快々トシテゴスラルニ歸レリ叔諸華
 族ノアデルベルトヲ憎ムコト甚シク會議ニ於テ之ヲ辱ムベカリシ
 ヲアデルベルトハ僅ニ其場ヲ免レシガヘンリーニ棄ラレシヨリハ
 己ヲ保護スベキ者ナク財産盡ク敵ノ爲ニ奪ハレ貧困極リテ饑餓ニ

演セシニヘンリーハ既ニゴスワル城ニ歸リ今ハ危キコトナシト思
ヒシカバ再ビ舊時ノ放逸ニ復シ其妃ヲ虐待スルコト殊ニ甚カリキ
此頃ヘンリートサキソニー人ノ動亂ヲ鎮メント欲シ州中諸所ニ堅城
ヲ築キ千六十八年ニ至リテ遂ニ之ヲ平定セリ

是ヨリ先ヘンリーマエンスノ大僧正ト約シテ曰ク卿若シ我が爲ニ
法土ニ説キ我が離婚ノ許可ヲ得バ我婦ノ爲ニ師ヲ出レ卿ヲ助ケテ
スリシヤチ征セント大僧正ハ之ヲ肯ヒ法王ニ説テヘンリーノ離
婚ヲ許サンコトヲ乞ヒシカトモ法王ハ之ヲ聽サズ且日耳曼ノ華族
議院ヲフランクホルトニ問キテ之ヲ議セシニ華族亦皆法王ノ議ヲ
是トシケレバヘンリーモ己ムコトヲ得ズ離婚ノ念ヲ斷テタリベル

サハ夫ノ虐待ヲ恨ミズ終始貞順ヲ以テ之ニ奉事シケレバヘンリー
放淫ニシテ心術全ク破レタリト雖モ亦頗ル之ニ感シ此ヨリ後寵愛
ノ心稍生シ之ニ萬機ヲ詢リテ其益ヲ得ル所亦少カラズヘンリー
ノ師友ノ中ニ未ダ曾テベルサノ如ク賢ナル者有ザリシコトヲ知レ
リ然ルニ千六十九年惡魔ヲデルベルト再ビゴスワルニ至リヘンリー
一忽チ前編ヲ忘レテ復之ヲ變シケレバ此ヨリ其脩正ノ心破レテ全
ク舊時ノ放淫ニ復シケリ但シアデルベルトノ再ビゴスワルニ至レ
ルヤ初ハ頗ル恭謙ノ狀ヲ爲シ寒苦ヲ經テ其心ヲ正セシガ如クナリ
シガ稍寵榮ヲ專ラニスルコトヲ得ルニ及テ忽チ故態ニ復シ未ダ
數月ナラズシテ奢侈放淫忌憚ル所ナキコト舊時ニ比スレハ更ニ甚

シカリキ初メバワリヤ侯オソトリブルノ議院ニ於テ主トテシアデルベルトヲ逐ハンコトヲ論ジケレバアデルベルト恨心肝ニ徹シ誓テ之ヲ傾ケント欲シ乃チ人ヲシテ偽リ言ハシメテ曰ク余オソノ金ヲ受ケテ王ヲ刺サンコトヲ約セリ此劍ハ即チオソノ余ニ與ヘシ所ナリト此時オソハ其冤ヲ訟ヘテ服セザリシカバ當時ノ例ニ依リ原被ヲシテ單身接戦セシメ其冤否ヲ判セント決シケルガ期ニ及テオソ其場ニ出ザリシカバ再ヒ衆ヲ會シテ之ヲ議シケルニ此會ニ列リシ者ハ皆オソノ仇敵ナリシカバ直ニ之ヲ罪ニ陷レ王ニ奏シ速ニ兵ヲ率井テオソノ領地バヴリヤサキソニーヲ征センコトヲ勸メタリオソ之ヲ聞キ乃チバヴリヤノ兵士三千人ヲ率井テスリンザヤニ入

リ王ノ領地ヲ掠奪シケルガ自ラ事ノ成スベカラザルコトヲ知り徒ニ血ヲ流サンヨリハ身ヲ殺シテ亂チ止メシニ若ズトテ縛ニ就キ兵ヲ止モンコトヲ乞ヒシカバヘンリー乃チ之ヲ獄ニ下シケルガ後之ヲ釋シケリ

此時大僧正アデルベルトハ既ニ死シタレトモヘンリーノ議臣皆アデルベルトノ所爲ニ傲ヒ恰モ其精靈ノ指揮ヲ受クル者ノ如クニシテ屢々サキソニーノ民ヲ辱メシカバサキソニーノ民怒ニ堪ヘズ直チニ王ニ謁シ之ヲ論ゼシメントテ其華族ヲ送レリ華族ハ王ニ謁セントテ前房ニ止マルコト終日ナリシカドモ王ニ見ユルコトヲ得ザリシカバ其故ヲ問ケルニ王ハ既ニ馬ニ騎テ外ニ出タリ謁ヲ乞ハント

欲セバ明日再ビ來ルベシト答ヘシカバサキソニーノ華族大ニ怒リ
 相誓テ曰ク我等死ヲ以テ我ガ日耳曼人民ノ自由ヲ保護シ自今以後
 王家ノ徵課ニ應ジ其輕侮ヲ受ジト乃チ使テ全國ニ深シ相共ニ民權
 ヲ維持シヘンリーノ日耳曼兄弟チ奴隸使スルヲ止メンコトヲ説カ
 シメ公然王師ニ抗セント期シ千七十三年六万人ヲ率テハルトツホ
 ムグ城ニ迫リヘンリーヲ要シテ曰ク臣等ノ陛下ニ請ハント欲スル
 所三アリ即陛下ノ築キシ所ノサキソニーノ城塔ヲ撤シ都ヲ遷ス一
 ナリ階下ノ囚ヘシ所ノサキソニー侯マグナスヲ解ク二ナリ邪臣ヲ
 逐フ三ナリ陛下若シ之ヲ聽カズンバ臣等義陛下ヲ君トセズトヘン
 リ一恐怖シテ策出ル所無ク唯而從ヲ以テ反者ノ怒ヲ慰メケルガ事

未ダ決セザルニ都ヲヘツスノヘルドニ遷サントテ其地ニ趣
 キケリ後幾クモナクサキソニー人其捕ヘシ所ノスワビヤ人七十人
 チ送リテマグナスニ代ヘンコトヲ乞ヒ遂ニマグトフヲ解クコトヲ
 得シカバサキソニーノ諺ニサキソニーノ一人ハスワビヤノ七十人
 ニ均シト云ケルトゾ

斯テヘンリーハヘルドニ遷シケルニ諸華族モ亦此ニ會シケ
 ルガヘンリーハ王者ノ身ヲ以テ華族ノ陛下ニ口頭シ其罪ヲ謝シ醜
 狀實ニ見ニ忍ビザリキ又日ヲ期シテサキソニーノ華族ニ會シ紛議
 ヲ決セント欲シ既ニ其日ニ至リシニサキソニーノ華族ハ一万六千
 人ヲ以テ會場ニ登リヘンリーモ議官ヲ率テ之ニ會シケルガ久シ

ク討論ノ後遂ニサキソニーノ華族ハ其反逆ノ罪ヲ謝シ王ノ心ヲ慰ムベク王ハ已往ノ大逆ヲ宥ルシサキソニーノ疾苦ヲ除クベシト決議セリ此時ヘンリーハ斯ク約ヲ定メナハ國家平安ノ一策ナラント思ヒシニ豈圖ランヤサキソニーノ華族陽ニサキソニー人ヲ説キ王家ヲ尊バシムル狀ヲ爲シカ正陰ニ之ヲ誘ヒ盡ク王家ニ抗セシメ因リテ王ヲ廢シスワビヤノロドルフヲ立テ王トナサント謀レリ然レトモ其名ナキヲ憂ヒ乃チ人ヲシテ僞リテ王我ニ命シテスワビヤカリンシヤノ諸侯ヲ刺サシムト誓ハシメ而シテ已等ハ故サウニ知ラザル狀ヲナシ此誣告ヲ眞ト稱シ王ヲ要シテ曰ク陛下若シ冤ヲ明ニスルニアラザレバ臣等又陛下ニ事フルコト能ハズト是ニ於テラ

チスボンニ議院ヲ開キヘンリーヲ廢センコトヲ議シケルニ天未ダヘンリーヲ棄テサルニヤ圖ラズ救援ヲ得テ再ビ危難ヲ脱スルコトヲ得タリ初メ日耳曼國サキソン朝ノ太平ヲ受ケ爾來諸府繁榮シテ富商軒ヲ並ベ此頃ノ習ニテ商賈ト雖モ兵器ヲ以テ其身ヲ護スルニアラザレバ人ノ劫掠ヲ免ルコト能ハズトテ皆武技ヲ講シケルガ内訌ハ商賈ノ大患ナレバ之ヲ畏ルコト心肝ニ徹シケルニゾサキソニー人ノ王家ニ反シ且其華族ノ言ヲ食ミ王ヲ廢セント欲スル由ヲ聞キケレバ諸所ノ商賈皆產ヲ破リ命ヲ抛チテ王家ヲ輔翼セント決シウオルムス府ノ人民先ツ王ヲ迎ヘ郭内ニ入レントセシニウオルムスノ僧正ハスハビヤ侯ロドルフノ兄弟ニシテ之ヲ止メケレバ

府人乃チ附正ヲ逐ヒ兵ヲ發シテ王ヲ迎ヘ郭ヲ閉テ之ヲ守レリ此時
 ヘンリーノ忠臣コヘーエノウルリツナハ其主ニ代リテ原告レザナ
 ルト接戦シ宛否ヲ決セント乞ヒ既ニ接戦ニ決セシカ未ダ其斯ニ反
 バザルニ道賊レナナル狂ヲ發シテ死シケレバ法教ニ迷溺シタル日
 耳曼人民之ヲ見テ是天神ノレザナルノ罪ヲ判セルナリトテヘンリ
 ーヲ無罪トナシ諸原告ノ罪ヲ鳴ラシ神ヲ呼テ其滅亡ヲ祈リケル
 是ニ於テサキソニー人モ亦王ニ和テ乞ヒゲルスナングニ於テ之テ
 定メ相約シテ曰クサキソニー州ニ在ル王ノ城砦ハ遺ク人民ニ付與
 シ之ヲ毀ツコトヲ許スベシト是ニ於テサキソニー人皆奮起シテ諸
 城砦ヲ侵チケルガ往々野蕃ノ醜態ヲ顯ハシ其最モ甚ヤハノルツボ

二百五十七

二百七十二

ま
で
欠

焉ンゾ敗ヲ取ラザルコトヲ得ンヤ斯テウオルムスノ會議ノ報ノ羅
馬ニ達セシヤグレゴリー乃テ令ヲ發シヘンリーノ耶蘇宗門ヲ禁シ
其臣民ニ許シテ之ト君臣ノ義ヲ絶タレメ且ヘンリーノ王位ヲ奪ヒ
テ曰ク我今獨靈ノ神ニ代リテ先帝ヘンリーノ子ヘンリーノ王位ヲ
奪ヒ其政ヲ行フコトヲ禁ス夫ヘンリーハ横恣ニシテ法王ヲ敬セズ
寺院ヲ輕侮ス我古今ヲ觀ルニ未ダ此ノ如キ者アラザルナリ凡ソ我
ガ耶蘇宗門ノ人ハ既ニヘンリート君臣ノ約ヲ爲セシ者ト將ニ約ヲ
爲サント欲スル者トヲ問ハズ一切之ト相絶テ永ク之ニ君トシ事フ
ルコトナカレ嗚呼天祐ヲ享ケタルベイトル陛下臣不肖ト雖モ明神
ノ命ニ依リ敢テ陛下ニ代リ匪賊ヲ呪詛シ之ニ重罰ヲ與ヘ億兆ノ民

ヲシテ神子耶蘇ノ陛下ヲ以テ巖石ト爲シ陛下ニ依リテ寺院ヲ創ムル其堅牢不拔匪賊ノ能ク動ス所ニ非ラザルコトヲ知ラシメントヘンリーハ之ヲ聞テ初ハダレゴリーノ狂暴ヲ冷笑シケルガ幾クモナク日耳曼人多ク己ニ叛キケレバ始メテグレゴリーノ善ク日耳曼人ノ心肝ヲ洞見セシコトヲ知り漸ク之ヲ畏レタリ

日耳曼人民ハヘンリーノ宗門ヲ禁ゼラレ耶蘇ノ罪人トナリシヲ見テ之ヲ忌ミ避クルコト恰モ痼疾ノ人ニ遇フガ如ク皆之ニ昵クコトヲ欲セザルニ至リシカバサキソニー人ハ之ヲ時トシ公然兵ヲ起シテ之ニ叛キ又スリンデヤノルーイフハ王ノ爲ニセール河上ノギービセンステーン城ニ禁錮セラレ永ク赦宥ヲ受クベクモ見エザリシ

カバ危キヲ犯シテ城壁ヲ躍リ踰エ走リテトリブルニ至リスワビヤノロドルフ其他諸華族ト議院ヲ開キ此ヨリ一年ニシテヘンリー猶法王ノ赦免ヲ得ザルトキハ乃チ之ヲ廢スベシト決議シケルガ又ヘンリーノ節ヲ屈シ直ニ法王ニ謁見シテ其赦ヲ得ンコトヲ恐レ亞爾伯山脈ニ沿ヒタル伊太利ノ諸道ニ警兵ヲ置キテ之ヲ監視セシメタリ然ルニヘンリーハ一策ヲ設ケセニス山道ハ極メテ峻峭ニシテ殊ニ此年(即チ千七十六年)ノ冬ハ淫寒霜ニ踰エケレバ敵必ズ此ニ警兵ヲ置カズト度リ乃チ貞妃ベルサト共ニ一兒一僕ヲ携ヘテ此山道ニ趣キンガサシモノ亞爾伯山萬峯峨々トシテ天中ニ聳エ寒威肌ヲ裂キ積雪足ヲ埋メ時ニハ雪崩千尋ノ上ヨリ落チ木ヲ拔キ岩ヲ碎キ

其響雷ノ如ク下リテ行人ヲ理ムル勢ヲナレ屢、數歩ノ近ニ至リテ
 魂之ガ爲ニ飛ビ時ニハ隘逕一帶一側ハ巖山峭峻壁ヲ立ルガ如ク一
 側ハ深山直下其底ヲ見ズ氷結ビ路滑カニシテ一步ヲ失スレハ則チ
 巖谷ニ轉墜セントス因リテ或ハ匍匐シテ脚ヲ失スルコトチ免レ或
 ハ氷上ヲ滑下シ誤リ轉ビテ身ヲ碎クコトチ免レタリ是ニ於テ乘馬
 モ既ニ歩スルコト能ハザリシカバ樵夫ニ命シテ之ヲ束子嶺角ニ沿
 ヒテ之ヲ下サシメ牛皮一枚ヲ以テ襪ヲ製シ妃ト兒トチ載テ氷上ヲ
 引キ左右ヨリ之ヲ支ヘテ襪ノ傾覆ヲ防ギ足傷レ身疲レ其艱難實ニ
 名狀スベカラザリシガ遂ニ亞爾伯山ノ南面ニ出テ主從恙ナクロン
 バルデーノ暖地ニ下ルコトヲ得タリ時ニロンバルデー王モヘンリ

一ノ如ク法王ノ忌諱ニ觸レテ宗門ヲ禁ゼラレ其華族僧正等モ多ク
 ハ同罪ニ處セラレケレバロンバルデー人皆ヘンリーノ薄命ヲ憐ミ
 厚ク之ヲ待遇シテ日耳曼ニ在リシトハ景況全ク變ジ頗ル爲スベキ
 ノ機會アリキ此時若シヘンリーナシテ機ヲ見テ敢テ爲スノオアラ
 シメバロンバルデー人チ率井テ法王ヲ要シ之ヲシテ赦罪ノ令ヲ發
 セシムルユトモ亦難キニハアラザリシニヘンリー其機ニ投ズルコ
 ト能ハズ或ハ兵ヲ率井テ法王ヲ要セント欲シ或ハ身ヲ下シテ匹夫
 トナリ膝ヲ屈シテ法王ニ謁セント欲シ猶豫シテ決セザリシニ此時
 グレゴリーハ日耳曼ニ至ラントテ既ニ路ニ上リシカ之ヲ聞テ亦ヘ
 ンリーノ策何レニ出ルヤヲ圖ルコト能ハズ若シ兵ヲ率井テ來ラバ

大事ナラントテ其同盟トスカニーノ女侯マナルダノ領セルカノッ
 サ城ニ入りヘンリーノ爲ス所ヲ觀望セシニヘンリーハ既ニロシバ
 ルデー人ヲ疑テ之ヲ信ズルコト能ハズ遂ニ辭ニ卑クシテ使ヲ法王
 ニ遣シ謁見ヲ乞ヒケレバグレゴリーハ是ニ於テ畏ル、所ナク傲然
 トシテ之ヲ拒ミシガ良久クシテ之ヲ聽ルシケレバヘンリーハ帽履
 ヲ脱シ頭ヲ露ハシ足ヲ傷リ且謝罪式ニ用井ル髮ヲ以テ製シタル襦
 衣ヲ着ケカノツサニ趣キ城門ニ入りシニ衛士之ニ令シテ曰ク汝前
 庭ニ立テ聖父ノ汝ヲ見ルヲ待ツベシト言甚ダ傲レリヘンリー今ハ
 如何トモ爲スベカラズ其命ニ從ヒテ寒風飛雪ノ侵スニ任セ露頭跣
 足ニテ前庭ニ竝立シ食ハサルコト三日三夜法王ノ近臣送、出テ之

ヲ嘲辱セシガ後マナルダノ請ニ由リテ法王僅ニ其嚴譴ヲ免シ再ビ
 宗門ニ復セシカトモ猶之ヲ要シテ他日法王自ツ議長トナリ日耳曼
 ノ全國會議ヲ行ヒヘンリーヲ位ニ復スルヤ否ヲ決定スル迄ハ其政
 務ヲ執リ國王ノ事ヲ行ハサルコトヲ約セシメタリ

此約既ニ定リケレバ法王乃チヘンリーヲ携ヘテ城中ノ禮拜堂ニ趣
 キ高壇ニ登リ神餅ヲ取り群衆ノ前面ニ立テ願テヘンリーニ謂テ曰
 ク汝嘗テ我ヲ誣フルニ吾ガ賄賂ヲ用井不正ノ事ヲ行ヒテ我が位ヲ
 得タルコトヲ以シ吾ヲ以テ我が耶蘇宗門ヲ穢スト爲セリ吾今手ニ
 耶蘇ノ聖休ヲ取り之ヲ兩分シテ自ラ其一ヲ吞マン汝ガ言ヒシ所眞
 ナラバ吾乃チ天ニ祈リ直ニ其誅ヲ受ケント乃チ神餅一半ヲ吞ミ再

ビ願テヘンリーニ謂テ曰ク汝モ亦人ノ爲ニ告ラレテ遂ニ我ガ汝ノ
 宗門ヲ禁ズルコトヲ致セリ汝若シ冤トナサバ乃チ此一半ヲ吞テ我
 カ疑ヲ解キ汝ノ冤ヲ雪ムヘシトヘンリー其身ノ不良ヲ顧思シ之ヲ
 吞マバ神怒ニ觸レンコトヲ恐レテ遂ニ之ヲ受ケザリキ後ヘンリー
 カノツサヲ去リ日耳曼ニ歸ラントセシニ路ニテ日耳曼華族己ノ國
 ニ在ラザルニ當リテ既ニ其位ヲ廢シスワビヤ族ロドルフヲ立テタ
 リト聞ケレトモ日耳曼人民過半ハ必フ己ニ與ミシロンバルデー人
 モ亦必ズ己ヲ助ケント圖リケレバ乃チ死ヲ以テロドルフノ篡奪ノ
 罪ヲ問ハント欲シ且以爲ク日耳曼華族斯ク臣道ヲ闕クニ於テハ己
 法王ノ約ヲ蹈マント欲スルトモ能ハズ之ヲ破ルトモ理ニ於テ何ゾ

害アリント乃チ公然王位ニ復セント唱ヘテ日耳曼ニ歸リシニライ
 ン河畔ノ諸府ヲ初メトシテ人民群ヲ爲シテ再ビ臣節ヲ盡サンコト
 ナ乞ヒシカバヘンリー直ニウオルムスニ於テ議院ヲ開キロドルフ
 及ビカリンレヤノベルノルドバヴリヤノウオルフチ大逆無道トト
 シ皆死刑ニ處スベキニ決セリ日耳曼人民ハロドルフ嘗テ法王僧徒
 ノカニ依リテ王トナリシヲ嘲リ之ヲ呼デバルソンキングト稱セリ
 僧徒ノ王ノ義ナリ此時ヘンリービユーレンノフレデリヲキニスワ
 ビヤ族國ヲ與ヘ寡妃アグチスヲ以テ之ニ妻ハセリフレデレツキホ
 ーヘンストーヘンノ城ヲ築ケリ是ニ由リテ其子孫皆ホーヘンスト
 ーヘンヲ以テ姓ト爲シ名ヲ青史ニ輝カセリ

斯テ日耳曼全國土崩瓦解ノ勢ヲ爲シ國ニ二王アリ寺ニ二法王アリ
 各侯國モ亦二族アラザルハナク兄弟相噬ミ父子相傾ケ遂ニヘンリ
 ーノ兵ト聖僧ベートルノ義兵(グレゴリーノ兵自ラ名ツクル所)ト
 スリンヂヤ林ノ南西角ニ戦ヒケルガ未ダ雌雄ヲ決セスシテ互ニ退
 キケリ此日ヘンリーノ一軍ニケル河岸ニ於テ大ニロトルフノ爲ニ
 破ラレ死亡頗ル多ク此時ヘンリーノ軍ニ從ヒシ農夫數千人ロドル
 フノ軍ニ捕ヘワレケルカ農夫ニシテ兵器ヲ執ルハ其分ヲ知ラザル
 ナリトテ皆四支ヲ斷タレシトゾ其後ヘンリー再ビ兵ヲ發シブラデ
 ンヘームノ側ニ於テロドルフト戦ヒ復之カ爲ニ破ラレケレバグレ
 ゴリー乃チロドルフヲ立テ王ト爲シ帝聖ハ皆ヘンリーノ手ニ在リ

シニ由リテ帝冠ヲ製シ「ストフ、デナット、ベトロ、ベトラス、ダイデマ、
 ロドルフ」ト銘シ之ヲロドルフニ與ヘ永ク法王ノ臣屬タラントヲ約
 セシメタリ是ニ於テヘンリーハ令ヲ發シ再ビダレゴリーヲ廢シテ
 ヲエンナノ大僧正ヲ立テ、之ニ代ラシメ之ヲクレメント三世ト稱
 セリ此年(即チ千八十年)ヘンリー兵ヲ率キマイルストル河上ノグ
 ロナニ於テロドルフノ軍ニ會セリグロナハメルスホルグトレーブ
 シツクノ間ニ在リテ古ヨリ今ニ至ルマテ屢、戦争ヲ經タル地ナリ此
 戦ニブイルロンノゴットフレーロドルフノ右手ヲ斫リタリロドル
 フ地ニ倒レ落タル手ヲ看テ惘然トシテ曰ク此手即チ是我ガ天ヲ拜
 シテヘンリート君臣ノ盟ヲ爲セシ所ナリ其斬ラル、モ亦宜ナリ凡

ソ我ヲ誘ヒテ此盟ヲ破ラシメシ者亦皆神罰ヲ蒙ラザルコトヲ得ン
 ヤト乃チ死シタリゴツトフレ―後ロルレーン侯トナリ第一十字軍
 ノ將トナレリロドルフヲバメルスボルグニ葬リレガ後ヘンリーメ
 ルスボルグヲ取りタリ是ニ於テ或ハヘンリーニ説キテロドルフノ
 墓碑ヲ倒サンコトヲ乞ヒケルニヘンリーハ我唯神ニ祈リテ我が敵
 ノ墓ヲシテ盡ク此墓ノ美ナルガ如クナラシメンコトヲ願フノミト
 答テ其他ヲ言ハザリキ此戰ニロドルフノ軍稍利ヲ得シカトモ其將
 チ失ヒケレバ其黨漸ク散リ去リテヘンリーノ勢日ニ増加セリヘン
 リ―乃チホ―ヘンストー―ヘンノフレテリツキテ留メテ内賊ヲ討タ
 シメ親ヲ兵ヲ率井テ其舊敵グレゴリーヲ征セントテ進ミテ伊太利

ニ入りバナマノ側ニ於テマナルダノ軍ト戰ヒテ之ヲ破リ直ニ進ミ
 テ羅馬城ニ至リ之ヲ圍ムコト三年此間ヘンリー陣中ニ於テ或ル大
 僧止ヨリ冠ヲ受ケテ日耳曼帝ノ位ニ即キタリ後グロイツチノウ
 ヲブレクト壁ヲ踰エテ先登シ大ニ奮ヒテ之ヲ攻メシカバ城遂ニ陷
 ラグレゴリーハ走リセントアンゼロニ據リ暫ク之ヲ保チケルガヘ
 ンリー之ヲ攻ルコト急ナリシカバ遂ニ夜ニ乗ジテサレルノニ走リ
 ノルマンスノ王ロベルトニ依リテ其援ヲ乞ヒケルステヘンリーハ
 グレモント三世ヲ携ヘテ聖僧ヘ―トルノ位ニ就カシメ更ニ其手ヨ
 リ帝冠ヲ受ケ遂ニ兵ヲ退ケテ日耳曼ニ歸シケレバグレゴリー乃チ
 ノルマンスヲ率井テ羅馬ニ入りケルガノルマンス慢ニ市街ヲ抄掠

シケレバ府民大ニ憤リクレゴレ一及ビノルマンスタ擧テサレルノ
 ニ退カシメタリ後幾クモナクグレゴリ一死ス其辭世ノ語ニ曰ク我
 正直ヲ貴ビテ邪曲ヲ賤メリ是我が漂泊シテ死スル所以ナリト
 ヘンリー一ノ猶伊太利ニ在ルヤ日耳曼人民其無ナ時トシタルキセン
 ボルグノヘルマンヲ立テ主ト爲シ而シテ之ヲ選ビシ地イ一スレベ
 シノ傍ニ赫ノルマンノ繁茂セルヲ以テ之ヲ嘲リ呼ビテ赫王ト稱セリヘルマ
 ン位ニ即キヘンリート兵ヲ構フルコト數年ニ及ビシガ竊ニ以爲ク
 我今帝ト鹿ヲ爭フガ如クナレトモ其實ハ唯、賊徒ノ欲ヲ逞クスル
 器具ナルノミト乃チ之ト講和シテ其位ヲ避ケタリ此時ニ當リテ伊
 太利國勤王黨法王黨ノ兩派ニ分レ相爭ヒテ決セズグレゴリ一ニ嗣

テ法王ト爲リシ者ヲオルハン二世ト稱スソノ論ヲ立ルグレゴリ一
 ニ異ナルコトナク其黨人遂ニヘンリー一ノ長子ゴシラドヲ誘ヒ父ニ
 向ヒ兵ヲ舉ケシメケレバヘンリー一之ヲ聞キ驚愕シテ措ク所ヲ知ラ
 ズ憂悶ノ餘自ヲ刺シテ死セント欲セシカ人ニ止ラレテ僅ニ止ムニ
 至レリ然ルニバゾリヤ族ウニルフ其子イグメルトヲ以テトスカニ
 一ノ老女族マナルダニ配センコトヲ約シマナルダノ死後トスカニ
 一ヲバゾリヤニ合セント圖リシニマナルダ既ニ遺書シテ之ヲ法王
 ニ與ヘンコトヲ約セリト聞キシカバ大ニ望ヲ失ヒ不平ノ餘遂ニ法
 王ニ叛キヘンリー一ニ款ヲ送りケレバヘンリー一モ聊カ其心ヲ慰メケ
 リ斯テコンラドハ大逆無道ニモ父ニ向ヒテ兵ヲ起シケルニヘンリ

ハ屢々諭スニ順逆ヲ以テシケレドモ之ヲ侮リテ更ニ悔悟ノ狀ナ
 カリシカバヘンリーハ己ムコトヲ得ズ議院ヲ開キテゴンラドヲ廢
 セント議定セシニコンラドハ之ヲ聞テ大ニ望ヲ失ヒ幾クモナクシ
 テ死シタリ此時猶ヘンリー法王ト相爭ヒテ決セズバスカル二世オ
 ルバンニ嗣テ法王トナリ復ヘンリーノ宗門ヲ禁ゼレニヘンリーノ
 第二子ヘンリーハ既ニ立テ儲貳トナリシガ父ノ不幸ヲ幸トシ乃チ
 臣子ノ義ヲ絶テ僭シテ王ト稱シ兵ヲ起レケルニ法王バスカル力ヲ
 盡シテ之ヲ助ケ日耳曼華族モ伊太利平定ノ後久シク事ナキニ倦ミ
 頸ヲ延キテ王家ノ動亂ヲ待ケレバ亦相爭ヒテ逆子ヘンリーノ旗
 ニ集レリ老帝ヘンリーハ屢々書テ其子ニ送り具ニ父子ノ情ヲ述ベ

懇ニ之ヲ諭シケレトモ逆子ヘンリー之ヲ侮リ更ニ聽從ノ色モ見エ
 ザリシカバヘンリー乃チ親ヲ之ヲ征セントテ既ニ兵ヲ舉クルニ日
 耳曼諸府皆之ニ力ヲ戮ハセ逆子ヘンリー拒ミテ郭門ニ入レザル
 勢ナリシガ陣中俄ニ反テ謀ル者アリケレバ帝驚愕シテ魂魄既ニ其
 身ヲ去リタル思ヲ爲シ遂ニ陣所ヲ去リマエンスニ於テ議院ヲ開キ
 其冤ヲ訴ヘント欲セシニ逆子ヘンリーハ之ヲ畏レ大惡無道ノ奸計
 ヲ用ヒテ老父ヘンリーヲ説キコブレンズニ於テ相見シコトヲ請ヒ
 ケルニ老父ハ之ヲ信ジテ彼地ニ會シ大恩ヲ知ラザル逆子ヲ見テ覺
 エズ心悴キ身ヲ以テ其足下ニ投シ惘然トシテ呼ビテ曰ク嗚呼我が
 兒我既ニ罪ヲ天ニ得タリ其罰ヲ蒙ル固ヨリ我が分ナリ唯汝善ク汝

ノ事ヲ謹ミ遂ニ汝ノ名ヲ辱ルコト勿レ汝若シ子トシテ父ノ罪ヲ論
 ゼバ人ソレ之ヲ何トカ謂ハント逆子伴リテ悔悟ノ狀ヲ爲シ其罪ヲ
 謝シ陪從シテマエンスニ趣ント欺キテ父ノ從者ヲ遠ザケ忽チ父ヲ
 捕ヘテピンケン城ニ禁錮セリ是ニ於テマエンスコログテノ兩大僧
 正ウオルムスノ僧正ト共ニ城中ニ來リ帝ヲ要シテ其璽ヲ奪ハント
 セシニ帝ハ號泣シテ之ヲ免レンコトヲ願ケレトモ聽レサリシカバ
 老帝ヘンリー—是ニ於テ帝服ヲ着ケ堂々トシテ之ニ臨ミ世界ノ大帝
 シヤルレマンノ後嗣ヲ犯ス者アラバ之ヲ罰セントスル姿勢ヲ爲シ
 テ之ヲ威シケルニ逆徒ハ之ヲ見テ初ハ頗ル異怖セシカトモ忽チ又
 其畏ルヽニ足ラザルゴトヲ知リ共ニ帝ヲ執ヘ盡ク帝王ノ璽章ヲ奪

ヒテ之ヲ逆子ヘンリー—ニ送リマエンスノ議院ニテ老帝ヘンリーヲ
 廢スルコトヲ決議レ之ヲ要シテ其位ヲ禪ラシメシニ老帝ハマエン
 スニ至リテ議院ニ臨マバ府民猶義ヲ守リ己ヲ水火ノ中ニ援ハント
 思ヒ彼地ニ趣カシコトヲ請ヒシカトモ逆徒モ亦巳ニ府民ノ異議ヲ
 慮リテソノマエンスニ至ルコトヲ許サズインゼルヘ—ムニア全國
 ノ華族ト相會シ帝ヲ此ニ迎ヘシニ帝乃チ至リ嚴父ノ身ヲ以テ逆子
 ヘンリー—ノ足下ニ平伏シ血涙雨ノ如ク之ニ向ヒテ頰白ノ老ヲ憫メ
 ト哀請シケルニ人面獸心ノヘンリー—及ビ諸逆徒之ヲ見テ更ニ惻然
 タル色モナク之ヲ要シテ位ヲ逆子ニ譲リ禪讓ノ證書ニ記名セシメ
 タリ夫レ歐洲ノ暗世ニ當リテ殘忍暴戾其例多シト雖モ人情ヲ破リ

非道ヲ行ヘル未ダ此ノ如キ者ハアツザリキ逆子立ツ之ヲヘンリー
 五世ト稱スライン地方ノ諸州ハ老帝ヘンリーノ位ヲ復セント欲シ
 兵ヲ起シテヘンリー五世ヲアルサスニ破レリ老帝之ヲ時トシ嘗テ
 多ク恩ヲ加ヘタルスパイルスノ寺院ノ僧正ニ尺寸ノ淨地ヲ得テ其
 墓所トナサンコトヲ請ヒケルニ僧正之ヲ罵リテ曰ク汝法王ニ罪ヲ
 得タリ我何ゾ汝ニ恩ヲ施ス可ンヤト此時ニ當リテ老帝ヘンリー貧
 窶甚シク其鞋ヲ賣リテ僅ニ口ヲ餵スルニ至リシガロルレーン深
 ク之ヲ傷ミ迎ヘテ之ヲ養ヒ兵ヲ舉テ逆子ヘンリーヲミューズ河上
 ニ撃テ之ヲ破レリ復逆子コログチヲ圍ミ攻メケルニ父ヘンリーハ
 レーザニ於テ命終リケリヘンリー將ニ死セントセシ時言フ正クシ

テ曰ク我盡ク我ガ兒ノ不孝ヲ許スト乃チ其佩ブル所ノ劔ト指環ト
 ナ取りテ之ヲ逆子ニ送レリ是ニ於テレーザノ僧正ノ允可ヲ得之テ
 ミューズ河中ノ一島ニ葬リタリ適^{カウゴレ}聖地ヨリ歸リタル桑門アリ後
 數年ノ間日夜ヘンリーノ墓ヲ守リシガ千百十年ニ至リ法王ヘンリー
 一ヲ許シテ宗門ニ復シケレバ其遺灰ヲ收メテスパイルスニ送リ之
 ト艱難ヲ共ニセシ貞妃ベルサノ墓側ニ改メ葬レリ

附錄第十四篇

第一十字軍ノ事

日耳曼帝ヘンリー一四世ノ代ニ當リテ第一十字軍ノ事起レリ此頃耶
 蘇教徒皆聖地ハ神子耶蘇ノ教ヲ説キ身ヲ殺シ蘇生セン所ナレバ若

シ彼ノ地ニ詣リテ禮拜スルトキハ必ス神ノ福ヲ享ント思ヒソノ教
 ナ信ズルコト深キ者多クハ迄ニ聖地ノ諸所ヲ巡禮シ其國ニ歸ルニ
 及テ粗氈ノ長套ヲ被リ巴勒斯且海濱ノ蚶殼ヲ以テ其肩ニ附ケ長杖
 ナ曳キ鋏ヲ以テ其下端ヲ覆ヒ大帽ヲ戴キ耶蘇ノ墳墓ニ觸レタル念
 珠ヲ把リ椰子ノ枯葉ヲ携ヘテ聖地ニ巡禮セシコトヲ表シケリ初メ
 亞刺比亞人ノ猶耶路撒冷府ヲ有セルヤ彼等皆耶蘇教徒ノ信心ナル
 コトヲ知り唯其巡禮ヲ禁ゼザリシノミナラズ又教徒ノ諸所ニ寺
 院ヲ立テ「セントザヨン」ノ病院ヲ起シ、ナ見テ力ヲ戮セテ之ヲ助
 ケ、ルガ後土耳其ト云ヘル種屬高加索山ヨリ出デ聖地ヲ領スルニ
 及テ穢惡ニシテ慈恩ナク耶蘇ノ墳墓ヲ辱メ耶蘇教徒ノ聖地ニ在ル

者ヲ敵視シ或ハ捕ヘテ奴隸ト爲シ或ハ虐殺暴斂シ其慘酷名狀シ難
 カリシカバ速カニ之ヲ歐洲ニ報ズル者アリテ法王グレゴリー七世
 モ早ク之ヲ知リシカトモ是時ヘンリー四世ト相争ヒシカバ之ヲ援
 フニ違ナク東帝アレキシスヨリモ使ヲ羅馬ニ遣ハシ巴勒斯且ニ於
 テ耶蘇宗徒艱難ヲ嘗ルノ狀ヲ報シ救援ノ事ヲ乞ヒケレトモグレゴ
 リーハ之ヲ聽シノミニテ遂ニ之ヲ果スコト能ハサリシガオルバン
 二世ノ立テ法王トナレルニ及デアレキシス再ビ使ヲ遣ハシ救世主
 ノ身ヲ殺シテ世ヲ救ヒシ所以ヲ述べ歐洲西部ノ同社モ亦宜シク力
 ヲ戮セテ夷狄ヲ攘ヒ聖墓ヲ洗淨スベキコトヲ説カシメシニ會、又
 一桑門アリ新ニ聖地ヨリ伊太利ニ歸レリ面貌瘦黑身ニ縲纒ヲ着ケ

疲驢ニ騎リ一手ニ十字ヲ把リ一手ニ簡牘ヲ捧ケ(此簡牘ハ殘虐ヲ受ケタル耶路撒冷ノ法教師長ノ委任狀ナリ)伊太利佛蘭西ノ各所ヲ巡行シ宣言シテ曰ク我聖府ニ在リテアツセンシヨノ寺院ニ禮拜セン時ニ耶蘇ノ聖靈忽焉トシテ顯レ出デ我ニ命ジテ汝疾ク汝ノ同社ノ所ニ至リ速カニ夷狄ヲ攘ヒ墳墓ノ汚辱ヲ雪メシムベシト云ヘリト此桑門サベールト云ヘリアミーンスノ人ナリ世人之ヲ呼テベールトルヘルメットト云フヘルメットハ桑門ノ義ナリベール口オアリ慷慨説諭シケレハ切ニ民心ヲ感動セシメテ聞ク者之ガ爲ニ涙ヲ垂レ若シ驥尾ニ附クコトヲ得バ水火モ避クル所ニ非ズト云ハザルハナカリシカバ法王オルバン二世モ今ハベールノ志ヲ成

サント欲シ乃チ伊太利ノピアセンザニ於テ宗門議院ヲ開キシニ會スル者雲霞ノ如ク之ヲ容ルベキ廣房ナク外庭ヲ以テ議場ト爲シタリ此時土耳其人ハ既ニ君士但丁諾格爾ノ對岸ニ陣シケレバアレキシス使ヲ遣シ援兵ヲ請ヒ此使モ亦此會ニ來シカバ法王ハ先ヅ之ニ接見シ然後會衆ニ向ヒ慨然トシテ外教ノ徒謬リニ東帝國ヲ侵ス我等同ク耶蘇ノ教徒タレバ義援ハスハアルベカラズト説キケルニ會衆多クハ命ヲ奉ジテ東帝國ヲ援ハント誓ヘリ千九十五年オルバン亞爾伯山ヲ踰エテ佛蘭西ニ入り僧俗ニ令シテ聖僧マーナン祭ヨリ後十九日(即チ十一月十九日)オーベルンノクレルモントニ於テ一般宗門議院ヲ開キ之ニ會セシメシニ前ニベールヘルメットノ

説諭ニ依リテ僧俗皆憤テ發シ白刃ヲモ蹈ム可キ勢ナリケレバオル
 バンノ令ヲ聞クヤ乃チ相爭ヒテ會場ニ馳セ來リ期日ニ及テ之ニ集
 リタル者大僧正十四人僧正二百二十五人住持四百人其他僧俗ハ幾
 百千ナルコトヲ知ラズ府傍ノ平野ヲ以テ議場トナレ法王オルバン
 二世先ヅ宗門議院ノ常儀ヲ行ヒ次ニ佛蘭西王ヒリツプノ己ニ從ハ
 ザルヲ以テ其宗門ヲ禁ズルコトヲ令シ然ル後會衆ニ臨ミ愾然トシ
 テ之ニ説テ曰ク蕃夷我が聖地ニ猖獗シ我が教徒ノ此ニ巡禮スル者
 ナ殘虐シ神宮ヲ以テ馬廐トナシ犬狗ヲ放テ救世主ノ墓ヲ穢シ其教
 徒ヲ窘メ拷掠鞭撻至ラザル所ナク其甚キニ至リテハ遂ニ之ヲ死ニ
 致セリ今汝會衆善ク我命ヲ用并此醜夷ヲ掃攘シ我が寺院ノ汚辱ヲ

雪メズンバ惡ンヅ明神ノ怒ヲ起サヘルコトヲ免レンヤト語將ニ終
 ラントスルニ當リテ滿會大呼シテ是神意ナリト云ヒ其聲雷霆ノ如
 ク會中僧俗多クハ誓テ軍ニ從ヒ醜夷ヲ攘ハント乞ヒケレバ乃チ出
 軍ノ準備ヲ爲シ赤毛布ヲ裁シテ十字ヲ製シ之ヲ每兵ノ肩頭ニ附ケ
 テ十字軍ノ表號ト爲セリ既ニクレルモントニ於テ十字ヲ受ケシ徒
 其隣里朋友ニ逢ヘバ必ズ力ヲ尽シテ同ク十字ヲ受ケ神兵ニ從ハン
 コトヲ勸メケレバ佛蘭西英吉利伊太利三國ノ人民雷同唱和シ皆
 矛ヲ執リテ神旗ノ下ニ就カント期セリ但シ此時十字軍ニ入リシ者
 多クハ臣屬奴隸ノ徒ニシテ皆其君主ノ殘暴ヲ避ケン爲ニベイトル
 ノ説諭ヲ幸トシテ只管軍ニ出ント欲セン者ナリケレバ先テ爭ヒテ

ペートル及ピウルテルノ旗下ニ集リタリワルテルハベレヂコーノ人ニシテペートルノ助官タリ貧困ニシテ志ヲ得ルニ急ナルヲ以テ時人之テ嘲リ名ツケテロルド、オブ、ジクランドト稱シタリ貧國侯ノ義ナリ

歐洲ノ華族モスル景況ヲ見テ稍功ヲ羨ムノ心ナキニアラサリシカトモ彼ノ奴隸輩一時ノ僥倖ヲ求メテ軍伍ニ入ルトモ素トヨリ兵事ニ習ハズ其功ヲ奏スルコト能ハザルハ必然ナレバ其敗レ歸ルヲ待テ乃チ十字ヲ取リテ土耳其人ノ猖獗ヲ止メ聖墓ヲ汚穢ノ中ニ拔キ獨リ其功名ヲ專ニセント意ヲ決シ鄉國ニ止リテ此軍ニ從ハザリキ千九十六年ノ春ペートルワルテルノ兩將其烏合ノ兵ヲ率井テワイ

ン河ヲ渡リ日耳曼ニ入りケルニ日耳曼ノ民固ヨリ佛蘭西人ヲ敵視シ今又其兵卒ノ貧窶ニシテ籃纒全身ヲ覆ハズ兵仗粗惡實用ニ供スベカラザルヲ見テ皆之ヲ輕侮シ其募ニ應ゼシ者ハ唯、ストワスボルグノ僧正スカツフコーヘンノ住持二人ノミナリシカトモ十字軍ハ進ミテ匈牙利ニ入りケルニ大ニ土人ノ爲ニ擊破ラレテ全軍殆ト殲キタリ初メ日耳曼人ハ十字軍ノ身ヲ殺シテ教祖ノ墳墓ヲ掃ハント欲スルヲ見テ狂者カト怪ミ信惑ノ凝結スル所遂ニ此ニ至リシコトヲ察セズ頗ル奇異ノ思ヲ爲シケルガ十字軍ノ僅カニ日耳曼ヲ去ルヤ人民忽チ十字軍ノ論辯動作ヲ追懷シ俄ニ欽慕ノ心ヲ起シ慨然之ニ從ハント欲スル者アリケルガ此氣一タビ發シテ火ノ原ニ燃ユ

ルガ如ク一人唱ヘテ萬人和シ皆挺ヲ製シテ土耳其人ヲ撻タント欲シ更ニ初メ十字軍ヲ嘲リシニモ似ズ間、又怪誕ノ説ヲ作爲シ天變地異ヲ説キ或ハシャルレマンノ遺骸エーズラ、シャルベルノ墓中ヨリ躍出セリト云ヒ或ハ天神シャルレマンノ遺骸ニ命シテ十字軍ノ大將トナセリト云ヒ或ハ空中ノ火氣兵隊ノ狀ヲ爲シ争鬪シテ血雨ヲ降シ之ヲ見テ恐怖セル農夫ソノ爲ニ汚サレタリト云ヒ物情洵々言ハン方ナク幾クモナク桑門ゴツツナヨーク僧ウオルクマルレーニンゲン侯イミナヨー等各、日耳曼ノ臣屬奴隸ヲ煽動シ之ヲ率井テ相會シ猶太人ノ祖先ハ教祖ヲ磔殺シタレバトテ先ツトレーヴスコロダチマエンスノ諸所ニ於テ猶太人ヲ襲ヒ其一萬二千人ヲ殺シ

乃チ進ミテ匈牙利ニ至リシニ前ニベートルノ率井タル十字軍ノ如ク土人ノ爲ニ擊破ラレ死亡スル者其數ヲ知ラザリキ
斯ク臣屬奴隸ノ兵ハ再ビ破レシカバ歐洲ノ華族ハ是即チ我等ノ功名ヲ成スヘキ秋ナリトテ軍備ヲ爲シニケリ就中最モ此軍ニ著名ナリシ者ハローウエル、ロルレーン侯ナルブイルロンノゴットフレー其弟フランドルス侯バルドウ井ン佛蘭西王ノ弟ヒュー、ド、ヴェルマンドイス英吉利王ウキルレム、ゼ、コンケロルノ弟ノルマンデーノロベルトダレント侯ボーマンドナリダレント侯ノ甥タンクレットハ當時ノ勇將ナリシガ亦之ニ從ヘリロルレーン侯ハ八万人ヲ率井テ道ヲ匈牙利ニ取り向フ所前ナク遂ニ君士但丁諾格爾ニ至リシニヒ

ユーロ、ヴニルマンドイスモ佛蘭西ノ精兵ニ將トシテ既ニ此ニ在リ
 他ノ諸軍モ漸次之ニ會シケレバ十字軍ノ兵殆ト六十万人ニ至リテ
 就中佛蘭西ノ兵最モ多カリシカバ東方諸國皆十字軍ヲ呼デフラン
 クスト稱シ土耳其人ハ今ニ至リテモ猶歐羅巴人ヲ概稱シテフラン
 クスト云フナリ十字軍フイルロンノゴットフレエヲ推シテ元帥ト
 爲セリゴットフレエハ性端正ニシテ雄畧アリ深ク法教ヲ信シ善ク
 其任ニ堪ヘ大ニ衆ノ望ニ副ヘリ

東帝アレキシスタレント侯ボーマンドト隙アリゴットフレエ既ニ
 之ヲ和解シ乃チ兵ヲ率井海ヲ渡リテアジャ、マイノルニ入りメート
 ルヘルミットニ會セリベートルノ兵ハ既ニ匈牙利ニ敗レ存セル者

實ニ僅小ナリキゴットフレエ兵ヲ進メテ先ヅバイシニヤノナイス
 府ヲ圍ミケルニ府兵死力ヲ以テ之ヲ守リシカトモ十字軍奮戰シテ
 之ヲ拔キ乃チ聖地ニ向ヒテ南進シイデアツサ府ヲ取り之ヲダレント
 侯ボーマンドニ與ヘ次ニアンテオク府ヲ圍ミシニ府民善ク拒キ前
 ノ兩府ニ比スレバ之ヲ拔クコト更ニ難ク攻兵頗ル苦ミケルガ敵中
 ニ内應スル者アリシカバ其謀ヲ用井テ遂ニ之ヲ取りケリ然レトモ
 十字軍ノ未ダ其疲ヲ愈ヤサマルニ土耳其ノ大軍攻來リ之ヲ圍ムコ
 ト數重十字軍糧食既ニ尽キ僅ニ腐物ヲ得ルノミナリケレバ將ニ門
 チ開キ降ヲ乞ハントセシニ僧ベートル、バルセレミート云フ者衆
 ニ臨ミ大呼シテ曰ク夢ニ我ニ告ル者アリテ該府ノ古寺ニ救世主ノ

礮鎗ヲ藏メタリ若シ之ヲ得バ必ズ能ク敵ヲ破ラント云ヘリト因リ
 テ大ニ索メテ一舊鎗刃ヲ地中ニ得ケレバ乃チ之ヲ壁上ニ建テ十字
 軍ノ牙旗トツナシニケル

是ニ於テ全軍大ニカヲ復シ乃チ門ヲ開テ土耳其其ノ軍ヲ衝キ其銳當
 ルベカラズ十字軍ノ云フ所ニ從ヘバ此時天使ミナユール正シク顯
 ハレ出デ天兵ヲ率ヰテ十字軍ヲ援ヒシカバ土耳其其ノ兵多シト雖モ
 大ニ敗レ尽ク輻重ヲ棄テ、走りケレバ十字軍ハ之ヲ收メ再ビ兵ヲ
 進メシニ行路艱難飢餓疾病交々至リ敵ノ攻撃止ム時ナカリシガ終
 ニ遙ニ耶路撒冷ヲ望見スル所ニ至リシカバ全軍皆跪坐シテ大地ヲ
 吸ヒ遙ニ聖所ヲ拜シケリ此時ニ當リテ十字軍疾病戰鬪逃亡等ニ由

リテ其兵大ニ減ジ殲ス所唯騎兵六千五百人歩兵二萬人ニ過ザリシ
 ニ耶路撒冷ヲ守リタルサラセンスハ其兵四万人ニ下ラズ加フルニ
 耶路撒冷城郭極メテ堅ク十字軍ノ疲兵ヲ以テ之ヲ攻ムルトモ其勝
 ヲ得ル十其一ヲ保ツコト能ハズ然レトモ十字軍皆教祖ヲ信ズルコ
 ト厚ク皆天神ノ己等ヲ助クルコトヲ信シテ強敵ヲ見ルモ怖ル、色
 ナクペーートル、ヘーミット遂ニ耶蘇ノ苦痛セシ所ノオリウス山ニ登
 リ慨然トシテ衆ニ臨ミ大聲ヲ以テ共ニ大義ヲ尽サンコトヲ説キ乃
 チ兵ヲ放テ城ヲ攻ムルコト二日間守兵善ク防グ大石ヲ降シ熱脂ヲ
 注ギ或ハ「グレシヤン」火ト名ツケタル燄藥ヲ放チテ攻兵ノ正頂ヲ
 撃ナケレハ攻兵頗ル之ニ苦ミケレトモ深ク神助ヲ受ルト信シテ遂

ニ屈撓セズ其奮戰恰モ人爲ニ非ザルガ如クナリレニ忽チ云フ者アリオリーヴス山ニ一像顯ハレ出テ衣裳光明楯ヲ以テ耶路撒冷ヲ指ス者ノ如シト全軍之ヲ聞テ鬨聲ヲ爲シ(神我ヲ護ス)(神之ヲ欲ス)ト呼ビ門ヲ破リ壁ヲ踰エ遂ニ之ヲ拔キケルガ守兵モ亦猶烈ク戰ヒテ屈セズ一步モ退カシト争ヒ滿街尽ク骸屍トナルニ至リテ初テ走りケリ是ニ於テ十字軍皆幅履ヲ脱シ露頭跣足行伍ヲ正シ流血ノ中ヲ歩シ耶蘇ノ墳墓ニ詣リ明神ノ加護ニ依リテ斯ル大捷ヲ奏スルコトヲ得タリト謝シタリ是ニ於テ耶蘇ノ墳墓初メテ野蕃ノ汚辱ヲ免レ十字軍ノ志遂ニ達スルコトヲ得タリ

十字軍ハ既ニ耶路撒冷ヲ取り一政府ヲ置ザレバ之ヲ保ツコトヲ得

ベカラズトテ乃チ會議ヲ開キ耶路撒冷ヲ以テ王國トナシブイルロシノゴットフレーチ推シテ王トナシケルニゴットフレーチ信心極メテ深ク耶路撒冷ハ救世主ノ荆棘ノ冠ヲ受ケタル所ナレバ此地ニ王トナルニ忍ビズトテ唯、聖墓守護ノ官號ヲ受ケタルノミイダツサアంతアオクヲ以テ二侯國トナシボーモンドハイデツヂヲ得ゴツトフレーチノ弟バルトウインハアంతアオクヲ得タリゴッドフレーチ後二年ニシテ死セリ苦戰ニ由リテ疾ヲ得タルナリ弟バルトウイン嗣ダリ後數年再ビ「セントゲヨン」ノ病院ヲ起シ諸武士志ヲ合セテ庵寺ノ誓ヲ爲シ妻帯ヲ禁シ教法ニ從ヒ貧窶ヲ常トスルコトヲ約シ社ヲ立テ病院武社即チセントゲヨンス武社ト名ツケテ病者ヲ看護セ

リ此頃又ヒュード、ビュエンスゴットフレー、ド、セントオメル兩人別ニ武士社ヲ結ビソロモンノ神宮ノ墟ヲ以テ其基址トナシ之ヲ神堂カペル武社ト名ツケタリ此社ニ入ル者ハ通例庵寺ノ誓ノ外別ニ外教野蕃ヲ防ギ死ヲ以テ聖墓ヲ守ランコトヲ誓ヘリ

第十五篇

ヘンリー―五世
ロアール及ヒホーヘンストー―ヘンノコンラ
ド三世ノ事

ヘンリー―五世位ニ即クヤ乃チ兵ヲ率井亞爾伯山ヲ踰エテ羅馬ニ至リ法王バスカル二世ヲ娶シテ其僧官ヲ進退スルノ權ヲ奪ヒケルガソノ羅馬ヲ去ルニ及テ羅馬人遂ニ法王ヲ娶シテ尽クヘンリー―ノ約

ヲ絶ナソノ門宗ヲ禁ゼシメタリ千百二十二年ヘンリー―再ビ法王ト約ヲ爲シ各、ソノ權限ヲ定メ凡ソ僧正ヲ選任スルニハ該僧正區ノ僧徒カネツク(之ヲ區社ト云フ)ヲシテ之ヲ會選セシメ帝或ハ親ラ之ニ臨ミ或ハ代理員ヲ遣シテ之ヲ監セシメ會中若シ爭論ヲ生ズルコトアラハ則チ之ヲ聽斷シ既ニ僧正ヲ選ヘバ先ツ之ヲシテ誓ヲ取リテ日耳曼帝ト君臣ノ義ヲ結バシメ次ニ法王僧官ノ表號トシテ之ニ指環及ヒ杖ヲ與ヘ之ヲ官ニ任ズベシト定メタリ之ヲウオルムスノ約ト名ツケタリ後三年ヘンリー―五世オットレクトニ於テ死スサリ―家ノ統是ニ至リテ絶エタリ初メヘンリー―英吉利王ヘンリー―二世ノ女マナルダヲ娶リマナルダノ弟英吉利ノ太子ウヰルリヤムノ死ニ由リ

テ英吉利王ノ位ヲ兼有スベカリシガ斯ク早ク死シケレバ後マナル
 ダノ繼夫ノ子ヘンリー、フランタセント英吉利王ノ位ヲ嗣ゲリヘン
 リー五世父ニ順ナラザリシカトモ性果敢ニシテ百敗其身ヲ殺スヘ
 キモ其性ヲ變ス可カラズヘンリー子ナカリシカバ遺書シテ位ヲホ
 ーヘンストーヘン家ニ讓レリ

ヘンリー五世ノ死既ニ國中ニ聞エケレバ全國ノ諸華族皆後嗣ヲ選
 定セントテ其臣屬武士ヲ率テウオルムストマエンスノ間ライ
 ン河ノ左岸ニ會セリ此時日耳曼ノ強國四アリ曰クサキソニー曰ク
 ス
 ワビヤ曰クフランコニヤ曰クバヴリヤ是四國ノ兵此ニ會スル者大
 凡六萬人皆兵仗銳利軍需充足セリ乃チ選擇ノ方法ヲ定メ四國各華

族十人ヲ選ビ之ヲシテ各更ニ一人ヲ選バシメ合セテ四人之ヲ選帝
 官トナシ以テ後嗣ヲ選バシメタリ此時先帝ノ義弟スワビヤ侯ホー
 ヘンストーヘンノフレデリック不敬ニシテ儀ヲ失ヒケレバ選帝官
 乃チフレデリックヲ置キテサアリンブルク侯サキソニーノロター
 ルヲ選ベリロタール位ニ即クヤ乃チウオルムスノ約ヲ廢シ自ラ帝
 王ノ權ヲ殺ギ法王ノ臣屬トナリテ法王ニ帝王ヲ廢立スルノ權ヲ與
 ヘケレバ法王ハ此事ヲ無窮ニ傳ヘント欲シ「ヴザカン」法王ノ宮ノ壁ニ
 法王ノ足下ニ日耳曼帝ノ跪坐セル狀ヲ寫シ其下ニ國王永ク法王ノ
 臣屬トナレリト銘セリ蓋シ此時ロタールハ其兄弟スワビヤ侯フレ
 デリックフランコニヤ侯コンラド其他ホーヘンストーヘン家ノ黨ト

兵ヲ搆ヒシ故ニ法王ノ援ヲ得ント欲シテ斯ハ謠ヒシナリ
 ロテール在位ノ間多クハフレデリック及ヒコンラドト兵ヲ搆ヒ千
 百三十五年ニ至リテ初メテ休戦ノ約ヲ結ビ共ニ兵ヲ解ケリ後二年
 ニシテ遂ニ亞爾伯山ノ農家ニ死セリ是ニ於テ日耳曼全國兩黨ニ分
 レ一黨ハウエルフ家ノ一族ニシテバヴリヤ兼サキソニー侯ヘンリ
 ーゼ、ブラオドヲ助ケ法王之ニ與セリ一黨ハウエープリングル家
 ノ一族ニシテホーヘンストーヘン家ヲ保護セシガウエープリング
 ル族コブレングズニ於テ議院ヲ開キホーヘンストーヘンノコンラド
 ナ選ビテ日耳曼王トナシ、ニヘンリーゼ、ブラオドハ初メ位ヲ嗣
 グベキ者ハ己ヲ置テ他ニアルコトナシト思ヒケレバ是ニ於テ大ニ

望ヲ失ヒ或ハコンラドニ抗セント思ヒ或ハ之ニ從ハント惟ヒ暫ク
 策ノ出ル所ヲ知ラザリシガ遂ニ帝璽(ロテールノ死後ヘンリーー之
 ナ有セリ)ヲ捧ゲテコンラドニ獻シ永ク位ヲ爭フコトヲ止メニケ
 リ然ルニコンラドハ令ヲ發シテ諸侯ノ兩國ヲ兼有スルコトヲ禁シ
 ヘンリーーニ命ジテサキソニーヲ棄テシメシカバヘンリーー大ニ怒リ
 乃チ臣子ノ義ヲ絶チタリ是ニ於テコンラド令ヲ發シテヘンリーーノ
 所領ヲ沒收シバヴリヤヲ墾地利ノレオゴルトニ與ヘサキソニーヲ
 アンハルトノアルベルトゼ、ビルニ與ヘタリ此時バヴリヤスワビ
 ヤ兩國ノウエルフ家ノ臣屬ハ君家ノ爲ニ力ヲ尽シウエープリング
 ル家(ホーヘンストーヘン家)ト兵ヲ搆ヒヘンリーーノ弟ウエルフハ

ウルデンブルグノウエーヌボルグ府ニ入り郭ヲ閉ヂテ之ヲ守リレ
 ニコンラド之ヲ圍ミケレトモ久シク支持シケルガ後力尽キテ降ヲ
 乞ヒ且約シテ曰ク府中ノ婦女ハ一切之ヲ殺スコトナク且每婦其力
 ニ從ヒ其所有物ヲ負擔シテ出ルコトヲ得ントコンラト之ヲ聽シ既
 ニ璽ヲ契書ニ捺シケレバヘンリーノ夫人乃チ郭門ヲ開キヘンリー
 チ負ヒ他婦亦各其夫ヲ負ヒテ出デケレバコンラドノ兵之ヲ見テ
 大ニ悲ミ近臣皆コンラドニ醜奴敢テ陛下ヲ誑カス陛下義約ヲ踐ム
 ベカラズ速ニ之ヲ捕ヘンニ如カシト説キケルニコンラドハ性寛厚
 ナレバソノ夫婦相愛スル狀ヲ見テ深ク之ニ感シ近臣ノ言ヲ用非ズ
 頗ル之ヲ辱メテ曰ク帝王ハ言ヲ食マズト今ニ至ルマテ府女ノ夫ヲ

負ヒテ過シ嶺ヲ名ツケテウエーヌベルトリート云フ婦義ノ意ナリ此
 戰ノ後日耳曼ノ兵其古來用非ン所ノ噉聲「カイリー、イレーシヨ
 ン」ヒテ廢シ各其黨ノ暗號ヲ用非一黨ハウエルフ一黨ハウエープリ
 ングルト呼ビケリ

ウエーヌスボルグノ陷リシ後幾クモナクシテヘンリー死シ日耳曼
 再ビ治平ニ趣ケリ是ニ於テコンラドハヘンリーノ子ヘンリー、ゼ、
 ライオンノ心ヲ慰メント欲シ之ヲサキソニーニ封シ改メテアルヘ
 ルト、ゼ、ビールニ地ヲ與ヘ此地ヲサキソン、マーケスト名ツケタリ
 プランデンボルグノマークノ名此ニ胚胎セリ千百四十九年「ホワ
 イトサンデー」祭ニ當リコンラド十字軍ヨリ歸レリ後三年ウエル

フナブルスノローゼルト共ニ反テ謀リシカバコンラドハ之ヲ征セ
ントテ頻ニ準備ヲ爲シケルガ毒ニ中リテ死セリコンラドノ銘ニ曰
ク少ク言ヒ多ク省ミルト

附錄 第十五篇

第二十字軍ノ事

日耳曼國內訌ニ苦ムコト大凡五十年人民皆既ニ聖地ノ事ヲ忘レケ
ルガ千百四十四年ニ至リ聖地ヨリ檄ヲ飛シテ速ニ十字軍ヲ起スニ
非サレハ必ス野蕃ヲシテ再ビ聖地ヲ蹂躪セシムルニ至ラント告ケ
タリ抑バルドウキン一世及ヒ其子バルドウキン二世ノ時ニ在リ
テハサラセンス(回教人)耶蘇教徒ノ己ガ郷里ニ植民スルヲ見テ之

ヲ惡ミシカトモ亦自顧ミテ我等教ヲ犯シ神ノ怒ヲ成セシ故ニ此辱
ヲ受ルニ至レルナリトテ歎シテ其耻ヲ忍ヒケルガバルドウキン三
世ノ位ニ即クニ及テ年僅ニ十三其部下ヲ駕御スルコト能ハズ諸將
校皆其私ヲ逞クセント欲シ日耳曼佛蘭西伊太利英吉利ノルマン
デー希臘等ノ各國ノ兵士相互ニ吞噬セント欲セシノミナラズ又
共ニイデッサ侯アンテオク侯ノ驕傲病院武社神堂武社ノ不遜ヲ惡
ミ之ヲ視ルコト讐敵ノ如ク又第一十字軍ノ兵士亞刺比亞女ヲ娶テ
多ク雜種ノ子ヲ生ミ概シテ之ヲブルランスト名ツケルガ此子自
ラ聖地ニ生レタルヲ以テ他人ヲ目シテ掠奪人トナシ之ヲ輕侮シケ
レバ兵士之ヲ惡ムコト心肝ニ徹シ遂ニ外侮ヲ禦クコトヲ忘レテ兄

弟相闘クニ至リケレバサヲセンスハ之ヲ幸トシ再ヒ兵ヲ起サント
謀レリ

此頃又回教ノ教師諸所ヲ巡行シテ其教ヲ説キ神敵ヲ掃攘スルコト
ヲ論シケレハ土耳其人大ニ憤ヲ發シ諸所ニ社ヲ起シ各社其様ヲ異
ニセリト雖モ歸スル所皆耶蘇教徒ヲ掃攘セント期シタリ就中最モ
著キ者ヲ刺客社ト云ヒ其長ヲオールドマン、サブ、マオンテーント
云ヘリ此社ニ入ル者皆公然オールドマンノ命ヲ奉ジ耶蘇教徒ヲ刺
サント唱ヘオールドマン其怨ミ惡ム所ノ耶蘇教徒ヲ指示シ社員ニ
命ジテ之ヲ刺サシムルトキハ社員更ニ身命ヲ顧ミズ直ニ其人ヲ襲
撃セリ又バクダットノ「シユルタン」(王)ゼンキト云フ者アリ其害

ヲ爲スコトオールドマンニ比スレバ更ニ長ルベカリシガ大兵ヲ率
井タイデッササヲ圍ミ千百四十二年遂ニ奮戦シテ之ヲ拔ケリ

斯タイデッサ既ニ陥リ耶路撒冷ノ危キコト累卵ノ如クナル由速ニ
歐羅巴ニ聞エケレバ全洲物情洶々タリ此時ノ法王チユーゼニユス
三世ト云フクレールヴオーノベルナルド(ボルゴンデー)ノ桑門ニ
シテ信心凡ニ非スウエルフ家トウユープリングル家ニ説キ兩家ノ
争ヲ止メシ人ナリ)ヲ派遣シテ耶蘇教徒ニ説キ第二十字軍ヲ募ラ
シメタリ此時ノ佛蘭西王ラルーイス七世ト云フ嘗テシヤンペーン
ヲ征シ多ク其民ヲ殘殺シ後大ニ之ヲ悔イ快々トシテ樂マサリシガ
ベルナルドノ説ヲ聞キ我カ罪過ヲ償フ時至レリトテ大ニ悦ビ乃チ

兵ヲ率^レ井^テ聖地ヲ掃攘セント約セリ然ルニ日耳曼帝コンラドハ我
 既ニ聖地ヲ巡禮シタレバ死後神ノ福ヲ享クルハ必セリ今更ニ軍ニ
 出ルコトヲ要セザルベシト思ヒテベルナルドノ説諭ヲ聽クコトヲ
 欲セス軍ヲ出スハ大事ナレバ我擅ニ之ヲ斷ズルコトヲ得ズ必ズ華
 族ニ諮リテ然ル後之ヲ決セントア乃チスバイルスニ於テ議院ヲ開
 キケルニベルナルド乃チ之ニ臨ミ神壇ノ前ニ立テコンラドニ向ヒ
 慨然トシテ天神陛下ノ兄弟ヲ恤ミ之ヲ水火ノ中ニ拯フ其恩山ノ如
 ク其澤海ノ如シ陛下宜シク早ク之ヲ謝スベシトテ恰モ耶蘇ノ親ヲ
 訟廳ニ臨テ審判スル如ク切ニ之ヲ諭シケレバコンラド之ヲ聞テ大
 ニ感シ大呼シテ曰ク我正ニ神恩ノ至大至厚ナルコトヲ知ル我豈恩

ヲ知ラザル人トナランヤト乃チ急ニ出陣ノ備ヲ爲シ千百四十七年
 ノ春ニ至ラバ乃チ發セント決シケルニ甥フレデリックキ舊敵ウエル
 フ其他諸人多ク之ニ倣ヒ兵ヲ舉テ之ニ從ヒケレバコンラドノ兵大
 凡六萬人ニ至リソノ保護ヲ得テ聖地ニ詣ラントテ之ニ從フ者ハ其
 數ヲ知ラズ是ニ於テ其國ヲ發シテ匈牙利ヲ過キ遂ニヘルネスボン
 ドノ海峽ニ至リシニ海邊諸澤風土愛スベシ因リテ暫ク陣ヲ止メ聖
 母降誕祭^{マリアノイヴ}ヲ行ハントテ其備ヲ爲シケルニ天氣忽然トメ變シ大雨銀
 河ヲ決スルガ如ク河流漲溢シテ十字軍ノ陣所俄頃ニ湖ヲ爲シ兵馬
 天幕糧食財貨多クハ流失シ巡禮者ノ死スル者千ヲ以テ數ヘタリ初
 メ十字軍紀律ナク士卒橫暴ニシテ希臘人之ガ爲ニ苦ミケレハ其水

災ニ罹レルヤ希臘人之ヲ見テ是天神ノ罰ヲ降セルナリトテ頗ル怨ヲ報イシ思ヲ爲シケリ十字軍ハ圖ラズ此水災ヲ受ケ困難言ハン方ナカリシガ幾クモナクシテ軍備ヲ復シヘルレスボントテ渡リテ亞細亞ニ入リシニ嚮導ノ爲ニ欺カレ路ヲ失ヒテ曠地ニ入り糧水兩ナカラ絶エ炎熱焚クカ如ク或ハ饑渴ノ爲ニ死シ或ハ暑氣ノ爲ニ死シ前後死者百ヲ以テ數ヘタリ然ルニ所在市府皆門ヲ閉ザテ入レス十字軍之ニ食ヲ乞ヘバ府民籃ヲ垂レテ金ヲ要シ金ヲ投スレバ籃ヲ引テ之ヲ取り易フルニ粒食ヲ以テシ食中屢石灰ヲ混シタリ十字軍之ヲ食テ死ニ至レル者少カラズ殆ト辛苦ニ堪ヘサリシガ一日嚮導ヲ見ズ因リテ之ヲ索レドモ得ズ蓋シ嚮導土耳其人ト通シ故サヲニ

走リシナリ此所アイコニュームヲ距ルコト遠カラズ幾クモナクシテ土耳其ノ兵忽然ト顯ハレ十字軍ヲ圍メリ此日日食シテ晝日晦冥大ニ殺氣ヲ加ヘ慘澹ノ狀想フベキナリ

然レトモ十字軍ハ更ニ屈セズ平生ノ勇氣ヲ發シ敵兵ノ己ヨリ多キコト數倍ナリト雖モ遂ニ圍ヲ潰シケルガ鏖戦ノ間死スル者極メテ多ク殘兵僅ニ七千人ニ過キサリシカバコンラドモ今ハ力盡キ乃チ兵ヲ退ケントテ敗兵ヲ收メテナイスニ至レリ時ニ佛蘭西王ルーイスモ希臘人ノ報告ニ由リテ日耳曼兵既ニ大利ヲアヂヤマイノルニ得タリト聞キ共ニ功名ヲ競ハントテ兵ヲ進メテ亦既ニナイスニ在リケルガ厚クコンラドヲ待シ大ニ其勞ヲ慰メタリ然ルニ佛蘭西ノ

兵士ハ之ニ反シ日耳曼ノ兵ノ敗レタルヲ見テ深ク之ヲ嘲ケリ倨傲
 ヲ以テ之ニ接シケルガ未ダ數日ナラズシテ佛蘭西ノ斥候土耳其人
 ニ破ラレ一隊殆ト殲キ因リテ亦己ムコトヲ得スシテ兵ヲ退ケシカ
 バ日耳曼人モ亦之ヲ嘲リ前日ノ辱ヲ報イケル

コンラド病ニ罹リテ憂悶遣ル所ナク遂ニ君士但丁諾格蘭ニ退キ衆
 ヲ集メテ議シテ曰ク陸行シテ巴勒斯且ニ至ラントスレバ徒ニ兵士
 ヲ失フノミ海ニ航シテ直ニシーリヤノ岸ニ登ルニ如スト是ニ於テ
 コンラドルーイスト共ニ船ニ乗シテアンテオクノ側ニ上リシニ之
 ニ從フ兵士甚タ少ク其聖地ニ入りシヤ之ヲ巡禮者ト名ツクベク軍
 卒ト名ツケ難キ勢ナリシカトモ兩王更ニ屈スル色ナク誓テ共ニ先

耻ヲ雪ガント欲シ來レル所ノ巡禮者ニ兵仗ヲ帶ハシメ遂ニダマス
 カスノ堅城ヲ撃テ先ヲ爭ヒテ血戰シコンラド自ラ土耳其ノ兵ト戰
 ヒ一撃シテソノ頭手ヲ斷ナタリ惜哉十字軍紀律嚴ナラズ士卒相爭
 ヒ希臘人神堂武社又皆反テ謀リシカバ兩王己ムコトヲ得ズ遂ニ圍
 チ解キタリ第二十字軍ノ時雙鷲ヲ以テ日耳曼ノ帝章トナセリ蓋シ
 此軍ハ東西兩帝ノ力ヲ合セテ起シ、所ナルニ由リテ共ニ雙鷲ヲ以
 テ章トシ後兩家共ニ雙用シ墮地利帝ハ日耳曼帝ヲ嗣キ魯西亞帝ハ
 希臘帝ヲ嗣キケルヲ以テ今ニ至ルマテ兩國猶之ヲ以テ國章トナス
 ナリ

第十六篇

フレデリック一世ノ事

コンラド三世將ニ死セントスルニ當リテ其子猶幼カリシカバ國家多事ノ際善ク萬機ヲ統フルコト能ハザルヲ察シ選帝官ニ薦メテ甥フレデリックヲ選バシメタリフレデリックノ父ハコンラドノ兄弟スワビヤ侯フレデリック母ハバヴリヤノヘンリーゼブラックノ女デユデスニシテ父ハウユープリンゲル家母ハウエルフ家ナリケレバ人民フレデリックヲ選ヒテ位ヲ嗣ガシムルトキハ久シク血ヲ流シタル兩家ノ争モ忽チ止ムベシト思ヒ遂ニフランクフォルトニ於テ之ヲ選ビ後五日エーズラ、シャベルニ於テ例ニ遵ヒ壯大ノ式ヲ以テ即位ノ禮ヲ行ヘリ實ニ千百五十二年三月十日ナリフレデリ

ックキ身材長大骨格雄偉正ニ日耳曼男子ノ眞骨ヲ存シ髮美ニシテ短ク捲縮シテ額頭ニ垂レ額鬚ク色白ク青眸銳射智勇自ラ顯ハレ顔色概シテ嚴確ナリト雖モ口角彫ルガ如ク愛容掬スベク風彩之ガ爲ニ媚雅ナリ鬚髯極メテ赤シ因リテ伊太利人之ヲ稱シテバルバロッサト云ヘリ朱髯ノ意ナリ即位ノ時齡正ニ三十既ニ再ビ十字軍ニ出デ大ニ聲名アリ第二十字軍ノ聖地ニ寤メラル、ヤフレデリック艱苦經ザル所ナク此ニ由リテ身體強壯鐵石モ且比スベク寒暑モ之ガ害ヲ爲スコト能ハズ饑渴モ之ガ病ヲ生ズルコト能ハズ加フルニ承ク土耳其人ノ攻撃ヲ受ケ臨機果決ノ性ヲ養ヒ事ヲ處スルニ他人ヲ恃マズ專ラ獨斷ヲ貴ビ自ラ以爲ク我が令ヲ發スル一朝ノ暴慮ニ出ル

ニ非ズ常ニ精思ノ餘ニ發スト故ニ令スル所必ス之ニ從ハシメ毫モ
 假借セズ若シ無智ノ君王ヲシテ此ノ如クナラシメバ其殘賊ノ名ヲ
 受ルヤ必セリ幸ニフレデリックキ神武睿智ナルヲ以テ此ニ至ラザル
 コトヲ得タリフレデリックキ法教ヲ貴ブ然レドモ法王ノ人ノ精靈ヲ
 束縛シ宇宙ヲ統御セント欲スルヲ喜バス斷然ソノ非ヲ知リシカト
 モ亦平生ノ敏捷ニ背カズ賢クモ坐シテ法王ト爭ヲ開クトモ其事ヲ
 成スベカラズ直ニ羅馬ニ至リ之ト面議スルニ若カザルコトヲ圖リ
 急ニ之ニ抗セズ先ツ内國ヲ定メ然ル後伊太利ニ入ラント欲シ乃チ
 其世讐サキソニー侯ヘンリー、ゼライオンニバヴリヤチ與ヘント
 約シ再ビ王家ニ臣屬タラシメ既ニ内患ヲ治メシカバ是ニ於テ斷然

法王ノ命ヲ拒ミ其使ヲ逐ヒテ伊太利ニ返ラシメ大ニ兵ヲ起シテ直
 ニ之ヲ征セント欲シ營ヲコンスタンスニ設ケ、ルニスウキツチエ
 ルランドノ三郡スクウサウーリー、オンテルウルデンノ民此ニ來
 リ軍ニ從ハンコトヲ乞ヒロンバルデーノロデー府モ亦使ヲ遣シテ
 フレデリックキノ足下ニ低頭シミラン人ノ殘暴ヲ認ヘ援ヲ得テ之ヲ
 征センコトヲ乞ヘリ是ニ於テフレデリックキ使ヲミランニ遣ハシ其
 殘暴ヲ責メ之ヲシテロデー人ノ損失ヲ贖ハシメケルニミラン人ハ
 大ニ怒リ其書ヲ裂キテ使ノ面ニ擲ナケルガ翌年フレデリックキ大軍
 ヲ率ヒテ亞爾伯山ヲ踰エピヤセンザノ傍ロンカグリヤ原ニ至リ陣
 ヲ營ミ長竿ヲ立テ竿頭ニ帝楯ヲ掛ケ令ヲ發シテ凡ソ我が日耳曼帝

國ノ臣屬タル者ハ速ニ此竿下ニ至リ臣屬ノ禮ヲ行フベシ若シ命ニ從ハザル者アラバ其地ヲ收メント云ヒシニ遠近皆風靡スル勢ナリケレバミラン人モ之ヲ聞テ大ニ畏レ肯テ命ヲ拒マズ使ヲ遣シテ銀四千「マークス」ヲ納レロデー及ヒクレモナノ地ヲ受ント乞ヒシカドモフレデリックキハ之ヲ聽サズ但シ以爲ラクミランノ堅城ヲ攻レバ多ク兵ヲ失ヒテ事ニ益ナシ先ツミランノ同盟トルトナ府ヲ抜カバ他ハ刃ニ血ラズシテ降ラント乃チ之ヲ圍ミ苦戦ノ後遂ニ之ヲ抜キケレバロンバルデーノ諸府之ヲ聞テ皆其地ヲ失ハンコトヲ畏レ争ヒテ使ヲ送り臣屬ノ禮ヲ行ヒシカバフレデリックキハバヴキヤ府ニ於テロンバルデーノ鐵冠ヲ受ケ遂ニ兵ヲ進メテ羅馬ニ至リ法王ヨ

リ帝冠ヲ受ケント欲セシニ此時羅馬人民兩黨ニ分レ一ヲ共和黨又ハ異端黨ト名ツケブレシヤノアルノルド共和黨ニ將タリシガ法王及ヒアルノルド皆使ヲフレデリックキニ送りテ其援ヲゾ求メケル此時若シフレデリックキチシテ俗情ヲ以テ之ヲ處セシムレバアルノルドノ乞ヲ許シ之ヲ以テ己ガ法王ノ驕傲ヲ威服スル爪牙トナスベカリシカトモフレデリックキハ素ト法教ヲ信シ其惡ミシ所ハ唯々法王ノ驕傲ニ在リテ法教ニアラザリシカバアルノルドノ使フレデリックキニ調シ古代羅馬人ノ德ヲ語リシニフレデリックキハ異端ノ黨元ト寺院ヲ改メ正スコトヲ欲スルニ非ズ唯々共和政府ヲ爲シ寺院ヲ覆滅センコトヲ謀ルナリト思ヒシカバ乃チ之ヲ罵リテ曰ク古代羅馬

ノ德今篤信敢爲我ガ徒ノ如キ者ニ屬ス何ゾ優柔詐僞汝ガ輩ノ如キ者ニ在ラシヤト因リテアルノルドヲ援ハズ法王黨ノ之ヲ攻撃スルニ任センニ羅馬ニ入りシヨリ纔ニ閱一夜ニシテアルノルド既ニ縛ニ就キ面色土ノ如ク旭日ノ正ニ登ルニ當リテ引レテ刑ニ就キシカバ府民之ヲ見テ皆愕然色ヲ失ヒフレデリツキニ抗スル者ナク法王ハアルノルドノ亂ヲ避ケテ府外ニ走リケルガ羅馬ニ歸リ「セントペートル」寺ニ於テフレデリツキニ帝冠ヲ授ケ即位ノ禮ヲ行ヘリ未ダ禮ヲ行ハザルニ當リテフレデリツキハ猶古禮ニ依リ法王ノ鏡ヲ執リ其驢ヲ下ルヲ助ケ、ルガ久シク寺院ノ暴制ニ服スルコト能ハズ一日法王ノ足下ニロテールノ跪坐シテ臣屬ノ禮ヲ行フ圖ヲ毀

テ法王ニ謂テ曰ク明神我が帝國ヲ起シ之ニ命ジテ寺院ヲ支持セシム寺院之ヲ察セズ却リテ帝國ヲ覆サント謀ル卿足テ以テ我ヲ踐マント欲シ既ニ之ヲ畫ニ寫シ又之ヲ書ニ筆ス是果シテ何事ゾヤ卿若シ永ク我ト好ヲ結ント欲セバ此畫ヲ毀テ此書ヲ消スベシト
 ステ府民ハ其將ヲ失ヒケレバ亦憤恚ノ心ナキコト能ハズ遂ニ兵ヲ舉テ叛セシカバフレデリツキ乃チ之ヲ征シ攻撃ノ際ニ當リ其馬俄ニ斃レ殆ド敵ノ爲ニ斬ラル、勢ナリシガヘンリー、ゼ、ライオン勇力ヲ振ヒ之ヲ引テ敵中ヨリ出シ遂ニ之ヲ既ニ死シタルニ助ケタリ是ニ於テフレデリツキ府民ヲ屠リ羅馬ヲ徇ヘケルガ風土兵士ニ適セズ死者相續キ久シク止ルコト能ハザリシカバ遂ニ之ヲ舍テ南ニ

進ミテノルマン^スヲ征セシニ風土ノ故ヲ以テ亦其功ヲ奏スルコト能ハザリシカバ兵ヲ退ケテ亞爾伯山ニ至リシニ伊太利ノ兵嶮ヲ要シテ路ヲ塞ギケルガフレデリッ^クキハ容易ク之ヲ破リ恙ナク日耳曼ニ歸レリ但シ此役ニ損失スル所頗ル多クシテ日耳曼ノ勢ヲ益シフレデリッ^クキノ名ヲ成セシハ實ニ僅々ナリキ

翌年フレデリッ^クキ日耳曼華族ノ互ニ吞噬スル者ヲ征シバラテン(官名)ヘルマンハ最モ亂ヲ好メルヲ以テ之ヲシテ一犬ヲ擔ハシメ一英里ノ所ニ歩セシメシニヘルマンハ性驕傲此辱ヲ受ケ慚志堪フルコト能ハズ遂ニ庵寺ニ退居シ後一年ヲ過ギズシテ死シニケリ第二十字軍ノ際日耳曼諸侯皆其城ノ堅固ナルヲ恃ミ總テ城畔ヲ過ル

者アレバ僧徒ト商人トヲ論ゼズ皆之ヲ捕ヘテ城中ニ錮シ大金ヲ以テ其身ヲ贖ハシム其殘暴至ラサル所ナカリシカバフレデッ^クキハ之ヲ憂ヒ諸侯ノ城郭ヲ以テ盜賊ノ巢窟トナシ盡ク之ヲ毀テ農夫ニ諭シテ若シ諸侯等殘虐スルコトアラバ去リテ市府ニ至リ其保護ヲ受ケヨト此時農夫ノ無告ヲ憫ミ其品位ヲ進ムルコトヲ勸メシ者獨リフレデリッ^クキニ止ラズ又スリ^ンヂヤノルー^イス二世ト云フ者アリ一日獵ニ出テ路ヲ失ヒ茅廬ニ過リ之ニ泊セシニ茅廬ノ主ハ鐵冶ナリ翌朝主早ク起キ鎚ヲ以テ馬鞋ヲ打テ毎打ルー^イス強ク打テ我兒強ク打テト呼ビシカバルー^イス其意ヲ解スルコト能ハズ之ヲ主ニ問ヒケルニ主ハ客ノ何人タルコトヲ知ラサリケレバ答テ曰ク我今

我侯ノ諸侯ヲ撻ツコト猶我ガ鐵ヲ打ツガ如クナランコトヲ望ム故
 ニ斯クハ呼ベルナリト蓋シ侯ハ乃ナルーイスナリ是ニ於テルーイ
 ス大ニ下民ノ情ヲ察シ專ラ之ヲシテ暴君ノ殘虐ヲ免レシメンコト
 ナ務メ遂ニノーンブルグノ傍ニ於テ大ニ諸侯ノ兵ヲ破リ少諸侯四
 人ヲ以テ馬ニ代ヒ送、鋤ヲ着ケテ田ヲ耕サシメシカバ此田ヲ華族
 田ト名ツケ又ルーイスノ剛毅敢爲ナルヲ以テ之ヲ鐵侯ト稱シケ
 リ

是ニ於テ日耳曼全國治平ニ屬シ加フルニフレデリックキ、ゴルコンデ
 一侯ノ女ヲ娶リ大ニ其疆ヲ拓キ波蘭王ヲ召シ之ヲシテ歎願人ノ服
 ナ着ケ頸ニ白刃ヲ掛ケ跣足ニテ臣屬ノ禮ヲ行ハシメ日耳曼ノ強盛

古代未タ嘗テ此時ノ如キハアラズ遂ニ丁抹王ヲシテ臣屬ノ禮ヲ行
 ハシメリ是ニ於テフレデリックキ聲名海外ニ轟キ強國ト雖モ皆其威
 風ヲ仰ガザルハナク就中英吉利王ヘンリ―二世ハ書ヲ送リテ英日
 兩國ノ交誼ヲ重キ臣屬ノ禮ヲ行フモ厭フ所ニ非ラズト云ヒ大ニフ
 レデリックキヲ推尊シケルカ唯、伊太利人ハ之ニ從ハス猶其命ヲ拒ミ
 ケレバ千百五十八年フレデリックキ大軍ヲ率テ亞爾伯山ヲ踰エ直
 ニ進ミテミラン府ヲ圍ミ其糧道ヲ絶ナケレバ九月五日ニ至リテ府
 中ノ華族ハ頸ニ白刃ヲ繫ケ餘ハ皆繩ヲ執リ悚然トシテフレデリッ
 キノ營ニ來リ其足下ニ低頭シ哀ヲ乞ヒシニフレデリックキガ曰ク汝
 善ク臣屬ノ誓ヲ爲シ府中ニ於テ新ニ我ガ爲ニ一宮ヲ營ミ銀九千

「マークス」ヲ納レ府官ノ進退キ我ニ委セバ我乃チ汝ノ乞ヲ許サシト府人ハ其鬪ノ輕キヲ喜ビ速カニ之ヲ諾シケレバフレデリッキ乃チ之ヲシテ起立セシメ親ク之ヲ抱キ友愛ノ情ヲ示シケリ
 幾クモナクシテフレデリッキ上伊太利ノ諸府ニ許シテ國法ヲ制セシム即チ日耳曼帝ハ府官ヲ進退スルコトヲ得ルト雖モ府民ノ承認ヲ待テ然後之ヲ行フベシ又凡ソ府民十八歳ヨリ七十歳ニ至ルマテ臣屬ノ誓ヲ爲シ每五歳此誓ヲ尋ヌベシト定メケリ是ニ於テ上伊太利ハ平和ニ趣ケリト雖モ法王アドリヤン四世ハフレデリッキノ漸ク寺院ヲ壓制スルコトヲ惡ミフレデリッキヲ目シテ猛龍ト云ヒ九天ニ翱翔シテ星宿ヲ破壊スル者トナシ又名ツケテ渴狼ト稱シ明

神ノ園林ヲ蹂躪スル者トナシ斯ク日耳曼ノ諸僧正ヲ煽動セシニ日耳曼ノ諸僧正ハ皆義フレデリッキニ叛カズアドリヤンノ募ニ應ゼザリシカトモ上伊太利ニ於テハ之ニ應スル者往々之アリミラン府ハ既ニフレデリッキノ重斂ヲ怒リ物情洶々タリシガ是ニ於テ遂ニ之ニ叛シ府地ヲ以テ法王ヨリ受ル所トナシ和戰ノ事ハ先ツ法王ノ允可ヲ經テ然後ニ之ヲ決スベシト定メケルガ此際アドリヤン世ヲ逝リシカバ宗門上院兩黨ニ分レウエーブリンゲル黨ハヴヰクトル四世ヲ選ビウエルフ黨ハアレキサンデル三世ヲ選ビシニフレデリッキハヴヰクトルノ選ヲ允可シケレバアレキサンデル令ヲ發シテ何人ヲ論ゼズ若シヴヰクトルヲ助クル者アラバ其宗門ヲ禁ゼン

トアリシカトモフレデリックキハ更ニ之ヲ意トナサズ心ヲ專ニシテ
ミランヲ攻メ若シ之ヲ拔クニアラズンバ再ビ其冠ヲ着ケシト誓ヒ
二年ノ間攻撃シケルガミラン人民相和セズ加フルニ糧食ニ乏シク
千百六十二年三月六日ニ至リテ皆饑餓ニ堪ヘズ遂ニ門ヲ開キ粗布
ヲ被リ頸ニ繩ヲ附ケ手ニ燈ヲ執リ悚然トシテフレデリックノ營ニ
來リフレデリック正ニ食シケレバ兩中外庭ニ佇立シケルニフレデ
リック既ニ食ヲ終ヘ乃十之ニ接シ近臣ニ命ジテ盡ク其記號ヲ奪ハ
シメケル

初メフレデリックキノミランヲ屠リシヤ其府中藏スル所ノ「マザ」
(東方ノ諸賢人)ノ髑髏ヲ收メ此役ニ從ヘルコログチノ大僧正ヘー

モンドニ之ヲ與ヘリ千百年代ノ末ニ富リテ大僧正ヘースボルグノ
ヒリツプ命ニ由リテ壯麗ナル骨匣ヲ製シテ之ヲ藏メ今猶コロク
チノ寺院ニ在リ匣ノ高サ五尺純金ヲ以テ形象ヲ鑄メ煉石寶石ヲ以
テ之ヲ飾ル檻ヲ透シテ三王ノ髑髏ヲ見ルヘシ各髑髏朱字ヲ以テ其
名ヲ書ス曰クガスパル曰クメルナール曰クバルサル舊ト蒙ラシ
ムルニ純金ノ冠ヲ以テセシガ大改革(千七百年ノ末八百年ノ初ノ
改革ヲ云フ)ノ際之ヲ失ヒシカバ今消金ノ冠ヲ以テ之ニ代フ

附錄 第十六篇

ミランノ刺客ノ事

此頃記者ノ説ニ據ルニフレデリックキノミランヲ圍ミシニ當リテ

屢之ヲ刺サ、ント謀リシ者アリ一日フレデリックアデーザ河邊ノ幽地ニ於テ祈願ヲ爲シ、ニ一人ノミラン人久シクソノ動靜ヲ窺ヒシガ好機會ナリト思ヒ竊ニ其背ニ出デ將ニフレデリックヲ捕ヘテ之ヲ河ニ投ケントセシガミラン人身材長大ナリシカトモフレデリックモ亦強壯ナリシカバ容易クミラン人ノ爲ニ捕ヘラレズ暫ク相争ホケルガ近臣等フレデリックノ聲ヲ聞キ直ニ之ヲ援ヒ遂ニミラン人ヲ殺シケリ又幾クモナク一人ノ野夫什器ヲ携フテ之ヲ鷲ガシコトヲ求メリ然レトモ既ニフレデリックニ之ヲ告ル者アリテ其毒器ナルコトヲ知りケレバフレデリックハ直ニ命ヲテ之ヲ捕ヘ刑ニ處セシメタリ因リテ什器ヲ閱ミスルニ皆毒藥ヲ以テ之ヲ製シ觸

ル、者ハ立ニ死スベカリシトゾ

第十七篇

フレデリック一世ノ事 第三十字軍ノ事

アレキサンドル三世ヴキクトル四世ニ嗣テ法王トナリ令ヲ發シテフレデリックノ宗門ヲ禁シケレバ千百六十七年フレデリック兵ヲ率テ伊太利ニ入り兼行シテ羅馬ニ至リ遂ニ府民ヲ要シテアレキサンドルヲ廢シ更ニ己ガ選ブ所ノ法王ヲ立シメシガ(是フレデリックイ太利ニ入ルノ第三回ナリ)炎熱焚クガ如ク瘧病大ニ行ハレ壯士ノ馬ニ跨リ馳驅スル者忽チ之ニ感シ暗眩卒倒スル者少カラズ死者相續キ兵員大ニ減シコログチノ大僧正レーモンドハ目代トシ

テ苛政ヲ施シ大ニ伊太利人ノ怨ヲ受ケシガ亦病ニ罹リテ死セリ是
ニ於テフレデリックキハ速ニ伊太利ヲ去ラズンバ殘兵皆病死セント
思ヒ俄ニ兵ヲ退ケテ亞爾伯山ニ至リシニロンバルデー人既ニ叛キ
テ兵ヲ請所ニ置キ其歸路ヲ絶テシカバフレデリックキノ兵大ニ苦ミ
一夜スーザニ次シケルニ深夜ニ及テ陣中洶々敵兵フレデリックキノ
營ヲ襲ヒ事甚ダ急ナリシカバシューベテークンノヘルマント云フ武
士フレデリックキヲシテ逃レシメ自ラソノ衾中ニ入り君ニ代リテ死
ニ就カント期シケルニ幾クモナク刺客數人入り來リ衾ヲ開テソノ
フレデリックキナラザルコトヲ知り憤怒遺ル所ナク直ニ之ヲ刺サン
トナシケルガヘルマンハ君ニ代リテ身ヲ殺スハ人臣ノ分ナリト思

ヒ更ニ畏ル、色ナカリシカバ刺客モ亦其忠勇ニ感シ遂ニ之ヲ放ナ
テ逃レシメタリ斯テフレデリックキハ虎口ヲ脱シ日耳曼ニ歸リケル
ガ千百七十四年又兵ヲ率テ伊太利ニ入レリ(是ソノ第四回ナリ)
此時ヘンリー、ゼライオンハ新ニ耶路撒冷ニ巡禮シテ歸リ軍ニ從
ヒシガテヤヴエシナニ於テ軍ヲ離レント唱ヘシカバ後ブルシスウ
キキル―子ボルグノ外ハ盡ク地ヲ奪ハレ三年ノ流刑ニ處セラレケ
リ

千百八十四年フレデサックロンバルデート講和シ伊太利遂ニ平穩
ニ屬シケレバフレデリックキハマエンスニ於テ「ホワイトサンデー」
祭ヲ行ヒ盛ニ宴ヲ開キシニ武士ノ會スル者大凡四万人美女俳優之

ニ適ヒ其壯麗比スベキ者ナク方今閩里猶之ヲ歌謠シテ置カザル程ナリシガ歡樂ノ半ニ當リテ暴風忽然ト至リ觀者ノ爲ニ設ケタル天幕盡ク之ガ爲ニ倒レシカバ時人之ヲ見テ皆凶兆ナリト思ヒケリ翌年フレデリック其長子ノ爲ニナブルスシハリ兩國ノ嗣女コンスタスヲ娶レリフレデリック嘗テ曰ク伊太利ヲ御スルハ宜シク鰻ヲ捕フルガ如ク首尾中腹共ニ之ヲ握ルベシト故ニ今此兩國ヲ并セ伊太利ノ南地ヲ掌握シテ法王及ピロンバルデーヲ抑制セント欲セシナリサレバ法王ハ憂怒相半シ乃チ此事ヲ助ケタル諸僧正ノ宗門ヲ禁ジ日ナラスシテ日耳曼ト爭端ヲ開カントスル勢ナリシガ忽チ耶路撒冷既ニ外教ノ徒ニ奪ハレタリト報スル者アリケリ

初メ日耳曼帝コンラド三世ノ佛蘭西王ルース七世ト共ニ聖地ニ取レシヨリ歐洲各國兵ヲ出シテ耶路撒冷ヲ援ヒシ者ナカリシニ耶路撒冷ノ耶蘇教徒ハ皆既ニ風土ノ安ニ慣レ優柔風ヲ爲シ更ニ祖先ノ堅ヲ破リ銳ヲ犯シ野蠻ヲ掃攘セシニ似ズ善ク聖地ヲ守リ外侮ヲ禦グベキ勢ニアラザリシカバ土耳其ノ勢日ニ盛ニシテ耶蘇教ノ力日ニ衰ヘケリ且此時ノイザツト兼タマスカスノ「シユルタン」ヲサラデント云ヒ性激昂ナレトモ善ク人道ニ通シ更ニ其國人ニ似ズ軍ニ臨ミテ果敢殆ド粗暴ニ近ケレトモ平時人ニ接スルニ禮アリ當時歐洲ノ武士ト雖モ亦遠ク其右ニ出ルコト能ハザリシニ耶路撒冷ノ王チガイドルシグナント云ヘリ屢々相爭ヒ間々小戦ニ及ヒシカト

モ久シク平和ヲ破ラサリシガ是ニ至リテ遂ニ兵端ヲ開キケリ
 サラデンノ母イザットヨリダマスカスニ行カント欲シ道ニ耶路撒
 冷ノ武士レザナルド、ド、ナヤチロンノ爲ニ捕ハレタリサラデンハ
 大ニ之ヲ怒リ使フ耶路撒冷王ニ送リレザナルドヲ刑センコトヲ要
 シケルニ耶路撒冷王ハ之ヲ欲セザリシカ或ハ之ヲ欲セント雖モ力
 足ラザリシカ直ニ刑ニ處セザリシカバサラデン乃チ兵ヲ率ヰテ耶
 路撒冷ヲ伐タント欲シ道ニ耶蘇教ノ兵ニ逢ヒ之ヲデベリヤスニ破
 リ之ヲ斬ルコト千百人耶路撒冷王及ビレザナルドヲ囚ニシ遂ニレ
 ザナルドヲ斬リ向フ所前ナク盡ク耶蘇宗諸府ノ衛兵ヲ逐ヒ千百八
 十七年十月三日サラデン遂ニ耶路撒冷ニ入り全軍叫呼シ喇叭鐘鼓

(銅鐘ノ如キ物ニ革ヲ被ヒタル大鼓ナリ)ヲ以テ樂ヲ奏シ耶蘇教徒
 ノ建テタル神殿上ノ十字ヲ拔キ之ヲバクダットノ「カリフ」(回教
 ノ法王)ニ送り其市門ノ下ニ埋メ其一部ヲ地面ニ現ハシテ行人ヲ
 シテ其上ヲ歩セシメケリ但シ耶蘇教徒ノ耶路撒冷ヲ取リシヨリ此
 ニ至リテ僅ニ八十八年ナリキ

斯テ耶路撒冷ノ變既ニ歐洲ニ聞エケレバ法王グレゴリー八世耶蘇
 教徒ニ令シテ曰ク凡ソ我カ教徒タラン者ハ宜シク力ヲ戮セテ聖府
 ヲ回復シ天事ヲ贊成スベシ他ヲ問フコトナカレト歐洲人民之ヲ聞テ
 皆慨然セザルハナク英吉利王佛蘭西王主トシテ兵ヲ起シフレデリ
 ッキ齡既ニ七旬ナリト雖モ亦壯年ノ勇氣ヲ以テ軍備ヲ爲シ宗門議

員アルボヨリ十字ヲ受ケ先ツ書ヲサラデンニ送リテ戰ヲ挑ミ然ル
 後兵ヲ率井道ヲ倍シテ匈牙利ヲ過ギ君士但丁諾格蘭ニ達セシニ此
 地ノ帝アイザクハ大ニ畏レ其軍船ヲ以テフレデリックノ軍ヲ渡サ
 ンコトヲ許シケレバフレデリックハ容易ク海ヲ踰エ嘗テ土耳其人
 ト戰ヒテ其兵法ヲ熟知シケレバ彼ノ僞ヲ以テスレハ我レモ亦僞ヲ
 以テセント決シ旣ニ陸ニ上ルヤ預メ敵ノ伏兵アル所ヲ探知シ佯リ
 テ知ラザル狀ヲ爲シ一軍ヲ率井テ自ラ陣頭ニ進ミ伏兵ヲ見テ愕キ
 走ル者ノ如クシ其軍ニ向ヒテ退キノニ敵兵追躡シ漸ク軍ニ近キケ
 レバ乃チ軍ニ令シテ微ヘ撃タシメ大ニ之ヲ破リ之ヲ斬ルコト無算
 ナリキ然レトモ糧食ニ乏ク且瘴疾大ニ行ハレ兵士ノ死スル者多ク

隊伍大ニ減シケレバ土耳其人之ヲ見テフレデリックヲ侮リ金ヲ納
 レテ全軍ノ命ヲ乞フベシト嘲リケレバフレデリックハ銀片一個ヲ
 送り醜奴宜シク之ヲ分ツベシト答ヒ進ミテアルメニヤニ至レバ炎
 熱焚クガ如ク前ニ川アリ唯々一小橋ヲ架シタリ幅隘クシテ數人並
 行スベカラズ之ヲ渡ルニ久シク時ヲ費シカバフレデリックハ大
 ニ之ニ倦ミ且早ク前陣ニアル其子スワビヤ疾フレデリックヲ見シ
 ト欲セシカバ馬ニ跨リテ川中ニ入り之ヲ涉ラントセレガ忽チ水中
 ニ沈ミ遙ニ下流ニ浮ミケレバ速ニ之ヲ揚ケシカトモ旣ニ死シケレ
 バ兵士ハ之ヲ見テ皆愕然タラサルハナク愁傷其考妣ヲ失ヘルガ如
 ク大ニ其望ヲ失ヒ多クハ日耳曼ニ歸リケリ然レトモスワビヤ疾フ

レデリツキハ殘ル所ノ歩兵七千人騎兵七百人ヲ以テ猶進ミテ戰ヒ
レガ病ニ罹リテ死セリ時ニ二十歳ナリワレデリツキノ體ヲ收メテ
之ヲアンナオクニ埋葬セリ方今閩里相傳フワレデリツキ今スリ
ヂヤノ洞中ニアリ肘ヲ枕ニシ石卓ニ凭ル其髮漸ク長シ卓ヲ穿テ
垂ル群鴉常ニ其上ニ飛ブ後世群鴉飛去ルコトアラバワレデリツキ
乃チ長眠ヲ覺マシ起テ日耳曼ヲシテ當時ノ盛世ニ復セシメント無
學ノ人ハ間々之ヲ信ズル者アリ

附錄 第十七篇

十字軍ノ後日耳曼ノ況景ノ事

日耳曼國十字軍ノ後ハ寺院ノ威權大ニ加ハリ人民ノ信惑益々甚シ

ク漸ク寺院ノ權制ヲ喜ヒシノミナラズ諸侯華族ハ皆外ニ出テケル
ニ僧正住持ハ皆内ニ止リケレハ自ラ其威權ヲ培植シ且十字軍ニ出
ル者或ハ地ヲ寺院ニ賣リテ軍備ヲ爲シ或ハ夫軍ニ死シ妻子退テ寺
庵ニ入り其土地家屋ヲ并セテ之ヲ寺院ニ寄附センカバ寺院ノ勢日
ニ熾ニシテグレゴリー七世ノ策漸ク行ハルハ勢ナリキ

然リト雖モ十字軍ノ歐洲ニ裨補スル所亦少カラズシテ華族ノ十字
軍ニ從ヒシ者皆武門ノ廉節ヲ養ヒ之ヲ以テ人民ヲ薰陶シ其風俗ヲ
一變セリ又十字軍ニ從ヒシ者亞細亞ノ物産ヲ知り其菓實卉花禽獸
什器織布衣服等ヲ運輸シ大ニ貿易ノ端ヲ開キ日耳曼ノ北部ブレ
ン及ヒ其南部オームニ於テ亞細亞物産貿易場ヲ起シ全國市府人戶

繁殖富家續テ起リ漸ク華族及ビ貴僧ノ暴制ヲ抑ヘ各々其權利ヲ全クスル勢トゾナリニケル

第十八篇

ヘンリー六世ノ事

フレデリック第一世ノ將ニ聖地ニ事アラントスルヤ其長子ヘンリー一チシテ政事ヲ攝行セシメ既ニ途ニ上リシニ幾クモナクシテヘンリー、ゼ、ライオン三年流罪ノ期滿チケレハ英吉利ヨリ日耳曼ニ歸リホルスターン海岸ニ上リ以爲ク我罪ヲ犯シテ流ニ處セラレタレトモ我が有スル所ノ地ハ乃チ我が地ナリ帝ト雖モ之ヲ如何トモナスベキ理ナシ然ルニフレデリック擅ニ之ヲ掠奪シ其子政ヲ攝シテ

亦之ヲ正スコト能ハズ彼等無狀既ニ此ノ如シ我其誓ヲ破リ其禁ヲ犯シ政ヲ自ラ之ヲ正サンノミト既ニ内地ニ進ミケルニハンボルグ其他諸所皆壺漿シテ之ヲ迎ヘケレバヘンリー大ニ勢ヲ得バルデウ井ツクト云ヘル府ハ貿易繁盛ノ地ナリシガ初メ己チ辱メシヲ以テ兵ヲ率井テ之ヲ屠リ盡ク其家屋ヲ毀チ男ハ必ズ之ヲ殺シ女ハ必ズ之ヲ移シ其勢益々張リ早ク之ガ所ヲ爲サザレバ災實ニ不測ニ在リシカバ攝政ヘンリー乃チ大軍ヲ率井テヘンリーノ邑ニ入り黑那法ヲ屠リ進ミテブルンスウ井ツキヲ圍ミ攻撃數回未ダ之ヲ拔クコト能ハザリシニ忽チ伊太利ヨリ告クル者アリテ曰ク那不里斯ノ諸僧正諸華族相謀リテローゼルノ庶子ヲ立テ伊太利王ト爲セリトロー

ゼルハヘンリーノ妻コンスタンスノ父ナリヘンリー此報ヲ聞ク
 ヤ急ニ兵ヲ轉シテ亞爾伯山ヲ踰エ進ミテ羅馬ニ至リ法王ヲ要シテ
 帝冠ヲ受ケ進ミテアブリヤニ至リ那不里斯ヲ圍ミシニ此地炎熱焚
 クガ如ク瘧疾流行シ又父パロパロツサ(フレデリックノ號)之ヲ圍
 ミシ時ノ如ク城堅キニアラズ敵勇ナルニアラズト雖モ如何セン此
 兩敵(酷熱瘧疾)ノ猖獗ニ由リテ士卒ノ死スル者千ヲ以テ數フルニ
 至リケレバヘンリーモ己ムコトヲ得ズ圍ヲ解キテ日耳曼ニ歸レリ
 此時ヘンリーノ妃コンスタンスハ敵ノ爲ニ捕ハレテ夫ト共ニ歸ル
 コトヲ得ザリキ

此頃ヘンリー、ゼライオンノ子アルンスウキツキ侯先帝フレデリ

ッキノ弟コンラドノ女ヲ娶リシニ由リテウニルフォーヘンストー
 ヘン兩家ノ血統相合シ兩家ノ争俄ニ止ミタリ但シコンラドハライ
 ンノコオント、バラタン官名ニシテ其女ハアグチスト云ヒ頗ル容色ア

リパロパロツサ嘗テ之ヲブルンスウキツキ侯ニ嫁セント思ヒシガ
 後兩家ノ争起レルニ及デパロパロツサ遂ニ之ヲ佛蘭西王ヒリツプ、
 オーガスタスニ與ヘント約セリ然ルニアグチスハ只管ブルンスウ
 キツキ侯ヲ慕ヒテ忘ル、コト能ハズ之ヲ其母ニ洩シテ曰ク妾若シ
 侯ニ嫁スルコト能ハズンバ妾誓テ他人ニ嫁セズト母モ其情ヲ憫ミ
 シガブルンスウキツキ侯一日ヘンリー六世ニ見エ其喜ハザルヲ見
 テ心平カナルコト能ハズ快々トシテ將ニ其家ニ歸ラントセシニ會

尺牘ヲ授クル者アリ受ケテ之ヲ見レバ則チアグチスノ母ノ己ニ其
 女ヲ許セル書ナリ是ニ於テ侯形ヲ變シテ巡禮者ノ装ヲナシ潛ニコ
 ンラドノ居城ニ入り遂ニ婚禮ヲ行ヒシニ此夜コンラドハ出デ、家
 ニ在ラズ夜明テ歸レリ夫人之ヲ門ニ迎ヘ謂テ曰ク昨者鷹アリ飛デ
 城樓ニ來レリ毛色鮮麗蓋シ君ノ未ダ曾テ見ザル所妾之ヲ捕ヘテ家
 ニ養ヘリトコンラド其意ヲ解スルコト能ハズ或ハ變事ノアリシニ
 ヤト思ヒ走リテ家ニ入り乃チ新婿ヲ見タリ夫人是ニ於テ曰ク是即
 ナブルンスウキツキ侯ナリ妾既ニ之ニアグチスヲ許セリ妾既ニ行
 ヒシ所請フ君ノ之ヲ許サンコトヲトコンラドハ之ヲ聞テ頗ル愕然
 タリシガ強テ之ヲ拒マズ今ハ唯、帝ノ逆鱗ヲ慰メンノミト思ヒ頻

リニ哀願シケルニ帝初メハ之ヲ拒ミシカトモ遂ニ之ヲ許シケレバ
 是ヨリホーヘンストーヘン家トウエルフ家ノ争ハ永ク止ミニケリ
 是ニ於テコンラドハ此事ヲシテ無窮ニ傳ハツシメント欲シ嘗テア
 グチスヲライン河中ノ一小城樓ニ禁錮セシニ由リテ令ヲ發シテ此
 ヨリ後ラインノ「コオント、バラテン」ノ妻トナル者若シ妊ムコト
 アラバ必ズコノ城樓ニ入りテ分娩シ此城樓ヲ以テ萬世ノ「ユオン
 ト、バラテン」ノ生所トナスベシト定メタリ又ヘンリー、ゼ、ライオン
 ハ既ニ數年ノ間世務ヲ擲テ幽居シケルガ兩家講和ノ後久シカラズ
 年六十一ニシテ死シサキソニー侯國此ニ至リテ滅ビタリ時ノ記者
 サキソニーヲ以テ群獸ノ爲ニ搏裂セラル、所ノ良馬(良馬ハサキ

ソニー侯ノ聖章ニ比シテ曰ク獅子(ヘンリー)其心ヲ把リ野猫(バ
 プリヤ)其一脚ヲ握リ牡犬(ヘッス)其蹄鞋ヲ占メ牝猪(ホルステー
 ン)其肺ヲ噬ミコログヲブレメン各其後脚ヲ擁シメンツ其尾ヲ
 引クト此頃那不里斯ノ篡奪王タンクレット死セリヘンリー之ヲ聞
 キ大軍ヲ率^{ヲブ}進ムニ向フ所前ナク千百九十四年十一月二日遂ニバ
 レルモニ入りシヘリー兼アブリヤ王ノ位ニ即キタリヘンリーハ素
 スワビヤノ一小侯ノ子孫ナリシカトモ遂ニ日耳曼ボルゴンデーロ
 ンバルデー羅馬シヘリーノ五國ノ位ヲ踐ムニ至レリ

ヘンリーノシヘリー王ノ位ニ即キヤ初ハ陽ニ寛仁ヲ以テ之ヲ治メ
 耶蘇降生祭(十二月二十五日)ニ至ルマデ未ダ殘忍猜忌ノ狀ヲ見ザ

リシガ此日一桑門アリ尺牘數通ヲ膺ラシヘンリーニ訟ヘテ曰ク此
 書皆此地貴族貴僧ノ臣ニ送ル所ナリトヘンリー披テ之ヲ讀ミシニ
 己ヲ弑スルコトヲ謀ル書ナリシカバ急ニ按察使ヲ命ジ其實ヲ探ラ
 シメケルニ按察使員各其議ヲ異ニシ或ハ尺牘ヲ以テ贗造トナシ
 或ハ之ヲ眞トナシ未ダ確證有ザリシカトモヘンリーハ其猜忌ノ心
 禁ズルコト能ハズ按察使ノ異議ニ關セズ尽ク其疑フ所ノ者ヲ捕ヘ
 拷掠シテ死ニ致セリ

ヘンリーハ既ニ斯ク寛仁ノ假面ヲ脱シケレバ此ヨリ後ハ心ノ欲ス
 ル所ニ從ヒ連ニ殘忍ノ行ヲ爲シ故ノタンクレットノ寡婦其兒ト共
 ニヘンリーノ養ヲ受ケルニヘンリー無慈悲ニ其兒ヲシテ兩眼ヲ失

ハシメ又篡奪ノ心アルカト疑フ所ノ人ヲバ或ハ之ヲ烙鐵臺ニ坐セシメテ烙鐵冠ヲ其頭上ニ釘シ或ハ之ヲ馬尾ニ繫ギテ市街ヲ曳キ或ハ之ヲ笞テ死ニ致シ凡ソ世ニ所有ノ拷掠ノ方法尽ク試ミザルハナカリケレバシヽリ一人顛ヒ怖レテ敢テ之ニ抗スル者ナカリキ是ニ於テヘンリーハ最早叛逆テ謀ル者ハアツジト思ヒ乃十日耳曼ニ歸リ久シク心ニ蓄ヘタル帝位世襲ノ望ヲ達セント欲シ千百九十五年ニ至リ選帝官ヲ會シテ之ヲ議シ類ニ賄賂ヲ行ヒテ巧ニ口才ヲ振ヒシカバ選帝官ノ中往々之ヲ聽シヽ者アリシカトモ過半ハ之ヲ否トシマエンスコログチノ兩大僧正首トシテ否論ヲ助ケヘンリーハ宜シク其位ヲ避ケ其子フレデリックキチンテ之ヲ襲カシムヘント云ヒ

シカバ遂ニ其志ヲ達スルコト能ハザリキ

翌年ヘンリー兵ヲ東方ニ出サント欲シテ類ニ其準備ヲ爲シケリ但シヘンリーノ此役ヲ起スヤ聖墓ヲ回復スル爲ニアラズ唯專ラ其名利ノ望ヲ達セント欲シテナリ此ヨリ先希臘帝其弟ノ爲ニ位ヲ篡ハレテ獄ニ繫ガレケルガ此頃ヘンリーニ使ヲ送リテ救援ヲ乞ヒ若シ之ヲ諾セバ希臘帝位ヲ其女婿ニシテヘンリーノ弟ナルヒリッブニ與ヘント告ケシカバヘンリーハ其請ヲ聽シ乃チ兵ヲ起シ之ヲ兩軍ニ分チ其一ハ常道ヲ取りテ希臘ニ進マシメ其一ハ兵數凡ソ六万親ラ之ニ將トシテアブリヤニ至リ類ニ兵備ヲ爲シ一日メツシナノ側ニ獵シケルニ此日炎熱燒クガ如クヘンリー渴ニ堪ヘズ水ヲ取りテ

之ヲ飲ミシガ炎冷相適セズ飲ミ終リテ俄ニ中風ヲ發シ眩暈地ニ倒レ未ダ數時ヲ移サズ今ヲ盛リノ身ヲ以テ遂ニ黃泉ノ客トゾナリニケル或ハ云フ此時ヘンリー酒ヲ求ム怨人アリ毒ヲ酒中ニ和シテ之ヲ獻ズヘンリー之ヲ飲ミ毒ニ中リテ死セリトシヘンリーアブリヤノ人民忽チ暴君ノ死ヲ聞キ歡喜シテ之ヲ祝セザル者ハナカリキヘンリーヲババレルモニ葬レリ後六百年ヲ經テ其棺ヲ發キシニ遺体依然トシテ未ダ腐敗セズ其顔色尙殘忍ノ相ヲ存シ殆ド生時ニ異ナルコトナカリントゾ

附錄第十八篇

英吉利王リチャルト一世ノ事
テウトン社ノ事

フレデリックキマロツサノ死シテ後ハバレスチンニ止レル日耳曼諸侯ハ獨リ墺地利侯レオポルドノミナリシガ嘗テ英吉利ノ兵ト共ニ攻メ取りタルプロクレ城ニ據リ其牙旗ヲ懸ヘシ意氣揚々トシテ其同盟諸國ノ兵ヲ壓スル勢ナリシニ英吉利王リチャルト一世ハ性驕傲ニシテ人ニ下ルコトヲ喜バザリシカバレオポルドノ不遜ノ狀ヲ見テ不平ニ堪ヘズ遂ニ旗ヲ竿頭ヨリ下シテ之ヲ踏藉シ罵詈至ラザル所ナカリシカトモレオポルドハ己ガ力ノリチャルトニ敵スルコト能ハザルヲ知リシカバ耻テ忍ビテ敢テ之ニ抗セザリシガ心常ニ平ナルコト能ハズ翌年(千百九十三年)リチャルトノ墺地利ヲ過ルニ及テ之ヲ捕ヘテバワリヤノトリヘルスニ錮シタリリチャルト此

ニ止ルコト十四ヶ月猶出ルコト能ハザリレガ其愛優ブロンデルノ
 援ニ由リテ免ル、コトヲ得タリコノ事ハ世ノ善ク知ル所ナレバ今
 此ニ贅セズ後ウオルムスニ於テ議院ヲ開キリナヤルドヲシテ此ニ
 出デシメモントセルラツトノコンラドヲ殺シ且聖地ノ分捕物ヲ分
 ツニ當リテ日耳曼人ニ與フル所其當ヲ得ザリシト誣ヒ償金トシテ
 銀十五万「マークス」ヲ收メテ僅ニ之ヲ放ナケリレオポルドハ己ガ
 怯弱ヲ知ラズ武門ノ道ニ背キ斯克賤ムベキ報復ヲ行ヒケルガ幾ク
 モナク馬ヨリ落テ死セリ

此頃壞地利ハスタイリヤヲ併セ又ウヰーナ府ニ郭ヲ築キ英王ノ償
 金ヲ以テ其費ニ供シケリ

第三十字軍ノアクレナ園ミシ時ニ當リタルベックノ商賈アクレ
 ニ來リテ病院ヲ起シ十字軍ノ病者傷者ヲ救ヒケルガ武士ニモ亦之
 フ助ル者アリテ遂ニ一武社ヲ結ビマリー社ト号シ又テウトン社ト
 号セリ蓋シマリーノ号ハ其護神聖母マリーノ名ニ取リテウトンノ
 稱ハ社員皆日耳曼人ニシテ日耳曼人ハテウトン種屬ナルヲ以テナ
 リ此社ノ開祖ハワルボットト云フ商人ナリ古史ニ曰クワルボット
 ハ貧賤ノ家ニ生レタリト雖モ其品行ニ至リテハ高貴ノ君子ニ異ナ
 ルコトナカリント是ニ於テ前ニ存セル者ヲ合シテ武社ノ數三個ト
 ソナリニケル

十字軍ノ終リテ後病院武社ノ武士ハロード島ニ據リ改メテロード

島武社ト稱シケルガ千五百二十二年土耳其人ノ爲ニ之ヲ奪ハレ逃
レテマルタ島ニ至リ日耳曼帝ナヤルレス五世ノ許可ヲ得テ遂ニ此
島ニ據リ常ニ海賊ヲ掃攘スルコトヲ務メシガ千七百九十八年ニ至
リ佛蘭西ノ兵ヲ蒙リテ遂ニ滅ビケリ

神堂武社ハ多ク佛蘭西ニ遁レ猶其社ヲ維持シケルガ千三百十三年
ニ至リ其社員多ク佛蘭西王セリツアノ爲ニ殘殺セラレ羅馬法王ノ
爲ニ其宗門ヲ禁ゼラレテ遂ニ滅亡セリ

テウトン社ハ普魯士ヲ畧シ千五百二十五年ニ至ルマデ政ヲ行ヒシ
ガ此年其頭領ブランテンボルグノアルベルト其社ヲ廢シ己レ更ニ
普魯士侯ノ爵ヲ受ケタリ病院武社ハ黑套ヲ着ケ肩頭ニ白十字ヲ繡

シテ社号トナシ神堂武社テウトン武社ハ皆白套ヲ被リ神堂武社ハ
赤十字ヲ以テ号トナシテウトン武社ハ黑十字ヲ以テ号トナセリ

第十九篇

ホーヘンストーヘンノヒリツブノ事 オソ一世ノ事

斯テヘンリー六世死シ之ニ嗣グヘキ者ハ其子フレデリックニシテ
齡猶三歳ナリシカバ全歐洲皆ヘンリーノ殘暴固ヨリ憎ムベシト雖
モ三歳ノ孩兒ニ比スレバ猶勝レリ若シ此兒ヲシテ羅馬ノ大帝國ニ
君ダラシメバヘンリー四世ノ朝ノ如ク全國再ビ塗炭ニ陷ランコト
必セリトテ物情洵々タリ千百九十八年三月コログテトレーヴスノ
兩大僧正ウエルフ黨ノ首長トナリ相議シテ曰ク爾ニ我輩ノ孩兒フ

レデリツキヲ選ビシハ全クヘンリーノ脅迫ニ由ル所ニシテ我輩ノ
 心ニ出タルニ非ズ且我輩ノフレデリックヲ選ビシヤ彼未ダ洗禮ヲ
 受ケズ是レ則チ異教ノ人ヲ選ビシナリ夫ノ異教ノ人ハ帝位ヲ襲ク
 ベキ理ナシ宜シク更ニ聰明雄武ノ人ヲ選ビテ之ヲシテ我日耳曼ノ
 政ヲ執ラシムベシ不肖ノ孩兒ヲシテ國ニ當ラシムベカラズト此時
 フレデリックノ叔父ヒリッブハホーヘンストーヘン家ノ黨與ヲ會
 シテ今王猶幼シ我將ニ之ガ傳トナリテ其政ヲ攝行セントス願ク
 ハ卿等我ヲ助ケ我ヲシテ我カ志ヲ達セシメヨト言シニ衆ハ固ヨリ
 之ヲ否マザリシガ更ニ思惟シケルハ今ヒリッブヲシテ攝政タラシ
 ムルトモ權猶重カラザレバ禍亂四ニ起リ遂ニホーヘンストーヘ

ン家ヲ維持スルコト能ハザルベク且ウエルフノ黨之ヲ聞カバ更ニ
 王ヲ選ビテ之ヲ立テシコト必セリサレバ今ノ計ヲ爲スニハ幼主フ
 レデリックヲ廢シヒリッブヲ推シ之ヲ立テウエルフノ黨ヲ制スル
 ニ如カシト乃チヒリッブヲ推シケルニヒリッブハ之ヲ聞テ頗ル愕
 然タリシカトモ事勢止ムベカラザルコトヲ知り遂ニミユルホーセ
 ンニ於テ公選テ受ケ立テ王トナリケレバ此ニ集リシ諸華族皆誓テ
 取リテ臣子ノ約ヲゾ爲シニケル然ルニウエルフ黨ハヘンリーライ
 オンノ第三子ブルンスウキツキノオソヲ立テント欲シコログチニ
 於テ即位ノ禮ヲ行ハントセシニ府民之ヲ拒ギテ納レズ七週ヲ經ル
 ニ及テオソ初テ之ニ入り即位ノ禮ヲ行フコトヲ得タリ斯ク日耳曼

ニ於テハ一時ニ二王ヲ立テ相争ヒケルニ此ヨリ先羅馬ニ於テハイ
 シノセント三世セレスナン三世ニ嗣ギテ法王トナリシカセレスチ
 シノ怯弱ニ似ズ英邁果敢勢利ノ念極メテ深クグレゴリー七世以來
 第一有爲ノ人ニシテ常ニ曰ク僧罰ハ正シク明神ノ與フル所ナレト
 モ帝位ハ唯獵者ニムロッドニ始ルト是ニ至リテ日耳曼國ノ兄弟
 相鬪クナ見テ是レ事ヲ爲スノ好機會ナリトテ大ニ喜ビケルガブル
 シスウキツキノオソ先ツ法王ノ所ニ至リ足下ニ俯伏シ嚮ニ臣ガ祖
 先謾ニ陛下ノ權ヲ殺キ陛下ノ所有ヲ奪ヘリ臣今尽ク之ヲ陛下ニ還
 シ陛下ヲ以テ臣ガ國土ノ主トナサント乞ヒケレバインノセント對
 テ曰ク王我ニ許スコト此ノ如ク其レ價ナリ我何ゾ命ヲ奉ゼザラン

ヤトオソ是ニ於テ今ヒリツプ日耳曼華族ノ精銳ヲ拔キテ之ヲ有ス
 ト雖モ我既ニ法王ノ助ヲ受ク我何ゾ彼ヲ恐レンヤトテ乃チ戰ヲ挑
 ミ數年ヲ閱テ未ダ兵ヲ接セザリシガ千二百八年セントザコンレノ
 祭日ニ當リテヒリツプ其女ビートリスチメランノオソニ嫁セシム
 ル約ヲ爲シバンベルグニ於テ宴ヲ開キテ之ヲ祝シ夜深クシテ既ニ
 床ニ就キケルニ刺客アリ白刃ヲ携ヘテ其室ニ入り刺シテ其胸ヲ貫
 キタリ刺客ノ名ヲウキツタルスパックノオソト云ヘリ嘗テヒリツ
 プノ女子娶ラント欲シテ聽カレズ困リテ怨ヲ報イシナリ或ハ曰ク
 ヒリツプオソノ爲ニシレシヤ侯ヘンリーノ女子娶ント約シ書ヲ作
 リテオソニ授ケ之ヲヘンリーニ達セシムオソ之ヲ開キ看ルニ其云

フ所專ラ己ガ惡事ヲ表揚スルニアリシカバ慚志ニ堪ヘズ遂ニヒリ
 ヲブチ刺セシナリト明神爭テカ此殘虐ヲ許スベキメラソノオソハ
 ビートリスヲ慰メ直ニ其父ノ爲ニ仇ヲ報イント約シ多ク捕手ヲ發
 シ所在搜索シダニユーブ河畔イルヲチノ側ナル一小廬ニ於テ之ヲ
 捕ヘ遂ニ死ニ處セリ是ニ於テブルンスウキツキノオソ獨リ日耳曼
 ノ王トナリテ他ニ爭フ者ナカリシカバ先ツウニープリンゲル家ノ
 心ヲ繫ガント欲シテ舊響ヒリツブノ女ヲ娶リ又法王ノ貧婪ノ心ヲ
 飽カシメ其助ヲ得ント欲シテ大ニ威權ヲ法王ニ歸シ僧官黜陟ノ事
 ヲ專斷セシメ日耳曼ノ諸僧正ヲ命ズルニ僧社(チャアトル)ノ公議
 ヲ經ズシテ法王ノ專權ニ任シ法王ヲ以テ全帝國ノ第一裁判官ト定

メタリ法王インノセントハ大ニ喜ビオソニ帝冠ヲ授ケテ僅ニ即位
 ノ禮ヲ終ヘシメケルニ羅馬ノ府民大ニ怒リオソヲ逐ヒテ府外ニ出
 テシメタリ然ルニ法王ハ其暴動ヲ見ナガツ愕然トシテ之ヲ制セザ
 リシカバオソ大ニ怒リ自今以後我誓テ法王ノ約ヲ踐マシト罵レリ
 インノセントハ初ハ專ラ之ヲ論辯シ寺院ニ從ハザレハ罰必ズ逃ル
 所ニアラズ汝夫ノチブチヤドチザルノ專ラソノ力ヲ恃ミ遂ニ神
 怒ヲ受ケテ野草ヲ食ヒシコト恰モ野獸ノ如クナリシヲ思ハズヤ汝
 汝テ位ニ昇レ者ハ夫ノ明神ナルコトヲ忘ルコト勿レトテ之ヲ
 恐嚇シケレトモオソハ更ニ屈セズシテ命ヲ拒ミシカバインノセン
 ト大ニ怒リオソノ宗門ヲ禁シ直ニ使テ日耳曼諸侯ニ遣シテヘンリ

一六世ノ子シ、リノフレデリックキヲ選フコトヲ許セリオソ乃チ
シ、リニ渡リフレデリックキヲ倒サント欲シテ將ニ纜ヲ解カント
セシニ忽チ日耳曼諸侯既ニ已テ舍テフレデリックキヲ選ビタリト報
スル者アリ實ニ千二百十一年ナリキ

附錄 第十九篇

乞僧社ノ事

千二百年代ニ當リテ僧徒ノ風大ニ敗レテ怠慢粗暴行ヲ破リ身ヲ誤
ル者比々皆然ラザルハナカリシカトモ間々又端正廉直外物ニ惑ハ
ザルヲ以テ敬神ノ要務トナシ庵居ノ幽靜ヲ以テ消罪ノ良術ト思ヒ
世ヲ忘レ身ヲ潔クセシ者アリテ諸所ニ社ヲ結ブ千二百十年伊太利

人フランセスコド、アシ、ハフランシスカン社ヲ起シ千二百十五
年西班牙人ドミンゴ、ガスマンハドミニカン社ヲ創メ皆社則チ嚴ニ
シ意ヲ誠ニシ心ヲ正シ其身ヲ神聖ニスルコトヲ教ヘ一葛一裘以テ
其身ヲ覆ヒ一簞一瓢以テ其口ヲ餽スルヲ以テ足レリトナシ專ラ富
利ヲ憎ミ誓テ手ヲ貨幣ニ觸ル、コトヲ禁ズルニ至リシカバ時人之
ヲ乞僧社ト呼ビドミンカン社(又白毛布ノ褌衣ヲ着ケシヲ以テ往
々白僧社ト名ツク)ハ專ラ説教ヲ務メシニ因リテ更ニ之ヲ説教社
ト名ケタリ

初メフランセスコド、ドミンゴノ社ヲ起スヤ其意皆寺院ノ弊風ヲ一洗
シ僧徒ノ眞ヲ全クスルニ在リテ其嘉尙スベキハ固ヨリ論ヲ待タザ

ル所ナリシカトモ惜キ哉法王桀黠其心ヲ餽ラン爲ニ謾ニ之ニ除租
 及ヒ其他ノ特權ヲ與ヘ其潔行衆ニ秀デ明神ノ名臣ナレバトテ之ヲ
 常僧ノ上ニ位セシメ僧區中ニ於テ擅ニ供養ヲ行ヒ法教ヲ説キ懺悔
 人(即チ謝罪人ナリ法教ノ語)ヲ宥シ幼兒ノ爲ニ學校ヲ建ルコトヲ
 許シ遂ニ之ヲシテ其嘗テ排撻セント思ヒシ所ノ寺院ノ所置ヲ贊助
 セシムルニ至レリ是ニ於テ乞僧社ノ桑門皆直ニ民家ニ至リ之ガ友
 トナリ之ガ師トナリシニ其躬行ノ端正ナルノミナラズ驕傲ノ風ナ
 ク人民ニ接スルニ禮ヲ以テシ人民ノ之ヲ待スルニ多ク費用ヲ要セ
 ザリケレバ人民大ニ喜ビ皆之ヲ其家ニ招キテ其説教ヲ聞キ乞僧爐
 頭ニ安坐シテ兒女皆其膝ニ凭ル乞僧乃チ俚語ヲ以テ先ツ法王ノ位

ハ元ト耶蘇ノ漁夫ニ天籟ヲ與ヘシニ始リ相續テ今ニ至ルコトヲ説
 キ幻術ヲ行ヒテ其真ヲ證セリ蓋シ幻術ハ皆乞僧ノ機ニ應ジテ工夫
 セシ所ナリ夫ニ外教ノ事ニ及ビ半人半鬼ノ惡魔アリテ神明及ビ寺
 院ヲ辱ム苟モ耶蘇ノ教ヲ信ズル者ハ宜シク惡魔ヲ誅スルコト恰モ
 ミナエール及ヒ其使臣ノ天上ニ亂ヲ起セシ龍ヲ斫リシ如クナルベ
 シト説キテ人民ヲ眩惑セリ前ニ既ニワルブンセス社アルビゼンセ
 ス社ノ力ニ由リテ人心ノ迷惑ヲ解キシカトモ今乞僧社ノ説教ヲ以
 テ再ビ之ヲ誘惑セルコト此ノ如クナリシガ人民常ニ常僧ノ惰慢無
 頼ヲ見テ大ニ之ヲ憎ミケレバ今乞僧ノ遞讓友愛己ニ克テ行ヲ潔ク
 スルヲ見テ大ニ寺院ノ貴ヲ知り更ニ其惑ヲ深クスルニ至レリ是ニ

於テ乞僧ハ恰モ寺院ノ警官ノ如ク直ニ其威權ヲ張リテ人心ヲ束縛
シ之ヲシテ妄ニ寺院ヲ愛敬セシメケリ嗚呼乞僧初ハ放逸ヲ憎ミ驕
奢ヲ忌ミ其志專ラ之ヲ正スニ在リシモ一旦法王ノ鷹犬トナリ其後
ハ自ラ放逸驕奢ニ陥リ遂ニ臭チ青史ニ流スニ至レリ

第二十篇

フレデリック二世ノ事

フレデリック二世ノ再ビ選バレシヤ齡方ニ十八其頭髮ノ皓潔ナル
ハ日耳曼人種タルコトヲ表シ其堅忍雄武ハホーヘンストーヘン統
タルコトヲ徴シ其事ニ觸レ物ニ感シテ喜怒哀愛憎交々發スルハ其母
妃コンスタンスノ伊太利血脉ヲ得タルコトヲ證セリ初メ父ヘンリ

トノ早死ノ後一年母妃亦世ヲ辭シテフレデリックハ孤兒トナリシ
カバ法王インノセント三世之ガ傳トナリ奨掖勸勵其力ヲ尽シ凡ソ
當時有ル所ノ學皆教ヘザルハナク之ニ加フルニフレデリック患難
ノ中ニ生長シ難苦備ニ嘗メシカバ齡猶幼カリケレトモ既ニ世間
君主ノ終身ニシテ猶習知スルコト能ザル所ヲ知レリフレデリック
ノシヽリーヨリ日耳曼ニ至リシヤホーヘンストーヘン家ノ舊怨ナ
ルミラン人兵ヲ伏セテ之ヲ撃テ殆ド危カリレガ僅ニ免ルコトヲ得
テ遂ニマエンスニ達シケレバ日耳曼華族之ヲ聞キ皆此地ニ來リテ
臣子ノ約ヲ結ベリフレデリックハ法王インノセントノ力ニ依リテ
選バルヽコトヲ得シカバ法王ノ欲スル所ハ尽ク之ヲ聽カザルコト

ナ得ズ遂ニ寺院ニ許多ノ權利ヲ與ヘンコトヲ約シ且法王ノ日耳曼
 アフリヤ兩主ノ位ノ一人ニ屬スルコトヲ欲セザルニ由リテ已ムコ
 トヲ得ズシ、リーフ分テ已ガ幼子ヘンリー、與ヘント約シケリ、
 ブルンスウキツキノオソハ初メフレデリックヲ選ブコトヲ拒ミ之
 チ嘲リ呼ビテ僧徒ノ王ト稱シケルガ既ニシテ遂ニ其抗スベカラザ
 ルコトヲ察シテ已ガ所領ニ退キ後從弟英吉利王ヂョーンノ援ヲ得テ
 佛蘭西ノ兵トフランデルスノブーヴキンは戰ヒ敗績シテ益、日耳
 曼人ノ望ヲ失ヘリ是ニ於テ法王インノセント宗門議院ヲ開キ耶蘇
 教諸國ノ議員ヲ會シ之ニ令シテ曰クオソ敢テ我命ヲ拒ム其位ヲ失
 フ固ヨリ其所ナリ唯、フレデリックキハ常ニ我ニ順ヒ凡ソ我ガ欲ス

ル所細大聽カザルコトナシ宜シク之ニ位ヲ與フベシト乃チオソヲ
 廢シケレバオソハ之ニ抗スルコト能ハズ日耳曼北部ノ所領ニ退キ
 タリ然レトモ猶、其帝璽トシテ有スル所ノ十字才冠及ヒ聖僧ザ、
 ン、パプナストノ齒ヲバフレデリックニ與フルコトヲ欲セザリシガ
 千二百十八年ニ至リ死ニ臨ミ命ヲ遺シテ尽ク之ヲフレデリックニ
 ゴ送ラシメケル

是ニ於テフレデリックキハ獨リ日耳曼全國ヲ統ベ速ニ羅馬ニ至リテ
 法王ヨリ帝冠ヲ受ント欲シケレバ先ヅ選帝官ニ説キ其子ヘンリー
 ナ選ビテ儲貳トナサシメ然ル後羅馬ニ至リテ其望願ヲ達レ遂ニア
 プリヤニ至レリ是レ其十八歳ノ時ニ去リシ所ナリ因リテ暫ク之ニ

止ラント欲センガ法王ノ曰ク陛下即位ノ前臣ニ約スルニ兵ヲ聖地ニ出スノ事ヲ以セリ今陛下幸ニ閑ヲ得タリ願クハ約ヲ踐マンコトヲト頻ニ之ヲ促シケルニフレデリックキハ其妃アラゴンノコンスタンスノ死セシ後耶路撒冷王ノ女デューンナヲ娶リシニ由リ義宜シク兵ヲ出スベカリシカハ容易ク法王ノ言ヲ聽キ千二百二十七年全國ノ兵ヲ募リテ將ニ途ニ上ラントセシガ瘧病俄ニ行レ兵士ノ死スル者半ニ過ギ是ニ由リテ法王ノ約ヲ踐ムコト能ハズ只管テ其罪ヲ謝セシニ不幸ニシテ適、法王ホノリユス死シテグレゴリー九世之ニ嗣ギ嚴ニフレデリックキノ違約ヲ讓メ俄ニ令テ發シテ其宗門ヲ禁シケレバフレデリックキハ大ニ其苛虐ヲ怒リ憤懣焚クガ如ク大ニ厲

リテ曰ク咄々汝兎豎口蜜腹劍恰モ水蛭ノ人血ヲ吸フガ如ク汝ガ送ル所ノ刺客所在潛伏シ羊皮狼質汝ガ忌ム所ヲ殘殺ス汝ガ爲ス所神教ヲ宣ブルニ非ラズ專ラ人民自由ノ心ヲ束縛スルナリ禍亂ヲ助クルナリ貨財ヲ掠ムルナリト若シフレデリックキヲシテ罰ニ十字軍ヲ募リテ衆望ヲ得ザラシメバ其法王ノ命ヲ拒ミ十字軍ヲ廢スルヤ知ルベキノミ然レトモ十字軍ヲ出スコトヲ合セシヨリ既ニ二年ナレバ勢中止スルコト能ハズ遂ニ再ビ兵ヲ募リ巴勒斯且ニ向ヒテ開帆セリ

此時ノ回教シユルタン(王)ヲケームルト云ヒテ寛仁ノ長者ナリフレデリックキハ幼キヨリ好テ亞細亞ノ文學ヲ脩メ頗ル亞細亞ノ風ヲ

欽慕シ且法王ノ世敵ホーヘンストーヘン家ニ生レ近ク法王ノ爲ニ
 禁門ノ苛罰ニ處セラレ心ニ芥蒂ナキコト能ハズ加フルニ性寛厚ニ
 シテ政テ異端ヲ惡ミ攻ルコト無ク其猶伊太利ニ在リシトキ既ニ
 屢、ケーメルト信ヲ通シケレバ其聖地ニ達スルヤ神堂病院兩武社
 ハ皆外教ノ徒ト通ズルコトヲ惡ミ神罰ヲ受ケタル者ナリトテ之ニ
 近カザリシカトモフレデリックキハ更ニ之ヲ意トナサズ專ラ日耳曼
 人ノ忠實ヲ恃ミ未ダ一年ナラズシテ大ニシユルタンケートメルノ信
 ヲ得タリ是ニ於テケーメルハ素ト外教ノ王ト雖モ更ニ心ニ挾ム所
 ナク耶路撒冷ノ門ヲ開キ其王冠ヲ執リテフレデリックキニ與ヘ約シ
 テ曰ク自今以後耶蘇教徒回々教徒ヲ別ツコトナク皆聖墓ニ詣ルコ

トヲ得メシ故ニ今フレデリックキ耶路撒冷ヲ有スト雖モ亦回々教徒
 ノ府ニ入りテ神事ヲ行フコトヲ許スベシトフレデリックキ斯ク寛仁
 ナリテ異端ヲ待シケレバ耶路撒冷ノ教師長ハ大ニ悦ハズ聖府ノ再
 ビ耶蘇教徒ニ屬セシヲモ祝セズ僧徒ニ令シテ府中ニ於テ神事ヲ行
 フコトヲ禁ジケリ又神堂武社モフレデリックキノ所爲ヲ怒リ竊ニケ
 ーメルニ書ヲ送リテフレデリックキヲ刺サンコトヲ勸メシニケーメ
 ル爭テカ之ニ從フベキ速ニ受ケシ所ノ書ヲフレデリックキニ示シテ
 其腹心ヲ表セリスク耶路撒冷ハ稍平安ニ屬セシカバフレデリック
 キハ海ニ航シテ伊太利ニゾ歸リケル

童子十字軍ノ事

一千百九十年以來聖墓ノ回復ヲ謀リシ者歸ナドレカバ嚮キニ英王
リチャルドノ力ニ由リテ回教徒ヲ懾服シ同盟ノ約ヲ爲シ、モ唯
空名ノミニテ回教徒ノ猖獗舊ニ異ナルコトナキノミナツズ耶蘇教
徒ノ聖地ニアル者謾ニ勢利ヲ競ヒ鬪鬪シテ止ムトキナカリシカバ
埃及ノレヌルタンサラゼン及ビケーメルハ迭々其疆ヲ拓キ駭々
食シテ殆ド歐人ノ所有ヲ奪ヒ歐人ノ有スル所僅ニ海濱ノ諸所ニ止
リシカバ歐洲物情洵々以爲ク埃及ハ回賊ノ糧食ヲ得ル所ナリ希臘
ハ歐亞ノ咽喉ナルニ其民反覆常ナク我が軍之ヲ過ル毎ニ困苦ヲ受
ザルコトナシ今聖地ヲ復セント欲セバ先ツ此兩國ヲ徇フルニアラ

ザレバ能ハズト千二百四年遂ニ攻メテ君士但丁諾格爾ヲ取リフワ
ンドルス侯バルドウキンヲ以テ其位ニ即カシメタリ又ヴェニス人
ハベロポントサス全島ヲ畧シ歐亞ノ間ニ在リテ大ニ貿易ヲ行ヘリ
此ニ由リテ東方ノ技工ノ西方ニ傳播スル者少カラズ就中フランド
ルス人ノ君士但丁諾格爾ノ役ニ趣キシ者其技工ヲ學ビテ之ヲ本國
ニ傳ヘシ故ニ當時技工ノ開進セルフランドルスヲ以テ第一トナセ
リフランドルスハ尤モ圖畫ニ長シ畫學校一字ヲ起シケルガ年ヲ遂
ヒテ益々盛ニシテ遂ニ歐洲ノ泰斗トナルニ至レリ耶蘇教徒ハ斯ク
容易ク希臘ヲ滅セシカトモ埃及ノ敵ハ乃チ亞刺比亞ノ野蕃ニシテ
極メテ戰鬥ヲ嗜ミ希臘人ノ優柔兒女ノ如ナルニ似ス然ルニ耶蘇教

徒ハ久シク巴勒斯且ニ在リテ宴安怠惰ニ流レ更ニ往時十字軍ノ豪氣ヲ存セザリシカバ遂ニ之ト銳ヲ争フコト能ハズ此ニ由リテ千二百十二年ニ至ル迄ハ耶蘇教徒ノ聖地ヲ復スルコトヲ謀ル者ナカリシガ此年佛蘭西ウエンドーメノ牧羊者ステヘン突然尺牘ヲ出シテ曰ク耶蘇基督我ニ巴勒斯且ニ至リテ外教ヲ剿滅スルコトヲ命ジタリ今此役ニ從フ者ハ必ズ幼兒ノ未ダ世欲ニ染マザル者ナルベシ如何トナレバ耶蘇天堂ヲ評シテ此ノ如キ徒ノ居所ナリト云ヘリト乃チ幼兒七千人ヲ募集シ之ヲ率ヰテアドリヤナク海岸ニ至リシガ海賊ノ爲ニ襲ハレ生テ歸レル者ナカリシニ歐洲ノ幼兒男女トナク猶ステヘンノ言ヲ信シ巴勒斯且ヲ回復セントテ相集リシ者三万人マ

ルセーユヨリ海ニ航シテ亞弗利加海ニ至リ船舶尽ク破レ或ハ溺レテ死シ或ハ捕ハレテ奴隸トナレリ世ニ傳フソノ奴隸トナリシ者及ビ其子孫バグダットニ在リテ堅ク耶蘇教ヲ守リ死ヲ受クルモ之ヲ變ゼザリシト

第二十一篇

フレデリックキ二世ノ事

フレデリックキノ亞細亞ニ行キシヤ法王其亡テ時トシテ傭兵一團ヲ募リ聖僧ベートルノ十字齋ヲ以テ其記號トナシ因リテ之ヲ名ツケテ齋兵ト稱シ耶路撒冷ノ非職王デモンテ以テ大將トナセリデモンハフレデリックキノ妻ノ父ナリシカトモ常ニフレデリックキト善ラズ

遂ニ兵ヲ率テ尽クアブリヤチ畧シケルガフレデリックノ歸ルニ
及デ傭兵大ニ畏怖シ先ヲ争ヒテ逃亡シケレバ今ハ誰アリテ妨グル
者モナクフレデリックキハ刃ニ血メラズシテ再ビ其生地ノ王トゾナ
リニケル

フレデリックキハ斯ク容易ク敵ヲ追ヒアブリヤチ復シケレトモ法王
ノ歡心ヲ得ザレバ事ノ成リ難キコトヲ圖リ乃チ使ヲ遣シテ舊好ヲ
尋ガンコトヲ請ヒケルニ法王グレゴリーハフレデリックキヲ目シテ
大惡敵ト爲シ誓テ之ト相交ルコトヲ拒ミ且日耳曼ノ華族ニ番ヲ
送りフレデリックキト君臣ノ義ヲ絶ダンコトヲ命ゼレガ豈ニ料ラン
ヤ日耳曼華族皆グレゴリーノ驕暴ヲ憎ミテ之ニ應ズル者ナカリシ

カバグレゴリーハ策ノ出ル所ヲ知ラズ更ニ辭ヲ卑クシテフレデリ
ックキノ禁門ヲ解カント云フニ至レリ

是ニ於テフレデリックキノ聲威赫々アブリヤノ英國ニ居ルコト數年
宮城壯宏庭園艷麗滿朝ノ群臣皆秀才碩學ニシテフレデリックキモ亦
詩ヲ善クシ伊太利語ヲ以テ詩ヲ作ルコト殆ト衆ニ冠タリ月ニ醉ヒ
花ニ詠シ風流至ラザル所ナク歡樂尽サヘル所ナカリキシユルタン
ケーメル嘗テフレデリックキニ渾天時儀ヲ贈レリ此器機關ヲ以テ天
体ノ運行ヲ示シ極メテ妙巧ナリシトソフレデリックキハ業ヲミチエ
ール、スコットニ受クスコット嘗テアリストートルノ萬物誌ヲ譯
セリ時人其才識神ニ通ズルガ如キヲ見テ皆目シテ魔術者ト爲シタ

リ後其同名ワートル、スコットノ「レー、オフ、ラー、スト、ミン、ストル」ノ書ヲ著スヤミナニール、スコットノ魔術者ト稱セウレシコトヲ以テ其料材トナセリフレデリック園ヲ作り野獸ヲ集ム中ニ豹蛇アリ當時稀ニ見ル所ナリキフレデリック親ヲ烏誌ヲ著ハシ今猶存セリ

フレデリックキ日耳曼ニ在ラザリシコト十五年此間外敵ノ邊ヲ亂ス者ナク兩武社ノ力ニ由リテ大ニ疆ヲ東北ニ拓ケリ武社ノ一ヲ「クロッス、エンド、スワルド」社(十字及ビ刀劍社)ト名ツク千百九十八年リヴォニヤノ僧正アルベルトノ立テシ所ナリ此社イシロニヤヲ畧シ疆ヲ拓ケリ又一チ「テウトン」社前ニト云ヘリ普魯士ヲ徇ヘテ

頗ル其人民ヲ開化セリ普魯士ノ名「ポー」ロシヤノ兩語ヲ合セタルナリ此時普魯士人ハ一種ノ蕃属ニシテ馬肉ヲ食ヒ酒ヲ嗜ミ常ニ沈醉シテ日ヲ終フ其會長死スレバ之レト共ニ馬一頭奴隸數口兵仗一具ヲ理メテ其他界ニ生レ戦鬪スルニ備ヘタリ性殘忍ニシテ恩慈ナク好ミテ人ヲ殺シ屢、其隣國波蘭ヲ困メンカバ波蘭人之ヲ憂ヒ援テ「テウトン」社ノ頭領サルザノヘルマンニ乞ヒシニヘルマン之ヲ聽キ兵士百人ヲ遣シテ之ヲ救ハシメ連戦シテ之ヲ破リ遂ニ其地ヲ畧シテ「テウトン」社ノ所有トナセリ千二百三十七年ニ至リ「クロス、エンド、スワルド」社モ亦「テウトン」社ニ合シタリ

侯相噬ミ強ハ弱ヲ困メ内訌止ム時ナク之ニ加フルニ羅馬法王類ニ
 暴威ヲ張り苟モ其論已ニ異ナル者アレバ直ニ之ヲ獄ニ下シ刑ニ處
 シ殘酷比スベキモノナカリキ千百七十年以來佛蘭西ノ南部ニ於テ
 ベートル・ワルダスノ諸弟子類ニ寺院ノ弊ヲ憂ヒ僧徒ノ勢力ヲ喜
 ビ橫暴ヲ極メ貪婪淫逸ナルコトヲ論シ人民ニ説キ直ニ聖書ニ就テ
 羅馬法王ノ偽説ヲ知ラシムルコトヲ務メタリ此諸弟子ヲ概シテ
 「ワルデンセス」ト稱セリワルダスノ名ニ取レルナリ又「アルビゼン
 セス」ト言ヘル宗派アリ其初メアルビニ起リシニ因リテ斯ク名ツ
 ケタルナリ此徒モ亦法王ノ無狀ヲ論セリ是ニ於テ法王宗門按察官
 ヲ派遣シテ異教ヲ聞シ若シ寺院ヲ以テ謾ニ無根ノ暴説ヲ作爲シ

「カトリック」宗ノ眞旨ヲ亂ダルトナシ「カトリック」宗ノ眞ヲ全ク
 スルハ此暴説ヲ辨駁スルニ在リト唱フル者アレバ直ニ之ヲ捕ヘテ
 重辟ニ處セシメタリ

此時日耳曼ニ於テハ「ドミンカン」社ノ桑門マルボルグノコンラド
 ト云フ者法王ノ命ヲ受ケテ按察官トナリ多ク無告ノ民ヲ殘戮シ遂
 ニ某侯ヲ罰シ其髮ヲ剃ラントセシニ侯大ニ怒リ之ヲ議院ニ訟フ議
 院コンラドヲ召スコンラド召ニ應シテ議院ニ至ントシ路ニテ其誅
 戮セシ人民ノ黨ノ爲ニ殺サレタリ此ヨリ後世々ノ法王日耳曼ニ宗
 門裁判所ヲ置カント欲セシカトモ善ク其志ヲ成シ、者ハナカリキ
 此時フレデリックノ子ヘンリーハ父ニ代リテ政ヲ攝シケルガ詔諛

ノ徒之ニ説テ曰ク諸侯ノ相噬ミ僧徒ノ橫暴ナルハ是攝政ノ威權ノ重カラザルニ由ル且帝既ニ法王ニ一人ニテ日耳曼アブリヤノ兩王位ヲ兼テザルコトヲ約シ殿下ヲ愛スルコトコンラド(第二子)ヲ愛スルニ若カズ殿下ノ爲ニ計ルニ自ラ立テ日耳曼王トナリ以テ内亂ヲ定メ殿下ノ身ヲ安ズルニ若カシトヘンリー之ヲ信ジ千二百三十四年壞地利侯フレデリック、ゼ、オワライキノ勇武ヲ聞キ之ト相結ビライン河畔ボツパールトニ於テ諸侯ヲ會シ共ニ父フレデリックニ叛カンコトヲ説キシニ之ニ與ミスル者多カウザリシカバ事ノ成ラザルコトヲ圖リ乃チ伊太利ニ至リ法王及ビロンバルデー人ヲ説キシニロンバルデー人ハ之ニ與スベキ勢ナリシカトモ法王ハ堅ク

之ヲ拒ミ大逆無道ト爲シテ其宗門ヲ禁シ令ヲ發シテ凡ソヘンリーノ臣子タル者今ヨリ其義ヲ絶テ其誓ヲ廢スベシト命ジフレデリックモ亦書テ日耳曼諸侯ニ贈リ其子ノ大逆無道天地ノ容レザル所ナルコトヲ告ゲ乃チ兵ヲ率井テ日耳曼ニ歸リシカバヘンリー策ノ出ル所ヲ知ラズ千二百三十五年ヲナスボンニ於テ父ノ足下ニ至リ叩頭シテ罪ヲ謝シ赦サル、コトヲ得シガ後又父ニ毒ヲ進メシ罪ニ由リテカラブリヤニ流サレ千二百四十二年遂ニ獄中ニ死セリフレデリック之ヲ聞キ書テ諸侯ニ送リテ曰ク我が膝未ダ曾テ強國ノ王ニ屈セズ然レトモ今我が兒ノ死ヲ聞キテ覺エズ心動ケリ夫レ人不孝ノ子ヲ生ミ其生ケルヤ其害ヲ蒙リ其死スルヤ其墓ニ泣ク古今皆然

り何ゾ獨り我ノミナランヤト

附錄第二十一篇

ウエストハリヤノ秘事訟廳ノ事

前ニ記セシ如クフレデリック二世ノ伊太利ニ在リシヤ其子ヘンリ
 ーヲシテ日耳曼ノ政ヲ攝行セシメ又大僧正インゼルベルトヲ留メ
 テ其目代タラシメシガヘンリー猶幼ク諸侯ヲ駕馭シテ其法ヲ破リ
 亂ヲ爲ス者ヲ制スルコト能ハズ又兵ヲ加ヘテ之ヲ匡スノ力ナク諸
 侯益々横肆ナリシカバインゼルベルト之ヲ憂ヒ乃チコログテノ寺
 院ニ屬スルウエストハリヤノ某部ニ於テ「フレデーグリクト」(古日
 耳曼訟廳)ノ法ニ倣ヒ「ウエームゲリクト」ト名ツケタル秘事訟廳

ヲ開キテ法ヲ亂ル者ヲ匡シケリ此秘事訟廳ヲ開キシ所以ハ如何ト
 云フニ此頃人心未ダ開ケズ罪ヲ犯ス者唯小民ノミナラズ富貴ノ人
 ト雖モ亦常ニ罪ヲ犯ス若シ之ヲ刑スレバ其黨必ズ怨ヲ刑官ニ報イ
 シ故ニ此廳ヲ置キテ每事必ズ之ヲ秘シ犯者刑ニ處セラルハモ誰ナ
 適トシテ怨ヲ報ユルコトヲ得ザラシメタルナリ

裁判員ヲ兩部ニ分チ一ヲ通常裁判員トナシ毎歲三次公廳ニ於テ民
 法裁判ヲ行フ一ヲ秘事裁判員トナシ秘事訟廳ニ於テ罪犯ヲ審鞫セ
 リ蓋シ秘事裁判員ト雖モ亦公廳ニ於テ被告ヲ召シ之ヲ裁判セシコ
 トナキニ非ラズ然レトモ被告若シ命ヲ拒ミテ公廳ニ來ラザルカ又
 ハ命ヲ受ケ遷延シテ期ニ違フコトアレバ乃チ秘事訟廳ニ會シテ被

告ヲ鞠スルコトヲ待タズ直ニ其刑ヲ決セリ且祕事訟廳ニ事ヲ議スルヤ祕事裁判員ノ外他人ノ之ニ參スルコトヲ許サレキ
 祕事裁判員ヲ分チテ四等トナシ一ニ曰ク判事長諸侯若クハコログ
 チノ大僧正之ニ當ル其後帝モ亦親ク之ニ當レリ二ニ曰ク判事副諸
 侯及ビ華族之ニ當リ判事長之ヲ選フ三ニ曰ク會審員ウヅマヒ自由人民之ニ
 當リ判事副之ヲ擧ク四ニ曰ク行刑官祕事裁判員ヲ會シ刑辟ヲ實行
 セリ但シ僧徒(法王ハ此限ニアラズ)猶太教徒婦女奴隸等ハ此員ニ
 列スルコトヲ許サズ又此廳ニ於テ其爭訟ヲ聽斷スルコトヲ得ズ此
 廳ニ於テ聽斷スル者ハ專ヲ自由俗男ノ爭訟罪科ニ係リ自由俗男ト
 雖モ他ノ裁判所ニ於テ之ヲ法ニ處セザルカ又ハ故アリテ之ヲ法ニ

處スルコト能ハザル者ノミ此廳ニ於テ之ヲ審斷セリ

通例コログチノ大僧正館ニ於テ祕事訟廳ヲ開ク其審斷ノ方法極メ
 テ嚴肅ナリキ然レトモスコツツノ著セル「アンテ、オブ、ゲレスナー
 シ」ニ記セル半夜地窖中ニ此廳ヲ開キシコトハ唯、是作者ノ巧ミニ
 慘酷ノ狀ヲ寫出シ看官ノ愛顧ヲ取リシ者ニシテ祕事訟廳ト雖モ此
 ノ如ク慘酷ニハ非リシナリ

祕事裁判員各、其等級ニ從ヒテ其位ヲ占メ判事長若クハ判事副前
 面ニ位シ判事助之ヲ輔ケテ其次ニ位シ會審員之ニ次ゲリ助ハシヤ
 ルレマンノ「サギバロン」(判事補)ノ如シ判事長ノ座前ニ卓子アリ
 卓上ニ白刃一個繩一卷ヲ置ク刀ノ把ハ十字形ヲ擬ス古史ニ據ルニ

刀ハ訟廳ノ法假借スル所ナキコトヲ表シ其把ノ十字形ナルハ耶蘇基督ノ十字架上ニ困苦セシコトヲ示シ繩ハ兇奸ヲ戮シ神怒ヲ平ニスルコトヲ表セシナリ判事長ノ既ニ座ニ就クヤ行刑官諸式既ニ完備セリト告グ判事長乃チ問廳ノ號ヲ爲シ命ジテ禁語ノ令ヲ發セシムルコト三回はニ於テ裁判員ヲ檢シ若シ新員アレバ皆判事長ノ座前ニ跪坐シ巨指及ビ二指ヲ卓上ノ劍及ビ繩ニ着ケテ事ヲ祕シ約ヲ踐マント盟ハシメ次ニ新會審員ニ該廳ノ暗號及ビ「グリッブ」(手ノ握リ様ニテ符號ヲナス法)其他諸般ノ式ヲ授ク就中最モ奇ナルハ之ヲシテ小刀ヲ取り刀頭ヲ後ニシテ己ニ向ハシメ之ヲ卓上ニ置カシムルナリ是蓋シ誓ニ背ク者ハ其身必ズ刀頭ヲ受クベキコトヲ

表セシナリ然ル後之ヲ威スニ若シ秘事ヲ洩サバ直ニ天罰ヲ其身ニ加ヘ其舌ヲ轉ジテ其頸後ニ出レ通常ヨリ高キコト七倍ノ絞架ヲ作り之ヲ絞殺センコトヲ以セリ既ニ此禮ヲ終リテ乃チ爭訟ヲ聽ク原告卓上ノ劍及ビ繩ニ向ヒテ誓ヲ取り其告グル所ノ證左ヲ出メ被告若シ祕事裁判員ノ一人ナレバ誓ヲ取りテ原告ト相抗論スルコトヲ得是ニ於テ裁判員原被告ノ告狀ヲ審按シ投牌ノ方法ヲ以テ其曲直ヲ判シ被告曲ナレバ死刑狀ヲ作り判事長及ビ七會審員之ニ鈐印シ之ヲ原告ニ與ヘテ刑ヲ行ハシメタリ

祕事訟廳ノ命ヲ拒ミテ廳ニ出デザル者アレバ亦此刑ニ所セリ其法既ニ命ヲ拒ムコト判然タレバ大會審員之ヲ證シ判事副判書ヲ朗讀

シテ曰ク秘事訟廳原告ノ言ニ據リ某ノ罪否ヲ糺サント欲シ某ニ命
 シテ廳ニ出デシム某故意命ヲ拒メリ故ニ我等今我ガ聖國ノ憲法ニ
 據リ我等ノ任スル所ノ權ヲ以テ敢テ某ヲ以テ罪ヲ犯ストナシ某ヲ
 驅テ正直ノ群ヲ出デ邪曲ノ叢ニ入り善人ト相近クナカラシメ天
 ノ人ニ與ヘテ其生ヲ樂マシムル所ノ四元素(火水風土)ヲ絶テ人ノ
 一日モ闕クベカラザル諮詢和睦友愛平安等ヲ奪ヒ人ノ爲ニ犯サレ
 ザルノ權辱メラレザルノ榮ヲ剝キ毫モ其利ヲ受ケシメズ嗚呼億兆
 ノ人某ヲ以テ罰ヲ天ニ受クルトナシ殺シテ赦スコト勿レ我等某ノ
 身肉ヲ咒シ其屍ヲ以テ天風ニ付シ禽獸ニ與ヘ其精靈ヲ以テ明神ニ
 捧ゲ其定奪ニ任スト之ヲ讀ムコト三回毎回某ノ身肉ヲ咒シノ語ニ

至ルトキ判事副及ビ會審員必ズ地ニ唾シテ咒詛ノ意ヲ示シタリ
 是ニ於テ判事長令ヲ發シテ凡ソ王公侯伯大夫武士タル者及ビ判事
 副會審員タル者ハ宜シク該廳ヲ輔佐シ某ノ罪ヲ問ヒソノ刑ヲ實行
 スベシ親戚ノ愛故舊ノ情ニ眷戀シテ此大兇ヲ赦スコトナカレト既
 ニ此令ヲ發スレバ被告更ニ逃ルベキ地ナク久シカラズシテ其死骸
 ノ高樹ノ上ニ繫リテ樹幹ニ秘事訟廳ノ暗符SSGGノ四字ヲ彫ミ
 タル七首ヲ刺スヲ見ルコト通例ナリキ此四字ハ「ストック」(杖)
 「ステーン」(石)「グラス」(草)「グレーン」(呻)ノ畧字ナリ然レトモ
 何ノ意ヲ以テ此四字ヲ用ヰシカ秘シテ傳ヘス故ニ世之ヲ知ルコト
 ナシ蓋シ其通常意義ノ外別ニ意ヲ寓セシナラン又會審員ヲ派遣シ

テ日夜各所ヲ巡行セシメ若シ強盜其他大惡ヲ犯ス者ヲ見レバ直ニ
 捕拿シ祕事訟廳ノ審判ヲ受ルヲ待ズ特權ヲ以テ之ヲ刑ニ所スルコ
 トヲ許セリ

諸祕事訟廳ノ祕事裁判員ヲ合シテ祕事會議ト稱シ總祕事訟廳ヲ管
 轄セリ祕事訟廳ノ名聲速ニ四方ニ達シレドワシド(ウニストハ
 リヤノ一名)ヨリ日耳曼諸部十ガ八九ニ至ルマデ皆爭ヒテ社ヲ結
 ビ此廳ヲ起シ千三百年代ニハ祕事裁判員ノ數合シテ十万人ニ至レ
 リ然レトモ既ニ時勢ニ適セザルコト多カリシカバ千四百年代ニ至
 リテハ諸侯諸府武士等黨ヲ結ビ之ヲ拒ム者アリテ公然之ヲ廢セシ
 ニアラザレトモ漸ク衰頽ニ属シケリ千四百二十九年日耳曼帝シザ

スモシド祕事訟廳ノ首府ドルトモントノ菩提樹ノ下ニ於テ祕事裁
 判員ノ新任ノ式ヲ受ケ其右膝ヲ屈シ帽ヲ脱シ右ノ兩指ヲ卓上ノ繩
 ニ就ケ刀劔二個ヲ十字形ニ組ミ其前ニ跪キ誓ヲ取リテ事ヲ祕スル
 コトヲ約シ暗號ヲ受ケタリ暗號ハ即チ前ニ記セル「ストック」(杖)
 「スターン」(石)「グラス」(草)「グレーション」(呻)ノ畧字ニシテ世其意
 ヲ知ラズ

ムンステルノ傍ゲーメンニ於テ「フレゲリクト」(日耳曼古裁判所)
 ヲ設ケタリ是最後ノ「フレゲリクト」ナリ千八百十一年佛蘭西律法
 ヲ行フニ及テ遂ニ之ヲ廢シタリ

第二十二篇

フレデリック二世ノ事

千二百三十五年フレデリック英吉利王ヘンリー三世ノ妹イサベルヲチ娶レリフレデリックノ妃ヲ迎フル是ヲ第三回トナスイサベルヲハ容色秀絶ナリ三月二十二日コログチニ至ル府民群ヲ爲シ皆花ヲ道ニ敷キテ之ヲ迎フイサベルヲ乃チ大ニ財寶ヲ散シテ之ヲ賑ハシケリ此際ノ事ヲ時史ノ最モ稱美セル所ハ船形ノ馬車ナリ車ヲ輓ク者皆車下ニ在リテ其形ヲ露サズ故ニ車ノ地上ヲ行ク恰モ船ノ波上ニ走ルガ如クナリシトゾ

ウオルムスニ於テ壯大ノ式ヲ以テ婚禮ヲ行ヘリ此ニ會スル賓客ノ中王侯合シテ七十五人武士一万二千人ニシテ饗宴ノ禮多クハ亞細

亞ニ倣ヒ就中眼ヲ驚セシハ數群ノ駱駝ナリキ

フレデリック既ニ婚禮ヲ行ヒ乃チメントニ於テ議院ヲ開キ公論ニ依リテ長子ヘンリーチ廢シ第二子コンラドヲ以テ儲貳トナセリ是ニ於テ全國ニ令シテ曰ク今國家始メテ平安ニ属セリ自今以後凡ソ他人ノ爲ニ害ヲ蒙ル者ハ細大トナク必ズ該管認應ニ認ヘテ處分ヲ聽クベシ昔日ノ如ク私ニ其怨ヲ報ユルコトヲ許サズ且舊律人ヲ殺ス者金ヲ以テ其罪ヲ贖フコトヲ得レトモ今之ヲ改メ凡ソ人ヲ殺ス者ハ死刑ニ處スベシト今世ニ存スル所ノ日耳曼文ニテ記シタル公書ノ中此令ヲ以テ最古トナス

翌年フレデリックキロンバルデーヲ攻メント欲シ大ニ其備ヲ爲セリ

フレデリックキ嘗テ回教ノ兵士一万人ヲ養ヒシガ是ニ至リテ先ヅ之ヲシテ伊太利ノ北部ニ入ラシメ又親ラ兵ヲ率井テ之ニ次ギウエーブリンゲル黨ノ兵ト合シ千二百三十七年十一月二十七日ミランノ兵トコルタメーワニ戰ヒテ之ヲ敗レリ此時敵ノ旗手一隊軍ニ殿シ牙旗ヲ車ニ載セ誤リテ沼中ニ轉シ車輪淖ニ陥リテ拔クベカラズ然レトモ牙旗ヲ敵ニ與フルコトヲ欲セズ車ヲ毀テ牙旗ヲ破ントセンニフレデリックキノ死士之ヲ見テ直ニ撃テ旗手ヲ斬リ象ヲ以テ車ニ附ケ引キテ沼ヲ出ダシ牙旗ヲ取リテ之ヲ羅馬ニ送致シ「カピトル」

(デニビタル神堂)ニゾ納メケル

是ニ於テミラン人大ニ畏レ使テフレデリックニ送リテ曰ク自今以

後臣等承ク陛下ヲ奉シテミランノ王トナシ臣等ノ有スル所ノ金銀ヲ尽シテ之ヲ左右ニ致シ兵士一万人ヲ募リテ十字軍ヲ出スベシ唯、願クハ陛下臣等ガ既往ノ罪ヲ赦シ承ク恩慈ヲ垂給ハンコトヲ然レトモフレデリックキハミラン人ノ久シク命ニ抗セシコトヲ怒リ汝等降ヲ欲セバ唯、速ニ降ルベシ汝等ヲ赦スト赦サ、ルトハ是我ガ事ノミ汝等ノ與リ知ルヘキ所ニアラズトテ之ヲ聽ザリシカバミラン全部物情洵々タリ某侯ノ妻カセルダト云フ者ハ嘗テ帝ノ心ヲ得シガ之ヲ憂ヒ帝ニ謂テ曰ク陛下勢威赫々地廣ク民多シ人生ノ榮此ニ盡タルト謂フモ亦可ナリ然ルニ何ヲ苦ミテ妄ニ神ノ名ヲ借り人ノ國ヲ侵シ人ノ害ヲ爲スヤト帝之ニ答テ曰ク然リト雖モ吾我ガ辱

ヲ雪メント欲シ兵ヲ舉テ此ニ來レリ今兵ヲ退ケナハ是我ガ辱ヲ重
 スルナリ我之ヲ忍ブコト能ハズトミラン人ハ之ヲ聞テ帝ノ意ノ回
 ス可ラザルコトヲ知り罵リテ曰ク我等今膝ヲ屈シテ敵ノ軍門ニ降
 リ或ハ食ハズシテ死シ或ハ繫レテ死シ或ハ鉄鉞ニ伏シテ死センヨ
 リハ寧^ニ刀ヲ手ニシテ鏖戦シ力盡テ乃チ斃レンニ如カジト是ニ於
 テ死灰復燃エ人々皆死テ以テ諸所ノ城砦ヲ守リシカバフレデリッ
 キ戦ヒ利アラザリシニハ非ザレトモ未ダ勝テ奏スルコト能ハザリ
 キ但シフレデリッキヲシテ長ク攻ムルコトヲ得セシメバ必ズ其勝
 テ奏ス可カリシカトモ再ビ法王グレゴリート争テ起シ遂ニミラン
 ナ平クルコト能ハズシテ止ミニケリ

此頃法王ハフレデリッキノ勢日ニ加ハルヲ見テ心之ヲ畏レザルコ
 ト能ハズ類ニフレテリッキノ過失ヲ求メシニ此頃フレデリッキサ
 ルザニヤキ征服シ庶子インジョーヲ封シテ其王トナセリサルザニ
 ヤハ聖僧ベートル領(羅馬寺院領)ノ一ナリ法王之ヲ聞テ好機會ナ
 リト思ヒ乃チ使ヲ遣シテフレデリッキヲ讀メ使地ヲ返サシメシニ
 フレデリッキハ之ヲ聽カズシテ使ヲ辱メシカバ法王乃チフレデリ
 ッキノ宗門ヲ禁ジテ曰ク我今フレデリッキノ形骸ヲ取リテ之ヲ魔
 王セータンニ付ス凡ソ其臣子タル者今ヨリソノ約ヲ解テ之ニ近ク
 コトナカレ噫此教敵ハモーゼスマホメット耶蘇基督ヲ並稱シテ偽
 言者トナシ生靈ヲ罔ミストナシ二人ハ榮ニ死シ一人ハ木ニ繫レテ

死セリトナセリトフレデリック之ヲ聞テ我未ダ嘗テ救世主ヲ目スルニ此ノ如キ事ヲ以テセズトテ痛ク其冤ヲ辨シケレトモ法王ハ否然ラズフレデリックノ巴勒斯且ニ在リシトキ麥穗ヲ指ザシ冷笑シ左右ニ向ヒテ是即チ汝ノ神ナリト云ヒ暗ニ耶蘇祭日ノ酒麥變ジテ耶蘇ノ血液トナル説ヲ誹レリトテ更ニ之ヲ許サズリシカバフレデリックモ竟ニ之ヲ如何トモ爲スコト能ハザリキ

斯ク法王ハフレデリックノ禁門ノ事ヲ議セントテ一般宗門議院ヲ開カントセシニフレデリックハ之ヲ聞テ此院ニ會スル者ハ皆己ガ舊怨ナラント稱シ密ニ其子サルザニヤ王インジョーニ命ジテ盡ク議員ノ乗ル所ノ舟ヲ收メシメ宗門上議院員僧正其他高僧ヲ載スル

所ノ舟凡ソ二十七隻ヲ奪ヒシカバ法王遂ニ議院ヲ開クコト能ハザリキ

此ヨリ先フレデリックノ閣老ベートル、ドヴッチー、ス議員ノ羅馬ニ至ル者ヲ止メント欲シ檄ヲ發シテ曰ク今羅馬ニ至ル道路海口一トシテフレデリックノ兵ノアラザルハナシ卿等敢テ行カバ禍實ニ不測ニ在リ且卿等縱令恙ナク羅馬ニ達スルコトヲ得ルモ卿等ニ於テ何ノ益カアル卿等未ダ羅馬ノ風土ノ惡キコトヲ聞ズヤ夏日炎熱焚クガ如ク水腐レ食惡シク大氣鬱重シテ手能ク之ヲ捕捉スベク蚊虻家ニ充テ蛇蝎野ニ滿テ府民ノ羸患野獸ニ踰エ全府荒蕪ス夏日稍熱スレバ卑地忽チ無數ノ毒蟲ヲ産メ且卿等法王ノ卿等ヲ召ス所以

ヲ知レルヤ甘言以テ卿等ヲ欺キ卿等ヲ以テ鷹犬トナシ其惡ヲ遂ゲ其欲ヲ充テント欲スルナリ故ニ初メ其卿等ヲ待スルヤ必ス優ニシテ卿等ニ望ム所亦必ズ理ニ似タルコトアラン然レトモ卿等必ズ之ヲ聽クコト勿レ必ズ之ヲ拒ムベシ卿等若シ一度之ヲ聽カバ彼必ズ更ニ卿等ニ要スル所アリテ卿等ノ貨産權利ヨリ形骸靈魂ニ至ルマデ之ヲ破リ之ヲ碎キ之ヲ齧粉スルニ至ラザレバ止ラザルベシ夫レ明神既ニ卿等ヲ惠ミテ空名ニ誘ハレ勢利ニ迷ヒ怨恨ニ惑ヒ富貴ニ眩ミ遂ニ魔界ニ陥リ永ク出ルコト能ザルコトヲ免レンメタリ卿等少シク自ラ重ンゼヨ今帝卿等ノ此禍ニ罹ルヲ見ルニ忍ビズ徹テ發シテ卿等ニ告グルコト爾リト法王ハ既ニ議院ヲ開クコト能ハズ大

ニ狼狽シケルガ未ダ數月ナラズシテ死シタリ齡殆ト百歳ナリ

此頃蒙古人日耳曼ヲ侵掠セリ蒙古人ハ亞細亞ノ中央ニ起リ古昔ノ匈奴ト其出ル所ヲ同クセリ身材甚タ大ナラズ四体停均ナラズ唇厚ク頬高ク鼻低ク目小ニシテ沈メリ常ニ馬ニ乘ル馬小クシテ瘦ス然レトモ善ク馳ス飲食ハ甚タ粗惡ニシテ猫鼠其他人ノ食フ可カラザル者ヲ以テ食トナセリ千二百二年其會長ニ鐵木心ト云フ者アリ「シンキスカン」(百王ノ王)ノ尊稱ヲ僭シ支那ヲ滅シ印度ヲ掠メテ第二アツナラト稱セラレタリ千二百二十七年鐵木心死セリ是ニ於テ蒙古人ソノ遺業ヲ繼ギ魯西亞普魯士ヲ侵掠シ遂ニ進ミテシレシヤニ至リブレスロー¹⁾府ヲ燒ケリ下シレシヤ侯ヘンリー²⁾セ、バイオ

ス兵ヲ率ヰテ之ヲリークニツニ徹ヘ撃ツ此時ヘンリーノ兵ハ僅ニ三万ニ過ギズ蒙古ノ兵ハ四十五万ナリシカトモヘンリー毫モ屈セズ鏖戦兩日國ノ爲ニ骸ナ戰場ニ暴シ兵士亦尽ク殫キタリサレバ蒙古人ハ戦ニ勝チタレトモヘンリーノ兵ノ勇武ヲ見テ日耳曼ヲ目シテ鐵人國ト稱シ大ニ之ヲ畏レテ再ビ兵ヲ進メズ日耳曼ノ死兵ノ耳ヲ斷チ之ヲ九箇ノ鬘ニ入レ兵ヲ轉ジテ南行シモラウキヤ匈牙利ヲ蹂躪シ千二百四十一年ダニーユブ河上ニ於テフレデリックノ兵ト戦ヒテ大ニ敗レタリ今ヘンリーノ戦死セシ地ヲ名ツケテワールスタット(戰場)ト名ツク千八百十三年ブツナル佛蘭西ノ兵ヲ此所ニ破リ因リテワールスタット侯ノ爵ヲ受ケタリ

法王インノセント四世ハウエープリンゲル黨ナリシカトモグレゴリー九世ノ意ヲ繼ギテフレデリックノ禁門ノ令ヲ實行セント欲シ千二百四十三年宗門議院ヲ開キ議員皆テ、デウム、ローダマス、ノ章ヲ歌ヒ諸高僧ハ燈ヲ消シテ曰クフレデリックノ地上ニ受ル所ノ榮光幸福ノ滅スルコト猶此燈ノ滅スルガ如クナレトフレデリックキハ之ヲ聞テ盡ク其受タル所ノ冠ヲ第メ手ヲ其上ニ置キ罵リテ曰ク法王ト雖モ豈ニ能ク之ヲ奪ハンヤト法王ハ頻ニ金ヲ散シテ日耳曼華族ニ説キ以テスリンギヤ侯ヘンリーヲ選ハシメシガヘンリー俄ニ死シテ和蘭ノウキルレム之ニ嗣ゲリ然レトモフレデリックノ猶世ニ在リシヤウキルレムヲ助グル者猶僅々ナリキ

爾後フレデリックハ類ニ災害ニ罹リ嘗テ墮地利ヲ以テ世々ソノ家
 ノ有トナサント謀リシニ法王及ビポヘミヤ王オトカルノ爲ニ妨ゲ
 ラレテ其志ヲ成スコト能ハズ又庶子インジニハ故アリテボログ
 子人ノ爲ニ終身禁獄ノ刑ニ處セラレ又關老ベートル、ド、ヴィチー、ス
 ハ平生ノ恩寵ヲ忘レフレデリックニ毒ヲ進メント謀リ發覺シテ獄
 ニ下サレ權ニ觸レテ死セリ是ニ於テフレデリック居常快々千二百
 五十年十二月十三日遂ニヒレンズーラニ於テ愛子マンフレットノ
 手ニ倚リテ死セリフレデリックノ生時受タル冠合シテ七アリ曰ク
 羅馬帝冠曰ク日耳曼王冠曰クロンハルデー王鐵冠曰クボルゴンデ
 ー王冠曰クシ、ハ、ー王冠曰クサルヂニヤ王冠曰クザ、ヨ、ル、セ、ー、レム

王冠是ナリ

附錄第二十二篇

「ハンサ」社ノ事

千二百四十一年日耳曼諸府力ヲ戮セテ貿易ニ從事セント欲シ約ヲ
 結ビ社ヲ立テ「ハンサ」社ト名ツケタリ「ハンサ」ハ同盟ノ義ナリ古
 今商社ノ數多シト雖モ未ダ此社ノ如キ大ニシテ且盛ナル者ハアラ
 ズ今其大畧ヲ説カン

抑此社ノ起リシハ北海及ビバルチック諸濱ノ市府十字軍以來人
 口俄ニ繁殖シ貿易日ニ盛大ニ起キ各府相議シテ海軍ヲ備ヘ戰艦ヲ
 地中海ノ諸所ニ駛セテ屢、ゼノア、ビーザ、ヴニテスノ軍船ト戰鬪セ

り蓋シ初ハ唯、臨時相救援セルノミニテ永ク約ヲ爲シ社ヲ結ビシニハアラザリシガ千二百四十一年ニ至リ公然社ヲ結ビテ北海ノ海賊其他總テ貿易ノ障害ヲ爲ス者ヲ抑制セリ其初ルーベックハンボルクノ兩府社ヲ結ビ後ブレメン之ニ與シ幾クモナクシテ日耳曼北部ノ諸府此社ニ入ルモノ多シ

千三百年代千四百年代ニ至リテハ「ハンサ」社ノ勢極メテ盛ニシテ之ニ與ミセル市府凡ソ七十兵艦三十隻海軍兵員一万二千人ニ下ラズ而シテ類ニ北海ニ横行シ當時ノ強國ト雖モ之ヲ制スルコト能ハザリキ

「ハンサ」社ハ獨リ專商ノ權ヲ得シコトヲ務メ屢、スカンザナヴキ

ヤン諸國及ヒ英吉利ト兵ヲ接ヘ英吉利ト雖モ頗ル之ガ爲ニ制セラレ千四百年代ニ至リテ僅ニソノ抑制ヲ排却スルコトヲ得タリ「ハンサ」社創立ノ後幾クモナク千二百四十九年ルーベック人アレキサンドル・ウォン・ソルトメダルト云フ者該社ノ海軍ニ將トシテコッペンハーゲンヲ掠メ當時丁抹領ナルストラルサンドヲ燒キタリ又同百年代ノ末「ハンサ」社戰艦ヲ遣シテ那威ノ諸港ヲ鎮シ沿海ヲ掠メ那威王イリクノ戰艦ヲ奪フ千二百八十五年遂ニカルマルノ會ニ於テ之ヲ要シテ專商免狀ヲ受ケ僅ニ講和ヲ許セリ千三百六十一年「ハンサ」社又瑞典丁抹ノ兵ト屢戰シ遂ニ兩國ヲ蹂躪シ之ヲシテ和ヲ乞ハンメタリ此時「ハンサ」社ハスクレスウイツク及ビホレスチ

シノ丁抹ト相結ブコトヲ禁シ又丁抹ヲ要シ「ハンサ」社ノ承諾ヲ經ズシテ其王ヲ選ブコトヲ禁シタリ又瑞典女王マルガレットヲ要シテ尽ク該社ノ舊權ヲ復セシメ三年間ストックホルムヲ質ト爲シテ其約ヲ踐シコトヲ證セシメタリ

宗門改革ルイサルノ改革ノ「ハンサ」社ニ關スル所少カラズ大ニ其變革ヲ醸シケレバ千五百二十八年ルーベックノ議院ニ於テルーサルノ著書ヲ集メ獄吏ニ命シテ之ヲ燒カシメタリ然ルニ後二年府民皆豪家ノ專權ヲ怒リ目シテ素餐ノ賊トナシ大ニ之ヲ詈リシカハ議院ハ之ヲ恐レテ宗門自由ノ令ヲ發シケレトモ府民皆之ヲ以テ足レリトセズ彼等嘗テ我等ノ宗門ヲ束縛セリ今ヤ我等モ亦彼等ノ奉スル所ノ

「カトリック」宗門ヲ禁ゼントテ直ニ豪家ヲ倒サントシケレトモ議長ニゴラス、ブルームセルモ之ヲ支フルコト能ハズ他所ニ救援ヲ求メント欲シテルーベックヲ去リタリ是ニ於テ府中ノ賤民直ニ議院ヲ廢シ其政務ヲ專ニシデユールセン、ウルレンウエベルト云フ賤工ヲ推シテ議長トナセリ

ウルレンウエベル 既ニルーベック府ノ議長トナリ因リテ全「ハンサ」社ヲ統領セリウルレンウエベルハ果敢ニシテ大畧ヨリ常ニ「ハンサ」社ヲ振起センコトヲ務メバルナック沿海ノストックホルムサントロストックウヤマル諸府ト相結ビテ丁抹ヲ覆シ再ビ其廢王クリスタン二世ヲ立ント謀リ瑞典王ガスタヴス、ワサノ初ノ「ハンサ」社ノ

力ニ由リテ位ニ登リナガラ後同社ニ反セルヲ以テ之ヲ廢セント欲シ先ツマキス、マイヤルヲ瑞典ニ遣シ人民ヲ煽動シワサハ廢シ王族ノ幼兒スナユールヲ立ント謀ラシメタリマキス、マイヤルハ初メモ市ヲ鬻クヲ以テ業トナシ容色絶美當時稀ニ見ル所ナリキ嘗テスカールランニ從ヒテ土耳其人ト戦ヒ後海軍ヲ率テ英吉利及ビニールセルラントノ海軍ノサウント海峡ヲ窺フヲ防キ颶風ニ漂ハサレテ英吉利海岸ニ至リ土人ノ爲ニ捕ハレテ倫敦ノ「タオエル」獄ニ繫レタリ此時英王ヘンリー八世ハ法土及ビ日耳曼帝ト相善ヲズ北地諸國ノルーベックト相結ブヲ見テ頗ル之ヲ羨ム心アリシカバマイヤル乃チ口オヲ振ヒテ之ニ説キケルニヘンリー大ニ之ヲ喜ビ之ニ武

士ノ爵ヲ與ヘ金鎖ヲ以テソノ頸ヲ飾リ禮遇ヲ盡シテ之ヲ放テ還シケレバマイヤルハ虎口ヲ免レテ恙ナクルーベックニ歸リ府兵ノ將トナリシカ是ニ至リテ前ニ記セル如クウルレンウエベルノ命ヲ奉シテ瑞典ニ趣キンナリ然レトモ此行ヤマイヤルノ策皆違ヒ事遂ニ成ラズシテ歸リ更ニウルレンウエベルノ命ヲ受ケテ丁抹ニ至リ人民ヲ煽動シ初メハ大ニ其志ヲ得テオルデンボルグ侯クリストフルニ説キ之ヲシテウルレンウエベルノ命ヲ受ケ「ハンサ」社ノ兵及ビ日耳曼傭兵ヲ率テ丁抹諸島ヲ掠奪セシメケルガ「ハンサ」社中ノ豪家ニ奸ヲ謀ル者アリテ遂ニ亦功ヲ卒フルコト能ハザリキ是ニ於テ日耳曼政府令ヲ發シテルーベックヲ以テ國敵トナシ若シ

其共和政府ヲ廢スルニ非ザレバ直ニ兵ヲ加フベシト唱ヘタリ又ブレメンノ僧正偽計ヲ以テウルレンウニベルヲ捕ヘ之ヲ教敵トナレテブルンスウツキノ暴君ヘンリーニ與ヘケレバヘンリー大ニ之ヲ拷掠シ遂ニ斬ニ處シタリマイヤルハ丁抹人ニ降リシガ丁抹人約ヲ破リテ遂ニ之ヲ斬リタリ

「ハンサ」社ハ議院フルーベックニ開キテ凡ソ公文簿書皆此所ニ藏メ社ニ屬セル諸府ヲ四部ニ分テ每部一首都ヲ置ク千四百年代其最も盛ナリシヤ第一部ヲ「ウエンド」部ト云ヒルーベックヲ首都トナシハンボルグブレメンロストクキールグレーフスハルドステツナン及ビゴスランドノウイマバイ等此部ニ屬セリ第二部ヲ「ウニス

テルリング」部ト云ヒコログテヲ以テ首都トナシ和蘭ウニストハリヤノ諸大府此部ニ屬セリ第三部ヲサキソン部ト云ヒブルンスウツキヲ首都トナシアグテベルグハルレハノーフルイルアルトブランデンボルグブレスロー及ビオーデル河畔ノフランクホルト等此部ニ屬セリ第四部ヲ「イーステルリング」部ト云ヒゲントシツクヲ首都トナシソルンキニーニグスボルグライガ等此部ニ屬セリ

「テウトン」社モ亦「ハンサ」社ト相結ビ議員ヲ「ハンサ」議院ニ送レリ但シ「ハンサ」社ノ諸府各、其地ヲ異ニシケレバ利害モ亦同キコト能ハズ甲府ニ益スル所ハ乙府ニ損スル所アリテ甲乙相妬ミシ故

ニ其社ノ大ナル彼ガ如クナリレモ遂ニ強盛ニ至ルコト能ハザリ
キ

「ハンサ」社ハ社ニ屬セル諸府ノ外ニ又外國ノ四貿易場ヲ以テ其貿易ノ根據トナセリ魯西亞ノノブゴロドハ魯西亞波蘭普魯士リウ
オニヤアシヤマイノル波斯ノ貿易場ナリ英吉利ノ倫敦ハ英倫蘇
格蘭愛爾蘭ノ貿易場ナリベルゼンハデンマルク瑞典那威ノ貿易
場ナリブルーデスハニーゼルランド日耳曼及ビ歐洲南部ノ貿易場
ナリ而シテ「ハンサ」社ハ此四場ヲ以テ其貿易場トナシ此四場ニ出
テ業ヲ營ム者ノ土人ト結親シ遂ニ本社ノ利ヲ忘レンコトヲ恐レテ
其妻帯ヲ禁シ桑門ノ行ヲ守ラシメタリ其倫敦ニ在リシ者ハターム

ス街ニ商館ヲ築キ多ク特別ノ權利ヲ有シテ商利ヲ罔ミシケレバ
倫敦人之ヲ妬ミヘンリー七世ノ代ニ大ニ其權利ヲ殺ギ其後遂ニ之
ヲ奪ヘリ千六百三十年ニ至リテ「ハンサ」社ハ約ヲ解キテ分散シル
ーベックハンボルクブレメンノ三府相結ビテ更ニ新社ヲ起シケ
リ

第二十三篇

コンラド四世及ビ和蘭ノウキルリヤムノ事 日耳曼空位

ノ事 コルンワルノリチャルド及ビカスタイルノアルホ

ンソノ事

フレデリック二世ノ將ニ死セントスルヤ遺命シテ其子コンラドヲ

以テ羅馬帝兼日耳曼王トナシ後妃バヤンカノ子マンフレッドヲ以テアフリヤノ攝政トナシ餘ノ土地ハ尽ク親戚ノ中ニ分テ與ヘ且法王ト約シテ前ニ日耳曼諸王ノ侵シ取リタル地ヲ法王ニ返シ與ヘント定メタリ蓋シフレデリックキハ斯ク甘言ヲ以テ己ガ嘗テ屢法王ヲ凌辱セシコトヲ謝シソノ怒ヲ鎮メント思ヒシナリ然レトモ法王ハ更ニ怨ヲ解カズフレデリックキノ死ヲ聞テ大ニ喜ビ天地モ同ク之ヲ祝スベシト呼ビ又コンラドノ即位ヲ聞テ彼何ソ位ヲ嗣グヘキ理アラニヤト罵リ之ヲ目シテ教敵トナシ直ニ乞僧社ニ令シ十字軍ヲ募リテ之ヲ伐タシメケリ

此時和胤王ウイルリヤムハコンラドヲ傾ケント欲シオツベシヘー

ムニ於テ之ヲ伐テ率先奮闘シテ遂ニ之ヲ破リタリ此戰ノ後幾クモナクコンラドハ病ニ罹リテ死セリ蓋シ人ノ爲ニ毒セラレシナラシコンラド一子アリ日耳曼人ハ之ヲコンラドゼ、ヨングルト云ヒ伊太利人ハ之ヲコンラナント稱セリ

ウイルリヤムハオッペンヘームノ戰ニ勝テシカトモソノ後ハ勢威更ニ振ハズ頗ル日耳曼人ノ爲ニ輕視セラレオットレクトノ人民ハ石ヲ以テ之ニ擲テ又コログチノ大僧正ハ之ヲシテ速ニ日耳曼ヲ去ラシメント欲シ火ヲソノ家ニ放チシニ火急ニシテウイルリヤム殆ド危カリシガ僅ニ免ル、コトヲ得テソノ本國和蘭ニ退キ千二百五十六年フリースランド人ヲ征セント馬ニ乘リテ水上ヲ涉リシニ水

破レ水ニ陥リテ死セリ

是ニ於テ日耳曼國君主ナク選帝官皆利欲ニ溺レ善價ヲ求メテ王位ヲ賣ラント欲シタリ英吉利王ヘンリー八世ノ弟コルンウェルノリチャルドハ鉅萬ノ金ヲ散シテマエンスノ大僧正及ビ其黨與ニ與ヘ之ヲシテ己ヲ選ハシメタリ此時大僧正ハ一萬二千「マークス」ヲ得其黨與ハ各八千「マークス」ヲ得タリ當時ノ史ニ據ルニリチャルドノ日耳曼ニ來レルヤ車三十二乘アリ每車載スル所ノ金約一石半馬八頭ヲシテ之ヲ牽カシメシトゾ日耳曼ノ狂詩家レーンマル狂詩ヲ作りテ之ヲ嘲リテ曰ク

日耳曼王位ヲ賣リ

ヴニニス之ヲ買ハント欲シ

使ヲ送ル盡ク賢良

金ヲ齎ラス知ル幾囊ゾ

如何セン基督ノ敵

早ク既ニ黃金ヲ散シ

王公ト侯伯ト

牌ヲ投シテ此賊ヲ選ビシコトヲ

又カスタイルノアルホンソハトレーヴスノ大僧正ト其黨與トニ各銀二万「マークス」ヲ與ヘ之ヲシテ己ヲ選ハシメントセシニ大僧正以下皆之ヲ聽受セリ叔トレーヴスノ大僧正ノアルホンソヲ選ビシ

ヤ正ニコローチノ大僧正ノリナルドヲ選ビレト同日ニシテアル
 ホンソチバフランクホルトノ府中ニ選ビリナルドヲバ府外ニ選
 ヒタリ此時法王ハアルホンソトリナルドノ争訟ヲ聽斷セント約
 セシカ遷延シテ數年ノ後モ猶之ヲ決セサリシカバ日耳曼人民ハ誰
 ヲ適トシテ奉戴スベキヤヲ知ラズ所在瓦解シ日耳曼數百年ノ帝業
 殆ド地ニ墜チントスル勢ナリキ是ヲ日耳曼國空位ノ代トナス

附錄第二十三篇

コンラゲンノ事 千二百年代日耳曼ノ景況ノ事 文學
 ノ事 技工ノ事

コンラド四世ノ子コンラゲンハアブリヤノ王位ヲ嗣ギントキ齡僅

ニ六歳ナリシカバ諸華族皆以爲ク之ヲシテ永ク位ニ在ラシメバ是
 法王ノ勢威ヲ益スナリト千二百五十八年遂ニ攝政マンフレッドヲ
 推シテ位ニ即カシメタリ然ルニ法王ハ令ヲ發シテアブリヤ王位ヲ
 以テ空位トナシ之ヲ諸侯ニ賣ラントセシカトモ之ヲ受クル者ナカ
 リシニ唯佛蘭西王ルーイス九世ノ弟アンゼロー侯ナルレスノミ
 之ヲ買ハンコトヲ欲シケリ今諸史皆ルーイスヲ稱シテ聖僧ルーイ
 スト記スナリ

ナルレスノ性正シク其兄ニ反シ果敢ニシテ才畧アリ極メテ勢利
 ナ好ミ殘忍ニシテ慈恩少ク面色棕黑笑ニ眉ヲ開カズ之ヲ望ム者悚
 然タラサルハナカリキ其妻ハプロヴエンスノ女侯ニシテ勢利ヲ好

ムコトナヤルレスニ過ク嘗テ祭事ヲ行ヒ姊妹ト共ニ坐ニ就キ己レ
 姊妹ノ下ニアリシヲ怒リヤルレスヲ要シテ後必ス己ヲ以テ姊妹
 中第一ノ女王トナサンコトヲ約セシメタリヤルレスハアブリヤ
 ノ王位ヲ得ント欲シテ竊ニ法王ト之ヲ謀リケルガ遂ニ約シテ曰ク
 法王ハナヤルレスヲ以テアブリヤ兼シ、ハリー王トナスベシヤル
 レスハ即日銀五萬「マーク」毎年金八千「チンス」毎三年白馬一頭ヲ
 法王ニ納レテ臣子ノ禮ヲ表スベシト

千二百六十六年アンジロー侯ナヤルレス兵ヲ率テマンフレッド
 ノ兵トベテヴニントノ側ニ戰ヒテ大ニ之ヲ破リシカバマンフレッ
 トハ再ビ拾收スベカワザルコトヲ知り單騎ニテ敵ヲ突キ鏖戰數時

力盡テ乃チ斃レタリ後二日マンフレッドノ遺體ヲ死者ノ中ニ得シ
 ニ佛蘭西ノ武士皆其勇ヲ愛シヤルレスニ告ケズシテ密ニ之ヲ埋
 葬シ各一石ヲ取リテ其墓上ニ投ゲ遂ニ一小丘ヲ爲シ之ヲ「マウン
 ト、オフ、ローセス」ト名ツケタリ薔薇丘ノ意ナリ

千二百六十七年コンラザンアブリヤノ勤王家ノ請ヲ聽テアブリヤ
 王ノ冠ヲ受ケント欲シ兵一万余ヲ率テ伊太利ニ入り牙營ヲヴエロ
 ナニ設ケ此ニ駐ルコト三月以テウニ、ブリンゲル黨ノ兵ヲ舉ケテ
 相會スルヲ待ナタリコンラザン幼シト雖モ容儀絶倫且言語ニ巧ミ
 ナリシカバ伊太利人大ニ之ヲ喜ビ簞食壺漿シテ之ヲ迎ヘ軍ニ從フ
 者雲霞ノ如ク毎戰佛軍ヲ破リ遂ニ羅馬ニ入りシニ少女一隊花ヲ路

ニ散ラシ之ヲ導キテ「カビトル」ニ至リケリ
 然レトモ是既ニホーヘンストーヘン家ノ日中ニシテ幾クハクモナ
 ク遂ニ其日暮ノ時トゾナリニケル千二百六十八年八月二十三日コ
 ンラザンハ佛蘭西ノ兵フアブリヤノサルコロノ側ニ破リ勝ニ乗ジ
 兵ヲ散シテ敵ノ輜重ヲ掠奪セシメシニ伏兵ノ爲メニ襲ハレテ大ニ
 敗績シ全軍此ニ殲キ唯クコンラザント其親友墾地利ノフレデリック
 ハ駿馬ニ乗ルカ故ニ此場ヲ逃レケルガ後アスタリヤノフランダバ
 ニノ反應ニ由リテ遂ニ捕ハレテチャルレスノ前ニ引カレケリ是ニ
 於テチャルレスハ有名ノ法士數人ヲ選ビテ裁判官トナシ自ラコン
 ラザンノ罪狀ヲ書シテ曰クコンラザン謀ニ兵ヲ擧ケテアブリヤノ

正統王チャルレスニ反シ羅馬法王ヲ寤メ且多ク寺院寺庵ヲ破毀セ
 リト諸裁判員ハ之ヲ見テ皆愕然トシテ口ヲ閉ヂケルガ良久シクシ
 テ其内ノスカイリヤノガイドト云フ者席ニ立テ憚ル色ナク大呼シ
 テ曰クコンラザンノアブリヤニ來ルヤ素ト人ノ國ヲ奪ハント欲セ
 シニアラズ又反テ謀リシニ非ズ唯ク其世襲ノ國ヲ復セント欲セシ
 ノミ且コンラザン戰場ニ於テ捕ハレシニアラズ遁逃シテ身ヲ潜メ
 遂ニ縛ニ就キシナリ然ルニ今之ニ刑ヲ加フルハ乃チ是神道ニ背キ
 人理ヲ破ルナリ宜シク肆赦スベシト衆皆之ヲ可トセンカトモ唯ク
 チャルレスノ大法官ロベルト、ダ、パリ之ヲ聽カズ強テ同僚ノ言ヲ
 駁シ遂ニ死刑狀ヲ製シテ之ヲコンラザンフレデリックニ與ヘタリ

此時二人獄中ニ在リテ正ニ碁ヲ圍ミシガ千二百六十八年十二月二十三日即チサルコソノ戦ノ後兩閏月ニシテ獄吏ニ引カレテナブルスノ傍ニ至リ將ニ架ニ登ラントセリ架地中海ニ臨ミ海水漾々トシテ明鏡ノ如ク盡ク陸上ノ萬象ヲ寫出シ恰モ故ヲニ囚人チシテ之ヲ見テ現世ノ榮光ヲ思想シ死ニ就クノ悲傷ヲ増サシムルモノ、如ク此ニ麿集セル人民其正統王ノ架ニ登ルヲ見テ驚愕呻吟シ佛蘭西人ト雖モ亦之ヲ悲マザルコト能ハザリキロベルトトド、バリハ判書チ取り進ミテ之ヲ讀マントセシニナヤルレスノ女婿フランドルスノロベルト之ヲ引テ地ニ倒シケレバロベルトハ失魄シ人ニ負ハレテ刑場チ出デケリナヤルレスハ宮窓ヨリ之ヲ望ミ佛蘭西人ノフラン

ドルスノロベルトノ所爲ヲ稱贊スル狀ヲ見テ且ハ怒リ且ハ長レシガ此後誰アリテ囚人チ救ヒ其刑チ免レシムル者モナカリシカバ劊手乃チ鉞チ取り刑ヲ行フノ休勢ヲナシ、ニ更ニ之ヲ妨クル者ナク唯、ナブルス人ノ哭聲ト佛蘭西人ノ怨嗟トサ聞キシノミ是ニ於テコソラザン回視シテ衆ニ謂テ曰ク我今我が裁判員チシテ明神ノ認廳ニ出テシメントス我血今此架ニ滴ルモ必ス將ニ旻天ニ號叫シテ此怨ヲ報イントス今スワビヤバヅリヤ兩國ノ人及ビ我日耳曼人ハ風チ破リ俗チ亂ルコト此ノ如シト雖モ我必ス之ヲ助ケ之ヲ正シ遂ニ之ヲシテ彼ノ佛賊ノ血ヲ取リテ此國辱チ雪メシメントス乃チ手甲ヲ脱シテ地ニ投ズ日耳曼ノ武士ワルトボルグノトラクセッス之

ヲ拾ヒテコンラザンノ義弟アラゴンノベートルニ贈レリコンラザン次ニ外套ヲ脱レ傍ニ在ル所ノ故舊ヲ抱キ語テ母ノ事ニ及ベリ語微ニシテ聞クベカラズ遂ニ首ヲ架上ニ置キシニ劊手鉞ヲ揮ヒテ之ヲ斫リ紅血四出シケレバフレデリックキハ之ヲ見テ聲ヲ發シテ哀號セリ口碑ニ據ルニ此時驚アリ飛テ刑場ニ下リ其右翼ヲ血中ニ浸シ再ビ飛テ天ニ上レリト是ニ於テフレデリックキ及ビ其他數人皆刑ニ伏シケレバ數万ノ觀者皆涕ヲ流シ聲ヲ吞ミテ之ヲ哀マザルハナカリキ

ナヤルレス斯ク敵ヲ滅シテアブリヤナ得ケルガ幾クモナクコンラザンノ冥報ヲ受ケ千二百八十二年三月三十日ノ夜(此夜ヲ「シ、リ

ヤンヴェスバルト名ツク)ウニープリンゲルノ殘黨シシリヤニ起リ盡ク島中ノ佛蘭西人ヲ殺シマンフレッドノ女コンスタスノ夫アラゴンノベートルヲ迎ヘテシ、リ王トナシタリナヤルレスハ力ヲ盡シテ之ヲ争ヒシカトモ遂ニ志ヲ達スルコト能ハズ此後頻ニコンラザンノ冤死ヲ追懷シ天意ノ如何ヲ思想シ居常ニ畏ル、所アルガ如ク千二百八十五年遂ニ快々トシテ世ヲ辭シケリ

日耳曼ハ建國ノ初ヨリ數百年間帝位ヲ世襲セシコトナク全國人民相會シテ其君ヲ選ビシガ爾來人口繁殖スルニ及テ會者數千万雜選誼諱シ善ク選擇ノ事ヲ行フコト能ハサリシカバ人民漸クソノ選君ノ權利ヲ棄テ之ヲ豪族ニ委テケリ但シ此後ト雖モ唯、大華族數人

ニテソノ立テント欲スル所ノ姓名ヲ掲ケ周ク人民ニ示シソノ可否
ヲ受シノミニテ未ダ選擇ノ權ヲ專ラニスルコトヲ得ザリシガ千二
百年代ニ至リ掲名ノ權變シテ選擇ノ權トナリ大華族乃チ選帝官ト
號シテ擅ニ帝王ヲ選ビ人民ハ毫モ此事ニ參與スルコトヲ得サルニ
至レリ

然レトモ選帝ノ權ノ斯ク華族ニ歸セシハ何レノ時ニアリシヤ茫乎
トシテ知ルベカラズ但シフレデリックノ代ノ記者ノ七選帝官ノ事
ヲ記セシテ觀レバ選帝官ノ始リシハ此代ニアラザレバ必ス此代ノ
前ナラン七選帝官ノ中僧官三名アリ曰クマエンス大僧正全國ノ大
法官長オウシキニシタリ曰クトレーヴス大僧正ボルゴンデーノ大法官オウシキニシタリ曰ク

コログチ大僧正伊太利ノ大法官タリ又俗官四名アリ曰クツイン侯
縫師頭タリ即位ノ時十字球帝璽ノ類ヲ捧ゲ宴會ノ時杯盤ヲ布置スルコ
トヲ司ル曰クボヘミヤ王造酒頭タリ帝ニ杯ヲ獻ズルコトヲ司ル曰
クサキス、ウイツタンボルグ侯廐部頭タリ帝劍ヲ捧ゲ廐事ヲ監スル
コトヲ司ル曰クブランデンボルグ侯掌室長タリ帝笏ヲ捧ケ官事ヲ
監シ宴會ノ終ニ帝ニ水ヲ獻スルコトヲ司レリ此七選帝官各其奉
スル所ノ職分ヲ名トシ毎ニ帝ヲ選ビエーズ、ラ、シヤベルニ於テ之
ヲ位ニ即ケンカトモソノ權唯、此事ニ止リテ全國議院ニ於テハ他
ノ華族僧正住持武士ハ論ヲ待タズ即チ平民ト雖モ亦或ハ之ニ臨ミ
投名ノ法ヲ以テ帝ヲ選ビシカバ七選帝官ハソノ威權ヲ專ラニスル

コトヲハ得ザリキ

古代諸華族ハ皆耶蘇名一個ヲ用キテ姓ヲ稱スルコトナカリシが大
小ノ諸侯皆其邑ヲ世襲スルニ及デ耶蘇名ノ外ニ更ニ姓ヲ加ヘタリ
其姓多クハ各人所有ノ城地ノ名ニ取レリサレバ古代ハ唯ハ疾フレ
ドリツキ又ハ疾ヘンリート耶蘇名ノミ稱シケルヲ邑地世襲ノ事行
ハルヽニ及テスクーンボルグノフレドリツキ又ハイーレンボルグ
ノヘンリート其邑名ヲ合セ稱シ邑名ヲ以テ姓トナシ子孫ニ至ルマ
デ皆之ヲ襲クコトトナリケリ

此頃豪家ノ子弟ハ皆武士ト稱シテ馬ニ乗り陣ニ臨ムコトヲ以テ榮
トナン武門ノ階級ヲ設ケ凡ソ武士ノ稱ヲ得ント欲スル者ハ初メ先

ツ武士ノ尾ビシ從トナリ次ニ牌手トナリ屢々戰場ニ於テ其勇氣膂力ヲ
示シ然ル後武士ノ表号トシテ金踵カネツボ針ハネヲ受ケテ其踵ニ附ケ且神ヲ呼
テ善ヲ助ケ惡ヲ挫ギ宗門ヲ護シ寡孤ヲ愛恤センコトヲ誓フ武士若
誓ヲ破レバ其金踵針ヲ剝ギ其馬尾ヲ斷テ其楯ノ裝飾ヲ剔去シ楯ヲ
瘦馬ノ尾ニ繫ギ泥中ヲ引キテ之ヲ辱メケリ武門ノ起リシニ由リテ
人ノ品行ヲ高クシ道德ノ士英邁ノ材ヲ養成セリト雖モ此ニ由リテ
惡弊ヲ生センコトモ亦少カラズ武士ノ中ニハ小弱ヲ愛恤スル誓ヲ
忘レ山城ニ據リテ無告ノ旅人ヲ捕ヘ其行李ヲ奪ヒ退テ城ニ歸リ賊
物ヲ集メ相語テ律法ノ畏ルヽニ足ラザルコトヲ嘲リ其勇ニ誇リシ
者モ少カラザリキ然ルニ此頃ハ政綱紊亂シテ斯ル無告ノ民ヲ救フ

者ナク唯々往々大諸侯ノ兵威ヲ以テ小諸侯ノ暴行ヲ停メシト諸府ノ社ヲ結ビテ武士ノ暴ヲ防キシトアルノミナリキ大諸侯ノ兵ヲ以テ小諸侯ノ暴行ヲ制セシヨリ「フオーースト、レクト」(討伐ノ權利)ト云フコト起リ暴行ヲ禁シ人民ノ疾苦ヲ救ヒ頗ル政令ノ欠ヲ補ヘリ古史ニ曰ク諸華族ノ貯ヘシ所ノ金銀モ亦少カラズト雖モ就中蓄キ者ハ其門閥ヲ表スルガ爲ニ排列セシ所ノ刀劍鎧甲軍笏ナリ又平民ト雖モ兵仗ヲ備ヘザル者ナク號令ヲ聞ケバ直ニ之ヲ執リテ軍ニ出デケリト

此時ニ當リテ全國ノ人民武ヲ講シテ自ラ其身ヲ衛ルコトヲ務メ陣ニ臨ミ功ヲ成スヲ以テ榮トナシケレバ僧徒ト雖モ亦屢々兵ヲ執リ

テ軍ニ出ダシ者アリマエンス大僧正クリスタンノ如キハフレデリック一世ノ兵ニ將トナリ伊太利ニ於テ大ニ功ヲ奏セシノミナラズ亦政務ニ參シ裨補スル所甚タ多カリキクリスタンハ日耳曼拉丁希臘佛蘭西ロンバルデーアラバシド七國ノ語ニ通ジソノ軍ニ出ルヤ健馬ニ騎リ馳驅縱橫頗ル武士ノ風アリ鎧甲ヲ穿テ青蓮色ノ外套ヲ被リ頭ニ金裝甲ヲ戴キ右手ニ軍笏ヲ執リ巧ニ笏ヲ揮ヒ僅ニ兩三戰シテ親ラ敵九人ヲ打テ殞セリ古史ニ日耳曼武技ノ盛ナルコトヲ記シテ曰ク日耳曼ノ子弟口未ダ言フコト能ハサルモ早く既ニ馬ニ乗ルコトヲ學ビ馬躍ルト雖モ曾テ顛墜セシコトナク恰モ岩石ノ確乎タルガ如ク兵器ヲ使フコトソノ手足ヲ使フガ如ク其馬ニ騎リ刀

鎗弓楯ヲ使用スルヲ觀ルニ妙神ニ入り人ヲシテ頗ル奇異ノ思ヲ做
サシメタリト當時日耳曼ニテ子弟ヲ教育スルニ專ラ武技ヲ以テセ
シコト此ヲ以テ見ルベキナリ

シヤルレマンノ後日耳曼諸帝ノ學事ヲ獎勵セシモノナカリシニフ
レデリツキ二世ニ至リテ大ニ意ヲ此ニ留メ稍々觀ルヘキ者アリシ
ガ尋テ空位ノ亂トナリ學事又地ニ墜チシカバ千三百四十九年迄ハ
諸學科ニ通ゼシ者唯々僧徒ノミニシテ一般人民ハ絶エテ之ニ達セ
シ者ナカリキ然レトモ日耳曼人ハ概チ才思ニ富ミ事ニ觸レテ感慨
スル所多ク且草昧多事ノ時ニ際シ十字軍ノ怪談異事アリ武門ノ勇
畧豪氣アリ寺院ノ盛禮壯觀アリテ興チ起シ感ヲ發シケレバ詩歌ノ

事大ニ興リ他ノ諸學ノ曠昧ノ比ニハアラザリキ

古代ヨリ日耳曼語ニ二種アリ曰ク「スワヒヤ」音即チ上日耳曼ノ土
音ナリ曰ク「サクソニー」音即チ下日耳曼ノ土音ナリ「リテルポー
セ」(詠武詩)ハ「スワヒヤ」音ニテ作レル者ニテ日耳曼南部ニ出テ
タリ「リテルポーセ」ノ行ハレシハ千百年代ヨリ千三百年代ノ始マ
デニシテホーヘンストーヘン朝トソノ終始ヲ同クセリホーヘン
ストーヘン一家ハ皆詩ヲ善クシ獨リ「スワヒヤ」音ニテ詠セシノミ
ナラズ亦伊太利語ヲ以テ詩ヲ賦シケレバ滿朝恰モ詩歌ノ學校ノ如
ク詠士吟客肩ヲ並ベテ此ニ集レリ「ミンチ、リーデル」(戀歌)ハ既ニ
ホーヘンストーヘン朝ノ前ニ行ハレシカトモ其音調未ダ全カラズ

該朝ニ至リテ始テ備レリ蓋シ戀歌ハ佛蘭西ノ「トロバドールス」及
 ビ「トローヴェールス」詩人ノノ詩風ニ取レル者多シ然レトモ日耳
 曼人ハ佛蘭西人ニ比スレバ心志專一固ク執リテ變セザル風多カリ
 ケレバ詩モ亦之ニ準シ日耳曼ノ戀歌ハ更ニ一機軸ヲ開キケリ戀歌
 者流ノ最モ絶倫ナル者ハオーノハルトマシイスケンバクノウオル
 フラムワルデルヴオン、デルヴオーゼルウニード、ヘーシリック、ヴオ
 ン、モーセン等ソノ他數人ナリヘーシリック、ヴオン、モーセンハ又フ
 ローエンロプト稱シマエンスノ僧官ナリ巧ミニ婦人ノ事ヲ詠シ毫
 モソノ名ニ背カザリシカバ其死セントキノーセンノ婦人ノ最モ美
 ナル者八人ソノ棺ヲ牽キテ墓ニ至リ酒ヲ墓上ニ注ギ之ニ繼グニ涙

ヲ以シケルトゾスリンヂヤ族ノ所有ワルトボルグ城ハルーサルノ
 錮セラレシ所ナルヲ以テ世ノ能ク知ル所ナリスリンヂヤ族ヘルマ
 ン屢、此ニ歌會ヲ開キ聞歌ヲ行ヒ日耳曼ノ詩人皆此ニ會シテヘー
 シリックモ亦屢、此ニ過リシトゾ

此時代ノ遺集ノ最モ秀絶ナル者ハ「ニーベランゲンリード」集ト
 「ヘルデンベク」集（武勇傳）トナリ「ニーベランゲンリード」ハアッ
 ナラ及ビセオドリックノ時ニ寓シテ作りタレトモ實ハ日耳曼ニ未
 ダ耶蘇教ノ行ハレザリシ時ヨリホーベンストーヘン朝マテノ雜詩
 ナ集メ記セル者ナリ此集ノ成リタルハ千百年代ノ終リニアリ然レ
 トモ集者ノ名今ニ傳ハラズ但日耳曼ノ詩ハ武士ノ風ニ由リテ起

レル者ナリケレバ封建割據ノ亂ヨリ後武士ノ風漸ク衰フルニ及ビテ詩風モ亦漸ク衰頽ニ屬シケリ

圖書ヲ善セシ者千百年代ニ在リテハバヴリヤノヘンリーヲ推シ千二百年代ニ在リテハムーレンベルグノヂャコブ、ケルチ推セリ千三百年代ニ至リテ初メテ玻璃ニ畫ク法ヲ知レリニーゼルランド及ビコログテハ日耳曼圖書ノ集窟タリ而シテコログテヲ以テ最トナス

建築ノ法ハ初メ耶蘇教ノ日耳曼ニ入リシトキ多クノ宣教師バイザンチン及ビ羅馬ヨリ來リ皆己ガ本國ノ寺院ノ風ニ依リテ寺院ヲ建築シ且オソ朝ノ代ニ屢、バイザンチン帝ト交通シケレバ益々此風ノ

ミ行ハレケルガホーヘンストーヘン朝(或ハソノ前)ニ至リテ建築ノ風又一變シ耶蘇宣教師ノ風漸ク廢止シ回教徒ノ用井タル樸素雅致ノ風盛ニ行ハレテ之ヲ俄狄風ト名ツケタリ蓋、俄狄ノ西班牙ニ在リシ者日々ニ亞刺比亞ノ回教徒ト交通シ多ク亞刺比亞ノ風俗ニ倣ヒ兼テ其建築法ヲ學ビ之ヲ歐洲諸國ニ傳ヘシニ由リテ斯クハ名ツケタルナリ俄狄風ハ元ト深ク神ヲ敬スル心ニ成リシカトモ亦稍々架空想像ノ致アリサレバ當時ノ工匠ソノ築ク所ノ神殿ニ於テ其信スル所ノ神怪ノ景象ヲ摸出セント欲シ神殿ハ至高明神ノ在マス所ナルヲ以テソノ屋宇ヲシテ高ク蒼穹ニ聳エシメ又信心ハ神慈ニ由リテ人ノ靈魂ニ萌芽スル者ナレバ其天ニ登ルヤ滾々トシテ晝夜

ヲ止メズ違シテ而シテ己ムヘキヲ以テ柱壁欄階ハ盡ク直立シ屋頭ニ尖塔ヲ設ケ全殿ノ形狀ヲシテ恰モ草木ノ人力ヲ借ラズシテ自然ニ地上ヨリ發出スルガ如クナラシメ十字ハ耶蘇教ノ基礎ナルヲ以テ基礎ヲシテ十字形ナラシメ又救世主ノ死ニ就クヤ東ヨリ來レルヲ以テ神壇ヲ屋ノ東隅ニ安置シ又三靈唯一ノ意ヲ寓シテ神壇ヲシテ神殿ヨリ高キユト三等ナラシメソノ他瑣末ノ部ト雖モ亦皆意ヲ神聖ニ寓シ譬ヘバ薔薇ト十字トヲ模セシハ薔薇ハ人生ヲ表シ十字ハ神道ニ比セシナリサレバ中古ハ薔薇ノ中央ニ十字ヲ立テ明神宇宙ヲ統括スルノ號トナセリ千二百年代迄ハ寺院各々壁工彫工築造工畫工等ヲ養ヒシガ此年代ニ當リテ諸工人相約シテ一社ヲ成シ社

員ヲ「フリーマソン」(自由壁工)ト名ツケソノ技術ヲ「ロヤル、クワフト」(御工)ト名ツケ社員皆誓ヲ取り暗號ヲ以テ相結ビ社員ニ非サレバ暗號ヲ知ラシメサリキ此社極メテ建築ニ巧ミナリシカバ當時神殿ヲ營マント欲スレバ必ス此社ヲシテソノ工事ヲ行ハレメダ

リ
ストラスゴルグノ本寺(僧正區ノ首寺)ハ千十五年ニ初メテ其工ヲ起シ千二百七十六年ニソノ塔ノ基礎ヲ置キ千四百三十九年ニ至リテコログ子ノザヨン、ヒュールズ其工ヲ竣ヘタリ此殿ハ一熊神水盤及ビ神刷毛(神水ヲ散灑スル具)ヲ執リ一狼十字ヲ執リ一兎神燭ヲ捧ゲ一豚一羊ト共ニ遺骸籠ヲ捧ケ一狐筐中ニ睡リ一猫背ニ經文ヲ

荷ヒ一驢之ヲ讀ムノ狀ヲ摸セリ又コログチノ本寺ハ千二百四十八年ニ工ヲ起シ千三百二十年ニ至リテ其讀經堂ヲ造リ爾來工ヲ廢セリ稗史ニ此寺ノ繪圖ハソノ築造工ノ己ガ靈魂ヲ賣リテ魔王ヨリ買ヒタル者トナシソノ中道ニシテ工ヲ廢セシ所以ヲ記シテ曰ク築造工中夜魔王ト府外ノ幽地ニ會シ右手ニ教ノ爲メニ命ヲ授ケタル處女一万人ノ遺骨筐ヲ執リ魔王ノ前ヲ遮リ左手ヲ伸ヘテ魔王ノ有セル寺院ノ繪圖ヲ奪ヒシニ魔王ハ大噓シテ之ヲ取り返サント欲シ工ハ筐ヲ以テ楯トナシ返サシト引キ合ヒシ間ニ繪圖忽チ兩斷シテ一片ハ魔王ニ屬シケレバ工ハ遂ニ全圖ヲ知ルコト能ハザリキト

第二十四篇

ハブスボルグノロトルフノ事

フレデリック二世死シ尋テ空位ノ世トナリ全國ノ諸侯專ラ蚌島ノ爭ヲ事トシ曾テ漁父ノ其後ヲ窺フノ畏アルコトヲ知ラズ此時若シ外敵ヲシテ之ニ乘センノバ刃ニ血ヲズシテ日耳曼全部ヲ并吞シ得ルヤ必セリ選帝官モ亦ソノ此ノ如クナルコトヲ察シコルンワルノロトルフノ死シテ後ハ暫ク國牘ノ爭ヲ止メ相謀リテアルホンソノ不肖ナルヲ以テ之ヲ立ルコトヲ停メ更ニ不世出ノ英主ヲ選バント欲センガフレデリックノ死シテ後ハ全國ノ權尽ク羅馬法王ニ歸シ細大ノ事皆ソノ決スル所ニアリシカハ選帝官乃チ法王ニ謀リ其人ヲ求メシニ今位ヲ嗣ガン者ハ勇武ニシテ親ラ兵馬ヲ掌リボヘミヤ

ノ英主オットカールノ侵掠ヲ禦キ又明智ニシテ全國人民ノ望ヲ得封
建ノ黨與ヲ助ケ且法王ノ命ヲ遵奉シ細大ノ事皆華族法王ノ決スル
所ニ從フベキ人ニアラザルヲ得ザリシカバ其人ヲ得ルコト甚ダ難
ク久シク日ヲ費シケルガ後遂ニ他ニ比類ナキ英主一人ヲ得タリ
此人ヲバプスボルク侯ロドルフト云ヘリ嚮ニオットカールニ從ヒテ
匈牙利ニ戰ヒ功アリテ武士ノ爵ヲ受ケ又日耳曼華族ノ爲ニ兵ニ將
トシテストラスボルク及ヒバールヲ伐テ又ストラスボルグ人ノ爲
ニ該府僧正ノ罪ヲ問ヒ後又己ガ私怨ニ由リテセントゴールノ住持
ト兵ヲ搆ヘソノ人ノ爲ニスルト己ノ爲ニスルトヲ問ハズ每戰智勇
ヲ顯ハサハルコトナク且常ニ僧徒ヲ敬ス嘗テ出テ獵セシトキ一比

丘ノ將ニ溪間ノ急流ヲ徒涉セントスルヲ見テソノ危キヲ慮リ己ガ
乗ル所ノ馬ヲ進メケルニ比丘ハ聖餐ヲ携ヘテ死者ノ所ニ行ク者ヲ
リシガ大ニ喜ビ之ニ騎リ水ヲ踰エ既ニ死者ノ所ニ趣キテソノ禮ヲ
終ヘ歸リテロドルフノ所ニ至リソノ馬ヲ返サントセシニロドルフ
ハ之ヲ辭シテ曰ク凡ソ臣ガ身體生命官爵土地ハ臣自ラ之ヲ得ルニ
非ズ皆明神ノ資ナリ臣今明神ノ業ヲタテ馬ニ乘ラバ明神之ヲ何ト
カ謂ハン臣敢テ之ヲ行フコト能ハズト又嘗テマエンスノ大僧正ヲ
護シ危ヲ冒シ難キ恐ヒ亞爾伯山ヲ踰エテ伊太利ニ至レリロドルフ
ハ唯ク戰陣ニ名ヲ得シ耳ナラス亦大ニ僧徒ノ望ヲ恃シコト此ノ如
ナリシカバ千二百七十三年十月二十一日遂ニエーズラ、シヤベル

ニ於テ衆ニ選ハレテ位ニ即キタリ古史ニ曰ク此時即位ノ禮ニ陪セシ者武士凡ソ二万人百姓ハ其數ヲ知ラザリシト擱キニフレテリツキ二世死シテ諸侯相攻メシ時日耳曼ノ帝璽ヲ失ヒソノ在ル所ヲ知ル者ナカリシニロドルフハ之ヲ幸トシ乃チ神壇ノ十字ヲ取り前ニ帝璽ニ由リテ誓ヲ爲シ、ニ代ヘ之ニ由リテ誓ヲ爲レテ曰ク十字ハ救世ノ表ナリ宜シク帝璽ニ代フベシト是ニ於テコログチノ大僧正ロドルフヲ法王グレゴリー十世ニ薦メテ曰クロドルフ克ク耶蘇ノ明教ヲ奉シ克ク寺院ノ友朋トナリ正ヲ助ケ邪ヲ防キ獨リ其率并ル所ノ兵強盛ナルノミナラズソノ相結ブ所ノ諸侯モ亦皆強大ナラザルハナシトグレゴリーハ速ニ之ヲ聽キ乃チ身親テルーサンチニ來

リロドルフヲ見シニロドルフハ法王ノ足下ニ平伏シ細大唯ク法王ノ命ニ是從ハント誓ヘリ後ロドルフ己カ斯克法王ヲ推尊セシ所以ヲ説テ曰ク余人ノ獅子穴ニ行クヲ見ルニ未ダ嘗テ生テ歸ル者アラズ今余我が職ヲ辱メテ羅馬ノ獅子ト戰ハシハ之ニ事フルノ智ナルニ若カシト擱キニロドルフノ擇バレシヤ必ズ兵ヲボヘミヤニ出レオットカルノ不敬ヲ懲サント約セシカバ千二百七十六年遂ニ兵ヲ率并テボヘミヤヲ伐チシニオットカルハ故アリテ事ノ危キヲ圖リ之ト兵ヲ接セズ壞地利スタイリヤカリンシヤカルニヨラテ割キテロドルフニ獻シ己ハ臣屬ノ禮ヲ行ヒ唯クボヘミヤモラヴィヤヲ受ケンコトヲ乞ヒケレバロドルフハ速ニ之ヲ聽シタリオットカル乃

ナ多ク行伍ヲ率ヰテグニユーア河ノ一島ロイボーニ至リロドルフ
 ニ謁シケルニロドルフハ古キ鼠色ノ背心衣ヲ着ケ同色ノ股衣ヲ穿
 テ幕中ニ於テ之ニ接シオットカルノ方サニ跪キテ臣屬ノ禮ヲ行ヒ
 シ時ニ命レテ幕ヲ去ラシメタリオットカル是ニ於テ大ニ怒リ且其
 妻ノ爲ニ勵サレ再ビ兵ニ起レテロドルフニ抗レヴィーノ側ニ於
 テ之ト戰ヒ衆寡相敵セザリシカトモ縱横戰鬪レテ未ダソノ敗兆ヲ
 見サリレカ嘗テソノ殘殺セレ諸侯ノ子二人忽チ反レテ之ヲ弑シ父
 ノ讎ヲ報イダリ是ニ於テ日耳曼外敵ノ患ナク國家閑暇ニ属シケレ
 バロドルフハ專ラ意ヲ内政ニ留メ全國ニ巡行シテ冤ヲ雪メ害ヲ除
 キ漸ク諸侯ノ暴ヲ禁ジソノ魁首二十九人ヲ捕ヘイルフルトニ於テ

絞刑ニ處スリンデヤ一州ニ於テ城ヲ毀テレコト凡ソ六十六ソノ
 他ハ推シテ知ルベキナリサレバ全國ノ人民皆之ヲ贊稱セサル者ナ
 カリシニロドルフ又拉丁語ヲ以テ政令ヲ行フコトヲ廢レ毎ニ日耳
 曼語ヲ用ヰシカバ人民益々ソノ仁恤ノ心ヲ感シケル千二百九十
 一年七月十五日ロドルフニ死ス百姓考妣ニ喪スルガ如ク皆聲ヲ放テ
 之ヲ哀マザルハナカリキサレバ日耳曼人今ニ至リテ尙カソノ徳ヲ
 思ヒソノ戰功ヲ歌ヒソノ明治ヲ談シ之ヲ欽羨セサルハナシ當時ノ
 史ニ曰クロドルフノ兵ヲ用ヰルヤ當時之ニ比スベキナク其訟ヲ聽
 クヤ古今之ニ及ブ者ナシト

日耳曼華族ノ事

日耳曼華族ノ中ニ其祖先ノ自立セシ所ノ地ヲ有テ世襲スルコト數千年ニシテ末ダ曾テ地ヲ他人ニ受ケザル者アリ皆ソノ門閥ニ誇リ常ニ公侯僧正市府ヲ敵視シ國帝ニアラザルヨリハ奉シテ君トナサズ其強大ナル者ハ動モスレハ王侯トソノ力ヲ競ヒ且近時ノ動亂ニ乘シテ漸クソノ勢威ヲ増スハブスボルグルキセンボルグウルテンボルグホーヘンゾルレンナソー及ビ其他諸所ノ華族ノ如キハ初メハ唯々一城ヲ有セルノミナリシガ漸クソノ境ヲ拓キ皆天下ニ横行シテ之ヲ能ク制スル者ナキニ至レリ但シ其小弱ナル者ハ或ハ強大ナル者ノ爲メニ滅サレ或ハ迫脅セラレテソノ臣屬トナリ或ハ又市

府ノ社ヲ結ヒ暴ヲ防グニ倣ヒ連合シ強大ナル者ノ掠奪ヲ防キケリ此自立華族ノ生計ヲ營ミシ方法頗ル稗史ノ説ク處ニ類セリ各華族皆奴ヲ養ヒ之ヲシテ田ヲ耕シ器ヲ製センメソノ産スル所若シ家族及ビ兵士ヲ養フニ足ラザレバ乃チ兵ヲ率ヰテ或ハ富寺ヲ掠メ或ハ往來ノ商客ヲ捕ヘテソノ行李ヲ奪ヒ殘暴至ラザル所ナカリシカバ國帝ノ兵ヲ發シテ之ヲ征レ市府ノ社ヲ結ビ兵ヲ起シテ之ヲ懲シソノ城ヲ破リソノ人ヲ捕ヘ之ヲ刑ニ處セシコト數之有リキ自立華族ノ中小弱ナル者ハ數人相結ヒ共ニ費ヲ出シテ一城ヲ築キソノ子孫ヲシテ世々之ヲ共有セシメタリスワビヤノ一城ニハ五族混居セシ者アリテ五族ノ子弟約百人ニ下ラザリシトゾ城居ノ華族

皆豪氣アリ(シツキンセン人グルマクス人ノ史ヲ觀ルニ)此風子孫ニ傳ハリ宗門改革ノ際ニ至ルマデ猶ソノ存スル者アリキ又「ミンチ、サンゲル」(戀歌者流)ノ歌ニ城居華族ノ懷ヲ述ベ華族ノ王公ト均シク門閥ノ家ニ生レナガラソノ權威ノ之ニ若カサルコトヲ慨セル者アリ今チケル河畔ニ古城四アリ往昔華族ラントスカデンヴオン、チカル、ステーナク之チ有シソノ部下ト共ニ行旅ヲ掠メ因リテ流刑ニ處セラレシガ形ヲ變ヒ黑甲ヲ着ケ面甲ヲ被リ十字軍ニ從ヒテ大ニ功アリシカバ帝ハ之ヲ賞セント欲シ華族武士ノ群集セル所ニ召シテソノ面甲ヲ脱セシメシニコハイカニ嘗テ流ニ處セシ大盜ラントスカデンニテゾアリケル古史ニ曰クバイブライベルスベル

グヌーンセンスターノ一ノ諸華族多クノ華族武士ヲ集メ各々身ヲ酒樽ノ中ニ入レシメ之ヲ搬運シテブルーケノ一ノ小府ニ送り多ク貨財ヲ掠メシガ貨財ヲ包束スルニ多ク時ヲ移シ遂ニ府民ノ爲ニ襲ハレ悉ク貨財ヲ棄テ府外ニ逃レケリト又クレンキンセンノ一華族ハコンフタンスノ側テンセンニ於テブレドリツキ、バロバロツダチ見シトキ傲然椅ニ凭リテ敢テ起タザリキ蓋シコレハ故ヲニ帝ヲ辱メシニ非ズ中心ヨリ己ガ有スル所ノ地ハ日輪ノ與フル所ニシテ帝ノ與リ知ル所ニ非ズト信シケレハナリ今ライン河畔ビンセンヨリボンヌニ至ル迄城墟ノ存スル者猶布クガ如シ皆往昔殘暴華族ノ巢窟ニシテ近地人民ノソノ害ヲ受ケシコト少カラザリキ

自立華族ノ中又武社ニ入りテソノ獨立ノ勢ヲ全ウシ王侯ト權ヲ爭ヒシ者アリ武社ノ最モ日耳曼風ヲ帶ビタル者ハ「テウトン」社ナリ「テウトン」社ハ後移リテ普魯士ニ居リシニ由リテ漸ク日耳曼ノ形勢ニ關セズ遂ニ胡越ノ情ヲ成スニ至レリ日耳曼華族ノ新ニ此社ニ入りン者ハ常ニ絶ユルコトナカリキ

華族ノ中又王公僧徒若クハ強大華族等ノ臣屬トナリテソノ朝ニ奉事シソノ邑ヲ受ケシ者アリ邑多クハ其官ニ屬シ官ヲ失ヘバ邑モ亦保ツコトヲ得ザリキ蓋シ小弱華族強大ノ間ニ挾マレ自ラソノ山城ヲ保ツコト能ハズ又武社ニ入ルコトヲ欲セザル者ハ斯ク王侯ノ爪牙トナルニ非ザレバ其志ヲ達シソノ身ヲ保ツコトヲ得ザリシナリ

第二十五篇

ナソーノアドルフスノ事 墾地利ノアルベルトノ事

ロドルフ帝ノ長子ヲスワビヤノロドルフト云フ早ク死セリ一子アリデユント云ヘリ然レトモ位ヲ嗣クベキ權利ナカリシカバ選帝官ハ商議ヲ待タズ速ニ他人ヲ選ビテ帝トナサント決シタリ然レトモ選帝官ノ風猶陋劣ヲ極メソノ一人マエンスノ大僧正ゼラルドハ當時ノ史ニソノ兇惡無耻魔王モ猶之ヲ欽慕セリト云ヘル程ナリシガ乃チ多ク金ヲ同僚ニ散シソノ從弟ナソーノアドルフスヲ選ハシメ之ヲ奇貨トシテ己ガ勢利ノ心ヲ逞クセント謀レリアドルフスハ善ク兵ヲ用非當時之ニ若クモノナシ然レトモ性酷虐當時未開ノ世ト

雖モ猶ソノ稔惡ヲ用ヰルニ所ナク且飲食度ナク身体肥大手足頑臈
 ニシテ揮フベカラズ嘗テ英吉利王イヅワルト一世ヨリ鉅萬ノ金ヲ
 受ケテ之ガ爲ニ佛蘭西ヲ攻メシケルガ既ニ金ヲ收ムル
 ヤ乃チソノ約ヲ破リ此金ヲ以テアルベルト、ゼ、デゼチレートニ與
 ヘソノ有スル所ノフリンデヤメーセン二州ヲ受ケテソノ世邑ヲ増
 シケリアルベルトモ亦性殘忍フレデリック二世ノ女マルカレツト
 ヲ娶リ之ヲ憎ムコト甚シク毎ニ殘酷ナ以テ之ヲ處シ遂ニソノ所生
 ノ諸子ニ近ツクコトヲ禁ゼシニマルガレツトハ別ニ臨ミテ痛クソ
 ノ長子ノ頬ヲ噬ミ之ヲシテ創痕ニ由リテソノ殘父ニ怨ヲ報クルコ
 トヲ忘レザラシメ後幾クモナクフランクホルトニ於テ死セシカハ

諸子ハ殘父ノ所ヲ逃レソノ難ヲ避ケシカトモ襲ヒ捕ハレテ獄ニ錮
 セツレ食ヲ得ルコト能ハズ既ニ餓死ニ濱セシガ近臣之ヲ哀ミ竊ニ
 飯ヲ贈リテ之ヲ援ヒ後遂ニ之ヲシテ獄ヨリ出ルコトヲ得シメタリ
 諸子ハ年猶幼シト雖モ性勇武ナリシカバ直ニ兵ヲ擧ケ日耳曼王
 アドルフストソノ父アルベルトノ罪ヲ問ハントセシニ日耳曼人民
 ハ既ニアドルフスノ苛政ニ苦ミ且ソノ兵ノ兇暴ヲ患ヒシカバ皆擬
 テ執リテ諸子ノ軍ニシテ從ヒケルアドルフスノ兵二婦人ヲ捕ヘソノ
 全身ニ澀青ヲ塗リ羽毛ヲソノ上ニ粘ケ怪鳥ノ雌雄ナリトテ之ヲ陣
 門ニ曝セシカバホーヘンスターン侯之ヲ暴トナシアドルフスヲ讓
 メシニアドルフスハ大ニ怒リ侯ヲ引アソノ前ヲ退カシメタリミユ

ールホーセンニ於テハ人民厚クアトルフスノ兵ヲ勞ヒシニ兵士ハ
 之ヲ憐トセズ殘暴常ニ異ナルコトナカリシカバ人民大ニ怒リ相集
 リテ之ヲ府外ニ逐ヘリアドルフスフレーホルグヲ圍ムコト周年地
 俄ニ沈ミ兵士多ク陥リテ死シケレバ時人之テコラー其臣屬ト共ニ
 死セシニ比シケリ然レトモアドルフスノ兵遂ニアルベルトノ諸子
 ノ兵ヲ破リシカバ諸子ハ之ヲ支フルコト能ハズ遂ニ其國ヲ去リタ
 リマエンスノ大僧正ゼラルドハ初メアドルフスヲ奇貸トシテ之ヲ
 選ビンガ是ニ於テソノ制スベカラザルコトヲ知りテ之ヲ傾ケン
 ト欲シ再ビ金ヲ散シテ選帝官ニ賄ヒマエンスノ議院ニ於テ墾地利侯
 アルベルトヲ選バシメシカバアドルフスハ戰ニ勝タレドモ遂ニ其

枕ヲ高クスルコトヲ得ザリキ墾地利侯アルベルトハ匈牙利王ト相
 結ビ先ツソノ根據ヲ固クシ佛蘭西王ヨリ鉅万ノ金ヲ受ケ之カ爲ニ
 英吉利王及ビ日耳曼王ヲ伐タント約シ乃チ大兵ヲ率ヰテアドルフ
 ストウォルムスニ戰ヒ佯リ敗レテ走リシニアドルフスハ騎兵ヲ驅
 リテ之ヲ追ヒ步兵ヲ離レテ遠ク進ミシカバ墾地利侯乃チ令テ發シ
 テ兵ヲ返シ敵ノ馬ヲ狙撃シ騎者ヲ地ニ倒シ、ニ騎者皆重甲ヲ着ケ
 身體自由ナラズ斬ラル、者ソノ數ヲ知ラズアドルフスモ亦創ヲ蒙
 リ大事既ニ去ルコトヲ知り乃チ敵中ニ入テ縱橫馳突シアルベルト
 フ求メテ之ヲ撃タント欲シケルニアルベルトハリチモンドノボス
 ウオルスノ戰ニ用非タル方畧ニ倣ヒ多ク僞兵ヲ設ケテ皆己ト同シ

扮装ヲ爲サシメ敵ヲシテ容易ク己ヲ辨セシメス因リテ僞兵ノ死セ
 ル者ハ多カリシカトモ己ハ遂ニ一創ダモ受ケザリシカバアドルフ
 スモ今ハ爲ン方ナク日暮ニ至リ遂ニ自ヲ刎テ死セリ或ハ曰クソ
 ノ從者ニ命シテ斬ラシメタリト是ニ於テ壤地利候アルベルトハ遂
 ニソノ志ヲ成シ獨リ日耳曼全國ニ王トナリシガ亦酷虐ニシテ遠慮
 ナク顔色極メテ醜シ嘗テ毒ニ中リ醫ヲシテ治セシメシニ醫倒ニア
 ルベルトヲ隣ケテソノ一目ヲ抉出シ僅カニ毒ヲ去ルコトヲ得シガ
 此ニ由リテ顔色益々醜惡トナリ絶エテ華族ノ尊容ヲ見ザリキアル
 ベルトハ素佛蘭西王ノ專制ヲ喜ビ常ニ之ヲ以テ日耳曼ヲ治メント
 欲シソノ位ニ即クヤ專ラ諸僧正及ビ諸市府ノ世襲ノ權利ヲ奪ヒ且

宮中常ニ華族百人ヲ置キテ近衛トナシ因リテ華族ヲシテ漸ク王室
 ニ依從セシメント謀レリアルベルト和蘭ヲ徇ヘントシテ佛蘭西ノ
 爲メニ妨ゲラレソノ事ヲ成スコト能ハズ又ホヘミヤボルゴンデー
 ヲ併セントシテ事遂ニ成ラズ後マエンスノ大僧正ゼラルドノ已ラ
 嘲リテ我一たび喇叭ヲ吹カバ陛下ヲ廢シテ更ニ帝ヲ立ルコト猶掌
 テ反スガ如シト云ヒシヲ怒リゼラルド及ヒライン侯ロドルフヲ傾
 ケント欲シテ兵ヲ起シ、ニ此頃ロドルフハライン河ニ關ヲ設ケ往
 來ノ商船ヲ査シ之ニ重稅ヲ課シテ己ガ領地ノ商賈ヲ苦メシカバ市
 府之ヲ怨ミ皆アルベルトノ軍ニゾ從ヒケル英吉利ノ史家ロドルフ
 ノ稅關ヲ評シテ日耳曼人ノ一大失策ト稱セリ是ニ於テゼラルドハ

大ニ畏レ法王ニ訟テソノ援ヲ得ント欲シケレトモ法王ハ之ヲ聽カサリキ此頃又スリンヂヤノフレデリックキハ頗ニ齒恨ヲ存シ再ビ日耳曼ニ歸リテソノ姪妹イリサベスヲ愛シ之ヲ引アラルトボルグ城ニ入りシニアルベルト兵ヲ率テスリンヂヤヲ畧セシカバフレデリックキハワルトボルクニ留ルコトヲ得ズ初生ノ孩兒ヲ携ヘテ之ヲ去リシガ路上孩兒ノ泣クヲ聞キ令ヲ發シテ兵ヲ止メ力ヲ奮ヒテ敵ヲ遮リ乳母ノ孩兒ヲ慰撫センヲ待テ乃チ進ミタリ後フレデリックキ再ビアルベルトノ兵ト戦ヒテ皆之ヲ破リ千三百七年遂ニソノ國ヲ復シケリ今ワルドボルグニフレデリックキノ着セシ鎧アリ極メテ重大ナリ

日耳曼國ハ斯ク内亂頻リニ起リシニ此頃又ウリスクウィットオンテルワルデンノ三郡反キシカバアルベルトハ大ニ怒リ汝蠻民敢テ赫々タル王命ニ背ク我誓テ汝ヲ孥戮セントテ兵備ヲ爲シケルガ忽チ不意ノ禍ニ罹リテソノ事ヲ遂クルコト能ハザリキ其禍ヲ得シ所以ハ如何ト云フニアルベルトノ亡弟ロドルフノ子ニボヘミヤノゼヨント云フ者アリ屢、伯父ニ己カ家ノ舊地ヲ返サンコトヲ乞ヒケルニアルベルトハ常ニ之ヲ嘲リ辱メ遂ニ花環ヲ以テゼヨソノ頭ニ加ヘ汝年猶幼シ此環ヲ以テ冠トナサバ足ルナリ何ゾ舊地ヲ求ルコトヲ用非ンヤト云フニ至レリゼヨソハ初ヨリ此時マデハ恥ヲ忍ビ怒ヲ包ミ常ニ温容ヲ以テアルベルトニ接セシカトモ是ニ至リテ忽チ

忿戾傲狼ノ色ヲ顯ハシ猶怒ヲ遣ルニ所ナク嘗テ近衛華族ノ王ヲ怨
 ミシコトヲ知りシカバ乃チ之ニ己ガ意ヲ語リケルニ近衛華族ハ前
 キニ記セシ如クアルベルトノ苛虐ヲ以テ束縛セル所ナリシカバ其
 内五人慨然トシテ誓テ怨ヲ報イデヨシノ舊地ヲ復シ己等モ亦羈軛
 ナ脱セントテ共ニソノ機ヲ窺ヒケル千三百八年五月一日アルベ
 ルトハ從者數人ト共ニ馬ニ騎リテハブスボルグノ側ナルレーン
 ヘルテンニ趣カントスナヨシ及ビ反者五人モ之ニ從ヘリ未ダレウ
 ス河ノ谷ニ下ラズ前路既ニ渡頭ヲ見風景佳絶ナリアルベルトハ馬
 チ駐メテ之ヲ賞シ更ニ疑ヘル色ナカリシカバデヨシガ怨ノ深キモ
 之ヲ見テ殆ド怨ヲ報ユルコトヲ忘ントセシガアルベルトハ死神ニ

蠱セラレシニヤ復大ニデヨシヲ辱メシカバデヨシハ多年涙ヲ吞ミ
 怒ヲ忍ヒシカトモ今ハ争デカ堪フベケン遂ニ進ミテ渡頭ニ至リシ
 ニ渡船狭少ニシテ尽ク行伍ヲ載スルコトヲ得ザリシカハデヨシハ
 五人ノ反者ト急ニ馳テ先ツ船ニ達シアルベルト及ビ扈從一人ト共
 ニ馬ヨリ下リテ之ニ乘リ水ヲ渡リ再ビ馬ニ上リ急ニ馳テ一小蹊ニ
 達シタリ此地灌木繁茂シケレハ顯ミテ渡頭ニ止リ船ヲ待ツ所ノ從
 者ヲ見ズデヨシハ是天ノ與フル所ナリト思ヒ乃チ伯父ノ誓ヲ執リ
 大喝シテ曰ク汝猶我が亡父ノ色ヲ返スコトヲ拒ムヤトアルベルト
 ハ愕然措ク所ヲ知ワザリシガ速ニ精神ヲ收メ甘言ヲ以テ姪ヲ慰メ
 ントセシカトモ反者ノ意皆之ヲ殺スニ決シワルドノロドルフハデ

ヨシノ猶豫スルヲ見テ卿何ゾ長ク腐肉ヲシテ馬上ニ在ラシムルヤト叫ビ七首ヲ取りテアルベルトヲ刺シ他ノ反者一人又刀ヲ以テソノ頭頂ヲ斫リタリ是ニ於テ反者ハ逃レ從者モ走リシカバ止リシ者ハ死ニ濱セルアルベルト一人ノミナリシニ會農婦アリテ此所ヲ過ギアルベルトノ頭ヲ己ガ帽上ニ載セ血ヲ止メントセシカトモ創深クシテ救フベカラズ久カラズシテアルベルトハ遂ニ世ヲ辭シケリ斯テ此事速ニ全國ニ聞エシニ朝野皆反者ヲ憎マザルハナクウリスクウイズ諸郡ノ如キモ亦之ヲ憎ミ反者ヲ拒ミテ郡内ニ潛匿セシメズアルベルトノ妃イリサベス及ビ女アグテスハ怒ニ堪ヘズ反者ノ親戚タル者ハ罪ノ有無ヲ論セズ皆處スルニ苛刑ヲ以テシ之ヲ殺

シハコト大約千人ニ至リテ纔ニ怒ヲ鎮ムルコトヲ得タリアグテスハ性酷虐比ナク無罪ノ華族六十三人ヲ屠ルヲ見テ呼テ曰ク今我五月ノ露ニ浴スル思ヲ爲セリトワルドノロトルフノ妻ゼルトルーヤハアグテスノ足下ニ涕泣シテソノ夫ヲ宥ンコトヲ乞ヒシカトモ聽カレズゼヨンハ伊太利ニ走リシガ懺悔シテ法王ノ足下ニ至リ哀ヲ乞ヒケレハ法王ハ日耳曼帝ヘンリー七世ノ意ニ從ヒゼヨンヲビサノ「オーガステン」寺庵ニ入レ終身桑門ノ刑ニ處シケリワルドノロドルフハ車上碎裂ノ刑ニ定リシニロドルフ初メハアルベルトヲ刺シ、事ニ與ラズト偽ハリシカトモアルベルトノ近臣親ク之ヲ目撃セシ者ソノ偽ヲ證セシカバロドルフモ之ヲ拒ムニ辭ナク口ヲ閉

デケレバ乃チ車上ニ於テソノ手足ヲ碎裂シ手足ヲ路側ニ立テタル
 竿頭ノ一車ニ移シ竿下ニ手足無キロドルフノ體ヲ置キ長ク苦ミテ
 死セシメシニソノ妻ゼルトルードハ日夜夫ノ側ヲ離レズ海綿ヲ濕
 シテ夫ノ熱唇ヲ冷シ看護ヲ尽シ大ニソノ苦痛ヲ減シケリイリサベ
 スハアグチスト共ニ帝ノ死所ニ於テ「クニガスヘルト」寺庵ヲ起シ
 アグチスハ遂ニ比丘尼トナリテ此ニ住シ常ニ行人ヲ延キテ寺庵ニ
 入ラシメレニ一桑門アリアグチスヲ見テ悚然トシテ君ハ無罪ノ血
 ヲ流スヲ以テ大ニ事フルトナシ人ノ膏血ヲ絞リ寺庵ヲ起スヲ以テ
 神ニ事フルトナスカト嘆ゼシトゾ

附錄第二十五篇

スウイツルランド同盟ノ事 ウイリヤム、テルノ事

千三百年代ノ初ニ當リテスウイツルランド諸郡ノ内若干ハハブス
 ボルグ侯ニ屬シ若干ハ日耳曼帝ニ屬ス帝ニ屬スル者ノ内ニウリス
 クウイズオンタルワルデント云ヘル三郡アリ帝アルベルト此三郡
 ヲ己ガ本有壤地利侯國ニ合セント欲シテ三郡ノ民之ヲ願ハザリシ
 ニ壤地利ヨリ遣シタルウリノ知事ガスレル數之ヲ辱メシカバ三
 郡ノ人民慚恚ニ堪ヘズ遂ニ公然叛テ謀レリ

スウイツルランドノ古史ニ曰クガスレルウリスクウイズ二郡ヲ治
 メウリノ人民ヲ壓制セント欲シ郡内ニ一城ヲ築キテズウイング、ウ
 リ(鎮ウリ)ト名ツケシニ人民大ニ怒リ所在黨ヲ結ビテ既ニ反形ヲ

顯ハシケレバゲスレルハ醜奴何事ヲカ爲シ得ントテ更ニ人民ヲ懾
 伏セシメント欲シ千三百七年セント、デヨン祭ノ前夜アルトルフノ
 開市場ニ於テ一幅ヲ長年ノ頭ニ掛ケタリ府民ノ早起シテ此ニ至ル
 者之ヲ見テ皆ソノ意ノ在ル所ヲ知ラズ相集リテ之ヲ評シケルニ忽
 テ布令使アリ馳テ衆中ニ來リ大聲ヲ以テ令シテ曰ク此幅ハ是レ日
 耳曼皇帝陛下ノ代負ナリ凡ソウリスクウイズ二郡ノ民タル者ハ宜
 シク之ヲ敬シ之ヲ拜シ親ク龍顏ヲ拜スルガ如クスベシ若シ令ヲ用
 弁ザル者アラバソノ財産什器ヲ收メ其手足ヲ斬リ其生命ヲ絶タン
 ト此頃又ゲスレル馬ヲ郊外ニ驅リ新家ヲ見テソノ主人ウエル子ル、
 スト―ナクニ新家ハ誰ニ屬スルト問フウエル子ルハ禍ヲ畏レ辭ヲ

飾リテ此家ハ是帝ト閣下トニ屬シ臣ハ之ヲ帝ト閣下トニ受ケタル
 ナリト答ヘシニゲスレルハ我ハ農夫ノ告ゲズレテ新家ヲ作り自
 ラソノ主長ノ狀ヲナス者ヲ憎ムトテ痛ク之ヲ罵リタリウエル子ル
 ハ知慧アリテ機ヲ見ルニ敏ナリシカバ直ニ之ヲソノ婦ニ語りシニ
 婦ハ速ニ不平ノ黨ト謀リ專制ノ鞴軛ヲ破リ國民ヲシテ塗炭ノ苦ヲ
 免レシムベシト勸メシカバウエル子ルハ大ニ之ヲ然リトシウリノ
 人ワルテル、フルストノ名望ヲ開キウリニ往テ之ヲ見共ニ志ヲ談シ
 遂ニワルタル、フルストニ因リテソノ友メルクサル（即チオンデル、
 ワルテン）ノ暴吏ヲ逐ハント約シ毎ニルセルン湖畔ノ草地ニ會シ
 テ共ニ約ヲ踐マント誓ヒケリ

ウリノ農夫ウイルリヤム、タルハ方正ニシテ氣力アリ亦此會ニ與レ
 リ此年十一月十八日ウイルリヤム、タルアルトルフニ至リ帽下チ
 過クルコト數回遂ニ之ヲ禮セザリシニ忽チ之ヲダスレルニ報ゼシ
 者アリ乃チ使ヲアルガ許ニ遣シテソノ帽ヲ禮セザリシ所以ヲ糾シ
 シニテル答テ曰ク野民蒙昧閣下ノ令ヲ知ラズ遂ニ此不敬ヲ致セリ
 臣若シ賢ナラバ臣自ラ名ツクルニテル(教ヲ請フ)ヲ以セザルナリ
 唯、閣下ノ之ヲ察センコトヲトテ爾ヲ用井ルニ長シテ名ヲ得タ
 リダスレル因リテソノ不敬ヲ罰セントテソノ子ノ頭上ニ梨實ヲ
 置キタルヲシテ弩ヲ以テ之ヲ射セシメケレバタルハ臣寧_レ死セン
 耳ト云ヒシニダスレル汝死ヲ欲セバ則チ死スベシ汝若シ我が命ヲ

拒マバ汝豈獨リ死スルコトヲ得ンヤ汝ガ兒モ亦死セザルコトヲ得
 ズトテ更ニ許スベクモ見エザリシカバタルモ免ル、コト能ハズト
 知り乃チ弩ヲ執リテ將ニ梨實ヲ射ントス兒齡僅ニ六歲兩手ヲ以テ
 梨ヲソノ頭上ニ支フタル乃チ弩ヲ發セシニ箭鳴飛シテ正ニ頭上ノ
 梨ヲ貫キ毫モ兒ヲ傷ケザリケレバ觀ル者皆喝采セサルハ無クダス
 レルト雖モ覺エス譽賞シケルカ既ニシテ之ニ謂テ曰ク汝梨ヲ射ル
 一矢ニシテ足レリ汝猶一矢ヲ餘スハ何故ゾト此時タル若シ二矢ヲ
 備フルハ弓手ノ禮ナリト答ヘタラバダスレルモ肯フベカリシニテ
 ル稍、色ヲ變ジケレバダスレルハ益、訝リ強テソノ所以ヲ問ヒソノ
 事若シ大道ニ涉ルトモ決シテ死ニ致サシト約シケレバタル曰ク然

ラバ實ヲ告ゲン臣若シ一矢見ヲ殺サバ一矢乃チ關下ヲ射ント欲セ
 シナリトゲスレル色ヲ變シテ曰ク我汝ニ約スルニ汝ヲ殺サ、ルコ
 トヲ以テセリ我敢テ約ヲ破ラズ然レトモ汝我ヲ敵視スルコト此ノ
 如シ我今汝ヲ日月ノ照サ、ル所ニ送ラントスト乃チ命シテアルヲ
 縛シ小船ニ載セ自ラ之ヲ護シ纜ヲ解キクスナクト城ニ向ヒテ進ミ
 シニ暴風俄ニ起リ舟師モ船ヲ行ルコト能ハズ船中アルノ舵ニ巧ミ
 ナルコトヲ知ル者アリゲスレルニ勸メテアルニ命シ舵ヲ取ラ
 シメケレバアルハ舵ヲ取り恙ナク濱ニ近ツキシガ俄ニ弩ヲ執リ躍
 リテ平礁上ニ達シゲスレル及ビソノ從者ヲ船中ニ殲シ足ヲ以テ船
 ナ蹴再ビ水中ニ漂ハシメ乃チ走リテクスナクトヨリアルトニ達ス

ル官道ニ至リ木窟中ニ潜リタリ今アルノ登リタル平礁ヲウイリ
 ヤム礁ト名ツク斯テゲスレルハ久シク水中ニ漂ヒ辛ウシテアル
 チニ於テ陸ニ上ルコトヲ得乃チアルヲ索メシニアルハ窟中ヨリ
 ゲスレルノ來ルヲ窺ヒ弩ヲ發シテソノ腦ヲ貫キ遂ニ之ヲ殲シケリ
 スクウイズノ壯士等暴吏ノ死ヲ聞キ直ニ兵ヲ舉テサルチンロツペ
 ルグノ兩城ヲ拔キケリ

壯士ノ中一少年アリロツベルグ城中ノ婢ト通ゼリ婢當ニ中夜窓ヨ
 リ繩ヲ下シ情郎ヲシテ之ニ縋シテ入ラシメシガ此夜婢例ノ如ク繩
 ヲ下シテ情郎ヲ迎ヘシニ壯士二十人繩ヲ執リテ窓ニ入り刃ニ血ヲ
 ズシテ遂ニ城ヲ拔クコトヲ得タリ

翌朝(千三百八年一月一日)壯士二十人各七首ヲ懷ニシテサルテレニ至リ知事ニ謁シ新年ヲ賀シ祝物ヲ獻ズト偽リ尽ク城ニ入ルヤ乃チ兵器ヲ現ハシ門ヲ開テソノ黨ノ城側榛林中ニ隠レタル者三十人ヲ入レシカバ守兵ハ毫モ之ニ抗セズ皆先チ爭ヒテ走レリ斯テ此事ウリニ聞エシカバソノ人民モ亦ズウイングウリノ新城ヲ毀テ尽ク墮地利ノ兵ヲ逐ヒテ境ヲ出ラシメタリ一月六日ブルンチンニ於テスウイツルランド同盟ノ約ヲ定メ各郡皆力ヲ戮セテ同盟ノ自由ヲ保護シ兼テ日耳曼帝ニ忠事セント約シタリ爾來五百年此同盟依然トシテ猶存ス但、弊テ改メ利ニ就キシハ則チ往々之アリ

第二十六篇

ヘンリー七世ノ事

アルベルト一世ノ死既ニ世ニ聞エシカバ佛蘭西王ヒリツプ四世(ラベルト稱ス)ハソノ弟チャルレスト立テ日耳曼帝トナサント欲セシガ選帝官ハ之ヲ名ナシトシテ斷然之ヲ拒ミタリ然レトモ選帝官ハ既ニアルベルトノ驕暴ニ懲リ大國ノ諸侯ヲシテ帝位ニ即カシメバ必ス人ヲ凌キ法ヲ犯シ遂ニ制スヘカラサルニ至ント度リシカハハプスゴルク家ノ公子ヲ立ツルコトヲ願ハス更ニ小國ノ諸侯ノ既ニ軍陣ニ功名アル者ヲ得テ之ヲ立テント欲セシカ又羅馬法王ノ甘心ヲ得サレハ事遂ニ成ラサランコトヲ察シ相議シテ俗選帝官ハ此選ニ與ラス專ラ僧選帝官ノ推ス所ノ者ヲ位ニ即ケント約シケリ

此時トレーヴス府ハソノ隣國ルキセンボルク侯ヘンリート交テ通シ緩急相援フノ約ヲ成シタリ但シ亂世ニ在リテハ隣國相援フノ約ヲ成スコト通例ナリキルキセンボルク侯ハ深山密林ノ中ニ城ヲ築キテ之ニ居リ世多ク之ヲ知ル者ナカリシカ侯家ノ祖先ニ就テ頗ル怪談アリシカハ近國ノ人ハ皆此城ヲ知ラサルハナカリキ稗史ニ曰ク侯家ノ祖妻ヲ娶リシニ頗ル艶麗ニシテ又多ク子ヲ生ミ夫妻殊ニ和諧セリ但シ夫人初メヨリ侯ニ乞ヒテ七日コトニ一回私室ニ入り人ヲ見サルコトヲ約シタリ事甚タ怪ムヘント雖モ侯ハ數年ノ間ソノ疑ヲ抑ヘテ之ヲ問ハサリシカ一日夫人ノ私室ニ入りシ時密ニ之ヲ窺ヒシニ夫人ハ即チニキシースト云ヘル水魔ニシテ七日ニ一回

必スソノ眞形魚身トナラサルコトヲ得サル者ナリキト日耳曼ノ史ニ屢々此雜種夫婦ノ子孫ノソノ隣國アラバントト兵ヲ構ヒシコトヲ載セタリ今此篇ニ記ス所ノ年代ニ當リタルキセンボルク侯ヘンリーハトレーヴス府ト盟ヲ結ヒテアラバント侯ヲ攻メ父ノ代ニ侵サレタル地ヲ復セント謀リケリ此時ヘンリーノ弟バルドウィンハトレーヴスノ大僧正タリソノ前侍醫ベートル、エークスバルタルハマエンスノ大僧正タリサレハ僧徒ノ選帝官ノ中二人ハヘンリーヲ推シ之ニ抗セシ者ハ唯、コログチノ大僧正一人ナリシカハ俗選帝官ハ約チ踐ミヘンリーヲ推シテ位ニ即カシメタリ
古來日耳曼選帝官ノ選ヒシ所ノ帝多シト雖モソノ選テ得タルコト

未タ嘗テヘンリー七世ノ如キハアラサリキヘンリー位ニ即クヤ乃
 テシヤルレマンフレデリックキバルバロツサフレデリック二世ヲ以
 テソノ標準トナシ諸先帝ノ貪婪ヲ惡ミ絶エテ己カ所有ヲ増スコト
 ナ願ハス專ラ全國ヲ統一シ國力ヲ強盛ニスルコトヲ期シタリ然レ
 トモ亦能ク帝室ノ微弱ニシテ諸侯ノ驕傲私ヲ營ムヲ制止シ難キコ
 トヲ知り以爲ク今急ニ諸侯ヲ征シテ多クカヲ費サンヨリハ先ツ兵
 テ伊太利ニ出シ之ヲ助ケテ佛蘭西人ノ侵地ヲ復シ聲名ヲ外國ニ得
 然ル後兵ヲ轉シテ日耳曼ニ歸リカヲ揮ヒテ全國ヲ糾シ合セ之ヲシ
 デポーヘンストーヘン朝ノ時ノ如クナラシメンニ若スト此時伊太
 利人久シク佛蘭西ノ政ヲ厭ヒ之ニ加フルニ法王ハヒリッブ
 王佛ノ庇

廢ヲ以テアヴキグノンニ居リシカトモ亦ソノ手中ノ傀儡タルコト
 ヲ欲セサリシカハヘンリー若シ直ニ伊太利ニ入ラハソノ功ヲ成サ
 シコト必然ナリシカトモ他ニ事故アリテ直ニ伊太利ニ趣クコトヲ
 得サリキソノ事故トハ一ニハ初メボヘミヤ國先帝アルベルトノ意
 ニ背キカリンサノヘンリーヲ立テ王トナシケルカ此頃ヘンリー七
 世ノ子デモンボヘミヤノ故正統王ノ妹イリサベスタ娶リシニ由リ
 ボヘミヤノ人民皆力ヲ合セテ篡奪王ヘンリー及ヒソノ黨與ノカリ
 シシヤ人ヲ逐ヒ出シカハヘンリー七世乃チボヘミヤヲ并セシコ
 ト是ナリ二ニハ先帝ヲ弑セシ者ヲ流刑ニ處シ先帝ノ二子フレデリ
 ッキレオポルトト同盟ノ約ヲ結ビシコト是ナリ三ニハウリスクウ

キスオンデルワルデンノ三郡ヲシテ墾地利ノ鞫軛ヲ脱シテ往時ノ如クナラシメシコト是ナリヘンリーハ斯ク目前ノ急務ヲ處置シ畢リ千三百十年亞爾伯山ヲ踰エテ伊太利ニ入リシニウエルブヴィンダル黨皆熾衆シテ之ヲ迎ヘフローレンスノ詩人ダンテモ亦旗下ニ來リ(ダンテハヘンリーヲ詠スル詩ヲ賦シテ世ニ行ハル)皆速ニ南行センコトヲ勸メシカトモヘンリー聽カス久シク北部ニ留リロンバルデーノ諸府ヲ徇ヘ千三百十一年冬營ヲ占メント欲シ始メテゼノアニ至ルソノ妃マルガレットハ此地ニ死セリヘンリーゼノアニ在リテ方ニ食セシニ「オーガスタン」寺庵ノ桑門ノ來リテソノ足下ニ平伏シ罪ヲ宥メンコトヲ乞ヘル者アリ之ヲ視ルニ乃チ先帝ヲ弑セ

レボヘミヤノザロシナリシカハヘンリー大ニ之ヲ罵リ遂ニソノ所ヲ去ラシメケリ或ハ曰クザロシノヘンリーニ哀ヲ乞ヒシ地ハバヴィヤナリト此説信ナルニ近シ

此時ナブレス王ロベルトハヘンリーノ遷延シテ進マサルヲ幸トシ大兵ヲ羅馬ニ遣シテヘンリーヲ防カシメシニヘンリーハ之ヲ聞キ二千ノ小兵ヲ以テ南進シテ羅馬ニ至リ「カピトル」ヲ攻メテ之ヲ取ラント欲シ多ク兵士ヲ失ヒ功ヲ成スコト能ハサリシカハ武士ノ中或ハ之ヲ哀ム者アリシニヘンリー大ニ罵リテ曰ク懦夫速ニ歸リテ汝ノ母ノ所ニ至ルベシト乃チ兵ヲ轉シテ「セント・ベートル」寺院ヲ襲ヒ前敗ヲ償ハント欲セシカトモ軍再ヒ敗レシカハ己ムコトヲ得

ス「セント・ゼボン」ヲテラシ「寺院」ニ於テ帝冠ヲ受ケシニ敵兵之ヲ圍ミヘンリーノ神壇ノ前ニ跪坐セルニ當リテ矢降ルコト兩ノ如クナリキサレハヘンリーモ羅馬ヲ退クノ外他ニ良策ナキ勢ナリシカ更ニ屈撓セル色ナク兵ヲシヽリ「ゼノア」日耳曼ノ諸所ニ募リ又先帝ノ女ハブスボルグノカザリント婚ヲ約シ長子デ「エン」ヲ遣シテ之ヲ迎へ且兵ヲ募ラシメテソノ歸リ來ルヲ待チシカ一日聖餐ヲ食スルニ當リテ「桑門」毒ヲ餐中ニ和シテ之ヲ進ムヘンリー「既ニ食テソノ毒アルコトヲ知り桑門ヲ顧ミテ呼テ曰ク汝我ヲ殺ス然レトモ我汝ヲ宥メン疾ク去レ近臣ノ爲ニ捕ハルヽコト勿レト遂ニブオンコンウエントニ於テ死セリ實ニ千三百十三年八月二十四日ナリキ世

ニ傳フヘンリー「毒」ニ中レリト雖モ若シ通常治毒ノ方法ヲ以テ之ヲ療セハ死ヲ免ルヘキコト明カナリシニヘンリー「法教」ニ惑溺シテ聖餐ヲ嘔クニ忍ビス遂ニ死セリト此時新妃カザリシハ方ニビーザニ來リシカ僅ニソノ夫ノ遺體ヲ收ムルコトヲ得タリ後カザリシハ要セラレテナアルス王ノ子デ「エン」ニ嫁シケルカ快々トシテ樂マス未ダ幾年ナラスシテ亦世ヲ辭シケリ

附錄 第二十六篇

ヘンリー七世ノ即位

ヘンリー七世ハライン河ノ左岸ブローバクノ傍ナルレーンズノ「クニグススタル」(王位)ト名ツケタル小院ニ於テ日耳曼王ノ位ニ

即キシカ爾來此院ニ於テ屢、日耳曼王ノ廢立ノ事ヲ行ヘリ蓋シ此地ハマエンスコログチトレーヴスノ三大僧正及ヒライン侯ノ領地ニ接近セルニ由リテ之ヲ選ヒシナラン此院ノ屋八角ニシテ穹窿ノ形ヲナシ圓柱ヲ以テ之ヲ支ヘ中央ニ帝ノ石椅ヲ安置シ四側ニ七選帝官ノ石椅ヲ布列ス千八百七十年此院ヲ毀テ千八百四十三年再ヒ舊規ニ依リテ之ヲ造リケリ

第二十七篇

ルーイス、パヴリヤン、フレデリック、フェヤル共ニ帝位ニ
 登ル事

ヘンリー七世ノ死セルヤウエルフ黨ハルーイス、パヴリヤンヲ推

シウエルプリンゲル黨ハ塙地利侯フレデリック(フレデリックキ容貌麗ハシキニ因リテフェーヤルト號セリ麗ノ義ナリ)ヲ選ビテ之ヲ立テント欲シ久シク争ヒテ決セス千三百二十二年ニ至リテフレデリックハルーイスノ黨トサルズボルグノ側ムールドルフニ於テ對陣シ巴カ弟レオポルドノ兵ヲ率井テ來リ援フヲ待タズ卒然兵ヲ進メテ敵軍ヲ衝キシニ此日兩軍皆鹿ヲ得ルト得サルトハ戰ノ利ト不利トニ在リト知りケレバ一步モ退カシト奮闘レケルガ日暮ニ臨ミテ一軍ノ急ニ戰場ニ向ヒテ來ルアリフレデリックハ之ヲ見テレオポルドノ兵ナリト思ヒ拿破崙ノワーテルローノ戰ニ於ケルカ如ク敵兵ヲ誤リ認メテ味方ト做シ更ニ備ヲナサス漸ク近ツクニ及テ

初メテソノ然ヲサルコトヲ悟リシカトモ事既ニ遅ク敵兵四面ヨリ襲ヒ撃チテフレデリックノ兵ヲ斬ルコト恰モ草ヲ薙ルカ如ク壤地利華族ノ勇武ナル者殆ト此戦ニ殲キ甚シキハ一族ニシテ二十三人死セシ者アルニ至リフレデリックキモ亦敵ノ爲ニ捕ハレタリ斯ク突然フレデリックノ軍ヲ衝キ遂ニ天下ノ事ヲ定メタル者ハ誰ソト云フニヌーレンベルグ人セーフリード、スクウエツベルマント云フ者ニテソノ陣頭ニハブスボルグノ旗章ヲ立テフレデリックヲ欺キ遂ニ之ヲ破リシナリ此日ルーイスハ戰場ニ出テザリシガ當日ノ勝利ハ全クスクウエツベルマンノ雄畧ニ由レリト認メシカバ戦已ミテ將校ニ鶏卵(此日糧食ニ乏ク唯、鶏卵アリシノミ)ヲ分ツニ當リテ

特ニ二卵ヲ執リテ之ヲスクウエツベルマンニ與ヘテ曰ク我諸將ニ與フルニ各、一卵ヲ以テス卿ノ功アルヲ以テ獨リ二卵ヲ與フト後スクウエツベルマンノ死スルヤ此語ヲ以テソノ墓石ニ銘シ爾來ソノ子孫卵ヲ以テ徽號トナシケルトゾ

是ニ於テルーイスハフレデリックキヲ見嘲リテ曰ク我大ニ汝ノ來ルヲ喜フト乃チ之ヲトロースニツツニ送リテ獄ニ繫キタリルーイスハ斯ク全勝ヲ得シカドモ猶ソノ枕ヲ高クスルコト能ハス翌年羅馬法王命ヲ傳ヘテルーイスヲアヴグーンニ召セシニルーイス行カサリシカバ法王乃チ令ヲ發シテ日耳曼全國ノ宗門ヲ禁ゼシニ佛蘭西王ハカヲ盡シテ法王ヲ助ケタリ然レトモ「フランシスカン」社ノ

僧徒ハ多クルーイスヲ助ケ或ハ民間ニ游説シ或ハ文章ヲ作爲シテ
 法王ノ無狀ヲ論シ禁宗ノ令ヲ意トナサズ國中神事ヲ行フコト常ノ
 如クナリキ是ニ於テルーイスハフレデリックヲ獄中ニ間ヒソノ幼
 時ノ友義ヲ述ベ共ニ日耳曼ニ生レテ共ニ國家ヲ安ゼズンハアルベ
 カラザルコトヲ語り自今以後共ニ蚌鷓ノ争チ巳メ帝權ヲ兩分シテ
 各々ソノ一チ有テ共ニ羅馬帝ノ尊號ヲ稱セント云ヒシニフレデリ
 ヲキハ性魯鈍ナレモ心固ヨリ善良ナリシカバ大ニルーイスノ言ヲ
 然リトシ相約シテ兩帝各々印璽一個ヲ製シ毎印兩帝ノ名ヲ刻ミ毎
 日印璽ヲ交換シテ互ニ威權ヲ平均セント定メタリルーイスハ既ニ
 此約ヲ結ビ千三百二十七年伊太利ニ入りミランニ於テロンバルデ

一王ノ鐵冠ヲ受ケナブルス王ノ罪ヲ鳴ラシテ國敵トナシ法王ヲ廢
 シ更ニ「フランシスカン」社ノ僧ヲ立テニコラス五世ト名ツケ羅馬
 ニ於テ此法王ヨリ帝冠ヲ受ケタリ千三百三十年フレデリック死シ
 ルーイス獨リ日耳曼王トナリ千三百三十八年ライン河畔レーンズ
 ニ於テ議院ヲ開ケリ選帝官議ヲ決シテ曰ク日耳曼帝ノ至尊天下之
 ニ加フルコトナシ自今以後帝ヲ選ブハ日耳曼諸侯ノ特權トナシ他
 人ノ叻喙ヲ容ルヽコトヲ許サズト乃チフランクホルト及ビソノ他
 諸所ノ僧徒ノルーイスヲ奉戴セザル者ヲ罰シ盡クソノ官職ヲ奪ヒ
 シニ「フランシスカン」社ハ中道ニシタルルーイスノ爲ニ踈マレシガ
 是ニ於テソノ恨ヲ忘レルルーイスノ即位ノ始ノ如ク或ハ書ニ著シ或

ハ游説シテ專ラルーイスノ威權ヲ助ケタリ

ルーイスハ斯ク人民ノ助ヲ得シカトモ猶足レリトナサズ頻リニ非
理ヲ行ヒ英吉利王イドワルド第三世ト謀リ佛蘭西ヲ襲ハント約シ
後故ナクシテ約ニ背キ己カ國敵ナル佛蘭西ト和シ子ルーイスサシ
テ兵ヲ率ヰテ英吉利ヲ伐タシメ又ソノ妻マルガレットノ和蘭侯ウ
キルリヤムノ妹ナル故ヲ以テ和蘭ヲ收メテ己ガ家ノ領地ニ加ヘ後
子ノ爲ニマルガレットトワイドマオスト云フ女ヲ娶リテタイロルヲ
得亦己カ私有トナシタリサレハ全國皆ルーイスノ所爲ヲ惡ミ選帝
官ニ説キ之ヲ廢シテボヘミヤ王ノ子チャルレスヲ立テシメタリ此
時ルーイスハ年既ニ老イケルカ後幾クモナク野猪ヲ獵セシ際卒ニ

死セリ時人或ハチャルレスノ毒殺ニ係ルカト疑ヘリ

附錄第二十七篇

「フランシスカン」社ノ事 ルーイス帝宗門ヲ禁セラレ
ル事

「フランシスカン」社ハ多ク碩學ノ人ヲ出シソノ最モ著レタル者ハ
ボナヴェンチヌラローセル、パコンダンス、スコタス等ニシテダン
ス、コタスハ聖女マリー耶穌母ハ純全無瑕ノ性ヲ受ケテ生レタリト云
フ説ヲ主張シ「ドミンカン社」ノ徒ヲ駁シケリスコタスノ黨ヲ「ス
コナス」ト名ツケソノ論敵ヲ「トーミスト」ト稱セリ「トーミスト」
ハソノ開祖トーマス、エカイナスニ取レルナリ後「フランシスカン」

社分レテ數派トナリソノ最モ著レタル者ヲ「カブナン」派ト名ツケ
 千五百二十八年バツシノマツソー之ヲ起セリ此派自ヲ云フ今「フ
 ランシスカン」社ノ眞面目ヲ存スル者ハ獨リ我カ派ノミト

日耳曼帝ノ禁宗ノ罰ヲ受ケタル者ルーイスヲ以テ最後トナスソノ
 禁宗ノ文ニ曰ク明神ノルーイスヲ取りテソノ怨人ニ投與センコト
 ナ願フルーイスノ不虞ノ奸計ニ陥ランコトヲ願フ明神ノルーイス
 ナシテ狂ナラシメ愚ナラシメテ遂ニ亡滅セシメンコトヲ願フ夫ノ
 電光ヲ以テ之ヲ挫カンコトヲ願フ今世又來世明神及ヒ明神ノ祐ヲ
 受ケタルベートルポールノ之ヲ惡ムノ烈ナルコト猛火ノ如クナラ
 ンコトヲ願フ凡ソ地上ニ視息スル者ノ皆兵ヲ擧テ之ヲ伐ダンコト

ナ願フ大洋ノ之ヲ吞マンコトヲ願フ人ノ速ニルーイスノ名ヲ忘レ
 ソノ事ヲ記セサランコトヲ願フ四元素ノ之ヲ打破センコトヲ願フ
 ソノ家ヲシテ荒蕪ナランメソノ兒ヲシテ盡クソノ家ヲ出テシメ父
 前ニ於テ敵ノ爲ニ殺サレンコトヲ願フト

第二十八篇

ナヤルレス四世ノ事

佛蘭西王ロリツブハ羅馬法王ト相謀リナヤルレスヲ以テ日耳曼帝
 トナシ日耳曼ノ事ヲ專ニセント欲セシカハ英吉利王イドワルド三
 世ハ之ヲ沮ントテ兵ヲ佛蘭西ニ出シケルニフランデルス諸府亦皆
 ソノ領主ヲ要シテ種々ノ特權ヲ強奪シゲントノ造酒者ヂエームス

ズン、アルテウユルデヲ以テソノ將トナシイドワルドヲ助ケテ兵ヲ
 佛蘭西ニ出セリテシャルレス四世ハヒリツプ及ヒ法王ノ力ニ由リテ
 立ツコトヲ得タレハ速ニ兵ヲ率テ佛蘭西ヲ助ケンカクレセーノ
 戦ニ（或史ニ據ルニ衆ニ先テ遁逃シ毫モ武將ノ風ヲ見サリシニ
 ソノ父ボヘミヤ王デモンハ年既ニ老イ且瞽ナリシカトモ二卒ナシ
 テソノ馬ヲ牽カシメ敵中ニ驅入り全身創ヲ被リ力盡キテ斃レタリ
 此戦ニイドワルド、ブラックブリンス、英吉利太子デモンノ楯ヲ得シニ
 ソノ銘ニ曰ク「イキデーシ」（報國）ト爾來ウニールス侯英太子皆此
 銘ヲ用井タリ但シシャルレスハ事遂ニ成スヘカラス死ストモ益ナ
 キコトヲ知リ斯クハ走リシナラン

人心ノ異ナル各、ソノ面ノ如シト雖モシャルレスノ心トルーイス
 ノ心ノ異ナルカ如キ者ハ未曾テアラサリキシャルレスハ位ニ即ク
 ヤ專ラソノ私有ヲ増スコトヲ以テ急トナシ頻ニ拙陋ノ策ヲ施シテ
 更ニ耻ル所ヲ知ラス之ニ加フルニ法王ノ力ニ由リテ位ニ即キシカ
 ハ人民率子之ヲ奉スルコトヲ欲セス選帝官モ多クハ帝位ヲ英吉利
 王ニ與ヘント欲センカトモ英吉利ノ議院之ヲ拒ミ王ヲシテ之ヲ受
 ケシメサリシカハ選帝官乃テスリンザヤノ戦ニ名ヲ得タル勇將ス
 クワルズボルグ侯ガンサルヲ選ヒ又波蘭人ニ説キ之ヲシタルキセ
 ンボルグ家ト舊怨ヲ解キテ該家ノ黨ヲ助ケシメシャルレスヲ傾ケ
 ント謀リシカハシャルレスハ英吉利王ト結ビテ其援ヲ得又ガンザ

ルノ侍醫ニ賄ヒテソノ主ヲ毒セシメント謀リケリ
 此迄日耳曼諸帝ハ只管正計ヲ用ヰテ皆公然法王ニ叛キケレハ法王
 モ亦常ニ之ヲ怒リ遂ニ日耳曼帝ニ背キテ佛蘭西王ニ合シケルカナ
 ヲルレスニ至リテハ專ラ奇計ヲ用ヰテ遂ニ羅佛ノ合縱ヲ破リケリ
 ナナルレスハ幼キ時久シク佛蘭西王ノ爲ニ養ハレ後又アヴヰグノ
 シニ於テ法王ニ事ヘ審ニ佛王ト法王トノ交際ノ情况ヲ察シ法王痛
 ク佛王ノ抑制ヲ厭ヒ常ニ之ヲ排却セント欲スレトモ亦ホーヘンス
 トーヘン朝ノ世々法王ヲ虐待セシコトヲ追懷シ今佛ニ背キ日ニ就
 クトモ唯、是暴ヲ去リテ暴ニ就クノミト思ヒテ敢テセサリシコト
 ヲ洞知シケレハ羅佛ノ約ヲ破ルハ正計ニ在ラステ奇計ニ在リト

思ヒ乃チ亞爾伯山ヲ踰エテ直ニ羅馬ニ至リ帝冠ヲ受ケテレーンズ
 ニ於テ選帝官ノ日耳曼帝ヲ選フハソノ特權ニシテ法王ノ之ニ與カ
 ルコトヲ許サレル決議ニハ已レ毫モ關セサル意ヲ示シ且羅馬ニ入
 ルヤ帝王ノ儀衛ヲ以テセス庶人ノ行裝ヲ以テシ即位ノ禮ヲ終フル
 ヤ直ニ府ヲ去リテソノ法王ヲ敬禮スルノ意ヲ表シケリ且此時羅馬
 人民ハ法王ノアヴヰグノンニ在ルヲ時トシ皆兵ヲ舉テソノ華族ニ
 叛キ共和政府ヲ起シコーワ、デリー、ンザヲ以テソノ頭領トナシ、
 カリー、ンデハチナルレスノ來ルヤ必ス古羅馬帝國ヲ復シ法王及ヒ
 華族ノ暴横ヲ停ムルナラント想ヒ速ニソノ所ニ至リテ之ニ謁シケ
 ルニチナルレスハ之ヲ好機會トシ直ニ捕ヘテ法王ニ送リ己カ無貳

ノ心ヲ表レケリ又有名ノ詩人ベトワークハダントノヘンリー七世ニ於ケルカ如クチャルレスノ來ルヤ伊太利人民ヲ塗炭ノ中ニ拯フ爲ナラント想ヒ之ニ書ヲ贈リテ己カ志ヲ述ヘケルニチャルレスハ賜ニ敬禮ヲ以テ之ニ答ヘ陰ニハソノ閑憂ヲ嘲リケリ

斯アチャルレハ毫モ日耳曼ノ威ヲ伊太利ニ播クコトヲ務メス伊太利諸侯ニ許シテ皆金ヲ出シテ臣屬ノ羈軛ヲ免レ獨立シテ各君權ヲ專ニスルコトヲ得シメシカハソノ羅馬ヲ出ツルヤ府民皆之ヲ嘲リ罵ラサルハナカリシカトモチャルレスハ心竊ニ己カ奇計ニ由リテ諸侯ノ鬪牘ヲ媒シ法王ノ羽翼ヲ殺キ且大ニ己カ金囊ヲ滿タシハコトヲ悦ヒ更ニ府民ノ嘲ヲ以テ意トナサス千三百六十七年ニ至リ

アソノ志ヲ達シ法王オルバン二世ヲ勸メテ都ヲ遷サシメ己ハ帝服ヲ着ケ法王ノ乘リタル驢馬ノ轡ヲ執リテ羅馬ニ入り益々羅馬ノ合縱ヲソ破リケル但シ後一年ニシテオルバンハ羅馬ヲ去リアソノ生國ニ歸リシカトモ次ノ法王グレゴリー十一世オルバンノ業ヲ繼キテ再ヒ都ヲ羅馬ニ遷シケレハグレゴリーノ死後ハ兩法王アリテ一ハ羅馬ニ居リ一ハアヴグノンニ居リ寺院ノ威權統一セス日耳曼帝永ク漁父ノ利ヲ專ニスルコトヲ得タリ

是ニ於テチャルレスハ金詔ト名ツケタル令ヲ發シテ選帝官ヲ七員ト確定セリ此令ハ世ノ能ク知ル所ニシテ千三百五十六年ヌーレンボルクノ議院ニ於テ之ヲ草シ同年耶蘇ノ生日ニ之ヲ發シタリソノ

金ヲ以テ名ツケシハ詔令ノ印章ヲ金鈕中ニ藏メシ故ナリ詔令凡ソ三十章アリ選帝ノ法及ヒ即位ノ禮ヲ明記シボヘミヤ王ノ權限并ニ華族ト市府ノ間ノ權限ヲ確定シ稅法ヲ掲載セリ爾來日耳曼國分裂ノ日マテハ此詔令ヲ以テソノ國法ノ基址トナシケリマエンスコログテトレーヴスノ三大僧正ノ選帝官タルコト舊ノ如シ俗選帝官ノ中ボヘミヤハチヤルレスノ世襲ノ所有ニシテブランデンボルグモ亦チヤルレスニ屬セントスル勢ナリシカハ二國ノ威權ハ強盛ナリシカトモサキセ、ウキツタンボルグ及ビライン侯國ハ各、孤立シテ振ハサリケレハチヤルレス金詔ニ明記シテ曰ク選帝官ハ各、獨立シテソノ領地ノ君主トナリ領地ノ人民ハ其裁判ヲ以テ最上トナシ他

ニ控訴スルコトヲ許サスト因リテ選帝官ノ權ヲ專ラ巳カ家ニ歸シ且巳カ領地ニ他人ノ喙ヲ容ルヽコトヲ防キタリ是ニ於テサキセ、ウキツタンボルグ侯ライン侯ハ選帝官ノ員ニ備ハルト雖モ尸位ニシテ更ニ威權ヲカリキサレハ世人チヤルレス四世ヲ目シテ日耳曼ノ養父ボヘミヤノ實父ト稱スルニ至レリ

チヤルレス身材矮小ナリシカトモ骨格頗ル強健顚骨突出シ毛髮粗ニシテ黒ク一見ンテソノボヘミヤ種屬タルコトヲ知レリ蓋シソノ父ニ似スシテソノ母ニ似タレハナリ幼キトキ佛蘭西王ノ爲ニ養ハレ諸良師ノ訓導ヲ受ケ數國ノ言語ニ通シ凡ソ才藝ニ於テ當時ノ王公殆ト之ニ比スヘキ者ナク千三百四十八年ソノ家有ナルボヘミヤ

王國ノ國法ヲ制シテ大ニ人民ニ自由ヲ與ヘタリ又親ラ工事ヲ監シテプレーグノ美府ヲ建テ多ク造家工彫刻工畫工等ヲ此府ニ集メソノ文飾ヲ壯麗ニセリ又カルス、パット（「ナヤルレス」泉）ニ於テ温泉ヲ發見シ己カ名ニ取りテ之ニ名ツケタリ又シレンカニ於テ製造ノ事ヲ起サント欲シ當時世界ニ冠タルフランドルスノ織工ヲ招キテ此地ニ移住セシメタリ又巴勒ノ大學校ニ法トリプレーグニ於テ大學校ヲ起セリ是日耳曼大學校ノ權輿ナリ是ニ於テバプスボルグ人及ビライン侯モ亦ナヤルレスニ倣ヒヴキーナ及ヒヘーデルボルグニ於テ各、一大學校ヲ起セリ諸僧官モ亦之ニ倣ヒコログテイルフルトウールズボルグニ於テ各、一大學校ヲ設ケタリ

ナヤルレスハ專ラカチボヘミヤニ盡シ大ニ之ヲ振興セシメシカトモ日耳曼全國ハ政令弛慢強盜公行セリナヤルレスモ之ヲ憂ヒ少ク勳討ニ從事セシカ未ダソノ功ヲ成サズ遂ニ諸市府ヲシテ互ニ同盟ノ約ヲ爲シテ自ラ盜賊ヲ防カシメタリ

諸市府中等ノ人民ハ一般ニ自立ノ氣象ヲ發シ暇々トシテ日ノ昇ルカ如ク皆兵ヲ執リテ諸侯ノ兇暴ヲ防キ僧官ト雖モ亦或ハ之カ凌辱ヲ免ル、コト能ハサリキ法王オルバン五世異端檢査官デモン、スカドランドヲヒルデセームニ遣ハシテソノ僧正ト爲シタリデモン、スカドランドハ性極メテ苛酷ソノ未タ日耳曼ニ至ラサルヤ日耳曼人民ハ既ニ之ヲ知ラザルハナカリキ然レトモデモン、スカドランドハ

異端ヲ攻ムルニ專ラ神教ヲ以テ兵仗トナシソノ器更ニ日耳曼叛亂ノ人民ヲ治ムルニ適セス既ニヒルデセームニ至リ書庫ヲ視シコトヲ求メ本寺(僧正區ノ首寺)ノ僧徒之ヲ導キテ廣房ニ至リシニ壁間書篋ヲ見ス唯兵仗甲冑ノ整列セルヲ見ルノミナリシカ僧徒之ヲ指シテ曰ク是即チ臣等ノ論辨ヲ資クル所ノ書籍ナリトザロン、スドランドニ嗣テ僧正トナリシ者ハソノ處置ヲ以テ太寛トナシ頗ル苛法ヲ用井シカバ人民大ニ之ヲ怒リ盡ク該僧正區ノ僧徒ヲ逐ヒ僧徒一人ヲ捕フル者ニハ金若干圓ヲ與フルニ至レリ但シ日耳曼諸府ハ斯ク獨立ノ氣象ヲ發センカトモ時運未ダ至ラス同心戮力ノ法未ダ行ハレス故ニ甲府ハ羈軛ヲ脱セシモ乙府ハ依然舊習ニ安シ連合

シテ自由ヲ唱ヘサリシカバ永クソノ事ヲ成シ、者ナカリシハ惜ムヘキニ非スヤ

ナヤルレスハソノ子ウエンセスロー、スヲシテ帝位ヲ嗣カシメント欲シ金詔ニ明記セル賄賂ノ嚴禁ヲ犯シ十萬「フローリン」(「フローリン」ハ英貨一磅ノ十分ノ一ニ當ル)ヲ散シテ選帝官ニ賄ヒ遂ニウエンゼルヲ選ハシメタリ千三百七十八年ナヤルレス佛蘭西ニ至リ和ヲ約シ將ニ歸ラントシテ路ニ死セリ

附錄第二十篇

文學及技工ノ事 大學校ノ事 日耳曼人ノ勇武ノ事
黑死病ノ事

千三百年代ニ當リテ諸桑門ノ著シタル拉丁語ノ歴史陸續世ニ出テ
 シノミナラズ日耳曼語ヲ以テ記シタル者モ亦多ク出テタリ日耳曼
 語ノ歴史ノ中最モ名アリシ者ハホルツクノオットガルノ著シタ
 ル諸史ナリナヤルレスノ代ニブレーズゴーナルフレールボルグノ桑
 門ベルソルド、スクワルト云フ者火薬ヲ發明セシカ一日火薬爆發
 セシニ由リテ遂ニソノ命ヲ失ヘリ千三百六十年ルーベックニ於テ
 初メテ火薬製造水車ヲ設ケ千三百七十二年オーガスボルグ府ノ爲
 ニ初メテ加俣砲ヲ鑄造シ千三百八十七年「ハンス」社ニ於テ初メテ
 鐵彈ヲ用非ケリ嚮ニハ華族兵威ヲ以テ市府ヲ壓制セシカトモ火薬
 ノ發明有シヨリ以來市府ハ大ニ利ヲ得華族ハ大ニソノ勢ヲ失ヘリ

千三百年ニ創立セル大學校ハ皆教師生徒ノ社ヲ結ビ社則ヲ定メテ
 立ラシ所ニシテ每校皆特別ノ免許權利ヲ有セリ
 各大學校ヲ數局ニ分テ每局教官ヲ置キシコト猶方今蘇格蘭ノ諸大
 學ノ制ノ如シ又大學總長アリ各局ノ教師ハ生徒ノ投票ヲ以テ之ヲ
 選ビタリ生徒ノ甲大學校ヨリ乙大學校ニ游フヲ許シ生徒ノ此游ヲ
 爲ス者食ヲ道路ニ丐ヒテ旅資ヲ助ケシコトモ少カラザリキ教課ヲ
 四科ニ分ツ曰ク神學曰ク醫學曰ク律學初メ先ツ此三科ヲ授ケ生徒
 之ヲ卒レバ學士ノ免許ヲ與フ又第四科ハ更ニ之ヲ七支ニ分ツ曰ク
 文典曰ク論說學曰ク明理學曰ク數學曰ク物理學曰ク性理學曰ク道
 理學是ナリ生徒之ヲ卒レハ博士ノ免許ヲ與フ當時新ニ講ヲ開クモ

ノアレバ生徒忽チ堂ニ滿チ唯平民ノ子弟ノミナラス貴族ノ子弟ト雖モ亦多ク校ニ入りテ業ヲ受ケアレーグノ大學校ハ創立ノ後日ナラスシテ生徒七千人ニ至リシトゾ

千三百四十七年英吉利ノ兵ノカレーヌヲ圍ミシトキ日耳曼ノ兵士數人英吉利兵ノ中ニアリシガ其中ニスウキツルランドノ兵アリベルチース、オーベルランドノ人ナリ佛蘭西ノ武士之ニ單騎ニテ雌雄ヲ決センコトヲ挑ミシニスウヰツルランドノ兵士ハ速ニ之ヲ肯シテ直ニ場ニ臨ミ佛士ノ來ルヲ待テ大ニ眠ヲ催シ乃チ地ニ臥シテ駢聲雷ノ如シ佛士ハ此ニ來リソノ生死ヲ決スル際ニ臨ミ泰然トシテ畏ル、所ナキヲ見テ驚愕シテ措ク所ヲ知ラズ遂ニ之ト戰フコ

トテ辭シケルトゾ又日耳曼ノ一公ボルスターンノヘンリーモ亦英吉利ノ軍ヲ助ケクレシーノ戰ニ功アリテ大ニイドロルド三世ノ恩寵ヲ得シカバイドロルドノ近臣大ニ之ヲ嫉ミ罵リテ曰ク汝人ノ備卒トナリ汝ノ主ニアラサル者ノ爲ニ血ヲ流ス汝カ如キ者ハ眞ニ貴族ノ名ヲ辱ムル者ナリト後又屢、之ヲ嘲リ辱メシカトモヘンリーハ更ニ意トナサ、リシカバ近臣ハ益々憤ニ堪ヘズサヲハ斷然備奴ヲ辱メントテヘンリーノ倫敦獄ノ聽訟院ノ庭ヲ步セシ時卒然一獅子ヲソノ側ニ放チケルニヘンリーハ毫モ畏ル、色ナク徐歩シテ猛獸ニ近キ幅ヲ執リテソノ頭ニ蒙ラシメ近臣ヲ呼テ卿等既ニ我ヲ以テ無耻トナス卿等固ヨリ貴族ナリ請フ出テ此帽ヲ取レト言ケルト

ン
 ナヤルレヌノ代ノ始ニ天變頻ニ起リ人民之ヲ見テ皆大災ノ前兆ナ
 リト思ヘリサイブルス希臘伊太利及ヒ亞爾伯山ノ諸谷地俄ニ震ヒ
 人畜多ク死シカリンシヤニ於テ市府ノ倒レシ者凡ソ三十所空氣鬱
 重臭氣鼻ヲ穿テ地ロウモン雁天ニ飛ビアウクノンノ法王宮屋ニ火柱アリテ
 衆人之ヲ見シカハ人民皆恐怖セサルハナカリシニ惡病俄ニ行ハレ
 テ死スル者山ヲ爲セリ此病初メ支那ニ起リ亞細亞ヲ歴テ遂ニ歐羅
 巴ニ傳播シ之ヲ思フル者初メ大ニ身体ノ疲倦ヲ覺エ次ニ腰束及ヒ
 腋下ニ腫瘍ヲ生シ倏忽膨脹シテ膿血ヲ發シ且多クハ全身ニ黒斑ヲ
 生シソノ狀實ニ人ヲシテ悚然タラシメシカバ之ヲ名ツケテ黒死病

ト稱セリ但シ病ノ狀患者ノ休質ニ從ヒテ小異ナキコト能ハズ或ハ
 頻ニ睡眠ヲ催シ身心頑麻シ死ニ至ルマテ熟眠ノ狀ヲ爲ス者アリ或
 ハ晝夜眠ルコト能ハズ喉舌共ニ黒色ヲナシ恰モ血液ノ固着スルガ
 如ク渴甚シク水ヲ飲メドモ之ヲ止ムルコト能ハサル者アリ亞細亞
 ニ於テ黒死病ノ徵候ハ此ノ如キニ止マリシカトモ歐羅巴ニ於テハ
 右ノ徵候ノ外又肺思アリテ肺ヨリ發スル毒氣呼吸ニ隨ヒテ大氣ニ
 傳布シ醫術用キル所ナク且醫師ハ勿論父子兄弟親戚ノ最モ近キ者
 ト雖モ皆其傳染ヲ畏レ患者ヲ捨テツノ家ヲ出テケレバ醫藥看護共
 ニ得ルコト能ハズ可憐患者ハ獨リ苦痛ヲ極メ死ニ至リテ之ヲ助ク
 ル者ナカリキ且此病ノ傳染スル唯人類ニ止ラズ猫犬家猪モ亦之

ニ感シケレバ人民ハ論ヲ待タズ猶犬家猪ト雖モ皆家ヲ捨テ去リ所
在村落市府唯々空屋ヲ見ルノミ後此病ノ爲ニ死セシ者ヲ數ヘシニ
大凡歐洲人口ノ四分ノ一ニ降ラズ「フランシスカン」一社ニテ死セ
シ者十二萬四千四百三十四人ナリシトゾ嗚呼黑死病ノ慘毒ナリシ
コト當時該社人員ノ増殖セシコト之ヲ以テ概知スヘキナリ

此時婦女相集リテ數社ヲ爲シ黑死ノ患者ヲ看護ス當時之ヲ名ツケ
テ「ベギユイン」社ト稱セリ蓋シ古サキソニ「語ノ「ベカン」(報恩)
ノ語ニ取レルナリ此社千年代ニ萌芽シ當時動亂頻リニ起リシニ由
テ社風益々振起シ千三百年代ニ至ルマテハ社員皆耶蘇教ノ真意ヲ
失ハズ所爲多ク道ニ合ヒケルガ人民教意ヲ誤認スルコト漸ク甚ク

常道ヲ行ヒテ神ニ事フルコトヲ以テ足レリトナサズ身ヲ以テ犧牲
トナシ非常ノ辛艱ヲ受クルニアラサレハ神意ヲ慰ムヘカラスト思
ヒシカハ遂ニ一派ノ宗門ヲ起ス者アリテ以爲ク身ヲ苦ムルハ神怒
ヲ慰ムルノ良術ナリト此派ヲ「フランゼラント」(答打)派ト名ツ
ケタリ此派千二百年ニ萌芽シ千三百年代ノ災ニ由リテ益々勃興シ
ソノ説ノ傳染スル恰モ魔術ヲ以テ之ヲ播布スルカ如ク長者ハ勿論
童兒ニ至ルマテ相集ルコト數百人群ヲ成レテ街巷ヲ往來シ皆重キ
十字架ヲ荷ヒ袒裼シテソノ肩ヲ答テ各群皆行伍ヲ整肅シ旗幟ヲ纏
ヘシ音樂ヲ奏シテ行步ヲ調節セリ

法王ハ日耳曼人民ノ斯ク教意ニ背キ非常ノ行爲アルヲ見テ大ニ之

ナ憂ヒレニ「フランゼルラント」派ハ公然宗門改正セスンハアルヘ
 カラサルコトヲ論シケレハ法王乃チ該徒ノ宗門ヲ禁シ派長ノ中自
 ラ救世主ト稱セシ者ヲ捕ヘイルフルトニ於テ之ヲ燒殺セリ
 黒死病ノ盛ニ行ハレシ時日耳曼人ハ此ヲ以テ猶太徒ノ井水ニ毒ヲ
 加ヘシニ由ルトナシ猶太徒ヲ剿滅セサレハ神怒ヲ平慰スルコト能
 ハストテ所在之ヲ殘殺シ氣焰赫灼抑制スヘカラス初メベルンニ於
 テ令尹猶太徒誅滅ノ令ヲ發セシカ萌芽トナリテ次第ニ蔓延シライ
 シ河畔ダニユーブ河畔ノ諸市府皆猶太徒ヲ殘殺セサルハナクスト
 ラスボルグニ於テハ二千人ヲ捕ヘ一火シテ盡ク燒殺セリ後黒病ノ
 流行漸ク衰ヘ千三百四十九年ニ至リテハ全ク之ヲ見サリキ

第二十九篇

ウエンセスロースルベルトザロドクスシザスモンドノ
 事

ウエンセスロースノ人トナリ父チャルレスノ人トナリト正シク相
 反シ其所爲モ亦大ニ之ト異ニシテ妄ニボヘミヤ人ノ權利ヲ剝奪シ
 專ラ日耳曼人ニ高位高官ヲ與ヘケレバボヘミヤ人ハ皆ウエンセス
 ロースタ以テ暴君トナシ之ヲ怨ミシニウエンセスロースハ曾テ日
 耳曼ニ來リシコトナク又議院ヲ開キシコトナク己カ政務ヲ惰リシ
 ニ由リテ國家ノ騷擾ヲ醸シナカラ日々國亂ノ事ヲ以テ滑稽ノ談柄
 トナシケレハ日耳曼人モ亦之ヲ怨マサルハナカリキウエンセスロ

一スボヘミヤニ於テ華族ヲ饗シ三天幕ヲ張り皆色ヲ異ニシ一ハ白
 一ハ黒一ハ赤トナレウニシセスロースハ黒幕中ニ在リ華族ヲシテ
 次ヲ逐ヒテ一人ツソノ中ニ入ラシメ之ヲ要シテソノ領スル所ノ
 地ハ帝ノ有ナルヲ以テ之ヲ帝ニ返サンコトヲ誓ハシメ此誓ヲ爲ス
 者ハ延キテ白幕ニ入ラシメ盛宴ヲ張りテ之ヲ饗シ此誓ヲ拒ム者ハ
 直ニ赤幕ニ入ラシメ劊手ヲシテ之ヲ斬ラシメタリ又嘗テ宴ヲ設ケ
 賓客既ニ入りテ一人ノ壯士大鉞ヲ執リテ合ヲ聞カバ直ニ斬ル狀ヲ
 爲スヲ見テ皆悚然色ヲ失ヒシカウニシセスロース壯士ヲ顧ミテ曰
 ク我カ饗ヲ卒フルヲ待テ然ル後汝カ職ヲ盡スヘシト此日ノ賓客ハ
 プレーグノ令尹及ヒ議員等ナリシカウニシセスロースノ暴ヲ見テ

己ムコトヲ得ス笑ヲ爲シテ僅ニ死ヲ免レ飲食ヲ欲セサレ且勤メテ
 宴ヲ卒ヒウニシセスロースノ命ニ隨ヒソノ有セシ所ノ權利若干
 ヲ捨テケル又ウニシセスロース卓ニ就クヤ常ニ側ニ獵犬一群ヲ置
 キ醉ニ乘シ之ヲシテ賓客或ハ己カ妃ヲ噓搏セシメ且妃ノ床ニ臥ス
 ニ當リテ獵犬ノ爲ニ噓搏セラレ劊ヲ被リシコト少カラサリキ又僧
 徒ト雖モウニシセスロースノ殘虐ヲ免ルコト能ハス第二妃ノ懺
 悔ヲ聽ク僧徒ヲチブマクノザハント云ヒシカウニシセスロースハ
 屢々之ヲ脅迫シテ妃ノ懺悔ノ秘密ヲ洩サシメント欲セシカトモザ
 ャンハ固ク任官ノ誓ヲ守リ常ニ之ヲ拒ミテ語ヲサリシニウニシセ
 スロースハ或ハ甘言ヲ以テ之ヲ騙サンコトヲ謀リ或ハ暴威ヲ以テ

之ヲ脅カシテ更ニ止ム時ナカリシカハザヨシハ之ヲ聽クニ堪ヘス
 臣生テ罪ヲ天ニ得ンヨリハ寧^ニ死センノミト云ヒシニウエンセスロ
 ー^スハ卿死ヲ欲セハ宜シク夫ノ蒼天ニ求ムヘシトテ命シテ之ヲ縛
 セシメモルドー河ニ投セシメタリ千七百二十九年ヂュンニ加フル
 ニ神聖ノ號ヲ以テシ橋梁ノ神トナセリ斯テウエンセスロースハ狂
 暴益々甚シカリシカソノ弟ブランデンボルグノ選帝官シヂスモン
 ド^ド之ヲ見テ遂ニソノ家ヲ滅サシコトヲ憂ヒ之ヲ禁錮セシカウエン
 セスロースハ狂暴ト雖モ亦詰ニ言ヲ設ケ警吏ヲ欺キテモルドー河
 ニ投シ水ニ泳キテスーサンナト云フ少女ノ乘リタル舟ニ達シ之ニ
 乗シテ前濱ニ上リ遂ニ免ルヽコトヲ得タリ

此時若シウエンセスロースヲシテ少シク志アラシメハ日耳曼帝國
 ヲ糾合シソノ威勢ヲ更張スルコトモ亦難キニアラサリキ如何トナ
 レハ此時二法王アリテ一ハ羅馬ニ居リ一ハアヴキグノンニ在リテ
 互ニ蚌鷁ノ爭ヲ爲シ法王ノ威權大ニ衰ヘ初ハ法王ハ諸國ノ廢立ヲ
 專ラニシケルモ當時ハ正シク之ニ反シ諸國王ニ依リテソノ位ヲ安
 ソスルコトヲ謀ル勢ナリシニ又日耳曼ノ最大強敵ナル佛蘭西ハ英
 吉利ト兵ヲ構ヒ日耳曼ヲ回顧スルニ違アラズサレバウエンセスロ
 ー^ススチシテ此獄ニ乗セシメバ法王及ビ佛王ヲ制センコト必セリ然
 ルニウエンセスロースハ固ヨリ斯ル大事ヲ爲スノ才畧ナク又ソノ
 志モナクブレーグノ麥酒ニ酔ヒ綺羅ノ前ニ列ナルヲ以テ極樂トナ

シ毫モ日耳曼帝國ノ聲名ヲ爲シソノ富強ヲ謀ルニ志ナク空ク千歳
 稀有ノ機會ヲ看過シケリサレバ日耳曼人民皆ウエンセスロースノ
 不肖ニシテソノ職ニ堪ヘサルユトヲ知り選帝官モ之ヲ廢セント決
 議シ乃チ議院ヲ開キテ新帝ヲ選ヒシニライン侯ルベルトヲ推ス者
 千四百人ニシテブルーンスウキツキノフレデリックヲ選ヒシ者ハ
 僅カナリシカバ乃ナルベルトヲ立テシガマエンスノ大僧正ノ家臣
 猶フレデリックノ黨ノ之ヲ争ハシコトヲ恐レソノフランクホルト
 ヨリ歸ルヲ待テテ遂ニ道ニ殺シケリ然ルニ上日耳曼ノ諸市府ハル
 ベルトノ立ツヲ以テ華族ノ己等ヲ弱マスコトヲ謀ルナリト看做シ
 テ之ヲ拒ミ廢帝ウエンセスロースヲ位ニ復セント欲セシカトモウ

ニシセスロースハ性怠惰卑劣ナレバボヘミヤニ閑居シ一家ヲ暴制
 シ殘虐ヲ行フユトヲ以テ足レリトナシ再ヒ危嶮ヲ犯シ帝位ニ復ス
 ルユトヲ欲セス屢々殘暴ノ戲ヲ爲シケル中一日廚丁燒鶏ヲ進メシ
 ニ未ダ熱セサリシカハ乃チ命シテ之ヲ捕ヘ鐵串ヲ以テ之ヲ貫キ之
 ヲ燒キシユトアリ又一日卒然劊手ヲ捕ヘテ汝人ヲ殺ス職ニ居リ死
 者ノ苦痛ヲ知ラザレバ是職ヲ辱ムルナリトテ之ヲ劊チシユトアリ
 ウニシセスロースハ善ク尺牘ヲ裁ス嘗テローテンボルグ府民ニ命
 シテ四千「フローリン」ヲ借ラント欲セシニ府民之ヲ聽サリシカバ
 之ニ書ヲ送リテ曰ク日耳曼帝汝帝國ノ亂臣及ヒローテンボルグノ
 不忠民ニ告ク魔王幼羊ヲ捕ヘソノ毛ヲ切リナガワ大ニ叫ヒ尙少毛

ト呼ヒタリト「嗣帝ルベルトハ銳意事ヲ勤メシカトモ華族多ク之ヲ助ケズ專ラ之ヲ推シ、者ト雖モ亦赤心之ニ事フル者ナク威權極メテ輕ク殆ト尸位ノ景況ナリシカ壞地利ノレオポルドト力ヲ戮セテ伊太利ニ入り羅馬ニ至ントセシニブレスシヤニ於テ敵ノ爲ニ破ラレレオポルドハ縛ニ就キシカハルベルトハ大ニ國辱ヲ爲シ日耳曼ニ歸リ遂ニ此ニ止リ千四百十一年ニ至リテ死セリ此時廢帝ウニシセスロースハ猶世ニ在リシカ毫モ位ニ復スルコトヲ謀ラザリシカハ日耳曼人民兩黨ニ分レ一ハウニシセスロースノ弟シダスモンドヲ推シ一ハモラヴ井ヤノザロドクスヲ擇ヒシニ千四百九年ビリサノ宗門議院ニ於テ羅馬アヴキグノンノ兩法王ヲ廢シ新ニ法王ヲ

選ヒシカトモ兩法王ハ之ヲ肯セサリシカハ千四百十一年ニ於テ日耳曼ニ三帝アリ耶蘇宗門ニ三法アリテ各法王皆我コソ聖僧ベトトルノ正統ヲ受ケ獨尊ノ爵ニ當ルヘキ者ナリト唱ヘケリ然レトモ日耳曼ニ於テハ數月ヲ出テスシテゴドクスノ死セシニ由リテ三帝ノ爭忽チ止ミシダスモンド獨リ帝位ヲ專ラニスルコトヲ得タリシダスモンドハ性驕傲ソノ帝ニ選ハレシトキ呼ヒテ曰ク我盡ク諸侯ノ賢不肖ヲ知ルコト能ハスト雖モ猶克ク我カ才ヲ知ル我カ才天下比スヘキナシ治トナク亂トナク我カ知我カ武天下賈ニ比スヘキナシ故ニ我今ブランデンボルグノ選帝官ノ名ヲ以テ匈牙利王シダスモンドヲ選フトホンカリ一王シダスモンドトハ即チ己

ヲ云ヒシナリ

シデスモンドノ人トナリハナヤルレス四世及ヒウエンセスロースノ人トナリトナ合セタルカ如ク傑黠ニシテ權謀ニ富ミシハナヤルレス四世ニ似タリ歡樂ヲ好ムハウエンセスロースニ似タリシデスモンド容貌秀麗活達ニシテ口オアリ然レトモ志ヲ立ツル確ナワス唯々機ニ臨ミテ僅ニ辨シ永久ノ事ヲ謀ルコト能ハス唯々一時ノ方便ニ由リテ行ヒシノミ

シデスモンドノ位ニ即クヤ寺院ノ制ヲ改革シテ名ヲ得ンコトヲ志シ、カトモ當時人文未タ開ケサリシカハ容易ニ此ノ若キ事ヲ成スコトヲ得サリキ千三百年代ノ終ニ當リテ英吉利ニウヰツキリッフ

ト云フ者アリテ一派ノ教論ヲ唱ヘソノ教遂ニ歐羅巴大陸ニ行ハレ之ヲ奉スル者皆身ヲ殺シテ教ヲ守リ燒カレテ死セシ者陸續相繼キオーグスボルグ一府ニ於テ之カ爲ニ死セシ者凡ソ二百人ナリキ此時兩法王皆ソノ職ヲ忘レ無耻ノ爭訟ヲ爲シ或ハ賄ヲ僧徒ニ納レ或ハ媚ヲ大學校ニ獻シ各ソノ黨與ヲ得ンコトヲ謀リ法王ノ威權全ク地ニ墜ナシカハ僧正博士相議シテ遂ニ兩法王ヲ廢シ新ニ法王ヲ選ヒシコトハ既ニ前ニ記セシ所ノ如シ然ルニ久シカラスシテ新法王ハ死シデモン二十三世ナル者之ヲ嗣キケルカデモンハ嘗テ海賊ヲ業トシ罪惡犯サ、ル所ナカリシカトモ當時僧徒ノ風大ニ衰ヘソノ位ヲ嗣クヲ見テ斷然之ヲ拒ミシ者ナク甚シキハペートル、デー、ル

リハ兒漢ニアラサレハ寺院ヲ統御スルコト能ハスト唱ヘタリ
 斯テシデスモンドハ宗門改正ノ志ヲ懷キコンスタンスニ於テ一般
 宗門議院ヲ開キソノ議員ヲシテ歐羅巴全洲ノ代議士ノ職ヲ勤メシ
 メント欲シ僧徒ニ止ラス俗人ト雖モ議員トナリテ之ニ會スルコト
 テ許シ巳レ羅馬兼日耳曼帝タルヲ以テ百王ノ上ニ位シ議事ヲ統轄
 シ大ニ爲スコト有ルノ勢ナリシカシデスモンド自ラ道ヲ破リ寺院
 及ヒ王公ノ怨ヲ招キシカハ百事皆畫餅ニ屬シ一モソノ功ヲ奏スル
 コト能ハサリキ

附錄第二十九篇

フレデリック、ウオン、ホーヘンゾルランノ事

千四百十一年シデスモンドブランデンボルグ侯國ヲ以テソノ友ヌ
 ーレンベルグ侯フレデリック、ウオン、ホーヘンゾルランニ質トシテ
 十萬「ドカット」一「ドカット」ハ大チ借り後幾モナク遂ニ侯國ヲ與ヘシ
 略一弗ニ當ルニ侯國ノ華族等新主ヲ奉スルコトヲ欲セズ黨ヲ結ビテ叛キシカバ
 フレデリックハ當時新ニ發明セシ大伽儂砲一門ヲ以テ尽ク華族ノ
 城砦ヲ打テ破リ遂ニ之ヲ平定ス爾來子孫世々之ヲ有シテ今ニ至レ
 リフレデリックハ即チ方今ノ普魯士王家ノ祖ニシテ今ウルテンボ
 ルグノ側ナル山上ニアル峨々タルホーヘンゾルラン城ハ該家基業
 ノ所ナリ斯テブランデンボルグノ新選帝官フレデリックハコンス
 タンスノ一般宗門議院ニ於テ弊制ヲ改正センコトヲ論シテ大ニ其

名ヲ著ハセリ英吉利日耳曼ノ議員多クフレデリックノ説ヲ助ケシ
 カトモ改正ノ箇條ニ於テハ稍異論ナキコト能ハザリレニ佛蘭西
 伊太利西班牙ノ議員ハ該院ニ於テハ唯新法王ヲ選ブコトヲ議ス
 ベレ宗門改正ノ事ノ如キハ議スベキ所ニ非ストテ之ニ從ハザリシ
 ガバ英吉利ノ議員ハ日耳曼議員ノ論ヲ助ケシカトモ遂ニ多數ノ説
 ニ從ヒシ故ニ日耳曼議員ハ孤立シテ久シク激論ヲ爲シカトモ已
 ムコトヲ得ズ亦遂ニ衆論ニ從ヒケリ

第三十篇

シダスモンドノ事 デモンハッス及ビプレーグノセロー
 △教法ノ爲ニ死スル事

コンスタンスノ一般宗門議院ヲ開キ千四百十四年十一月二十八日
 ラ以テ議會ノ初日トナシ此會ニ出デシ者ハ僧正大學博士王公若ク
 ハソノ代員ニシテ僧議員ハ三グナ法教師長三十三宗門上院議員四十七
 大僧正百四十五僧正百二十四住持千八百僧徒七百五十博士及ビ若
 干ノ桑門ナリ俗議員ハ日耳曼帝諸選帝官及ビ外國特命議員ナリ三
 法王ノ中自ラ會ニ出デシ者ハ唯デモン二十三世ノミナリシガ亞
 爾伯山ノ嶮路ニ於テ風雪ノ爲ニソノ乘車ヲ覆ヘサレシカバ路傍ノ
 農夫數人之ヲ助ケテソノ福ヲ受ケントテ走リテ之ニ近キシニデヒ
 ンノ頻リニソノ從者ヲ罵リテ之ヲ咒シソノ粗暴騎兵モ猶之ヲ恥ツ
 ベキ狀ヲ見テ皆愕然トシテ大ニ望ヲ失ヒケリ

斯テ僧俗議員皆コンスタンヌニ集リシガ又會議ニ與ラザル人民モ
 或ハ好事ノ癖ノ爲ニ來レルアリ或ハ贏利ノ欲ニ惹カレテ來レルア
 リテ此ニ集リシ者總テ十五万人ニ下ラズソノ中路醫路傍ニ藥ヲ賣ル醫 幫間
 俳優ハ英吉利ヨリ來レル者ニシテ耶蘇經文中ノ怪談ヲ撮リテ劇場
 ニ演行セリ蓋シ此時ヨリ日耳曼人初メテ演劇ノ味ヲ知リシナリ
 當時ノ史家コンスタンヌニ集リタル各國ノ議員ノ事ヲ評シテ曰ク
 日耳曼人ハ忍耐ナレトモ激烈ナリ佛蘭西人ハ驕傲ニシテ自負セリ
 英吉利人ハ敏捷ニシテ伶俐ナリ伊太利人ハ狡猾ニシテ權謀アリ
 ト
 北黨(日耳曼英吉利佛蘭西ヲ云フ)ハ日耳曼帝ヲ以テ首長トナシ

佛蘭西ノ宗門上院議官ベートル、デー、ルリー、及ビ巴勒ノ大學總長ゼ
 ルソンノ智畧ヲ以テ之ヲ輔翼シ遂ニ每國一議ノ議ニ決シ(一國ノ
 人先ツ議ヲ決シ之ヲ國論トナシテ此議ヲ議院ニ出シ國數ノ多寡ニ
 從ヒテ議ヲ決スル方法ナリ蓋シ若シ僧議員ト俗議員ヲ分テ兩局ト
 ナシテ發議セシムレバ大ニ伊太利ノ宗門上議官僧正等ノ羽翼ヲ長
 スベカリシニ由リテ斯ク每國一議ノ方法ヲ用非伊太利ヲシテ孤立
 セシメ法王黨ノ羽翼ヲ殺キシナリ)猶一步ヲ進メテ議院ノ權ハ法
 王ノ權ヨリ高シ三法王ハ皆ソノ職ヲ免スベシト決議セシニグレゾ
 リ十二世ハ此命ヲ奉シ直ニ職ヲ棄テ宗門上議官トナリタリデ
 ンハ初メ官位ヲ脱シケルガ後兵ヲ擧テ位ニ復セント謀リ事敗レテ

ヘーデルボルグ城ニ繫ガレ千四百十八年ニ至ルマデ此ニ止マレリ
 ベテザクト十三世ハ西班牙ニ居リテ議院ノ令ヲ拒ミケリ

議院ハ既ニ三法王ノ威權ヲ剝奪シケレバ乃チ其頃愚民ヲ蠱惑シ宗
 門ヲ攪擾セル異端ヲ検査シテ之ヲ制止スル方法ヲ考定セントセリ
 プレーグノ大學校ハ千三百四十八年ニ創立シ爾來ソノ教官多ク材
 藝ニ富ミ學殖ニ深クソノ名聲當世ニ赫灼タリシカ此頃教官ノ中ニ
 デロン、ハッスト云フ者アリテ英吉利ノウイックリッブノ著セル書
 ヲ得テ之ヲ讀ミ(蓋シ此書ハウニエンセフロースノ妹アンチノ英吉
 利王リチャルド二世ト婚セシニ由リテ早クボヘミヤニ來レルナリ)
 千四百一年ハッスハ既ニ宗門ノ流弊ヲ洞見シ慨然トシテ法王モ亦

唯一僧正ノミ無益ノ祭日ハ廢セスンバアルベカラズ泉路消罪ノ

專ハ經文ニ憑據ナシ確證禮コトシテハ洗禮ノ後再ヒ之最後祜禮此禮ヲ以

ヲ強健ニエト云フノ二式ハ聖禮ニアジズ耳語懺悔ハ虛飾ナリ神

壇何衣聖像聖盃ハ無益ナリ全地ハ神ノ有スル所ナレバ何レノ所ニ

テモ禮拜ヲ行フコトヲ得ベシ何ゾ獨リ寺堂ニ於テスルコトヲ要セ

ンヤ俗人ト雖モ聖餐ニ於テ酒飯兩種ヲ受クベシ聖餐ノ酒飯ノ耶蘇

ノ身血ニ化スルニアラズ不可思議ノ氣化ニ由リテ人民ハ耶蘇ノ眞

純ナル身血ヲ受クルコトヲ得ベシト宣言シテ人民ヲ教化セシニソ

ノ弟子ゼローム、フォールヒスク(世ニ多ク之ヲプレーグノゼロー

ムト云フ)志ヲ奮ヒテ之ヲ輔ケタリハッスゼローム性皆堅忍果敢

ニシテ毫モ他人ノ辨駁抗抵ヲ意トナサズブレীগソノ他諸所ニ於
 テ衆ヲ集メテソノ道ヲ説キシカバコンスタンスノ宗門議院ヨリ使
 テ遣シ議院ニ出テソノ唱フル所ノ道義ヲ辨解スメント命シ又日耳
 曼帝シデスモンドヨリソノ身命ヲ保シ刑ヲ加ヘシト誓テ之ニ無刑
 證書ヲ與ヘタリ斯テ開院ノ後幾クモナクハッスハブレীগニ來レ
 リ議院乃チオーガスボレグトレントノ兩僧正及ビコンスタンス
 ノ令尹ヲ遣シテ之ヲ召シケレバハッスハ議院ニ至リ議事堂ニ入り
 恭ク滿坐ノ議員ニ禮セシニ宗門上議官一人之ヲ呼ビテ曰クハッス
 先生近者仄カニ聞ク卿大ニ耶蘇宗門ノ眞意ニ背キ妄ニ牽強附會ノ
 論ヲ張リテ愚民ヲ蠱惑スト我等大ニ卿ノ爲ス所ヲ惡ム故ニ今卿ヲ

此ニ招キ親ク卿ノ口ヨリソノ果シテ然ルヤ否ヤヲ聽カントハッス
 ハ之ヲ聽テ曰ク聖僧閣下異端ノ罪ハ一個ト雖モ我生死誓ヲ受ケザ
 ル所ナリ況ヤソノ多キコト此ノ如クナルチヤ故ニ我が此ニ來ルヤ
 豫メ意ヲ決シテ凡ソ告ケラル所ノ罪過若シ實ナラバ直ニ之ヲ改
 メ正サンコトヲ期シタリト然ルニ議員ハハッスヲ次室ニ移シテ暫
 時解散シ日暮遂ニ之ヲ縛セント決シハッスノ論敵ヒリツプ、バリツ
 テシテ命ヲハッスニ傳ヘシメテ曰ク今汝既ニ我等ノ手中ニ墜ツ汝
 汝ノ罪ヲ謝スルニアラザレバ此所ヲ去ルコトヲ許サズト乃チハッ
 スヲ縛シテ獄ニ下セシニ獄室湫隘甚ク空氣毒ヲ含ミ忽チ瘧疾ヲ發
 セリ後ハッスハ屢議院ニ出テ冤ヲ述ベンコトヲ乞ヒシカドモ千

四百十五年六月七日ニ至ルマデハ聽レズ此日初メテ議院ニ出ル
 コトヲ得シガソノ言ヲ發スルニ及テ滿院喧噉シテ之ヲ罵リ語音
 ナシテ明亮ナラシメザリシカバハッス乃チ衆ヲ呼テ曰ク我ノ此ニ
 來ルヤ元ト諸卿ノ我ガ言ヲ聽カンコトヲ期セシナリ然ルニ諸卿妄
 ニ喧噉シテ我ヲシテ言フコト能ハザラシム我又言フコトナクシテ
 止マンノミト是ニ於テ議院ハッスノ罪狀ヲ朗讀ス罪狀ノ中笑フニ
 堪ヘタル者數條アリ就中ハッスノ世ニ四神アリト唱ヘタリト記セ
 ル條ノ如キニ至リテハハッスト雖モ失笑セザルコト能ハザリシガ
 バ之ヲ辨ゼント欲セシカドモ許サレズ斯テ七月六日ニ至リ遂ニハ
 ヲスヲ燒殺スルコトニ決シ日耳曼帝レダスモンド判書ヲ讀ミテ曰

ク汝デヒンハッス今汝ノ過ヲ改メ汝ノ異說ヲ棄テザレバ我輩汝ヲ
 處スルニ火刑ヲ以テセン若シ汝ノ過ヲ悔イ汝ノ異說ヲ棄テハ我輩
 汝ノ刑ヲ宥メン然レトモ汝ノ說教ヲ禁シ汝ノボヘミヤニ歸ルコト
 ヲ許サズ且汝若シ改メズンバ汝ノ諸弟子ヲ罰シ就中セロームニ加
 フルニ嚴刑ヲ以テセントハッスノ朋友比判書ヲ讀ムヲ聞テシダス
 モンドガ前ニ手ツカラハッスニ與ヘタル無刑證書ト矛盾セリトテ
 痛ク之ヲ論セシカトモシダスモンドハ毫モ之ヲ意トセズ無刑證書
 ナリトハハッスノ異端ニ陷ラザリシト思ヒ故ナリハッス既ニ
 異端ニ陷リタレバ無刑證書又何ノ用ヲ爲サンヤ夫レ神道人道ヲ論
 セズ良民トノ約ハ踐ムベケレトモ道ニ背ケル者トノ約ハ守ルベカ

ヲズト七月六日拂曉ライガノ僧正兵士四人ヲ率ヰテ獄ニ來リハツ
 スヲ率ヰテ本寺ニ至リ之ヲ戶外ニ止メ僧正等先ツ入りテ神事ヲ行
 ヒ然ル後之ヲ牽テ入シメタリ蓋シ異端人ノ入りテ神事ヲ穢サシコ
 トヲ畏レシナリ此時本寺ノ準備既ニ充足シ日耳曼帝ハ狀麗ナル椅
 子ニ凭リ手ニ帝笏ヲ執リ頭ニ帝冠ヲ戴キ大小ノ王公宗門上議官僧
 正ソノ側ニ列坐シ堂ノ中央ニ高卓ヲ安置シ白袈裟及ヒソノ他ノ禮
 服ヲソノ上ニ載セタリ袈裟禮服ハ皆ハツスノ僧官ヲ刺奪スルトキ
 之ヲ用ヰンカ爲ナリ是ニ於テ一僧正新約全書ノ羅馬人ノ篇第六章
 第一節然ラバ則チ我等如何爲シテ可ナランカ我等永ク罪惡ヲ行ヒ
 以テ多福ヲ望マンカノ義ヲ講シ良久クシテ一人ノ僧正高坐ノ級ヲ

登リ罪狀ヲ讀ミタリハツス屢々之ヲ駁セントセシカトモ毎●禁セ
 ラレテ言ヲ發スルコト能ハザリシガ末條ニソノ法王ノ禁宗ノ令ヲ
 輕視セシト云ヘルニ至リテ大鳴シテ是全ク誣偽ナリ我公然最上裁
 判所ニ控訴セント欲シ日耳曼帝ノ我ヲ保護セント約セシヲ信シテ
 此議院ニ來リ我が冤ヲ訴ヘント欲セルナリ何ソ禁宗ノ令ヲ輕視シ
 聽ザルガ如クセシナランヤト言ヒ憤然トシテシダスモンドヲ睨視
 シケレバシダスモンドハ自ラ欺キシヲ恥ヂ滿面紅ヲ發シ默然トシ
 テ答ヘ得ザリシガ禿頭ノ一老僧法王ノ目代トシテ進ミテ判書ヲ讀
 テ曰ク我今デモン、ハツスチ處スルニ火刑ヲ以テストハツス乃チ跪
 坐シテ神ヲ呼ビテ己ヲ殺ス者ヲ宥メ給ヘト祈願セリ七僧正進ミテ

制官ノ式ヲ行ハントシ先ツ禮服ヲ執リテハッスニ被ラシムルコト
 恰モ神事ヲ行フトキノ如クシ又聖杯ヲ執リテソノ手ニ置キ呼デ曰
 ク汝デユダスヲ呪シ議院ノ説諭ヲ拒ミタリ故ニ我等耶蘇ノ精血ヲ
 盛リ諸人ヲ濟度スルノ杯ヲ汝ガ手ヨリ奪フト乃チ杯ヲ奪ヒシカバ
 ハッス温言ヲ以テ之ニ答テ曰ク我今日夫ノ神國ニ登リ此杯ヲ受ケ
 シコトハ我曰ラ信ズル所ナリト是ニ於テ僧正ハッスノ僧服ヲ剝キ
 一衣ヲ脱スルゴトニ之ヲ呪シ將ニ僧冠ヲ破ラントセシトキ諸僧正
 論ヲ異ニシ或ハ剃刀ヲ以テセント言ヒ或ハ剪刀ヲ以テセント言ヒ
 ケレバハッス又呼テ曰ク見ルベシ諸僧正ノ定論ナキコトヲ我ヲ弄
 スルニ當リテソノ方法ガモ猶知ラザルコト此ノ如シト然レ●モ諸

僧正ハ遂ニソノ禮ヲ卒ヘ乃チハッスノ精靈ヲ魔王ニ交付スト呼ヒ
 シニハッスハ之ニ和シテ吾我ガ精靈ヲ以テ我カ主神耶蘇基督ニ薦
 ムト呼ビタリ是ニ於テ諸僧正ハッスヲ獄吏ニ付ス獄吏高サ半「イ
 ル」「イル」ハ四尺九分程ノ紙帽ヲソノ頭ニ加フ帽面ニ三魔ヲ畫キ是異魁ナリ
 ト銘セリ遂ニ刑場ニ至リハッス乃チ地ニ跪キ仰テ天ヲ望ミ聖歌第
 三十ト第五十ヲ誦シ嗚呼明神既ニ我ヲ濟度セリ故ニ吾今我ガ精靈
 ヲ以テ明神ニ捧グノ語ヲ數回誦セシニ觀ル者之ヲ聞テ或ハ我等此
 人ノ如何ナル説ヲ唱ヘシヤヲ知ラザレドモ今ソノ語ヲ聞ケバ皆聖
 語ナラザルナシト云ヘルモアリ或ハ何ソ僧官サレテ刑人ノ懺悔ヲ
 聽カシメザルヤト呼ビシモアリテ懺悔ヲ聽カシメザル所以ヲ刑架

ノ下ニ立タル僧徒ニ問ヒシニ此僧徒ハ獄吏ノ刑具ヲ準備スルヲ見
テ頗ル快然タル顔色ヲ爲シ居タリシガ之ヲ聞テ恰モ夢寐ノ初メヲ
覺タル如キ狀ヲ爲シ滿面怒氣ヲ發シテ觀者ノ側ニ來リ遠キ者ト雖
モ聞ユベキ大聲ヲ發シ呼テ曰ク異端人ノ語ヲ聽クコト勿レソノ讖
悔ハ聽クコトヲ要セザルナリト是ニ於テ獄卒古鑄鎖及ビ繩ヲ以テ
痛クハツスヲ縛シケルガ薪柴未ダ備ハツザリレカバハツスハ刑架
ニ繫カレテ久シク時ヲ移シケリ既ニシテ獄卒薪柴ヲ積ミ將ニ火ヲ
放タントシケルトキバツリヤ俟馬ヲ驅リテ刑場ニ來リハツスヲ諭
シテ曰ク卿若シ卿ノ過ヲ悔イバ刑戮ヲ免ルヘコトヲ得ントハツス
ハ大聲ヲ發シテ之ニ答テ曰ク讖者我ヲ罪スル皆詐僞ナリ我今明神

ヲ以テ證人ト爲シ誓テソノ虛妄ヲ證ス我人ヲ教フルニ罪惡ノ域ニ
遠カリ明神ノ界ニ入ルコトヲ以テセリ我が道ノ真ナル我今我が血
ヲ以テ之ヲ銘セント欲スルナリ何ソ死ヲ避クルコトヲ用弁シヤト
獄卒乃チ火ヲ放チ倏忽炎焰天ヲ蔽ヘリハツスハ煙中ニ在リテガラ
鳴呼神子基督ト云ヒシ耳ニテ炎焰面ヲ包ミ又聲ヲ發スルコト能ハ
ザリシカトモ猶數分時間唇ヲ動シシガ遂ニ頭ヲ低レテ死シタリ火
稍消ユルニ及テ獄卒灰中ヲ抉シソノ心臓ノ猶燒滅セザルヲ見テ
更ニ之ヲ刑架ニ掛ケ遂ニ之ヲ燒キ盡セリ是ニ於テバヅリヤ俟ボヘ
ミヤ人ノハツスノ遺物ヲ取メテ之ヲ祭ラシコトヲ恐レ尽ク其衣帶
ヲ集メテ之ヲ燒キシノミナラズ遺灰及ビ刑場ノ土ヲ取リテライシ

河ニ投シ竊ニ死驅ノ腐休ヲ刑場ニ埋メ愚民ヲ欺キテ異端ノ巨魁ハ
 ツスノ精靈ノ形骸ヲ脱セシトキ硫黄ノ雲氣アリテ之ヲ包ミ臭氣ヲ
 刑場ニ止メタリト云ヘリハツスハソノ第四十二回ノ誕辰ニ當リテ
 斯ク非道ノ刑ヲ受ケテ死シニケリ

ブレーグノゼロームハコンスタンスニ來リシガソノ師ハツスノ死
 テ救フニ策ナキコトヲ知リコンスタンスヲ逃レシカトモ忽チ捕ハ
 レテ獄ニ下サレシガ饑餓疾病ノ爲ニソノ節ヲ屈シ過テ謝セシニ由
 リテコンスタンスノ宗門議院ニ牽レケルニ忽チソノ志氣ヲ回復シ
 斷然ソノ唱ヘシ所ノ說ヲ守リ決シテ過失ト看做サズト罵リ猶聲ヲ
 高クシテ我聖師天理ニ基キ人道ニ據リ汝ノ偽教ヲ駁シ汝ノ醜行ヲ

非トシ汝ノ惡事ヲ發キタリ我實ニ之ヲ知ル故ニ我敢テ我說テ非ト
 スルコトヲ得ズ汝欲セバ我ヲ殺セ我生死我道ヲ變ズルコト能ハズ
 ト呼ビ獄卒ノソノ背面ヨリ火ヲ放タントセシテ見テ汝我ガ面前ニ
 火ヲ放ツメシ我若シ火ヲ畏レバ我何ゾ今日此所ニ來ランヤト呼ビ
 タリ議院ハ斯ク新說ヲ唱フル者ヲ虐殺シ乃チ法王ヲ選ビ伊太利ノ
 宗門上議官アルテン五世ヲ立テケリ但シ此頃人民漸ク寺院ノ弊風
 ヲ知り稍ク妖氛ヲ排却シケルガアルテン五世再ビ之ヲ舊ニ復シ眞
 道ヲシテ再ビ雲霧ノ中ニ墜チシメケリ

附錄第三十篇

シゲスモンドノ無學ノ事 ウイツキリッブノ事

コンスタンズノ宗門議院ノ初日ニシザスモンドハツノ甚ダ文學ニ
 乏シク且倨傲ナルコトヲ露ハス初メテ議員ニ向ヒテ發言セシトキ
 中性ノ語ヲ誤リ用ヰシカバ宗門上議官一人之ヲ駁シケルニシザス
 モンドハ我ハ羅馬帝ナレバ文法モ我ヲ制スルコト能ハズト罵リケ
 リ
 ザモン、ウイッキリツプハ千三百二十四年ヨルクシールノリツチモ
 ンドノ傍ニ生レタリソノ聲名ヲ得タルハオキスホルドノ大學校ニ
 在リシトキ乞僧社ノ專權ニテ學校士官ヲ任ズルコトヲ辨駁セシニ
 初レリ千三百六十五年英吉利王ノベートル錢羅馬法玉ニ奉納スル錢ヲ出スコ
 トヲ拒ミシヲ助ケテ書ヲ著ハシ因リテ大ニ著名ナル英吉利ノ王子

ゲントノザニンノ寵ヲ得ソノ保護ニ由リテ屢論敵ノ爲ニ殺サル
 ンコトヲ免レタリ千三百七十四年英吉利王ノ爲ニブルーザスニ至
 リ法王ノ使節トベートル錢ノ事ヲ論シ歸リシ後ニ「トラヤログズ」
 ト名ツケタル書ヲ著ハシテ大ニ羅馬寺院ノ弊害ヲ論斥シタリ蓋シ
 明神ノ聖餐ニ臨スルコトニ付テハウイッキリツプノ論トルザルノ
 論ト大同小異ナリウイッキリツプ常ニ曰ク僧正及ビ僧徒ノ行ヲ破
 リ神ヲ汚セルニ因リテ遂ニ人民ヲシテ寺院ニ背カシメ祭禮ヲ感
 應ナカラシメタリ僧徒ノ世俗ノ土地資産ヲ有スルコトヲ禁ズベシ
 人民中心ヨリソノ罪過ヲ懺悔シ明神ニ謝スレバ更ニ僧徒ヲシテソ
 ノ懺悔ヲ聽カシムルコトヲ要セズト千三百八十四年ウイッキリツプ

ルツテルウオルスノ寺院ニ於テ神事ヲ行フニ當リテ卒ニ病ニ罹リテ死セリ後數年ソノ論敵ソノ墓ヲ發キテ遺骸ヲ燒滅セリウイツキリツブノ著書ノ中最モ緊要ナル者ハ聖書バイブルノ譯書ナリ諸僧正皆之ヲ廢セント欲セシカドモデントノチロンノ保護ニ由リテ存スルコトヲ得タリウイツキリツブノ流派ヲロルラルツト名ツツフランドルスノ古語「ロルレン」(靜ニ歌フ)ニ取レルナリ初メアントウニルブニ於テ病者ヲ看護シ死者ヲ埋葬セル社アリテロルラルツト名ツケシガウイツキリツブ派ノ此名ヲ用非シヨリ總テ羅馬法王ニ抵抗セシ者ヲバ概シテロルラルツト名ツケシト見エタリ此頃ノ宗門改正者ノ中コブハム侯ザロン、オールドカッスルハ羅馬宗ノ說ヲ駁セシニ

由リテ千四百十七年遂ニ死刑ニ處セラレタリ

第三十一篇

シヂスモンドノ事 ハツサイト戰ノ事

却テ說ク寺院ノ諸長官ハザロン、ハツスノ遺灰ヲライン河ニ投ジケレバソノ名モ永ク河水ト共ニ流レ去リ世人ノコレヲ記スル者ナカラント思ヒシニハツズノ說教既ニ大ニボヘミヤ人民ノ心腹ニ浸漸シ人民ノ之ヲ追懷セル者頗ル多カリキ初メウニシスローズノ政ヲ行フコト公平ニシテボヘミヤ日耳曼兩國ノ人民ヲシテ相和セシメハツスヲシテ善ク日耳曼語ヲ以テ教ヲ說クコトヲ得セシメバソノ教ノ日耳曼全部ニ行ハレンコト必然ナリシガトモウニシセス

ローヌノ政ヲ行フコト公平ナリザリシニ由リテ兩國ノ人民相和セ
ズハツスハ日耳曼語ヲ善セザリシカバソノ教唯々ボヘミヤニ止リ
ケリ斯テボヘミヤ諸州皆コンスタンヌノ議院ノ無狀ヲ論駁シ令テ
發シテ凡ソ地ヲ有セル者ニハソノ地ニ於テハツスノ教ヲ講説スル
コトヲ許シ、ニ此許可ヲ悦ビ公然ハツスノ弟子ヲ勸奨シテソノ教
ヲ説カシメシ者甚タ多クハツスノ諸弟子ヲハツサイトト名ツケ又
聖杯社ト稱シタリ是ハツスノ俗民ト雖モ聖餐ニ與リ聖杯ヲ受クル
コトヲ得ベシト云ヒシニ取レルナリ法王マルテンハコンスタンヌ
ノ議院ヲ終ヘシ後速ニ令テ發シテザヨン、ハツスノ教ヲ奉スル者ノ
宗門ヲ禁シ因リテ寺院ノ弊害ヲ論スル者ヲ懾服シ再ビ異論ヲ發セ

ザラシメント欲セシニ豈圖ランヤボヘミヤノ人民ハ既ニ法王ヲ憎
ムコト甚シク禁宗ノ令ノブレーグ府ニ達スルヤ府民或ハ隊ヲ爲シ
惘然トシテ市街ヲ徘徊シ或ハ諸所ニ集會シ私語喞々密ニ事ヲ議シ
ケルガソノ容貌動作自ラ怒氣ヲ含ミ一見シテソノ凶事ヲ謀ルコト
ヲ知ルベカリキ此時アレーグノ朝ニダモンジスカト云フ老練ノ兵
士アリ嘗テ波蘭ニ戰ヒ功アリテ當時最モウエンセスローヌノ寵ヲ
得タリジスカノ妹ハ比丘尼ニシテ嘗テ僧徒ノ爲ニ姦セラレ後之ニ
棄テワレシカバジスカハ大ニ寺院ヲ怨惡シ且ボヘミヤノ忠臣タル
ヲ以テ常ニ日耳曼人ヲ敵視シケルガハツスノ刑ヲ受ケシヨリジス
カノ性行全ク變シソノ朴訥平直ノ風化シテ沈黙呻吟ノ人トナリ日

々ニ頭ヲ俯シ獨語シテ殿傍ヲ徘徊スルコト數時間ソノ語解スベカ
 ラザレドモソノ狀頗ル怪ムベカリシガバウエンセスロースソノ所
 以テ問ヒシニジスカハ愀然トシテ答テ曰クハツス既ニ燒殺サレタ
 リ而シテ臣等未タソノ怨ヲ報イズトウエンセスロース乃チ曰クハ
 ツスノ燒殺サレタル我之ヲ如何トモナスコト能ハズ汝若シ怨ヲ報
 イント欲セバ汝ノ力ヲ尽セト是蓋シ戲言セシナリ然ルニジスカハ
 佯リテ眞言ト認メシ狀ヲ爲シ乃チハツサイトヲシテ兵ヲ起サシメ
 シニウエンセスロースハジスカノ兵ヲ起スベキト思ハザリシカバ
 之ヲ見テ叛ヲ謀ルカト疑懼シ府民ニ令シ盡ク兵器ヲ集メテウイシ
 ニラド城ニ致サシメシニ府民ハ令ニ從ヒテ兵器ヲ致シカトモ之

ナ束子テ武庫ニ藏ムル備ヲ爲サズ皆甲冑ヲ蒙リ兵器ヲ執リ隊伍ヲ
 爲シジスカヲ以テ將トナシタリジスカ因リテ王ニ謂テ曰ク明王殿
 下臣等令ヲ奉シテ此ニ在リ請フ殿下ノ令スル所ニ從ヒテ一戰セン
 コトヲト是ニ於テ全府洵々タリハツサイトハ聖杯ヲ以テ牙旗章ト
 ナシ隊ヲ爲シテ市街ヲ徘徊シ府廳ノ前ヲ過キントキ飛石アリテ之
 ナ打ナシニハツサイト大ニ怒リ廳ニ入りテ日耳曼ノ議官十三人ヲ
 執ヘテ窓ヨリ投ケ出シジスカ又令ヲ發シテ一僧徒(蓋シジスカノ
 妹ヲ姦セシモノナラン)ノ家ヲ襲ハシメ之ヲ捕ヘテ戸頭ニ繫キタ
 リ斯ク騷擾セン間老王ウエンセスロースハ手ヲ束子テ動搖ノ聲ヲ
 聞キシガハツサイトノ城ニ近キントキ中風ヲ發シテ死セリ(千四

百十九年)ウニシセスロース既ニ死シテ後ハハツサイトヲ制スル者ナクソノ怒氣恰モ猛火ノ如ク寺院僧庵ヲ襲ヒ聖像ヲ毀テ僧衣ヲ裂キソノ截片ヲ以テ旗章ト爲セリ此日マツシヤスドクゼニクズト云フ僧徒ハ街頭ニ壇ヲ築キ終日兩種ノ聖餐ヲ備ヘテ之ヲ請フ者ニ與ヘケリ然ルニ府民ノ較富メル者ハ斯ク危嶮ノ事ヲ行フトモ得ル所失フ所ヲ償フコト能ハズト圖リウニシセスロースノ寡妃リヒヤト謀リシザスモンドニ使ヲ送リテ和ヲ乞ヒシカトモシザスモンドハ使ヲ辱メテ逐ヒ還シ府民ノ怯弱ヲ憤リ壯士ヲ率ヰテ府ヲ出テ農夫ヲ募リ凡ソ一石ヲ投シ一杖ヲ振ヒ得ル者ハ皆兵ヲ執リテ相會シ力ヲ尽クシテ神敵ヲ滅スベシト唱ヘケルニゾ農夫之ヲ聞テ千四

百十九年「ホウイトサンタイド」祭日ニ集リシ者雲霞ノ如ク皆自ラ神民ト稱シソノ會セシ所ノ山ヲテ「ボル」ト名ツケ生死必ズモ「バイト」アレカイト(皆法王ノ黨ヲ云フ)ヲ剿滅セント誓ヒシスカヲ推シテ大將ト爲シ之ヲ名ツケテ「ボーライト」(「テ」ボルニ取レルナリ「ハツサイト」人ヲ云フ)ノ神意ヲ受ケタル大將聖杯ノデジョン、シスカト号シタリシスカハ丁男女兒烏合ノ衆ヲ率ヰテ諸所ヲ横行シ寺院僧庵ヲ襲ヒ或ハ掠メ或ハ燒キ殘暴至ラザル所ナク其甚シキニ至リテハ僧徒數人ヲ捕ヘ樽中ニ入レテ火ヲ附ケ僧徒ノ痛哭セルヲ聞テ我妹ノ婚禮ノ歌ヲ聽クベシト云ヒシトゾ是ニ於テウニシセスロースノ寡妃ハ激徒ノ勢ノ未タ盛ナラザルニ及ビテ早ク之ヲ平

定セント欲シ兵ヲ出シテ之ヲ討タシメシニシスカハ女兵ニ令シソ
ノ面衣足衣ヲ脱シテ地ニ投セシメ敵騎ノ足ヲ捕ヘテ容易ク之ヲ破
リケリ千四百二十年日耳曼帝シヂスモンダフレーグニ至リハッサ
イト二十四人ヲ捕ヘテ河ニ投シ墮地利ノフレデリッキノ援兵ヲ得
十万人ヲ以テシスカノ據リタル府傍ノ高山ヲ襲ハントセシニボヘ
ミヤノ女三人路ニ當リテ之ヲ支ヘ久シク之ヲ止メシガ遂ニ敵衆ノ
爲ニ斃サレタリ是ニ於テ日耳曼人進ミテテーゴライトノ陣ヲ突キ
鏖戦時ヲ移シテ克ツコト能ハズ遂ニ兵ヲ退ケシカバターゴライト
ノ兵威益々盛ニ旗下ニ集リシ者陸續絶エズ所在農夫皆挺ヲ執リ隊
ヲ爲シソノ陣所ニハ鎖ヲ以テ車ヲ繫キ假壁ヲ作りケリ時ニレデッ

クノ傍ナルホレブ山ニ兵ヲ起セル者アリテ自ヲホレバイトト稱セ
リ又アラビヤニ一派ノ説ヲ唱フル者アリテ曰ク「バラダイス」(極
樂界)ノ素朴ヲ慕フト因リテ皆アダムイーブノ如ク裸体ニテ街路
ヲ横行シ多ク癡愚ノ行ヲ爲シ頗ルハッス派ノ聲名ヲ汚シケリ此徒
ヲバアダアイトト稱セリ千四百二十一年シスカハ大ニ勢威ヲ得國
中ヲ横行シ尽ク寺庵ヲ燒キアダマイト數百人ヲ斬リタリシスカ軍
律ヲ立ル甚々嚴ニシテ將ノ命ヲ待ズ隊伍ヲ離レテ抄掠放火スル者
及ビ一般分配ノ期ヲ待タズシテ擅ニ掠奪物ヲ私スル者ハ之ヲ斬リ
虚言スル者博奕スル者犯姦スル者モ亦皆死刑ニ處シタリ
初メシスカハ波蘭ノ戦ニ於テ一眼ヲ失ヒシガ此時ヲビイ府ヲ圍ミ

木ニ登リテ敵ノ動靜ヲ窺ヒシニ飛丸木枝ヲ打テ枝片ソノ孤眼ヲ刺シ遂ニ兩眼ヲ失ヒシカトモ極メテボヘミヤノ地ヲ熟知セシカバ猶牙旗下ニ車ヲ置キ之ニ乘リテ兵士ヲ指揮セリシスカ戰ヘバ勝テ攻ムレバ取り恰モ天使ノ降りテ人間ヲ撲滅スルガ如ク若シ從ハザル者アレバ家ヲ燒キ人ヲ斬リシ故ニソノ兵ノ到ル所市府忽チ炎焰ヲ發シ死骸忽チ丘山ヲ爲セリシスカ心志鏡石ノ如クニシテ身体モ亦之ニ稱ヒ晝夜兵士ヲ指揮シテ休息セシメザリシカバ兵士勞ニ堪ヘズ或ハ大將ハ瞽ナリ故ニ晝夜ヲ分タザレドモ我等ハ兩眼ヲ具フ明暗ヲ辨ゼザルコトヲ得ズト云ヒシニシスカハ佯リ驚テ汝見ルコト能ハズト云フヤ乃チ火ヲ村落ニ放テト命ゼシトゾ

斯クテ—ボライトノ殘虐甚シカリシカバボヘミヤノ華族及ビブレ—グノ中庸黨大ニ之ヲ憂ヒ速ニ平穩ニ復センコトヲ希望シ乃チ會議ヲ開キ相約シテ曰ク第一ニ説教ノ自由ヲ行ヒ第二ニ俗人ノ兩種ノ聖餐ヲ受ルコトヲ許シ第三ニ僧徒ヲ貧クシ尽ク寺院ノ所有ヲ分配シ第四ニ律法ヲ以テ刑スベキ罪惡ハ勿論道德上ニ於テ非トスベキ罪惡ト雖モ皆之ヲ剿滅セント蓋シ第四條ハテ—ボライトノ意ヲ慰メン爲ニ故ラニ設ケシナラン中庸黨ハリスアニヤ侯ノ子コルプツトニボヘミヤ王ノ位ヲ與ヘント欲セシカドモホレバイトテ—ボライトハ既ニ久シク車城車ヲ以テ城トナスノ中ニ寢食シ各人同權ノ理ヲ以テ一種ノ共和政治ヲ爲シタリシカバ今更ニ君主ヲ戴キ華族ヲシテ

政務ニ關涉セシムルコトヲ欲セズ遂ニ此議ニ從ハザリシカバ華族
 ハ大ニ望ヲ失ヒ乃チホレバイトターボライト等ヲ棄テアイグロ
 ーニ趣キ日耳曼帝ニ属シケリ(帝ハアイグローニ在リ)是ニ於テア
 レーグノ中庸黨ハ手足ヲ失ヘルガ如ク巳ムコトヲ得ズ府門ヲ開キ
 テシテカヲ迎ヘシカバジスカハ隊伍ヲ整肅シ供物ヲ金盒ニ盛り之
 ヲ陣頭ニ捧ゲシメテ府門ニ入りシニブレーグノ人民皆地ニ跪キテ
 之ヲ迎ヘケリ

千四百二十二年日耳曼帝シデスモンド兵ヲ率ヰテジスカヲ伐ツジ
 スカハブレーグヲ出デ之ヲ徽ヘ兩軍力ヲ盡クシテ戰鬪セシニ日耳
 曼人智計ヲ運ラシテ遂ニハツサイトヲ圍ミシカトモハツサイトハ

毫モ屈セズ夜ニ乘ジ奮戰シテ圍ヲ潰シ日耳曼ノ兵セーゾワ河ノ薄
 氷ヲ涉リシニ氷破レテ兵士多ク溺死セシカバジスカ乃チ兵ヲ放テ
 ソノ殘兵ヲ衝キ大ニ之ヲ破リ首ヲ斬ルコト數ヲ知ラザリキ此戰ニ
 ジスカハ日耳曼帝ノ牙旗ヲ得シカバ之ヲ大地ニ立テターボライト
 ノ軍功アリシ者ヲソノ下ニ招キ皆與フルニ武士ノ爵ヲ以テセリ是
 ニ於テ日耳曼帝ハ兵力ヲ以テジスカヲ制スベカラザルコトヲ知リ
 使ヲ遣シ財貨ヲ贈リテ之ヲ驅サントセシカトモジスカハ老練ノ武
 將ナレバ爭デカスル賄賂ヲ以テソノ志ヲ變ズベキ斷然コレヲ拒ミ
 シガ後幾クモナクブレーグニ死セリ實ニ千四百二十四年ナリジス
 カ死ニ臨ミ遺命シテ曰ク我ガ死シテ後必ズ我ガ皮ヲ剝テ軍鼓ヲ製

シ我ガ兵士ノ戰フトキ之ヲ打テ我ガ聲ヲ聞カシメヨトジスカノ容
 貌ノ常人ニ異ナリシコト猶ソノ性行ノ常人ニ異ナリシガ如ク頭禿
 ニシテ彈丸ノ如ク巨鐵一抹額上ニ横ハリ身材矮小ナリシカドモ兩
 肩極メテ濶大ニ鼻ハ鷲喙ノ如ク髭ハ赤クシテ火ノ如ク人ヲシテ一
 目悚然タラシメタリジスカノ死シテ後數年日耳曼帝フェルザナン
 ド一世ソノ墓ヲサイヤズローニ吊ヒソノ生時好デ用井シ所ノ鐵槌
 ナ見テソノ重大ニ驚キ死後ソノ兵器ヲ見テ猶悚然タラザルコトヲ
 得ズソノ生時ハ推シテ知ルベキナリト言ヒケルトゾ

ジスカノ死シテ後ホレバイトノ大半ハプロコピス、ホリーヲ推シテ
 將トナシ、カトモ其少半ハ皆之ヲ拒ミ自ラジスカノ孤兒ト稱シ共

ニ誓ヲ爲シテ今ヨリ後必ズ人類ヲ戴キテ君トナサズ又必ズ屋内ニ
 眠ラシト約シタリ法王アルタン五世ハ十字軍ヲ發シテハツサイト
 ナ征セシメント欲シウインテニストルノ宗門上議官ヘンリー、ポー
 ホルトナ日耳曼ニ遣ハシテ兵ヲ募ラシメケレバ日耳曼帝シダスモ
 ンド乃チ兵ヲ出シ千四百三十一年ハツサイトト戰ヒテ大ニ敗レ盡
 ク砲礮輻重チ奪ハレシカバ己ムコトヲ得ズ同等ノ禮ヲ以テ和ヲ爲
 サント欲シケルニハツサイトハ之ヲ聽ザル色ナリシカバシダスモ
 ンドハペールノ宗門議院ニ訟ヘ之ヲシテハツサイトノ事ヲ處セシ
 メタリペールノ議院ハ開院以來未タ久シカラザリシガ使ヲ遣シテ
 ポヘミヤ人ヲ招キ共ニ事ヲ議セント云ヒシカバ千四百三十三年七

月九日ボヘミヤ人三百人馬ニ跨リテペールニ至リ大ニ優待ヲ受ケ
 議院ニ出テ、事ヲ議シブレーグノ決議四條ヲ再定シ少ク改正ヲ加
 ヘボヘミヤ人ハシダスモンドヲ以テソノ王トナシシダスモンドハ
 ボヘミヤ人ノ爲ニ法王ニ乞ヒボヘミヤノ國教ヲ立ツルコトヲ得セ
 シメント約シケリ此時孤兒派アーボワイト派ハ猶之ヲ拒ミシガ一
 千四百三十八年五月二十日ブレーグノ傍ニ戰ヒテ大ニ破ラレ再ビ
 取捨スルコト能ハザリキ千四百三十八年日耳曼帝シヂスモンド死
 シルキセンボルグ朝是ニ於テ血食セザリキ

附錄第三十一篇

ブレーグノ宗門改正者ノ事

ウエンセスロースノボヘミヤノ宗門改正者ヲ助ケシハ素ト神ニ事
 フル誠意ニ基キシニアラズ多クハ利慾ノ心ニ出デシナリ此頃法王
 慢ニ犯罪免許(罪ヲ犯スコトノ許可)ヲ賣リ金ヲ受ケテ之ヲ與ヘ罪
 ナ犯スコトヲ訴シ、ニ因リテボヘミヤ人モ多ク金ヲ出シテ之ヲ買
 ヒ一國ノ失ヒシ所ノ金額鉅萬ナリシニブレーグノ大僧正ウエンセ
 ス、ロースニハッス及ビソノ弟子ノ異説ヲ制止センコトヲ説キシカ
 バウエンセスロースハ卿夫ノ金卵ヲ産スル鵝(ハッス)ヲ殺サント
 欲スルヤ若カシ卿我が國中ニ冠シテ鳴ク所ノ鶏(犯罪免狀賣捌人)
 ノ頸ヲ挫シカンニハト言ヘリ此時ブレーグ人ハ既ニゼロームノ犯
 罪免許賣捌人ヲ酒樓ニ捕ヘソノ黨與ヲ合セテ之ヲ府外ニ逐ヒ公然

法王ノ免狀ヲ刑架ノ下ニ燒キシヲ目撃セシカバ皆大ニウエンセス
 ロースノ大僧正ニ答ヘシ語ヲ賞シケリ

第三十二篇

アルベルト二世ノ事 フレデリック三世ノ事

千四百三十八年シザスモンドノ女婿アルベルト選帝官ノ爲ニ選バ
 レテ日耳曼帝ノ位ニ登リ是ヨリ帝國瓦解ノ日ニ至ルマデ殆ドオー
 ストリヤ家ニテ世々日耳曼帝ノ位ヲ續キケリアルベルト位ニ即キ
 テ未タ二年ナラズ土耳其人ヲ匈牙利ニ征シ歸リテ後俄ニ死シケレ
 バ全國皆之ヲ哀惜セザルハナカリキアルベルト死シテ後久シカラ
 ズ寡妃イリサベス遺腹ノ子ヲ生ミアラザスロート名ツケ兒ノ從兄

スタイリヤノフレデリックキヲ以テ之ガ傅トナセリフレデリックハ
 其名大ニ世ニ聞エシコトナク唯ソノ嘗テ耶蘇ノ墓ニ巡禮シ巴勒
 斯坦諸山ヲ遊歴セシニ由リテ世人或ハ之ヲ知レル者アルノミナリ
 シカトモハアスボルグ家ノ長者タルヲ以テ選帝官之ニ帝位ヲ進メ
 シニフレデリックハ容易ク之ヲ受ケズ熟思スルコト十一週ニシテ
 初メテ之ヲ肯ヒ位ニ即キシガ性溫柔ニ過ギ簡慢ニシテ事ヲ勤メズ
 之ヲシテ僧徒若クハ平人タラシメバ恥ヲ貽スコトナカラシムハ必然
 ナリシカトモ萬乘ノ位ニ登リ萬機ノ政ヲ統アルニ於テハ其材徳全
 ク之ニ適セズ事ヲ施ス兒戲ニ均ク過失亦少カラズ位ニ即キテ幾ク
 モナク既ニソノ萬機ニ堪ヘサル證ヲ顯ハシ占星術ヲ學ビ菜園ヲ耕

シ詩歌ヲ作りテ日ヲ終ヘ更ニ心ヲ政務ニ留メズ此時ニ當リテ國政
寺政兩ナガラ紊亂シ雄才偉畧ノ人ヲ得テ之ヲ整頓スルニ非ザレバ
國ヲ存シ民ヲ安ンズルコト能ハザル勢ナリシニ天日耳曼ニ幸セズ
斯ル不肖ノ君ヲシテ位ニ在ラシメシコト五十三年ニ及ベリフレデ
リツキノ位ニ即キシヨリ久シク平安ヲ得シカバ之ヲシテ善ク内政
ヲ修メシメバ國家ヲ開進センコト必然ナリシガソノ不肖ナルヲ以
テ國權寺權相爭ヒテ止ム時ナグ大小ノ諸侯交々鬪キ國ヲ疲シ
民ヲ弊リテソノ興起ノ萌芽ヲ絶チニケル

フレデリックノ位ニ即キシトキベールノ宗門議院猶解散セズ既ニ
ボヘミヤノ事ヲ議定セシ後議員或ハ以爲クハッサイトノ亂ヲ以テ

後日ヲ鑒ミルニ少ク寺院ノ流弊ヲ改正セザレバ人民離叛ノ風遂ニ
全日耳曼帝國ニ波及シ土崩瓦解ノ恐ナキコト能ハズト因リテ相議
シテ僧徒ノ放逸ヲ禁シ祭祀開市ノ寺院ノ禮ヲ亂ル者ヲ止メ法王ノ
破廉恥ノ行ヲ爲スコトヲ制セント決シ千四百三十九年マエンスニ
於テ國會ヲ開キ再ビ宗門議院ノ決議ヲ確定セシニ法王ハ之ヲ承認
セザリシカバ乃チ之ヲ廢シフユリキス五世ヲ立テ法王ト爲シタリ
此事若シホーヘンストーヘン朝ノ時ニ在リシナラバ日耳曼皇室ノ
遂ニ法王ヲ壓制セシコト必然ナリシニ著名ナル日耳曼史家ノ言ヒ
シ如ク此時帝冠既ニ寢帽トナリ(價格低キヲ云フ)フレデリックノ
眠未タ醒サルニ羅馬法王再ビソノ勢威ヲ回復シ天下ニ向ヒテソノ

論鋒ヲ試ミント期スルニ至レリ

フレデリック位ニ即クヤメル河畔ノフランクホルトニ於テ全國會議ヲ開キ伊太利ノ詩人ニーニース、シルビニスビツコロミンヲ賞シ花環ヲ以テ之ニ冠セシメタリエーニース、シルビニスハ初メペールノ宗門議院ノ書記官トナリソノ命ヲ奉シテフレデリックニ使シ遂ニ節ヲ變シテ之ニ事ヘ秘書官トナリ命ヲ奉シテ法王ユーゼニース四世ニ使シ法王ヲシテペールノ議院ノ決議ニ從ハシメントセシガ再ビ節ヲ變シテ僧徒トナリ法王ノ意ヲ受ケテ議院及ビフレデリックニ書ヲ送リテ大ニ法王ヲ虐スルノ非ヲ論シソノ舊友カスバル、スクリツキ又之ヲ助ケテフレデリックニ説キ議院ノ無狀ヲ論セシ

ニフレデリックキハ固ヨリ法教ニ迷溺シケレバ俄ニ説ヲ變シテ法王ノ黨ニ與ミシケリ議院ハ暫ク之ヲ争ヒシカトモ遂ニ倦デ久シキニ耐フルコト能ハズ寺院ノ流弊ヲ正スコトヲ止メントセンニ俗議員ハ之ヲ聽カズヘームボルグノゼオルシヲ羅馬ニ遣ハシ法王ニ謁シテ寺院ノ流弊ノ改正セシムルハアルベカラザルコトヲ論セシメシニゼオルシハ性粗朴久シク羅馬ニ止リシカトモ法王ヲ制服スベキ論辨モナク唯、頗ル暴言ヲ發シテ法王ヲ怒ラシメシノミナリシガ夫ノ狡猾ナルエーニース、シルビニスハ多く聞者ヲ日耳曼ニ放テ遂ニ賄賂ヲ以テペールノ議院ノ抗議ヲ止メケリ後幾クモナク法王ユーゼニース死シニコラス五世之ヲ嗣ギ以爲ク日耳曼諸侯ヲ一齊ニ

尽ク説服スルハ難シト乃チ一侯ヲ服スルゴトニ之ト約ヲ爲シ遂ニ
 全諸侯ニ及ボセリニコラスノ曰耳曼諸侯ト結ビシ約ヲヴィーナノ
 定約ト名ツケベールノ宗門議院ニテ決議レタル法王ノ威權ヲ制限
 スルノ條ヲ廢セント約セシナリ

匈牙利ニ於テハ曰耳曼黨先帝アルベルトノ幼兒ヲダスローチ立テ
 王トナシケルガ土耳其人ノ境ヲ侵レ、ニ由リテ人民皆更ニ有爲ノ
 人ナシテ政柄ヲ掌握セシメントテ波蘭王ヲダスローチ擇ビテ王ト
 ナシ土耳其人トブルナニ戦ヒ大ニ敗レテ新王波蘭ノヲダスローチ死
 セリボヘミヤニ於テハアルベルトノ幼兒ヲダスローチ奉シテ王ト
 ナシケルガメーンハルトブタクゼク二人黨ヲ結ビテ政權ヲ争ヒテ

ダスローチハ唯々空名ヲ擁セシノミ既ニシテブタクゼク死シボデー
 プラツドノゼオルシト云フ勇將民權黨ノ頭領トナリブレীগチ襲
 ヒメーンハルトチ捕ヘテ獄ニ下シ自ヲ攝政ノ職ヲ僭シテ專ラ政ヲ
 行ヘリ墮地利ニ於テハバブリヤ人シツチンゲル政權ヲ掌握シ全州
 チ統御セリフレデリツキノ惰慢ニシテ事ヲ勤メザリシニ由リテソ
 ノ世襲ノ所有ハ勿論ソノ保護スル所ノ幼從弟ヲダスローチノ世有ト
 雖モ斯ク各君チ立テ政ヲ異ニレソノ眞主ノ命ヲ奉セザルニ至レ
 リ

千四百五十二年フレデリツキ葡萄牙ノ美人イリーノルチ娶リ親ヲ
 之ヲ伊太利ノシーンチニ迎ヘ法王ヨリ帝冠ヲ受ケテ後チブルスニ

於テ盛大ノ儀式ヲ以テ婚姻ヲ行ヒ府街ニ酒泉ヲ引キ三萬人ノ客ヲ
招キ宴ヲ張リテ之ヲ饗セシトゾ
千四百五十三年土耳其ノ「シニェルタン」(王)モハンメッヱ二世君士
但丁諾格爾ヲ取ル東帝國派ビタリ是ニ於テ耶蘇教諸國物情洵々々
リ法王ニコラス十字軍ヲ募リ土耳其人ヲ征セント欲レテエーニ
ス、シルビユス之ヲ助ケ所在游説力ヲ盡シテ人民ヲ驚醒セリエーニ
ース、シルビユスノ股肱ノ徒ヲザロン、カピストラノト云フ日耳曼語
スラヴオニツキ語ノ譯者ヲ携ヘテバヴリヤボヘミヤシレシヤ匈牙
利ヲ巡行シベートル、ヘルメットノ所爲ニ倣ヒ到ル所人民ヲ集メテ
十字軍ノ起サスンハアールベカラザルコトヲ説キシニソノ言語ノ譯

ヲ經シニ由リテ稍、ソノ辨鋒ヲ鈍ラスコトヲ免レサリシカドモ餘
銳猶人心ニ徹シ諸市府ノ人民之ニ感スル者多ク皆奢侈ノ器具美麗
ノ服馬車骰子奕牌等ヲ開市場ニ集メ哀吟悲泣ノ中ニ之ヲ燒キ盡シ
ザロン、カピストラノノ肖像ヲ摸シテソノ口ヨリ鎖繩ヲ吐ク狀ヲ寫
シソノ辨力ノ人民ヲ統括スルコトヲ表シケリザロン、カピストラノ
シレシヤニ於テ痛ク猶太徒ノ罪惡ヲ論ジケレバ土民盡ク猶太徒ヲ
捕ヘテ之ヲ燒キ殺レケリ

所在人民斯クザロン、カピストラノノ辨鋒ニ動サレテ奢侈游蕩ノ罪
ヲ悔イ異教ヲ驅逐センカトモ唯、此ニ止リテ兵ヲ執リ土耳其人ヲ
防キタル者ナク東歐羅巴ノ堡厚トナリシ者ハ唯匈牙利人ノミナリ

キ此時土耳其人既ニベルグレードヲ取りテ之ヲ守リシニ匈牙利人襲ヒテ之ヲ拔キ土耳其人ヲ逐ヒテグニユーブ河ノ外ニ走ラシメタリ千四百五十七年波蘭王ラヂスロー兼テ匈牙利王死シ匈牙利ノ人民マツシヤズコルビニユスヲ擇ビテ王トナシ又ボヘミヤ人ハ勇將ボデーブラツドノゼオルシヲ立テボヘミヤ王トナシケリ日耳曼帝フレデリックハ斯克ソノ地ヲ失ヒシカトモマツシヤズヨリ六万「ドカ」ト「ノ贈ヲ受ケゼオルシハ己トカヲ戮セテヴィーナノ反民ヲ征セント約セルヲ悦ビテ二人ノ王位ニ登リシコトヲ拒マザリキ千四百七十一年ボヘミヤ王ゼオルシ死シ波蘭王ラヂスロー兼テ匈牙利王之ヲ嗣ケリボヘミヤニ於テ斯克變故ノ起リシ間日耳曼ニ於テハ毫モ國益ヲ興

シ「コトナク千四百六十六年オルムニ於テ全國議院ヲ開キ千四百七十一年ラチスボンニ於テ又全國議院ヲ開クヲチスボンノ議院ニ於テハ全國ノ兵ヲ發シテ土耳其人ヲ征セント云ヒシ者アリシカドモ此時ノ兵卒ハ唯「備卒」ノミニシテ諸王侯モ亦皆金穀ヲ出シテ軍資トナスコトヲ欲セザリシカバ遂ニ此議ヲ果スコト能ハザリキフレデリックハ萬民ニ輕視セラレ又極メテ貧シクシテ鎧鞋工ノ債ヲ辨償スルコト能ハズ之ガ爲ニ數頭ノ乘馬ヲ奪ハレテ抵當トナスニ至リシニ其困苦猶未タ此ニ止ラズ常ニ戸ヲ開クニ足テ以テセシニ由リテ兩足ニ腫瘍ヲ發シ截斷法ヲ行ハザルコトヲ得ザルニ至リ苦痛ニ堪ヘズ快々トシテ臥シ長歎シテ我羅馬帝トナリテ病ニ罹ラン

ヨリハ寧^ニ乞^フ巧トナリテ健康ナランコトヲ欲スト云ヘリフレデリ
 ヲキ既ニ世襲ノ沃地ボヘミヤ匈牙利ヲ失ヒ帝位ニ在リテ畏敬セラ
 レズ壞地利ノ臣屬ト雖モ甚タ之ヲ尊バザリシニ土耳其人ノ猖獗ノ
 報又頻ニ至リ日耳曼ノ危キコト累卵ノ如ク唯^ニ猶望^スチ属スベキハ
 其ノ子マキシミリヤンノ爲ニボルゴンデー侯^ナナルレス、ポールド
 ノ嗣女マリー^ーヲ娶ルノミナリキナルレスハ嘗テ佛蘭西ノ軍トモ
 ントルヘーリー^ーニ戰ヒテ大ニ之ヲ破リ名ヲ當世ニ著ハシ、人ナ
 リ

日耳曼帝フレデリッキハボルゴンデー侯^ナナルレストトレーブス
 ニ會シマリー^ーヲ得テマキシミリヤンニ配センコトヲ乞ヒシニチャ
 ルレスハ王爵ヲ與ヘバ之ヲ聽カント云ヒシカトモフレデリッキハ
 マリー^ーヲ與ヘバ王爵ヲ與ヘントテ相争ヒシガ佛蘭西王ルーイス十
 一世ノ反間ニ由リテ争益甚シクフレデリッキハ怒ニ堪ヘズ遂ニ
 トレーヴスヲ去リテ歸リケリ

後ボルゴンデー侯^ナナルレス死シテマリー^ーソノ位ヲ嗣ギニセル
 ランド人ヲレテ己ガ婚姻ノ事ヲマキシミリヤンニ説カシメシニマ
 キシミリヤンハ遣ニ之ヲ肯ヒ英甲ヲ被リ冑チ蒙ラズ唯^ニ婚禮ノ金
 環ニ寶玉ヲ鑲ハメタルヲ着ケ毛髮ヲ以テ之ヲ結ビゲント府ニ入り
 シカバ新婦マリー^ーハ多クノ貴男貴女ヲ從ヘテ之ヲ迎ヘソノ側ニ跪
 キテ靜ニソノ來ルチ悦ベル意ヲ述ベタリマキシミリヤンマリー^ーハ

斯ク幸ニ婚禮ヲ行ヒ夫妻和睦ク遂ニ一男一女ヲ生ミ一家ノ幸福日々ニ加ハヽリシガ千四百八十二年美婦マリー馬ヨリ落テ傷ヲ蒙リテ遂ニ死シケレバマキシミリヤンハ殆ト悲傷ニ堪ヘザリシニニールラシド人ハ始ヨリマキシミリヤンヲ怨ミタリシカバマリー既ニ死スレバマキシミリヤンニ臣属タルベキ義ナシトテリーザニ於テ府民ノ僧正ヲ怨ミウイルリヤム、ド、ワ、マルクヲ迎ヘテソノ將トナシケリウイルリヤム、ド、ワ、マルクハ世人之ヲアルデンテスノ牡野猪ト名ツケタリソノ府ニ入ルヤ乃テ僧正ヲ捕ヘテ之ヲ殺シ佛蘭西王ノ名ヲ假リテ府政ヲ行ヒシニマキシミリヤンハ既ニ佛蘭西王ト和ヲ約シ乃テウイルリヤムヲ伐テ之ヲ刎テケリ然レドモフラン

テルスノ人民ハ己等ノ免許權利ヲ承認セザルマキシミリヤンノ如キ君ヲ奉スルコトヲ欲セズブルーザスニ於テハ府民マキシミリヤンノ傭卒ヲ訓練セルヲ見テ己等ヲ襲フト誤リ認メ三十二會社ノ旗章ヲ立テ開市場ニ集リ傭兵ノ兵杖ヲ奪ヒマキシミリヤンヲ捕ヘシカバフレデリックノ溫柔ト雖モ大ニ此暴行ヲ怒リ直ニ兵ヲフランデルスニ出シブルーザスノ人民ヲ責メテマキシミリヤンヲ解カシメタリ斯クフランドルスニ於テ騷擾セン間ニ匈牙利ノマツシヤス境地利ヲ侵シテヴィーナヲ取りタリシガ千四百九十年フレデリックノ兵再ビ之ヲ取り返セリ

フレデリックキハ久シク位ニ在リテ多ク國辱ヲ醸成シケルガ千四百

九十三年遂ニ世ヲ辭セリフレデリック既ニ死シテ日耳曼帝國四分五裂シ伊太利ハ半ハ共和政治ヲ爲シ半ハ諸王公ノ割據スル所トナリ羅馬ハ法王アレキサンデル六世ノ暴政ニ苦ムアレキサンデルノ罪惡先法王ノ之ニ比スベキ者ナク寺院ノ流弊毫モ改メシ所ナク且之ヲ改ムルノ論全ク消滅セルガ如クナリキ日耳曼帝ノ法王ヨリ帝冠ヲ受ケタル者フレデリックヲ以テ最後トス古今日耳曼帝タル者未ダフレデリックノ如ク久シク位ニ在リシ者アラズ又未ダフレデリックノ如ク少ク國益ヲ爲シ者アラザリキ

附錄第三十二篇

ボルゴンデーノチャルレスノ事 印刷術發明ノ事

ボルゴンデーノチャルレスノ祖父ハ嘗テ君士但丁諾格爾ニ捕ハレテ久シク此ニ止リソノ奢侈ノ風ヲ喜ビ國ニ歸ルニ及ビテ乃チ之ニ倣ヒ華麗ヲ盡クシケルガソノ子ヒリッブモ亦父ノ風ヲ學ビ孫チャルレスニ至リテソノ奢侈更ニ祖父及ビ父ニ踰エソノ朝廷ノ華麗ナル歐羅巴中之ニ比スベキ者ナカリキ此時ニ當リテニーゼルラントハ國富ミ民豊カニシテ凡百ノ製造物品歐羅巴ニ冠タリ之ヲ用井テ盡キズ大ニチャルレスノ驕奢ヲ助ケソノ朝廷ノ裝飾金銀珠玉ニアラザレバ則緒羅綿織ニシテ朝市專ラ修飾粉粧ヲ務メブルツセルスノ衣裳ノ風遂ニ歐羅巴全洲ニ行ハルニ至レリ古樣ノ簡衣ヲ廢シ男ハ帽ヲ蒙リ飾ルニ羽毛ヲ以テシ兩袖及ビ股衣ヲ濶大ニシ女ハ土耳

其帽ヲ蒙リ帽背ヨリ長被衣ヲ垂ル演劇舞大ニ宮中ニ行ハレタリス
 トラスワルグ史ニナヤルレスノ英吉利王イドワルド四世ノ妹マル
 ガレットトト婚セシトキノ事ヲ記シテ曰ク紀元千四百六十八年ナヤ
 ルレスブルーダスニ於テ婚禮ノ祝宴ヲ開キ壯麗實ニ目ヲ驚シ滿堂
 黄金布ヲ張リナヤルレスマルガレット皆金衣ヲ被リ卓上ニ大船五
 十隻ヲ置キ盛ルニ炙肉ヲ以テシ各船盛ル所ノ蔬菜殆ド小艇一隻ニ
 滿ツベシ次ニ獅子一頭ヲ出ス歌者四人ソノ腮上ニ立テ相和シテ歌
 ヘリ次ニ「グリッセン」半鷲半獅一羽ヲ出ス小鳥一羣ソノ中ヨリ飛
 ビ出テタリ次ニ高櫓ヲ出ス二熊ソノ窓ヨリ出テ各々叫ブコト一聲
 次ニ豺狼山羊ヲ出ス皆簫笛ヲ吹ケリ次ニ驢ヲ出ス巧ニ唱歌セリ次

ニ猿猴ヲ出ス櫓ヲ廻リテムールス舞(ムールスハ西班牙ノ回教徒)
 フ爲セリ最後ニ鯨ヲ出ス勇士十二人ソノ中ヨリ躍リ出テ奮闘セリ
 毎日宴ヲ張ルヤ大銀盞ヲ卓上ニ列ルコト八百個ナリシト

千四百四十年デロン、グッタンベルグマエンス府ニ於テ金屬ノ活
 字版ヲ以テ印刷スルコトヲ發明セリ世ニ傳フ此ヨリ先十二年ハ
 ルレムノコスタル、木版ヲ以テ奕牌及ビ學校讀本ヲ印刷セシカトモ
 未タ活字ノ方法ヲ知ラズ版木一枚ニ書籍半丁ヲ彫ミテ之ヲ印刷セ
 リト然ルニ此事遂ニ金屬活字版ノ端緒トナリグッタンベルグニ至
 リテ金屬ヲ以テ毎字一版ヲ鑄造シ意ニ隨ヒテ轉插シ一版ヲ以テ數
 書ニ用弁ベカラシメタリ活字本ノ後世ニ傳ハリソノ印刷ノ年ヲ記

セシ者ハ千四百五十七年ニ印行シタル聖歌ヲ第一トナス然レドモ此ヨリ前既ニ活字本ノ世ニ出テシハ疑テ容レザル所ナリ唯々其年ヲ記サズルニ由リテ世之ヲ辨知セザルノミグツテンベルグハフストスカッヘル兩人ト社ヲ結ビ専ラ印刷ニ從事シ大ニソノ術ニ熟練シ千四百六十二年ニ至リテ聖書全部ヲ印行シ每部ノ價金三十「フローリン」價格方今ノ金位ニ相當シ難シニテ發賣セリ未ダ印刷ヲ發明セザリシ頃ハ聖書一部ノ價四百「フローリン」ヨリ五百「フローリン」マデナリシト云フ書價ノ斯ク霄壤ノ差ヲ生ゼシハ獨リ活字版ニ由リテ速ニ印刷シ得ルニ因レルノミナラズ千三百十八年麻ヲ以テ紙ヲ製スルユトヲ發明シ紙ヲ以テ從來用非シ所ノ羊皮ニ代ヘ紙價頗ル廉ナ

ルニ由リテ又大ニ書價ノ低下ヲ助ケンナリ活字發明ノ初ニ印刷セシ書中當時ノ弊風ヲ誹リ僧徒ノ文事ニ暗ク放逸ニ耽リシヲ嘲リタル書數種アリ著名ナル「ユーレンスビーゼル」即チ「ゼルアシ、ザヨ一、シルレル」ト云ヘル者モ亦千四百年代ニ印行セシ所ナリ「ユーレンスビーゼル」ハ千四百年代ノ始メノ人ニシテ黑死病ノ時死セシト見エソノ書元ト日耳曼語ヲ以テ記セシガ後歐洲諸國各々其國語ヲ以テ譯セリ

諸桑門ハ印刷術ノ行ハルヽヲ見テ預メ己等ノ困難ヲ引出サンコトヲ料リ之ヲ魔術ト稱シ賤民ヲ煽動シ務メテ之ヲ廢止セントセリ博士フォースタスノ小説ハ此ニ因リテ作レルナリフォースタスノ名

ハマエンスノ活版師フストノ名ヲ擬セシコト疑テ容レズ

内村耿之介 校

大井潤一

馬爾加 日耳曼國史卷之上畢
摩氏

馬爾加 日耳曼國史卷之上正誤
摩氏

葉數 行數 正誤

一 五 ドルサステペリユスハ二人ノ名

九 七 アルミニユスハ日ノアーミニユスト同人

二十二 五 注バルチユク海ノルーミン嶋也
右旁双線誤也

二十三 七 アラツクハアチリツク

二十四 四 高盧ヲ授ハ授ケ

八十 一 人ニハ人々

百六十五 二 ルーイフハルーイス

百七十二 五 フランニンヤハフランコニヤ

百七十七 九 スワヤビハスワビヤ

百九十五 三 スクラウオニヤンダニス

二百二十一 一 トナセルヤハトナレルヤ

三百三 五 プイルロニノ線ハブイルロン

三百七 六 ベートル、ヘーミットハベートル、ヘルメット

況景ハ景況

三百五十四 九 イルアルドハイルフルド

四百三十三 三 トレーヴスハトレーヴス

四百三十九 十

四百九十九 二 (「ラヘル」ハ「ラ、ベル」)

五百八 五 千八百七十年ハ千八百〇七年

五百十五 六 ボトヴンチヤ、ローセルハコン
マンニコタスニ人ナリ

同上 七 ダンヌ、ゴタスハダンス、スコタス

五百十六 七 夫ノ電光ハ天ノ電光

五百十八 四 (或史ニ據ルニ)

五百二十二 五 ナヤルレハチヤルレス

五百八十二 五 アダアイトハアダマイト

五百八十九 四 訴シ、ニ因ハ詩ナリ

五百九十六
五百九十七

一十

ラザスローハラザスロー

六百

二

クニニープハダニニープ

496

1383

Handwritten text in a red rectangular stamp, likely a library or collection mark.

